

みとおしいせき
美通遺跡 A・C 区

—一般国道139号(都留バイパス)建設に伴う発掘調査報告書—

2011. 3

山梨県教育委員会
国土交通省 関東地方整備局



美通遺跡 A・C 区空中写真



美通遺跡 C 区北側からの遠景写真



美通遺跡 A 区 1 からの遠景写真



美通遺跡 A 区 1 全景



美通遺跡 A 区 2-1 + 3 全景



美通遺跡 A 区 2-1 ~ 3 全景



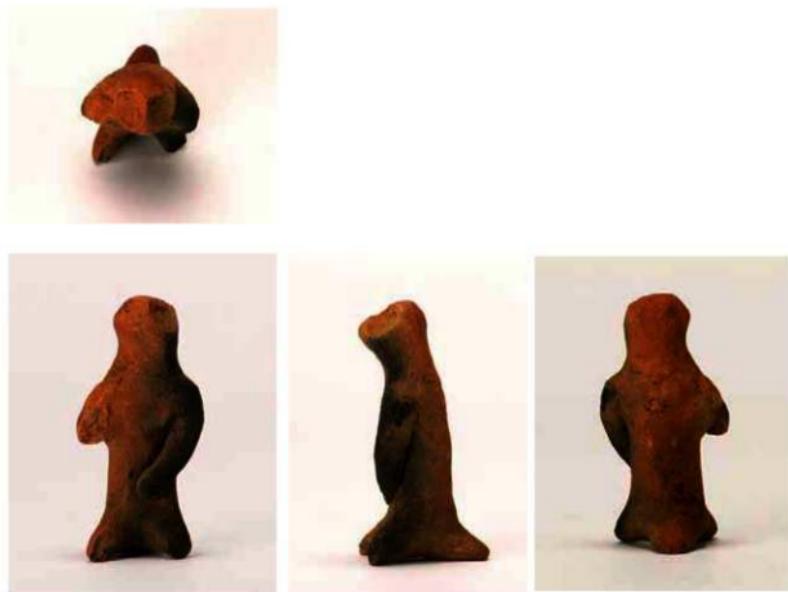
美通遺跡 A 区 2 南からの遠景写真



美通遺跡 C 区全景



美通遺跡 C 区南側からリニア実験線を望む



美通遺跡 A 区 2-1 猿形土製品



美通遺跡 A 区 2-3 3号竪穴住居跡カマド出土



美通遺跡 A 区 1 2号窑穴住居跡



美通遺跡 A 区 1 2・3号掘立柱建物跡



美通遺跡 C 区 37 号土坑出土



美通遺跡 C 区 65 号土坑出土



美通遺跡 C 区 12 号ピット出土

あらまし (A・C 区)

美通遺跡は、縄文時代の遺跡として知られていました。この遺跡の東側に、国道 139 号のバイパス（通称都留バイパス）が建設されることになりました。道路や建物を造るときには、その周りに土に埋まった文化財（埋蔵文化財）があるかどうか、確認する必要があります。本格的な工事が始まる前に、遺跡の確認調査が行われ、住居跡や土器の破片、8,000 年前の富士山の噴火で流れ出た溶岩など、いろいろなものが発見されました。この発見から、バイパス予定地は美通遺跡の一部と確認でき、本格的な発掘調査を行うことになりました。調査の結果、A・C 区では住居跡 12 軒、掘立て柱建物跡 3 軒、土坑約 200 基、溝状遺構約 80 条、集石土坑 6 基、配石遺構 6 基、ピット約 190 基の遺構と縄文時代・弥生時代・奈良時代から近世までの遺物が沢山発見されました。

遺跡の周辺

遺跡の南西方向には生出山があります。国道 139 号側と井倉地内に生出神社が奉られ、昔から人々にとって重要な役割をもった山でした。この生出山の西側を流れる菅野川と遺跡の東側を流れる朝日川が合流する段丘上に美通遺跡があります。周辺には、遺跡が数多く存在していて、生出山にもかつては、弥生時代の遺跡がありました。朝日川の対岸には、九鬼 I ・ II 遺跡などもあります。美通遺跡は縄文時代の遺跡として登録されていましたが、今回の発掘調査で、縄文時代のほか、弥生時代・奈良・平安時代・中世と、人々の営みが続いていたことがわかりました。ここでは、発見された遺構や遺物について説明していきます。



美通遺跡の位置と都留バイパス



A 区 1 の発掘調査

A 区 1 は、工事予定地のなかで、最も南に位置します。県道 35 号線とバイパスが交差する部分に近い場所です。ここでは、奈良時代から平安時代の住居跡が 5 軒、掘立柱建物跡が 3 軒、土坑・溝などが発見されました。



2 号住居跡は、一辺が 6 m の奈良時代の建物跡です。西側の壁にカマドがあるので家と考えられます。カマドのそばから、静岡方面で作られた胴の丸いカメが発見されました。



2 号掘立柱建物跡は平安時代の建物跡です。6 本の柱を使っています。他の柱の穴を観察してみると穴の中に平らな石が入るものもありました。この石の入るピットを結ぶと、3 号掘立柱建物跡になりました。

A 区 2-1 の発掘調査

A 区 2-1 は、A 区 1 や A 区 2-3 より 1 段下がった地形で、朝日川の旧河川が発見されました。川原石と砂っぽい土壌のなかから、猿形土製品や短刀が埋葬されたお墓などが見つかっています。



猿形土製品



出土短刀



しっぽ

猿形土製品は、山梨県内で 4 例目の出土となります。遺構に伴っていないため、時期ははっきりしませんが、数少ない遺物の貴重な発見となりました。

一見、人形とも思えますが、おしりにしっぽがついているので、猿形と考えています。

A 区 2-2 の発掘調査

A 区 2-2 は、B 区と隣接しています。A 区 2-1 に近いあたりは、旧河川の流れた跡で深く河原石が堆積していました。B 区に近いあたりでは土坑や、近世の竪穴遺構・ため池遺構など、陶磁器を出土する遺構が多いことが特徴です。



1号土坑 碓出土状況



4号竪穴遺構 碓出土状況

A 区 2-3 の発掘調査

A 区 2-3 は、A 区 1 と道路を挟んで位置しています。ここでも、奈良時代から平安時代の住居跡が 3 軒、土坑・溝などが発見されました。住居のカマドも掘削されずのこっていました。



3 号住居跡は、北側の壁の中央にカマドがあります。カマドの焚き口近くから、須恵器の蓋が逆さに 2 つ発見されました。カマドを使わなくなるときにお祭りをしたあとかもしれません。



2 号住居跡のカマドです。3 号住居跡と同じ北側の壁の中央付近に作られています。カマドは家の壁際に作り、焚き口は家の中にあります。カマドが作られる場所は時代によって異なります。

C 区南側の発掘調査

C 区は、用水路を挟んで調査区が北と南に分かれています。その南側では、平安時代の住居跡 4軒、土坑・溝・焼土がたくさん発見されました。なかでも、調査区北側の一部に、13世紀頃の遺物を出土する土坑などが、発見されたことは貴重な資料となりました。



37号土坑在地産陶器カヌ



65号土坑 瀬戸産鉄釉小壺



31号土坑 短刀

31号土坑は、人骨を伴った遺構であるためお墓と考えています。出土した歯は、青年(16～20歳程度)に達していない若い人のものでした。また、65号土坑から出土した小壺は、13世紀頃に作られた瀬戸焼きに似ています。土坑の土を分析してみると、13世紀末～14世紀後半の頃のお墓の可能性がでてきました。

C 区北側の発掘調査

C 区北側は、今回の調査区域の最北端の位置になります。南側と同じ土坑や溝も見つかっていますが、縄文時代早期から前期にかけての住居跡や集石土坑・縄文土器や石器の発見が注目されます。また、遺構は見つかりませんでしたが、弥生時代の遺物包含層が確認できたことは重要です。



2号集石土坑 2面



2号集石土坑最下層の礫



約 6,500 年ほど前の深鉢型土器



A・C 区の発掘調査

各調査区の特徴を、南から順に説明してみると、様々な時代の遺構・遺物が発見されていて驚きます。A 区 1・A 区 2-3 の奈良・平安時代、A 区 2-1・2 は古墳時代から近世まで、C 区では縄文時代・弥生時代・中世など。

遺跡がある井倉地内は、日当たりも良く水も豊かな場所であり、昔から人間の営みが絶えることのない場所であったことがわかりました。



道路が完成すると、玉川方面から田野倉方面に向かう途中、国道 139 号に合流する手前には、リニアモーターカーの実験線が正面に広がります。時々、リニアモーターカーの姿を見る事が出来るかもしれません。縄文時代からこの土地で営まれている生活は、交通の利便性が高まるとともに、変化していきます。現在は、水田や畑が多い静かな地域ですが、バイパス開通後に、どのように変化していくのでしょうか。

序 文

本書は、一般国道139号（都留バイパス）の建設工事に伴い、平成20年度から22年度にかけて発掘調査を行った美通遺跡A区とC区の調査報告書です。

美通遺跡は、都留市井倉地内に位置しており、遺跡の中を通過する都留バイパス南北約600mのルート上を、南側からA区、B区、C区の3地区に分けて発掘調査を行いました。

調査の結果、A区では奈良～平安時代の住居跡8軒、掘建柱建物跡3棟、土坑93基、溝36条、旧河道1流、近世の竪穴遺構5基、ため池遺構1基などを調査しています。C区では縄文時代早期～前期の住居跡1軒、集石土坑6基、平安時代の住居跡3軒、土坑116基、溝51条、焼土跡24基と13～14世紀の墓と思われる遺構2基などを検出しました。

縄文時代の美通遺跡で際立っているのは集石土坑の検出です。石材の選択や住居跡との関係が今後検討すべき課題であります。弥生時代ではB区で墓と思われる土坑を検出していますが、C区では包含層を調査しました。奈良時代の住居跡は県内でも比較的少なく、都留バイパスでは玉川金山遺跡に続く発見となります。平安時代の住居跡はA区とC区離れて発見されております。時期も少し違うため別の集落跡であった可能性があります。特にA区で発見された礎板石を持つ掘建柱建物跡は、数少ない事例であります。C区では13～14世紀の墓と思われる遺構を検出しており、特に31号土坑は人骨と短刀を持つもので、歯の分析から青年に達しないものであることが判明しております。また、A区の旧河道からは猿形土製品という愛らしい出土遺物もあります。

美通遺跡は都留バイパス建設工事に先立つものでありますから、この都留市井倉地区に約600mに及ぶトレーナーを入れたことになります。特に約8,000年前に富士山から流れ下った猿橋溶岩が、遺跡内に数箇所に渡って見られました。大きな災害と地形の変化をもたらしたことが容易に推定されます。溶岩流のない場所を選んで縄文時代早期から近世まで遺跡を営んでいたことがわかります。

別冊となる「美通遺跡B区」の調査報告書とともに、本報告書が地域や本県の歴史・文化財の学習や研究に、貢献できれば幸いに思います。

最後に、国土交通省関東地方整備局をはじめ、調査にあたって御協力をいただいた関係者、関係機関に厚く御礼申し上げます。

2011年3月

山梨県埋蔵文化財センター

所長 小野 正文

例　　言

1. 本書は美濃遺跡 A・C 区の発掘調査報告書である。
2. 調査は、一般国道 139 号（都留バイパス）建設工事に伴い、国土交通省関東地方整備局から山梨県教育委員会が委託を受け、発掘調査・整理作業・報告書作成を山梨県埋蔵文化財センターが実施した。
3. 遺跡の所在地は、山梨県都留市井倉地内である。
4. 調査主体 山梨県教育委員会
調査機関 山梨県埋蔵文化財センター

平成 21 年度	所長 小野 正文	平成 22 年度	所長 小野 正文
次長 渡辺 晶夫		次長 平賀 孝雄	
調査研究課長 出月 洋文		調査研究課長 出月 洋文	
調査第 1 担当 リーダー 高野玄明		調査第 3 担当 リーダー 吉岡広樹	
調査第 3 担当 リーダー 小林健二			

5. 調査担当 A 区 1・C 区・・・副主査文化財主事 笠原みゆき・主任文化財主事 堀込紀之
A 区 2-1～3・・・副主査文化財主事 石井明・主任文化財主事 依田幸浩
6. 本書の原稿執筆は、第 2 章遺跡の位置と環境と第 3 章 A・C 区の出土石器を塩谷季風（埋蔵文化財センター臨時職員）が、第 3 章遺構・遺物の A 区 2 については依田幸浩が、第 4 章自然化学分析を（株）パリノサーヴェイ（千葉博復ほか）が行い、そのほかの執筆・編集は笠原みゆきがおこなった。また、発掘調査の写真撮影は、A 区 1・C 区を笠原・堀込が、A 区 2-1～3 を依田・石井が行い、報告書掲載に伴う遺物の撮影は、スタジオ・トータルアイが行った。
7. 発掘調査は、平成 21 年 6 月 29 日から平成 21 年 12 月 25 日まで行い、整理作業については、平成 22 年 1 月 6 日から 3 月 18 日の基礎的整理作業と、平成 22 年 6 月 1 日から平成 23 年 3 月 18 日まで本格的整理作業・報告書作成をおこなった。なお、調査区ごとの調査期間は、第 1 章発掘調査の経緯に詳細は記載してある。
8. 整理作業については、埋蔵文化財センターでおこなった。
9. 本書にかかる出土品および記録図面・写真・出土遺物・デジタル化したデータなどは、一括して山梨県埋蔵文化財センターに保管してある。
10. 発掘調査に係る調整機関は山梨県教育委員会学術文化材課で、調整担当は正木季洋である。
11. 発掘調査の基準となった基準点測量 5m 間隔のグリッド杭打ち・基準標高測量は昭和測量に委託し、遺跡の空中撮影及び平面図の図化は東京航業研究所に委託した。また、発掘調査・整理作業では、（株）シン技術コンサルの遺跡管理システムを導入し、発掘調査時には、デジタルカメラ撮影からデジタル計測による平面図・断面図の図化の委託をおこなった。自然科学分析については、AMS 年代測定・リン分析・樹種同定などはパリノ・サーヴェイ株式会社へ、金属製品の保存処理は、（財）山梨文化財研究所に委託した。
12. 発掘調査期間中には、都留文科大学非常勤講師 上杉陽氏に火山灰および土層の堆積状態を観察していただき、ご指導していただいた。また、発掘調査・報告書作成にあたり、以下の方々にご教示・ご協力などを賜った。記して感謝申し上げたい。（順不同、敬称略）

凡　　例

1. 文章中に記載した「竪穴遺構」は、「竪穴住居跡」とは内容を異にするものである。
2. 遺構名などの略号は、竪穴住居跡を住居跡、配石遺構を配石、集石土坑を集石、溝状遺構を溝、焼土遺構を焼土などと表記することがある。
3. 遺構および遺物の縮尺はつぎのとおりである。

住居跡 1：40 1：80

カマド 1：40 1：30

土坑・溝・ピット 1：40 1：60 1：30

土器 1：3

金属製品 1：3 1：2

石器 1：3 1：2 1：6

4. 遺物の注記は、A区1とC区は「09.美トオシC区 PJ1」のように、年度、遺跡名、調査区、遺物番号の順に記し、A区2では、「美通A2-3 3住 14」のように、遺跡名、調査区、遺構名、遺物番号の順になっている。

5. 掲載した遺物は、遺構からの出土を優先し、遺構外の遺物も大きめの破片や、特徴的なものを選択している。遺物の実測図の縮尺は、上記3で示したとおりである。遺跡全体図は国土座標とした。各遺構平面図中の方位は、すべて座標の北に合わせてある。

6. 遺構図版中の遺物番号は、遺物図版番号に対応している。遺構図中の断面図脇にある数値は標高をしめす。

7. 焼土は [] 、炭化材は [] のスクリントーンを使用して表記している。遺物図版中の遺物断面を黒く塗りつぶしているものは須恵器を示す。遺物図版中の遺物番号は、写真図版・観察表・文章中の表記に一致している。

8. 写真図版については、検出された遺構の完掘状況をほぼ掲載し、必要に応じて、断面、遺物出土状況を掲載した。

9. 俯瞰写真の縮尺については、特に縮尺を設定していない。

10. 土層説明における土色表示は、農林水産省水産技術会議事務局監修の『新版 標準土色帳』を使用した。

11. 本報告書中で使用した地図は、国土地理院発行の1/25.000地図を使用した。

12. 遺構・遺物の一覧表における（数値）は推定値である。

目 次

第1章 序

例言

凡例

本文目次

挿図目次

表目次

図版目次

第1章 経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の目的と課題	1
第3節 発掘調査の経過	2
第4節 室内整理等の経過	3
第2章 遺跡の位置と環境	4
第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	4 ~ 5
第3章 調査の方法と成果	8
第1節 調査の方法	8
第2節 層序	8
第3節 遺構と遺物	9
第4章 自然科学的分析	69
第5章 総括	89
写真図版	
報告書抄録	
奥付	

挿図目次

- 第 1 図 美通遺跡周辺の遺跡分布図
第 2 図 美通遺跡位置図
第 3 図 美通遺跡 C 区土層断面図
第 4 図 美通遺跡調査区位置図 (S=1/300)
第 5 図 美通遺跡 A 区 1 全体図 (S=1/300)
第 6 図 美通遺跡 A 区 2 全体図 (S=1/300) 折り込み
第 7 図 美通遺跡 C 区全体図 (S=1/400) 折り込み
第 8 図 A 区 1 遺構平面図及び断面図 (1 号住居跡)
第 9 図 A 区 1 遺構平面図及び断面図 (2 号住居跡)
第 10 図 A 区 1 遺構平面図及び断面図 (1・2 号住居跡遺物分布図)
第 11 図 A 区 1 遺構平面図及び断面図 (3 号住居跡)
第 12 図 A 区 1 遺構平面図及び断面図 (4 号住居跡)
第 13 図 A 区 1 遺構平面図及び断面図 (5 号住居跡)
第 14 図 A 区 1 遺構平面図及び断面図 (1~10 号土坑)
第 15 図 A 区 1 遺構平面図及び断面図 (11~21 号土坑、4・9 号溝状遺構)
第 16 図 A 区 1 遺構平面図及び断面図 (22~37 号土坑)
第 17 図 A 区 1 遺構平面図及び断面図 (1~3・5・6 号溝状遺構、25 号土坑)
第 18 図 A 区 1 遺構平面図及び断面図 (7~8・10~18 号溝状遺構)
第 19 図 A 区 1 遺構平面図及び断面図 (1 号掘立柱建物跡とピット群)
第 20 図 A 区 1 遺構平面図及び断面図 (2 号掘立柱建物跡)
第 21 図 A 区 1 遺構平面図及び断面図 (2・3 号掘立柱建物跡と 1 号柱穴列)
第 22 図 A 区 1 遺構平面図及び断面図 (1・2 号配石遺構)
第 23 図 A 区 2-1 遺構平面図及び断面図 (全体図など)
第 24 図 A 区 2-1 遺構平面図及び断面図 (縦検出状況)
第 25 図 A 区 2-1 遺構平面図及び断面図 (1・2 号土坑、1・2 号溝、人骨 (短刀) 検出状況)
第 26 図 A 区 2-1 遺構平面図及び断面図 (サブトレーンチセクション)
第 27 図 A 区 2-2 遺構平面図及び断面図 (1~3・5・6・21 号土坑、1・2 号溝状遺構)
第 28 図 A 区 2-2 遺構平面図及び断面図 (4・7~10 号土坑、3・4 号溝状遺構)
第 29 図 A 区 2-2 遺構平面図及び断面図 (11 号~18 号土坑)
第 30 図 A 区 2-2 遺構平面図及び断面図 (19・20 号土坑、5~10 号溝状遺構、1 号ピット)
第 31 図 A 区 2-2 遺構平面図及び断面図 (11 号溝状遺構、1~4 号竪穴遺構)
第 32 図 A 区 2-3 遺構平面図及び断面図 (1 号住居跡)
第 33 図 A 区 2-3 遺構平面図及び断面図 (2 号住居跡)
第 34 図 A 区 2-3 遺構平面図及び断面図 (3 号住居跡)
第 35 図 A 区 2-3 遺構平面図及び断面図 (3 号住居跡内土坑・カマド前礫集中・カマド周辺出土遺物)
第 36 図 A 区 2-3 遺構平面図及び断面図 (1~11 号土坑)

- 第37図 A区2-3 遺構平面図および断面図（12～18号土坑、3・4・6号溝状遺構）
- 第38図 A区2-3 遺構平面図および断面図（20～24・26～28号土坑）
- 第39図 A区2-3 遺構平面図および断面図（29・30・32号土坑、1・2・5号溝状遺構）
- 第40図 C区 遺構平面図および断面図（1・2号住居跡）
- 第41図 C区 遺構平面図および断面図（2・4号住居跡カマド、3号住居跡）
- 第42図 C区 遺構平面図および断面図（1～13号土坑）
- 第43図 C区 遺構平面図および断面図（14～28号土坑）
- 第44図 C区 遺構平面図および断面図（29・30・33～36・39～44号土坑、10・11号溝状遺構）
- 第45図 C区 遺構平面図および断面図（45号～56号土坑）
- 第46図 C区 遺構平面図および断面図（57号～67・69・72・89号土坑）
- 第47図 C区 遺構平面図および断面図（73号～79・81～83・104号土坑、30・42号溝状遺構）
- 第48図 C区 遺構平面図および断面図（84号～88・91～96・112号土坑）
- 第49図 C区 遺構平面図および断面図（98号～103・105～110号土坑、51号溝状遺構）
- 第50図 C区 遺構平面図および断面図（113号・114・116～118号土坑、ピット群）
- 第51図 C区 遺構平面図および断面図（31土・37・38号土坑）
- 第52図 C区 遺構平面図および断面図（1号～6・8・9・13号溝状遺構）
- 第53図 C区 遺構平面図および断面図（14～16・18～21・25～27号溝状遺構）
- 第54図 C区 遺構平面図および断面図（22・27～29・31～34・36・37号溝状遺構、22号焼土遺構）
- 第55図 C区 遺構平面図および断面図（35・39・41・43～47号溝状遺構、71・90号土坑）
- 第56図 C区 遺構平面図および断面図（38・48～50号溝状遺構、111号土坑、16号焼土遺構）
- 第57図 C区 遺構平面図および断面図（1～7・10・12～14・17・18・23・24号焼土遺構）
- 第58図 C区 遺構平面図および断面図（1号配石遺構1面・2面）
- 第59図 C区 遺構平面図および断面図（1号配石遺構3面、11号焼土、2・3号配石遺構）
- 第60図 C区 遺構平面図および断面図（1・2号集石土坑）
- 第61図 C区 遺構平面図および断面図（3・4・6号集石土坑）
- 第62図 C区 遺構平面図および断面図（5号集石土坑）
- 第63図 A区1 出土遺物（1号住居跡・2号住居跡）
- 第64図 A区1 出土遺物（2号住居跡）
- 第65図 A区1 出土遺物（2号住居跡）
- 第66図 A区1 出土遺物（2号住居跡）
- 第67図 A区1 出土遺物（3号～5号住居跡）
- 第68図 A区1 出土遺物（2・3・11・18～20・28・29号土坑、3・4・5号溝状遺構）
- 第69図 A区1 出土遺物（9・11号溝状遺構、1・3ピット、1号配石遺構、遺構外）
- 第70図 A区1・A区2-1 出土遺物（遺構外）
- 第71図 A区2-2 出土遺物（1号土坑、3・4号竪穴遺構）
- 第72図 A区2-2 出土遺物（4号竪穴遺構、石垣）
- 第73図 A区2-2・A区2-3 出土遺物（A区2-2はタメ池状遺構、遺構外、A区2-3は1号住居跡）
- 第74図 A区2-3 出土遺物（2号住居跡）
- 第75図 A区2-3 出土遺物（3号住居跡）

- 第76図 A区2-3 出土遺物（遺構外、A区2出土金属製品）
- 第77図 C区 出土遺物（4号住居跡、31・37・65号土坑、12ピット、遺構外出土金属製品）
- 第78図 C区 出土遺物（縄文土器1）
- 第79図 C区 出土遺物（縄文土器2）
- 第80図 C区 出土遺物（縄文土器3）
- 第81図 C区 出土遺物（弥生土器）
- 第82図 A・C区 出土遺物（打製石斧・磨製石斧・磨石）
- 第83図 A・C区 出土遺物（磨石、敲き石、石礫、石匙、磨製石礫）
- 第84図 A・C区 出土遺物（砥石、石臼、台石、碁石、おはじき）
- 第85図 C区 出土遺物（礫器）
- 第86図 C区 出土遺物（礫器・剥版）
- 第87図 C区 出土遺物（礫器・剥版・スクレイバー）

表目次

- 第1表 美通遺跡周辺の遺跡
第2表 ピット計測一覧表
第3表 出土遺物観察表
第4表 出土石器一覧表

図版目次

- 巻頭図版1
巻頭図版2
巻頭図版3
巻頭図版4
巻頭図版5
巻頭図版6
巻頭図版7
巻頭図版8
巻頭図版9
巻頭図版10

自然科学分析 表・図版目次

- 第1表 放射性炭素年代測定結果および暦年較正結果
第2表 樹種同定結果
第3表 種実同定結果
第4表 リン分析結果
第5章 骨同定結果
第1図 美通遺跡（A区2）の腐食含量・リン酸含量の相関（上段）および美通遺跡（A区1・C区）の各土坑のリン酸含量（下段）
第2図 須恵器片（09美トオシA区1-PS49）内面黒色物質のSEM-EDS分析結果

- 図版1 炭化材（1）
図版2 炭化材（2）
図版3 炭化材（3）・炭化物
図版4 炭化材（4）
図版5 炭化材（5）・種実遺体
図版6 種実遺体
図版7 須恵器・黒色物質・出土骨

図版6 A区1遺構

- 図版7 A区1遺構
図版8 A区1遺構
図版9 A区1遺構
図版10 A区1遺構

- 図版1 A区1遺構
図版2 A区1遺構
図版3 A区1遺構
図版4 A区1遺構
図版5 A区1遺構

- 图版 1 1 A 区 1 遗構
图版 1 2 A 区 1 遗構
图版 1 3 A 区 1 遗構
图版 1 4 A 区 1 遗構
图版 1 5 A 区 1 遗構
图版 1 6 A 区 1 遗構
图版 1 7 A 区 2 遗構 - 1
图版 1 8 A 区 2 遗構 - 2
图版 1 9 A 区 2 遗構 - 3
图版 2 0 A 区 2 遗構 - 4
图版 2 1 A 区 2 遗構 - 5
图版 2 2 A 区 2 遗構 - 6
图版 2 3 A 区 2 遗構 - 7
图版 2 4 A 区 2 遗構 - 8
图版 2 5 A 区 2 遗構 - 9
图版 2 6 A 区 2 遗構 - 1 0
图版 2 7 A 区 2 遗構 - 1 1
图版 2 8 A 区 2 遗構 - 1 2
图版 2 9 A 区 2 遗構 - 1 3
图版 3 0 A 区 2 遗構 - 1 4
图版 3 1 A 区 2 遗構 - 1 5
图版 3 2 A 区 2 遗構 - 1 6
图版 3 3 A 区 2 遗構 - 1 7
图版 3 4 C 区 遗構 - 1
图版 3 5 C 区 遗構 - 2
图版 3 6 C 区 遗構 - 3
图版 3 7 C 区 遗構 - 4
图版 3 8 C 区 遗構 - 5
图版 3 9 C 区 遗構 - 6
图版 4 0 C 区 遗構 - 7
图版 4 1 C 区 遗構 - 8
图版 4 2 C 区 遗構 - 9
图版 4 3 C 区 遗構 - 1 0
图版 4 4 C 区 遗構 - 1 1
图版 4 5 C 区 遗構 - 1 2
图版 4 6 C 区 遗構 - 1 3
图版 4 7 C 区 遗構 - 1 4
图版 4 8 C 区 遗構 - 1 5
图版 4 9 C 区 遗構 - 1 6
图版 5 0 C 区 遗構 - 1 7
图版 5 1 C 区 遗構 - 1 8
图版 5 2 C 区 遗構 - 1 9
图版 5 3 C 区 遗構 - 2 0
图版 5 4 C 区 遗構 - 2 1
图版 5 5 C 区 遗構 - 2 2
图版 5 6 C 区 遗構 - 2 3
图版 5 7 C 区 遗構 - 2 4
图版 5 8 C 区 遗構 - 2 5
图版 5 9 C 区 遗構 - 2 6
图版 6 0 C 区 遗構 - 2 7
图版 6 1 C 区 遗構 - 2 8
图版 6 2 C 区 遗構 - 2 9
图版 6 3 C 区 遗構 - 3 0
图版 6 4 遗物 - 1
图版 6 5 遗物 - 2
图版 6 6 遗物 - 3
图版 6 7 遗物 - 4
图版 6 8 遗物 - 5
图版 6 9 遗物 - 6
图版 7 0 遗物 - 7
图版 7 1 遗物 - 8
图版 7 2 遗物 - 9
图版 7 3 遗物 - 1 0
图版 7 4 遗物 - 1 1
图版 7 5 遗物 - 1 2
图版 7 6 遗物 - 1 3
图版 7 7 遗物 - 1 4
图版 7 8 遗物 - 1 5
图版 7 9 遗物 - 1 6

第1章 経過

第1節 調査に至る経過

美通遺跡の発掘調査は、一般国道139号線のバイパス建設を原因とする。遺跡の周辺には、中央高速道路富士五湖線・富士急行線・国道139号線が平行して南北に通っており、これに県道35号線が直行する。国道139号線は、道幅が狭いため交通渋滞が著しい。特に、国道と県道が交差する付近には、都留市立禾生第一小学校が隣接していて、大型車両の交通量も多いことから、安全面が問題視され、環境改善が急務となっていた。

美通遺跡は周知の埋蔵文化財包蔵地であり、工事予定区域は遺跡の東側數十メートルと隣接している。そのため、工事対象面積、約650m²×18m(11,700m²)で未買取地を除く10,040m²の試掘調査が、平成19年7月18日～27日まで行われた。調査は、未買取地を挟んで南側をA区、北側をB区とし、A区に9本、B区に14本トレンチ面積約510m²で実施された。その結果、A区では、第1～3・第9号トレンチで遺構・遺物が確認され、特に第9号トレンチからは、古墳時代末から奈良時代の住居跡1軒・同時代の土坑1基・時期不明の土坑1基、土器類などが発見された。また、B区では、第1～10・16～18号トレンチで、縄文土器片・須恵器片・灰釉陶器片が発見され、特に、第15号トレンチでは敷石住居跡が発見された。この結果をもとに、平成19年8月16日付けで美通遺跡の範囲変更届けが出され、従来の遺跡範囲に、都留バイパス建設予定地を含む広範囲が追加された。そして、平成20年度には、B区の中央から北側部分の発掘調査が行われた。B区については、山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第275集を参照のこと。

都留バイパス建設予定地では、用地交渉の確認が出来たところから随時、調査を進める方向にあり、平成21年1月21日から27日に、B区北側、C区とした対象面積2,900m²の試掘調査を行った。トレンチは、15本設定し、北側から調査を行った。その結果、調査区を南北に流れる用水路を挟んで南側から、縄文時代の集石土坑や遺物が発見され、北側では、時期不明の焼土遺構や土坑が23基確認された。このため、C区も発掘調査の対象となった。そして、その結果をもとに、平成21年6月29日～12月25日まで、A区・B区3・C区の発掘調査が実施された。発掘調査を実施するにあたりA区2は、未買取地であったために試掘のできなかった区域であり、本調査の直前にトレンチを設定し、重機で試掘調査を行うというものであった。工事の日程に合わせるために、随時、発掘調査を始めた結果、調査区が細分されてしまい、A区は1・2、B区は1・2・3・4、となり、さらに、調査の都合上、A区2が1・2・3と区分けされ発掘調査が進められた。

現在、都留バイパスは都留市十日市場付近で国道139号線から分岐し、都留文科大学前をとおり、都留市玉川まで開通している。平成16年度から4年の間、玉川金山遺跡・天正寺遺跡の発掘調査が行われ、平成20・21年度の美通遺跡の調査終了後、菅野川に新たに造られた橋をわたり、ふじスイミングスクール駐車場脇から139号線に接続する予定である。

第2節 調査の目的と課題

本調査は、周知の遺跡として古くから知られる美通遺跡の発掘調査である。平成19・20年度に試掘調査を行い、遺構・遺物が確認されたため本調査となった。試掘調査は、県道35号線に接続する南側から、約650mの工事予定地内と広範囲であり、その結果も、A区1では古墳時代から奈良時代の住居跡や土坑、B区では敷石住居跡や縄文土器片が、C区では縄文時代の集石遺構や平安時代以降の焼土遺構や溝・土坑など多くの遺構・遺物が確認された。

美通遺跡は縄文時代の遺跡であり、登録されていた遺跡範囲に工事予定地が隣接する形であった。このため、試掘調査後、遺跡の範囲は追加され、工事予定地内を含む形で再登録された。また、平成20年度のC区への試掘調査や、平成22年8月27日に行なった、C区よりさらに北側の地点を含めて、平成22年10月21日には、再度、遺跡範囲の登録がおこなわれ、現在では都留バイパスの路線を含む広範囲な登録になっている。

そこで、今回の調査では、追加登録された範囲の正確な内容の把握とその確定を課題として発掘調査を行った。

第3節 発掘調査の経過

発掘調査は、平成21年6月29日～12月25日まで、6ヶ月間実施した。調査区ごとの調査期間は、以下のとおりである。

- A区1 平成21年11月1日～12月25日
- A区2-1 平成21年6月29日～8月11日、11月4日～2月9日
- A区2-2 平成21年12月7日～12月25日
- A区2-3 平成21年10月19・20日（表土はぎ）、11月2日～12月14日
- C区 平成21年6月29日～11月8日

・調査に係わる事務手続き

発掘調査に際しては、文化財保護法に基づく手続きの他に、発掘調査の経過に係わる報告をおこなった。それらの事務手続きは以下のとおりである。また、文化財保護法第99条第2項に基づく発見通知は、山梨県教育委員会に提出した後、学術文化財課から所轄の警察署に提出された。

- 平成21年6月29日 文化財保護法第99条第2項に基づく発掘通知を山梨県教育委員会教育長に提出
- 平成22年1月15日 文化財保護法第100条第2項に基づく発見通知を山梨県教育委員会教育長に提出
- 平成22年1月21日 発掘調査の終了報告を山梨県教育委員会教育長に提出
- 平成22年3月11日 発掘調査・整理作業の実績報告書を山梨県教育委員会教育長に提出

・調査体制

- 調査主体 山梨県教育委員会
- 調査機関 山梨県埋蔵文化財センター
- 所長 小野正文
- 次長 渡辺晶夫（平成21年度）、平賀孝雄（平成22年度）
- 調査研究課長 出月洋文
- 調査第1担当 リーダー 高野玄明
- 調査第3担当 リーダー 小林健二

A区1・C区…副主査文化財主事 笠原みゆき・主任文化財主事 堀込紀之 塩屋風季（平成22年度）

A区2-1～3…副主査文化財主事 石井明・主任文化財主事 依田幸浩

発掘調査非常勤嘱託職員

- A区1・C区
阿佐美博資・天野美津子・石井昇・奥脇光夫・小林信平・佐藤安彦・椿孝二・遠木常久・本庄えりか・渡邊めぐみ・渡邊洋一・山田正之・佐藤小織・青柳良子・岡田友美・山本弘子・清水光一・小澤みどり・石倉千春・田中奈津代・高尾和美・飯田亮太・間中愛・廣橋里香・宮下恭輔・川手勇太・井上健治・熊谷美奈・高部博志・佐藤和子・設楽なつみ・山下翔平・岩槻恵理沙・渡邊智子
- A区2
赤塚美弥子・飯寄停・入倉大東・大友由貴・岡弥幸・斧田文夫・小林昭子・小林清子・小林正彦・佐藤あさ子・佐藤專・志村均・鈴木英夫・中野猪一郎・野表達雄・三井孝明・武藤美子・村野貴恵子・森田晋二

第4節 室内整理等の経過

室内整理は、平成22年1月6日から3月26日まで、山梨県埋蔵文化財センターにて基礎的整理をおこなった。作業内容は、遺物の洗浄・注記、遺構内での遺物接合作業、一部の復元作業と、現場で作成した遺構の測量図・遺物の実測図や現地で撮影してきた写真の整理などをおこなった。また、現場の空中写真から全体図を作成する業務委託の校正、特殊な遺構のデジタル測量図の図面校正、現場で測量した光波測量のデータ管理などの作業も

おこなった。

平成 22 年 6 月 2 日から平成 22 年 3 月 18 日まで、山梨県埋蔵文化財センターにおいて本格的整理・報告書作成にむけて作業をおこなった。基礎的整理作業での遺物の接合は短期間であったため、遺構から出土した遺物について接合作業を補足した。接合作業と同時に、遺物観察を行い、実測する遺物の選別作業を進め、これと平行して遺構内などから出土した礫類の観察も行い、計測などをおこなった。選別した遺物は、調査区ごとに実測番号をつけ順次、実測作業をおこなった。遺構については、遺物の実測作業終了後、第二原図の作成を行い、その後、遺物・遺構ともトレース・図版組みと作業を進めた。また、遺物については、スタジオ・トータルアイに委託し、報告書掲載用の写真撮影を 2 日間おこなった。

平成 21 年度には、発掘調査で発見された遺構内土壤・出土炭化物などから、年代測定・リン分析・樹種同定などの自然科学分析をおこなった。平成 22 年度は、整理作業を進めたなかで、土器に塗布された物質の分析や、昨年度の分析結果をうけ、再度、追加試料を選定したものなどの分析を行った。

整理作業非常勤嘱託職員

平成 21 年度 熊谷正博・中沢美恵・矢崎緑・川手勇太・山本三重子

平成 22 年度 斎藤律子・清水真弓・中沢美恵

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

美通遺跡は、山梨県都留市井倉地内に位置している。美通遺跡は河岸段丘上に立地しており、遺跡東側に朝日川が、遺跡西側に菅野川が流れ、美通遺跡北側へ至ると桂川に合流する。

都留市は山梨県東部にある郡内地域に位置しており、地理的環境が甲府市などを含む山梨県中西部の国中地域とは大きく異なる。山梨県東部地域の地形は、山地と山間を流れる河川による開拓が形成した平地に大別でき、都留市もやはり山地が多く面積を占め、平地は少ない。これらの特徴は郡内地域の特徴であり、美通遺跡周辺の地理的環境も同様である。

都留市域の中央部北西寄りに、富士五湖の1つ中山湖を水源とする桂川が流下している。桂川は大月市内で東流する笛子川と合流し、神奈川県内で相模川となって相模湾へと注ぐ。美通遺跡は桂川支流の朝日川の左岸に位置し、標高およそ413～418m、北に緩やかに傾斜する河岸段丘面に立地している。また桂川とその支流域には河岸段丘が発達しており、美通遺跡の北方には桂川流域の河岸段丘では最大級の平坦地である大原台地がある。美通遺跡を含む桂川流域の地形形成過程において、河川による洗掘や磨食などの地形を変化させる作用を強く受けた地域であると考えられる。

更新世から含めて地形形成過程を概観すると、都留市は日本列島を南北に分断する中央地溝帯と呼ばれるフォッサ・マグナの中央部に位置しており、隆起帯と沈降帯が繰り返す場となった。やがて全体として隆起を続けて、4～3万年前以降になると、特に激しく隆起し、極めて急峻な山地と渓谷が形成された。

山梨県東部地域のもう1つの特徴として、都留市南側に立地する富士山を起源とする火山灰が厚く堆積した地域であり、火山泥流や溶岩などからの影響を大きく受けていることが挙げられる。また火山灰は富士山を起源のものだけではなく広域火山灰も認められている。都留市内でも約8000～8500年前に流出したとされる猿橋溶岩が認められており、また美通遺跡B区Iでは繩状溶岩が確認された。桂川を流下した猿橋溶岩は大月市猿橋まで達しており、桂川流域に大きな影響を与えたと考えられている。

第2節 歴史的環境

都留市内における埋蔵文化財に係わる調査・報告は郷土史研究家や大学の研究室によって戦前から行われている。大月市出身の仁科義男は東京帝国大学教授坪井正五郎博士を介し、明治41年東京人類学会に加わり「甲州考古余滴」という論文を著したが本格的な学術調査を行うには至らなかった。

大正期に入ると、富士吉田市出身で教諭をやっていた羽田一成が南都留郡の考古学事情を「甲斐通信」と題し、『考古学雑誌』巻16、17、18の3回にわたり遺跡、遺物を紹介している。

昭和期には羽田一成は国史講習会の「甲斐史壇」昭和元年正月号に「神社と石器との関係」と題して、南都留郡下の石棒、石器などが神格化された地名を発表した。

昭和3年には仁科義男と羽田一成が東京帝国大学編『日本石器時代人民遺物発見地名表第5版』に南北都留郡下の遺跡として、仁科が44ヶ所、羽田が76ヶ所を報告しており、これらの報告は戦後の遺跡調査の基盤となった。都留市内出土の遺構・遺物についての学術的報告を戦後最初に行ったのが山本寿々雄である。昭和27年法能天神山から耕作中に敷石遺構が発見され、山本は甲府第一高等学校郷土研究部考古班の応援を得て調査を行い、その成果を『日本考古学年報』No.5で調査概要を報告した。

昭和39年9月には都留市教育委員会が発掘主体者となり、同市の遺物包含地である古渡の発掘調査を実施した。遺構の大部分は桂川の出水によって削り取られ流失したあとであったが、県下初の地方公共団体による考古調査であり、文化財保護法施行以来地方団体が行った最初の事例として評価されている。

美通遺跡北側の中谷遺跡（周辺遺跡分布図No.24）から昭和47年には都留文科大学考古学研究会によって、配石遺構内出土の耳飾りをつけた土偶が出土し、昭和52年と53年の2回にわたり東京国立博物館の特別展覧

会に特別出品された。

美通遺跡南西側にある生出山山頂遺跡（周辺遺跡分布図 No.36）は昭和 52 年に採石工事の拡大に伴い、遺跡破壊のおそれがあるため都留市教育委員会が日本大学考古学研究会の応援を得て発掘調査を実施し、すでに削平された地点からは弥生土器片や平安時代の遺物を採集し、その付近からは縄文時代早期の住居 1 軒を発掘する成果を上げた。

山梨県教育委員会によって昭和 37 年に実施された「埋蔵文化財包含地調査」では 34 ヶ所の遺跡が報告され、昭和 46 年に再度実施した「山梨県埋蔵文化財包含地分布調査」では都留市内全域を踏査し、57 ヶ所の遺跡を確認、登録した。

昭和 56 年に刊行された『全国遺跡地図 山梨県』では都留市内に 60 ヶ所の遺跡が報告され、平成 11 年度に山梨県教育委員会がまとめた遺跡一覧によると、都留市内には 99 ヶ所の遺跡が登録されている。

美通遺跡の周辺にある遺跡としては、直近の遺跡では北側に縄文時代・奈良時代・平安時代の散布地である前ヶ久保遺跡（No.33）が確認されている。九鬼 I 遺跡（No.31）は縄文時代・奈良時代・平安時代の散布地で、九鬼 II 遺跡（No.32）は縄文時代前期・中期・後期・平安時代・近世の遺物が確認され、縄文時代と思われる竪穴住居 1 軒、平安時代及びそれ以前の住居跡 14 軒が検出された。

さらに北には前述の桂川の河岸段丘で最大級の平坦地である大原台地がある。大原台地周辺の集落跡としては、中谷遺跡（No.24）、大原中溝遺跡（No.25）、中溝遺跡（No.26）などがある。中谷遺跡は桂川に注ぐ高川が近くに流れ、調査は第 3 次に渡り合わせて縄文時代後期・晩期の住居 8 軒や配石遺構、土偶などが検出された。大原台地中央部に立地する中溝遺跡では縄文時代早中期と中期中葉の住居 6 軒の集落跡が検出されている。

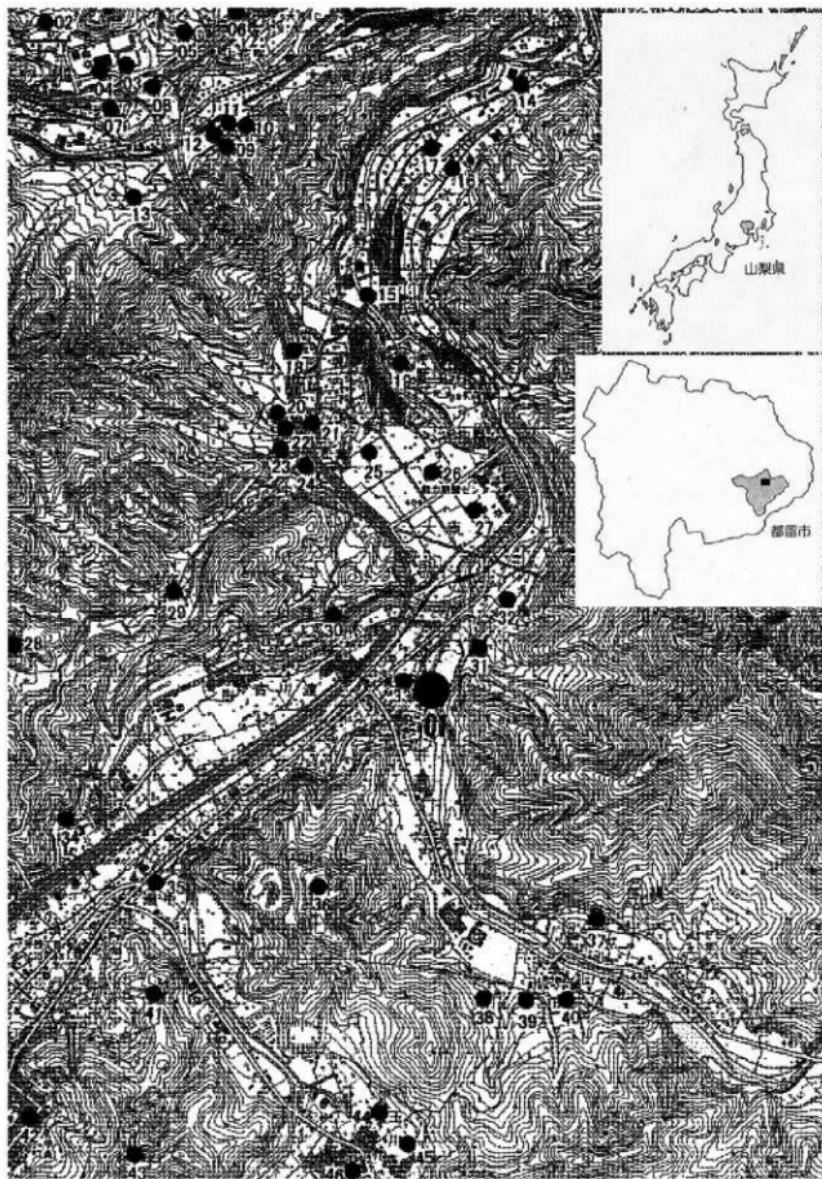
美通遺跡の南、生出山東南部に連なる斜面に天正寺遺跡（No.38）、またその周辺に日影松原遺跡（No.39）、与縄日向遺跡（No.37）、城館跡のある與縄城跡（No.40）がある。天正寺遺跡では縄文時代の土坑、弥生時代中期の住居が 1 軒、中世以降の烟跡が検出された。

美通遺跡北側で朝日川、桂川に合流する菅野川の右岸と生出山南西部に挟まれるような位置に玉川遺跡（No.44）、玉川金山遺跡（No.45）、宮原遺跡（No.46）がある。玉川遺跡は縄文時代と古墳時代の散布地であり、宮原遺跡は縄文時代の散布地である。玉川金山遺跡は縄文時代早期の住居 1 軒と奈良時代の竪穴住居 8 軒と掘立柱建物跡 3 軒、中世～近世の墓坑が検出された集落跡である。

美通遺跡周辺の遺跡は第 1 表をもとに概観すると、未発掘調査の散布地を含め縄文時代の遺跡が多く認められる地域と考えられる。

参考文献

- 都留市教育委員会 1973 『中谷遺跡』
都留市教育委員会 1981 『中溝遺跡』
都留市教育委員会 1981 『中谷・宮脇遺跡』
都留市教育委員会 1986 『都留市史』 資料編 地史・考古
山梨県 1998 『山梨県史』 資料編 1 原始・古代 1 考古（遺跡）
山梨県 1999 『山梨県史』 資料編 2 原始・古代 2 考古（遺構・遺物）
山梨県 2004 『山梨県史』 通史編 1 原始・古代 1
山梨県教育委員会 1975 『山梨県中央道埋蔵文化財包含地発掘調査報告書一大月市地内 2-1』
山梨県教育委員会 1995 『中溝・揚久保遺跡』 山梨県埋蔵文化財センター調査報告第 115 集
山梨県教育委員会 1995 『中谷遺跡』 山梨県埋蔵文化財センター調査報告第 116 集
山梨県教育委員会 1996 『九鬼 II 遺跡』 山梨県埋蔵文化財センター調査報告第 118 集
山梨県教育委員会 1999 『原平遺跡』 山梨県埋蔵文化財センター調査報告第 160 集
山梨県教育委員会 2007 『天正寺遺跡』 山梨県埋蔵文化財センター調査報告第 248 集
山梨県教育委員会 2009 『玉川金山遺跡』 山梨県埋蔵文化財センター調査報告第 261 集



第1図 美通遺跡 周辺の遺跡分布図

No.	遺跡名	種別	時代
01	美通遺跡	集落跡	绳文
02	錢神遺跡	散布地	绳文
03	原平 A 遺跡	集落跡	绳文・弥生・奈良・平安・中世・近世
04	原平 B 遺跡	集落跡	绳文・弥生・奈良・平安・中世・近世
05	西ノ上 A 遺跡	散布地	绳文・平安
06	後林遺跡	土坑群	绳文
07	前沢内屋敷遺跡	古墳	古墳
08	坂田古墳	古墳	古墳
09	遼郷 1 遺跡	散布地	绳文
10	遼郷 2 遺跡	散布地	绳文
11	遼郷 3 遺跡	散布地	绳文
12	遼郷 4 遺跡	散布地	绳文
13	幸ノ田遺跡	散布地	绳文
14	坂遺跡	散布地	绳文
15	横道 A 遺跡	散布地	绳文
16	下門原遺跡	散布地	绳文
17	横道 B 遺跡	散布地	绳文
18	下畑本郷遺跡	散布地	绳文
19	足ノ口遺跡	散布地	绳文
20	下畑下原遺跡	散布地	绳文
21	寺門 B 遺跡	散布地	绳文
22	宮脇遺跡	散布地	绳文・平安
23	中谷入遺跡	散布地	绳文・平安
24	中谷遺跡	集落跡	绳文・古墳・奈良
25	大原中溝遺跡	集落跡	绳文・古墳
26	中溝遺跡	集落跡	绳文
27	沖大原遺跡	散布地	绳文
28	大日影遺跡	散布地	绳文・平安
29	古谷戸遺跡	散布地	绳文
30	亀石遺跡	散布地	绳文・平安
31	九鬼 I 遺跡	散布地	绳文・奈良・平安
32	九鬼 II 遺跡	集落跡	绳文・平安
33	前ヶ久保遺跡	散布地	绳文・奈良・平安
34	横吹遺跡	散布地	绳文
35	山梨遺跡	散布地	绳文
36	生出山山頂遺跡	集落跡	绳文・弥生・平安
37	与籠日向遺跡	散布地	绳文
38	天正寺遺跡	集落跡	绳文・弥生・中世
39	日影松原遺跡	散布地	绳文
40	与籠城跡	城館跡	中世
41	深田遺跡	散布地	绳文・古墳
42	谷村城	城館跡	中世
43	谷村の烽火台	城館跡	中世
44	玉川遺跡	散布地	绳文・古墳
45	玉川金山遺跡	集落跡	绳文・奈良・中世
46	宮原遺跡	散布地	绳文

第1表 美通遺跡周辺の遺跡一覧表

第3章 調査の方法と成果

第1節 調査の方法

平成19・20年度の試掘調査をもとに、遺構確認面まで重機による表土剥ぎを行った。その後、測量のための基準杭2～3点、地形・面積にあわせて標高杭を各区に設置した。C区北側の未買収用地の北東隅を起点とし、世界測地系座標に合わせた5m間隔のグリッドを設定した。グリッドの名称は東西方向に東からアルファベットAで始まり、南北方向に北から数字1を始まりとした。アルファベットZのあとは、Z・AA・AB・AC・・・とした。遺構・遺物の確認は、鍛錬を使い人力で行い、検出された遺構については、半裁して土壤の堆積状態を確認した。遺物などが出土した場合には、必要に応じて微細図を作成した。遺構の平面図および遺物の取り上げには、光波測量によるトータルステーションを導入し、現場での作業効率を図った。しかし、遺構の断面図については人力で計測した。作業の経過・遺構の記録等の写真撮影は、隨時行い、デジタルカメラ、35mmフィルムリバーサル・白黒、カラープリントの4種類で撮影している。また、集石のような複雑な遺構については、手持ちのデジタルカメラで撮影した画像を使用して図化させるデジタル計測も実施した。各区とも、調査終了にあわせて、ラジコンヘリコプターによる空中撮影を実施し、真上・俯瞰などの写真撮影、全体図の図化に必要な計測作業をおこなった。

第2節 層序

調査区が分かれているため、統一した層序は設定していないが、C区では弥生時代の遺物包含層や溶岩が面的に確認できたので、観察した土層を図化した(第3図)。本報告書は用地内の北側と南側と離れた調査区が対象で、土層の堆積も遺構の状態も大きく変わるために、文章にて若干ふれておく。

A区1は用地内最南端で、奈良・平安時代の住居跡が5軒・掘立柱建物跡3棟が検出できた地域である。隣接するA区2-3からも奈良・平安時代の住居跡が3軒検出され、この2つの調査区は道路で分かれているが、ほぼ同じ堆積状態である。県道35号線からA区2にかけて少しずつ標高が下っていく。部分的に深掘りをして土層観察を行ったが、堆積が一定ではなく火山灰性的土壤というより、川や沼のように水の中の堆積に近く、ローム層に見ても、砂質の堆積が多くあった。住居などの遺構もローム層のような黄褐色土中に掘り込まれているが、堅く締まるというより、砂質土で柔らかい層であった。遺構確認面はA区1・A区2-3で1mほどとなり、平安時代以降の堆積状況は、後世の攢乱が進んでいて確認できなかった。

A区2-1・2は、朝日川の流路であるためか、堆積が安定せず、砂層や礫層が交互に堆積する状態がみられた。

C区南側は、南から北に向かって緩やかに傾斜する地形であり、最も標高の高い調査区南西端は礫や溶岩の混じる地山が検出された。この地山付近では縄文時代の土坑が数基確認できている。調査区の北側1/3ほどには溶岩が部分的に検出される。C区南側で、溶岩が検出されるのは、最南端の地山付近とこの区域のみで、他の区域では溶岩はほとんど検出されない。C区南側北部分で確認した第5試掘トレンチでは、地表下1.5mほど掘り下げても溶岩は検出されなかった。また、調査区北端では中世の遺構が数基確認されている。調査区のなかでも、平安時代以降の黒色土の堆積が厚い部分で、地表下0.7mほどで焼土が点在し、陶器片が出土する。この柔らかい黒色土・やや明るくなる黒褐色土が平安時代以降の層と考え、その下層にみえる褐色土が弥生時代の遺物包含層ととらえている。

C区北側では、平安時代以降と縄文時代早期から前期の遺構が確認される調査区で、調査区のもっとも北側、地表下1.2～1.8mほどで、猿橋溶岩が面的に検出された。C区南側北端で確認されている黒色土・黒褐色土・褐色土はこの区域でも観察できる。しかし、弥生時代の遺物包含層は、調査区全体で確認されるわけではなく、部分的に見られる状態で、現状では緩やかに傾斜する地形でも、当時は起伏のある地形だったと推測される。

第3節 遺構

本報告書においては、調査区が細かく分かれているため、都留バイパス工事路線の南・県道35号側から順に記述していく。

A区1

本調査区では、縄文時代の土坑4基、奈良時代から平安時代にかけての住居跡が5軒、掘立柱建物跡が3件、柱穴列1例と、平安時代以降の土坑33基・溝状遺構18条、配石2基が検出されている。調査区の南側に1・2・5住、北側に3・4住と掘立柱建物跡が位置する。調査区の中央は、遺構・遺物がほとんど検出されず、黒色土が厚く堆積している。

1. 住居跡

1号住居跡（第8・10図）

（位置）BB-126～126 グリッド

（形態）東西約2.7m、南北約3.4mの隅丸長方形で、西壁中央より北側にカマドがある。周溝は確認されなかった。深さは約0.3mである。柱穴は確認できなかった。カマドから住居内中央付近まで、炭化材が集中していた。住居壁付近では炭化材などは検出されず、床面から少し高い位置での検出であった。

（カマド）西カマドで石組みである。東西0.6m、南北1.2mの掘り方をもつ。煙道は確認できなかった。袖石は南側・北側に平たい河原石が立ち位置で確認されたが、それ以外は、定位置での検出ではなかった。

（遺物）カマドの南側から東駿型といわれる土師器甕の大型の破片が出土している。カマドの周辺から出土した破片数点と接合でき、口縁部から底部まで、全体の1/2強の復元となった。（第62図-4）この甕は、胴部が中央から上寄りに最大径をもつもので、径部から口縁までが短く「く」の字状に屈折する。須恵器は环・蓋・甕の破片が出土している。

（年代）出土した炭化材の分析結果によると 1,265 ± 20yrBP であり、西暦745年前後となる。出土した遺物の検証からも、8世紀後半頃の構築と考えられる。

2号住居跡（第9・10図）

（位置）BC-126～127、BD-126～127 グリッド

（形態）東西約5.8m、南北約6mの隅丸方形で、西壁中央付近にカマドがある。周溝は確認されなかった。深さは東側や南側で、0.4m確認できるが、カマドのある西壁では、0.12mほどしか掘方が残っていない。柱穴は確認できなかった。住居内中央からカマド周辺には、焼土・炭・灰が混ざる土壤の堆積が広く観察され、これが、住居壁に近い部分まで、薄く堆積している。

（カマド）西カマドで、周囲に散乱した礫から石組みカマドと推測する。東西3.1m、南北4.7mの範囲に焼土・灰・炭化材が広く分布している。上層は削れて失われたと考えられる。

（遺物）遺物は、遺物分布図が示すように、住居内全体に遺物が検出される。他の同時代の住居跡に比べてもとても多く出土している。カマドの範囲内では、比較的大きめの駿東型の頭部の短い土師器甕が出土している。出土遺物のなかでも点数が多い（第63図27～44）。土師器环は、丸底のものと平底のものが出土している（第62図6～9）。比較的須恵器の出土が多く底部が高台より突出する环と、蓋の出土が目立つ。また、長頸瓶・甕の破片も出土している（第63図22～26）。

（年代）出土した遺物から奈良時代と推定される。

3号住居跡（第11図）

（位置）AY-119 グリッド

（形態）4号住居跡と隣接する。東西約2m、南北約2.2mの隅丸方形および隅丸長方形と推定される。住居跡

の大半が調査区外である。カマドは不明。調査は南東隅の少ない面積であったが、床面に近い位置から枝状や板状の炭化材が出土した。これが、壁に使われた板材かは判明できなかったが、炭化材の状態が良好だったため、材同定と年代測定をおこなった。

(カマド) 住居の大部分が調査区外であるため、不明。しかし、平安時代初頭頃のカマドの傾向をみると、北壁か東壁にある可能性が高い。

(遺物) 全体的に出土数は少ないが、土師器壺と須恵器甕の破片が出土している(第65図52~55)。出土した須恵器甕には、黒色の物質が内側に塗布されていた。この物質が塗布された須恵器甕の破片は、3号住居跡の周辺から転々と出土しており、その中の1点で分析をおこなった。予想では漆のようなものと考えていたが、ガラス質の物質であった(詳細は第4章を参照)。

(年代) 住居内遺物C-1とした床面に近い炭化材から年代測定を行った結果、1,200±20 yrBPであり、西暦810年前後である。

4号住居跡(第12図)

(位置) AY-120~121・AZ-120~121 グリッド

(形態) 3号住居跡と隣接する。東西約3.5m、南北約4mの隅丸方形と推定される。西壁の2/3~北壁の1/2強が調査区外であるため、全貌は確認出来ていない。調査面積とこの時期のカマドの傾向から、西壁北寄りから北西の角近くにカマドが存在すると推定する。

(カマド) 調査した範囲では、確認できなかった。しかし、10世紀末から11世紀には、住居跡のコーナー部分にカマドがつくられる傾向がある。したがって、調査できなかった北西のコーナーに存在する可能性が高い。

(遺物) 全体的に出土数は少ないが、土師器壺・甕、須恵器壺・蓋の破片と鉄鏃が出土している(第66図56~62)。

(年代) 住居内出土、炭化物1を年代測定にかけたところ、960±20という年代がでた。西暦1050年前後である。

5号住居跡(第13図)

(位置) BA-127 グリッド

(形態) 東西約0.9m、南北約3.5mの隅丸方形および隅丸長方形と推定される。西壁の北西角に近い位置にカマドがある。北西隅のみの調査で、大部分は調査区外であった。

(カマド) 石囲いカマド。調査区壁際で確認でき、全貌はあきらかではないが、花崗岩や安山岩を袖石に使っている。天井石らしい真ん中でおれた細長い石が袖石の上にかかるように残っていた。

(遺物) 調査区壁際とカマド北側から土師器甕口縁部が出土している。カマド周辺からは駿東型の甕片が出土している。この他、鉄製品が出土しているが用途など不明である。

(年代) 1・2号住居跡に近い奈良時代と推定する。

2. 堀立柱建物跡・柱穴列

1号堀立柱建物跡(第19図)

(位置) AV-119~120・AW-119~120 グリッド

(形態) 東西方向に3本、南北方向3本、柱穴が直線的に並ぶ。対角の中央には柱穴が確認出来なかつたので8本柱、「匂」の字型の方形建物である。主軸はほぼ南北方向で、南西隅と南辺中央の柱穴は、5号溝によって欠如および完全形跡が残っていない状態である。直径0.6~0.7mほどで、柱穴の深さは0.3m~0.5mほどである。柱穴と柱穴の間隔は、北辺13土と20土・12土間が1.9m・1.85mで、西辺13土・21土・25土間が1.75・1.95m、東辺12土・26土・27土間が2m・1.6m、南辺25土と27土が3.7mとなり、平均1.8~1.85mの間隔であった。1.8mは疊の長辺と同じ長さで1間である。したがって、この建物は2間×2間の方形の建物となる。

(遺物) 東辺中央 26 土中から砥石が 1 点出土した以外は、直接関係する遺物は、確認できなかった。

(年代) 5 号溝より古いが、明確な時期は不明である。

2 号掘立柱建物跡（第 20・21 図）

(位置) AW-120～121・AX-120～121 グリッド

(形態) 東西に 2 本、南北に 3 本、柱穴が直線的に並ぶ。6 本柱の方形の建物である。主軸はほぼ真北を示す。直径 0.6 m～0.7 m、深さ 0.3 m～0.5 m である。柱穴と柱穴の間隔は、北辺の 21 ピットと 30 土の間は 3.3m、西辺の 21 ピット・22 ピット・29 ピット間は、1.7m・1.5m、東辺の 30 土・27 ピット・31 ピット間は、1.75m・1.5 m、南辺の 29 ピット・31 ピット間は 3 m となり、平均 1.65 m の間隔であった。隅となる柱穴を結ぶと 1 辺 3～3.3 m のほぼ正方形となる。

(遺物) 明確な時期を限定する遺物は発見されていない。

(年代) 3 号掘立柱建物跡よりは新しいが、明確な時期は不明である。

3 号掘立柱建物跡（第 21 図）

(位置) AW-121・AX-121～122 グリッド

(形態) 東西に 3 本、南北に 3 本、柱穴が直線的に並ぶ。南辺の中央および東隅の柱穴は、廃土運搬通路壁面東で、確認できていません。西辺も 3 本目の柱穴以南は壁面となるため、さらに続くのかどうかは確認できていません。主軸は北西方向で、1・2 号掘立柱建物跡とは主軸を異にする。また、3 号掘立柱建物跡は他の 2 棟とは異なり、礎石立ちの建物である。ピットの直径は 0.3m ほどで、深さは 0.3～0.5 m である。礎石と礎石の間隔は、北辺の 32 ピット・33 ピット、34 ピット間は、2.15 m・2.1 m、西辺の 32 ピット・43 ピット・44 ピット間は、2.5 m・2.45 m、東辺の 34 ピット・64 ピット間は 2.4 m、中央 33 ピット・30 ピット間は 2.4 m であった。1・2 号掘立柱建物跡が正方形であるのに対し、3 号掘立柱建物跡は、東西 4.25 m、南北 5 m の長方形の建物と推定される。34 ピットの東側には、34 ピット・63 ピットと礎石をもつピットがあることから、他にも建物跡が存在する可能性が伺える。

(遺物) 明確な時期を限定する遺物は発見されていない。

(年代) 2 号掘立柱建物跡の 29 ピットと 3 号掘立柱建物跡の 34 ピットの斬り合いから、2 号掘立柱建物跡より古い。

1 号柱穴列（第 21 図）

(位置) AW-120・AX-120

(形態) 直径 0.25～0.3 m、深さ 0.2 m の柱穴が 4～6 本直線的に並ぶ。3 号掘立柱建物跡の東西の軸に向方向をやや同じにする。また、5・6 号溝状遺構の長軸方向にも平行している。柱穴と柱穴の間隔には、南から 58 ピット・56 ピット・12 ピット・50 ピット・51 ピット・52 ピット間で、1.6 m・1.6 m・1.5 m・1.55 m・1.6 m である。

(遺物) 58・56 ピットからは平らな石（礎石か？）が検出されている。

(年代) 3 号掘立柱建物跡と同時期と推定される。

3. 土坑

1 号土坑（第 14 図）

(位置) AV-118 グリッド

(形態) 長軸 0.8 m、短軸 0.8 m、深度 0.06 m の円形で、底部は皿状である。

(遺物) 特に検出されなかった。

(年代) 平安時代以降

2号土坑（第14図）

（位置）AY-118 グリッド

（形態）長軸1.68m・短軸0.88m、深度0.5mの楕円形で、底部は鍋底状で、テラスを持つ。

（遺物）土師器破片が数点出土している。

（年代）平安時代以降

3号土坑（第14図）

（位置）AY-121 グリッド

（形態）長軸1.5m、短軸1.22m、深度0.2mのほぼ円形で、底部は鍋底状である。

（遺物）土坑中央から短刀と鉄鎌が重なるように出土している（第67図-71・72）。そのほかは、土師器片が出土している。

（年代）平安時代以降

4号土坑（第14図）

（位置）BA-123～BB-123 グリッド

（形態）長軸1m、短軸0.9m、深度0.22mの円形で、底部は鍋底状である。

（遺物）土師器・須恵器片数点出土している。

（年代）平安時代以降

5号土坑（第14図）

（位置）AZ-124 グリッド

（形態）長軸1.6m、短軸0.86m、深度0.1mの隅丸方形で、底部は皿状である。

（遺物）須恵器片が出土している。

（年代）平安時代以降

6号土坑（第14図）

（位置）BA-124 グリッド

（形態）長軸1m、短軸0.82m、深度0.1mの円形で、底部は皿状である。

（遺物）特に検出されなかった。

（年代）平安時代以降

7号土坑（第14図）

（位置）BA-124～125 グリッド

（形態）長軸1.1m、短軸0.9m、深度0.1mの円形で、底部は皿状である。

（遺物）特に検出されなかった。

（年代）平安時代以降

8号土坑（第14図）

（位置）AZ-125～BA-125 グリッド

（形態）長軸1m、短軸0.8m、深度0.1mの円形で、底部は皿状である。

（遺物）特に検出されなかった。

（年代）平安時代以降

9号土坑（第14図）

(位置) BA-125 グリッド

(形態) 長軸 1.46 m、短軸 1.3 m、深度 0.1 m の円形で、底部は皿状である。

(遺物) 須恵器片が出土している。

(年代) 平安時代以降

10号土坑（第14図）

(位置) BA-126 ~ BB-126 グリッド

(形態) 長軸 1.1 m、短軸 1.1 m、深度 0.1 m の円形で、底部は皿状である。

(遺物) 特に検出されなかった。

(年代) 平安時代以降

11号土坑（第15図）

(位置) AW-118 ~ 119 グリッド

(形態) 長軸 1.34 m、短軸 1.34 m、深度 0.5 m の円形で、底部は鍋底状である。覆土中に礫が入る。16溝と重複し、それより古い。6ピットと重複し、それより新しい。

(遺物) 覆土中に人頭大の礫が詰め込まれたような状態で検出され、その礫の間から焰烙片 1 点が出土した。その他は、土師器片数点が出土している。

(年代) 焰烙片が出土したことから、近世以降と推定される。

12号土坑（第15図）

(位置) AV-119 グリッド

(形態) 長軸 0.8 m、短軸 0.76 m、深度 0.4 m の円形で、底部は鍋底状である。1号掘立柱跡北東隅の柱穴である。

(遺物) 土師器片数点が出土している。

(年代) 平安時代頃

13号土坑（第15図）

(位置) AW-119 グリッド

(形態) 長軸 0.64 m、短軸 0.52 m、深度 0.58 m の円形で、底部は鍋底状である。4溝と重複し、それより古い。1号掘立柱跡北西隅の柱穴である。

(遺物) 須恵器片が出土している。

(年代) 平安時代

14号土坑（第15図）

(位置) AW-118 グリッド

(形態) 長軸 0.6 m、短軸 0.53 m、深度 0.12 m の円形で、底部は皿状である。16土と重複し、それより新しい。

(遺物) 骨片、土師器片、炭片が出土している。

(年代) 平安時代以降

15号土坑（第15図）

(位置) AV-119 ~ AW-119 グリッド

(形態) 長軸 1.54 m、短軸 0.5 m、深度 0.38 m の隅丸長方形で、底部は鍋底状である。溝状造構との可能性高い。

(遺物) 土師器片が出土している。

(年代) 平安時代以降

16号土坑（第15図）

(位置) AW-118 グリッド

(形態) 長軸 0.58 m、短軸 0.44 m、深度 0.1 m の円形で、底部は皿状である。14号土と重複し、それより古い。

(遺物) 骨片が出土している。

(年代) 平安時代以降

17号土坑（第15図）

(位置) AX-118 グリッド

(形態) 長軸 0.9 m、短軸 0.86 m、深度 0.1 m の円形で、底部は皿状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降

18号土坑（第15図）

(位置) AX-118～119 グリッド

(形態) 長軸 1.3 m、短軸 1.26 m、深度 0.46 m の円形で、底部は鍋底状である。

(遺物) 土師器片が出土している。

(年代) 平安時代以降

19号土坑（第15図）

(位置) AW-119 グリッド

(形態) 長軸 1.38 m、短軸 1.38 m、深度 0.5 m の円形で、底部は鍋底状である。4・9溝と重複し、それより新しい。

(遺物) 土師器・須恵器片が出土している。

(年代) 平安時代以降

20号土坑（第15図）

(位置) AW-119 グリッド

(形態) 長軸 0.72 m、短軸 0.6 m、深度 0.58 m の円形で、底部はすり鉢状である。1号掘立柱跡北面中央の柱穴である。

(遺物) 土師器片が出土している。

(年代) 平安時代

21号土坑（第15図）

(位置) AW-119 グリッド

(形態) 長軸 0.64 m、短軸 0.56 m、深度 0.34 m の円形で、底部はすり鉢状である。1号掘立柱跡西面中央の柱穴である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代

22号土坑（第16図）

(位置) AX-119 グリッド

(形態) 長軸 1.6 m、短軸 1.4 m、深度 0.66 m の円形で、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降

23号土坑（第16図）

(位置) AZ-125 グリッド

(形態) 長軸 1.1 m、短軸 1.1 m、深度 0.38 m の推定円形で、底部は鍋底状である。遺構半分は調査区外。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降

24号土坑（第16図）

(位置) BC-124 グリッド

(形態) 長軸 1.2 m、短軸 1.1 m、深度 0.1 m の円形で、底部は皿状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降

25号土坑（第16図）

(位置) AW-120 グリッド

(形態) 長軸 0.9 m、短軸 0.74 m、深度 0.24 m の楕円形で、底部は鍋底状である。1号掘立柱跡南西隅の柱穴である。

5溝と重複し、それより古い。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代

26号土坑（第16図）

(位置) AV-120 グリッド

(形態) 長軸 0.66 m、短軸 0.6 m、深度 0.4 m の円形で、底部はすり鉢状である。1号掘立柱跡東面中央の柱穴である。

(遺物) 覆土中から砥石が出土している（第84図-433）。

(年代) 平安時代

27号土坑（第16図）

(位置) AV-120 グリッド

(形態) 長軸 0.6 m、短軸 0.58 m、深度 0.36 m の円形で、底部はすり鉢状である。1号掘立柱跡南東隅の柱穴である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代

28号土坑（第16図）

(位置) AW-119 グリッド

(形態) 長軸 1.44 m、短軸 1.34 m、深度 0.48 m の円形で、底部はやや袋状となる。16溝と重複し、それより古い。

(遺物) 土師器・須恵器片が出土している。

(年代) 平安時代以降

29号土坑（第16図）

(位置) AW-118～AW-118 グリッド

(形態) 長軸1.34m、短軸1.18m、深度0.3mの楕円形で、底部は鍋底状である。3溝と重複それより古い。3号溝調査中にはその延長で、少し伸びるのかと考えたが、結果的にテラス状になったため、新たな土坑番号を設置した。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降

30号土坑（第16図）

(位置) AW-120～121・AX-120～121 グリッド

(形態) 長軸1.2m、短軸0.7m、深度0.36mの楕円形で、底部はすり鉢状である。15ピットと重複し、それより古い。他にも重複する遺構があったようで、掘方の南東隅に礎石のような平たい石が検出できている。2号掘立柱跡北東隅の柱穴である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代

31号土坑（第16図）

(位置) AW-118 グリッド

(形態) 長軸0.84m、短軸0.84m、深度0.74mの円形で、底部は鍋底状である。遺構半分は調査区外。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降

33号土坑（第16図）

(位置) AZ-123～BA-123 グリッド

(形態) 長軸1.16m、短軸0.9m、深度0.1mの隅丸長方形で、底部はすり鉢状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降

34号土坑（第16図）

(位置) BC-127～128 グリッド

(形態) 長軸1m、短軸0.8m、深度0.44mの円形で、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 縄文時代？

35号土坑（第16図）

(位置) BC-127 グリッド

(形態) 長軸1.16m、短軸1.1m、深度0.3mの円形で、底部は鍋底状である。

(遺物) 縄文土器片が出土している。

(年代) 縄文時代

36号土坑（第16図）

(位置) BC-127 グリッド

(形態) 長軸 1.16 m、短軸 1.02 m、深度 0.28 m の円形で、底部は鍋底状である。

(遺物) 繩文土器片が出土している。

(年代) 繩文時代

37号土坑（第16図）

(位置) BD-127～128 グリッド

(形態) 長軸 1.14 m、短軸 1.14 m、深度 0.28 m の円形で、底部は鍋底状である。

(遺物) 繩文土器片が出土している。

(年代) 繩文時代

4. 溝状遺構

1号溝状遺構（第17図）

(位置) AU-117～118 グリッド

(形態) 長軸 3.2 m、短軸 0.56 m、深度 0.74 m の溝状遺構で、底部は鍋底状である。主軸はほぼ東西である。

(遺物) 土師器・須恵器片と鉄製品を出土している。

(年代) 平安時代以降

2号溝状遺構（第17図）

(位置) AU-118 グリッド

(形態) 長軸 1.7 m、短軸 0.56 m、深度 0.35 m の溝状遺構で、底部は鍋底状である。主軸はほぼ東西である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降

3号溝状遺構（第17図）

(位置) AV-118～AW-118 グリッド

(形態) 長軸 4.2 m、短軸 0.66 m、深度 0.75 m の溝状遺構で、底部は鍋底状である。主軸はほぼ東西である。

(遺物) 土師器・須恵器片が出土している。

(年代) 平安時代以降

4号溝状遺構（第15図）

(位置) AW-119～AX-119 グリッド

(形態) 長軸 4.26 m、短軸 0.6 m、深度 0.44 m の溝状遺構で、底部は鍋底状である。19土と重複し、それより古い。

また、1号掘立柱建物跡の13土と重複し、それより新しい。主軸はほぼ東西である。

(遺物) 土師器片が出土している。

(年代) 1号掘立柱建物跡より新しいので、平安時代以降と推定する。

5号溝状遺構（第17図）

(位置) AW-120～AX-120 グリッド

(形態) 長軸 6.2 m、短軸 0.84 m、深度 0.65 m、東西方向に長い溝状遺構である。底部は鍋底状で、6溝と西側端で重複し、それより古い。また、25号土坑と重複し、それより新しい。

(遺物) 土師器・須恵器片と鉄製品 1 点が出土している。

(年代) 1 号掘立柱建物跡より新しいので、平安時代以降と推定する。

6 号溝状遺構（第 17 図）

(位置) AX-120 グリッド

(形態) 長軸 4.2 m、短軸 1.06 m、深度 0.5 m の溝状遺構で、底部は鍋底状である。5 溝と東端で重複し、それより新しい。主軸はほぼ東西である。

(遺物) 土師器・須恵器片を出土している。

(年代) 6 号溝より新しい。平安時代以降。

7 号溝状遺構（第 18 図）

(位置) AY-122 グリッド

(形態) 長軸 3.6 m、短軸 0.74 m、深度 0.5 m の溝状遺構で、底部は鍋底状である。覆土中に人頭大から拳大ほどの礫が沢山はいる。主軸はほぼ南北である。

(遺物) 土師器・須恵器片が出土している。

(年代) 平安時代以降。

8 号溝状遺構（第 18 図）

(位置) AZ-124 ~ BA-124 グリッド

(形態) 長軸 3.42 m、短軸 0.6 m、深度 0.1 m の溝状遺構で、底部は皿状である。遺構の少ない中間地点に位置する。本来の掘り込みはもう少し深いと思われるが、後世の造成で掘削された可能性がある。主軸はほぼ東西である。

(遺物) 土師器破片が出土している。

(年代) 平安時代以降

9 号溝状遺構（第 15 図）

(位置) AW-119 ~ AX-119 グリッド

(形態) 長軸 3.6 m、短軸 0.64 m、深度 0.3 m の溝状遺構で、底部は鍋底状である。19 土と重複し、それより古い。また、3 ピットと重複し、それより新しい。主軸はほぼ東西である。

(遺物) 土師器数点

(年代) 平安時代以降

10 号溝状遺構（第 18 図）

(位置) AU-118 ~ AV-118 グリッド

(形態) 長軸 1.98 m、短軸 0.46 m、深度 0.46 m の溝状遺構で、底部は鍋底状である。北西隅に別の遺構が重複する可能性あり。主軸はほぼ南北である。

(遺物) 特に出土していない。

(年代) 平安時代以降

11 号溝状遺構（第 18 図）

(位置) BB-127 ~ 128・BC-127 ~ 128 グリッド

(形態) 長軸 2.78 m、短軸 0.64 m、深度 0.4 m の溝状遺構で、底部は鍋底状である。主軸はほぼ南北である。

(遺物) 土師器・須恵器片を出土している。

(年代) 平安時代以降

12号溝状遺構（第18図）

(位置) AW-120～121 グリッド

(形態) 長軸 1.35 m、短軸 0.85 m、深度 0.5 m の溝状遺構で、底部は鍋底状である。遺構の半分は調査区外で、主軸はほぼ南北である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降

13号溝状遺構（第18図）

(位置) AZ-121 グリッド

(形態) 長軸 1.28 m、短軸 0.48 m、深度 0.08 m の溝状遺構で、底部は皿状である。主軸はほぼ南北である。

試掘トレーナーで切られていっている。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降

14号溝状遺構（第18図）

(位置) BC-126～127 グリッド

(形態) 長軸 4.2 m、短軸 0.96 m、深度 0.42 m の溝状遺構で、底部は鍋底状である。2号住居跡東壁に重複し、それより新しい。主軸はほぼ南北である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降

15号溝状遺構（第18図）

(位置) AV-118 グリッド

(形態) 長軸 1 m、短軸 0.58 m、深度 0.2 m の溝状遺構で、底部は皿状である。主軸はほぼ南北である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降

16号溝状遺構（第18図）

(位置) AW-119 グリッド

(形態) 長軸 2.06 m、短軸 0.6 m、深度 0.5 m の溝状遺構で、底部は鍋底状である。11土・28土と重複し、それより新しい。主軸はほぼ南北である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降

17号溝状遺構（第18図）

(位置) BC-128～129・BD-128 グリッド

(形態) 長軸 2.36 m、短軸 0.6 m、深度 0.32 m の溝状遺構で、底部は鍋底状である。主軸はほぼ南北である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降

18号溝状遺構（第18図）

(位置) BD-126 グリッド

(形態) 長軸 1.9 m、短軸 0.7 m、深度 0.2 m の溝状遺構で、底部は鍋底状である。主軸はほぼ東西である。2号住居跡カマドの付近に重複し、それより新しい。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降

5. 配石遺構

1号配石遺構（第22図）

(位置) BA-127 グリッド

(形態) 長軸 1.8 m、短軸 0.73 m、深さ 0.15 m の土坑に、人頭大の礫が配置されている。断面観察から、厚めの表面平らな石が間隔をそろえて配置されているように見える。主軸は東西方向である。

(遺物) 土師器・須恵器数点

(年代) 平安時代以降

2号配石遺構（第22図）

(位置) BC-129 グリッド

(形態) 長軸 1.1 m、短軸 0.7 m に人頭大の礫が配置されている。主軸は東西方向である。人頭大の礫が、円を描くように配置されている。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降

6. ピット群（第19～21図）

ピットの大きさ・深さなどは、ピット計測表にまとめた（第2表）。

●A区2-1（第24・25図）

A区2-1はそのほとんどが遺跡の東側を流れる朝日川の氾濫原となる。表土を除去したところ調査区の西壁に沿って河岸段丘の段丘崖を検出した。遺構は、耕作によって削平された段丘崖から土坑を検出し、氾濫原からは溝状遺構や竪穴状遺構、石列、集石を検出しているが、いずれも時期を特定できるような遺物は出土しなかった。調査区北西部の段丘崖から検出した東西方向に走る溝状の掘り込み群については、耕作で自然堆積層を削平された後に掘り込まれたものである可能性が高く、時期としてはかなり新しくなるのではないかと考えられる。

氾濫原の部分では、粘土やシルト、砂礫が幾重にも堆積しており、頻繁に朝日川の氾濫の影響を受けている状況が窺われる。特に段丘崖への変換点周辺には礫の分布が見られ、朝日川のある東側へさらに深く堆積している状況が確認された。氾濫原の中からは段丘崖の縁に平行する石列（AO-107～109 グリッドと AN-107 グリッド）や集石（AQ-113 グリッド）が検出された。石列・集石ともに 20～50cm ほどの礫で構成されている。調査区周辺の地元の方に聞いたところ、関東大震災の際に段丘崖の一带に築かれていた石垣が崩れたという話が伝わっているとのことで、これらの石礫や集石も段丘崖周辺の石垣に関係する礫である可能性が高く、震災以降の新しい時期のものと考えられる。調査区からの出土遺物のほとんどは氾濫原部分の堆積土中から出土したものであるが、古銭などの時期と出土位置の上下関係が食い違う状況が見られ、氾濫の際に上流や周辺から流れてきたものが多く含まれていると考えられる。氾濫原からの出土遺物としては、古銭（寛永通宝他）、キセルや釘などの金属製品、縄文時代～近代にかけての土器・陶磁器片などがある。この内、金属製品が調査区ほぼ中央 AP-110 グリッド付近に集中する傾向が見られるが、猿形土製品も氾濫原の堆積土中である AO-108 グリッドから出土

した。横向きに倒れた状態で出土したが、遺構は確認されなかった。猿形土製品の下層からは、1号竪穴状遺構が検出されているが、猿形土製品は1号竪穴状遺構の確認面よりも上層から出土しており、関係性は見られない。また、段丘崖に近いAP-109 グリッドからは人骨と副葬品と考えられる短刀・寛永通宝が出土したが、土坑などの遺構は確認されなかった。

1. 土坑

1号土坑（第26図）

（位置）AR-113 グリッド。

（形態）西側が調査区の外側へ延びるため、平面形は不明である。断面は箱形である。深さは35cm。

（遺物）遺物は出土しなかった。

（時期）不明。

2号土坑（第26図）

（位置）AR-113 グリッド。

（形態）西側の一部が調査区の壁に触れているが、平面形は円形になると考えられる。断面は、底面が平らで、壁面が緩やかに立ち上がる。径約95cm、遺構確認面からの深さ12cm。

（遺物）遺物は出土しなかった。

（時期）不明。

2. 溝状遺構

1号溝状遺構（第26図）

（位置）AP-110 グリッド。

（形態）長さ123cm、幅63cm、深さ28cm。主軸は北西—南東方向。断面は箱形で、長さが短く、土坑状である。

（遺物）遺物は出土しなかった。

（時期）不明。

2号溝状遺構（第26図）

（位置）AO・AP-110 グリッド。

（形態）長さは、東側が砂礫の侵食により失われているため不明。幅72cm、深さ33cm。主軸は北西—南東方向。断面は箱形である。

（遺物）遺物は出土しなかった。

（時期）不明。

3. 竪穴状遺構

1号竪穴状遺構（第25図）

（位置）AO-108 グリッド。

（形態）東側から南東側にかけて砂礫の侵食により失われているため、形状は不明である。確認面から130cmほどの深さまで暗褐色土が堆積しているが、東側からは砂礫が入り込み、暗褐色土の下層も砂礫層となるため、底面の形状も不明である。

（遺物）下層の砂礫層からキセルの雁首部が出土した。

●A区2-2

A区2-2調査区は、現地表から遺構確認面までの深さが浅く、調査区内に用地取得前まで土地を区画している石垣の基部や土地区画の段差が残っている。A J-97～101に残る石垣基部周辺からは近代（明治期）の陶磁器片や金属片などが大量に廃棄されていた。また、調査区南端部では暗褐色土の混ざる砂礫層となり、南～南東方向へ落ち込む状況が確認された。この砂礫層の中からは石臼が出土した。

1. 土坑

1号土坑（第27図）

（位置）AL-100 グリッド。

（形態）平面形は東西にやや細長い不整形で、断面は壁面の上部がやや開く箱形である。南側に浅く広がる突出部があり、土層では確認できなかったが、別の土坑が切り合っている可能性も考えられる。長軸173cm、短軸137cm（突出部は除く）、深さ約60cm。遺構確認面では5～40cm大の礫が土坑上面を覆っていた。この礫を取り除くと、土坑の中心に長さ124cm、幅83cm、厚さ約50cmの巨大な礫を配し、この礫と土坑壁面との隙間を埋めるように5～35cm大の礫が詰め込まれていた。巨大な礫は人力で取り除くことが不可能であったため、調査終了時に重機を使って取り除き、土坑底部を確認した。礫の直下が土坑底面となっており、遺物や新たな礫などは確認されなかった。

（遺物）土坑上部を覆う礫とともに、土師質土器・陶磁器の破片や鉄鍋と思われる鉄物製品の欠片が出土した。

（時期）近世か。

2号土坑（第27図）

（位置）AK-97 グリッド。

（形態）平面形はやや不整な楕円形で、断面は底部から斜めに立ち上がるV字形である。長軸65cm、短軸51cm、深さ25cm。

（遺物）遺物は出土しなかった。

（時期）不明

3号土坑（第27図）

（位置）AJ・AK-98 グリッド。

（形態）平面形はひょうたん形でくびれがあり、断面は底面が平らである。長軸180cm、短軸137cm。くびれを境に深さが異なるが、どちらも遺構確認面からの深さが5～9cmと浅く、覆土も同じ黒褐色土であり、遺構の切り合いの有無は確認できなかった。遺構確認面よりもさらに上部から掘り込まれていると考えられる。遺構確認面で3～15cm大の礫がまばらに検出された。

（遺物）土坑底部付近や上層の覆土から墓石（黒）が1点出土した。

（時期）不明（近世～近代か）。

4号土坑（第28図）

（位置）AK-99 グリッド。

（形態）平面形はやや不整な楕円形である。断面は箱形で、北東側を除いて深さ5cmほどの浅い掘り込みが土坑の周囲を廻る。長軸44cm、短軸25cm（周囲の掘り込みは除く）、深さ34cm。

（遺物）遺物は出土しなかった。

（時期）不明。

5号土坑（第27図）

（位置）AK-98グリッド。

（形態）平面・断面ともに不整形である。南側で1号溝と重複し、1号溝を切っている。北側に平面・断面ともに不整形の深さ3~9cmほどの浅い掘り込みが100cmほど広がっている。土坑内には上層から底面付近にかけて5~20cm大の礫の集まりが検出された。長軸88cm、短軸48cm（北側の掘り込みは除く）、深さ13cm。

（遺物）遺物は出土しなかった。

（時期）不明。

6号土坑（第27図）

（位置）AK・AL-98・99グリッド。

（形態）西側は調査区の西壁に接し、東側は1号溝と重複し、1号溝を切っている。平面形はややいびつな円形になると考えられる。断面は底面が平らで、壁面は開きながら立ち上がる。径約85cm、深さ10cm。

（遺物）遺物は出土しなかった。

（時期）不明。

7号土坑（第28図）

（位置）AK-95グリッド。

（形態）平面形は不明。北側で3号溝と重複し、3号溝を切っている。西側は試掘トレーニによって失われている。断面は底面が平らで、壁面は開きながら立ち上がる。長軸・短軸ともに不明、深さ12cm。

（遺物）遺物は出土しなかった。

（時期）不明。

8号土坑（第28図）

（位置）AK-100グリッド。

（形態）平面は円形、断面は幅の広いU字形である。長軸86cm、短軸82cm、深さ12cm。

（遺物）遺物は出土しなかった。

（時期）不明。

9号土坑（第28図）

（位置）AK-97グリッド。

（形態）平面形はやや不整な楕円形で、断面は底面が平らで、壁面が開きながら立ち上がる。長軸59cm、短軸51cm、深さ7cm。

（遺物）遺物は出土しなかった。

（時期）不明。

10号土坑（第28図）

（位置）AL-101グリッド。

（形態）4号溝の半截断面で確認したため、平面形は不明。4号溝を切っている（断面図の1~4層が10号土坑覆土）。東側の一部が試掘トレーニによって失われている。断面は底部が平らで、壁面がやや開きながら立ち上がる。4号溝の北東側と南西側に一部が残る。土坑の覆土上層から10~20cm大の礫が検出された。深さ36cm。

（遺物）遺物は出土しなかった。

(時期) 不明。

11号土坑（第29図）

(位置) AM-101 グリッド。

(形態) 平面・断面ともに不整形である。断面は北西側で一段深くなる。長軸 124cm、短軸 77cm、深さ 23cm。

(遺物) 遺物は出土しなかった。

(時期) 不明。

12号土坑（第29図）

(位置) AM-102 グリッド。

(形態) 平面形は不整形、断面はU字形である。長軸 180cm、短軸 176cm、深さ 127cm。土坑覆土には炭化物や灰がブロック状に含まれていた。また、10～30cmほどの礫に混ざって磨製石斧の欠片も含まれていた。礫とともに土坑の埋土に混入したものと考えられる。以上のような覆土の状況から、土坑の性格は不明であるが、人為的に埋められた状況が窺える。

(遺物) 土坑の覆土中から北宋銭の「元豐通寶」が出土した。また、農工具等の留め具とも考えられるリング状の鉄製品が出土した。

(時期) 不明。

13号土坑（第29図）

(位置) AN-103 グリッド。

(形態) 西側が調査区の外側に延びているため、平面形は不明である。断面は底面が平らで、壁面がやや開きながら立ち上がる。深さ 23cm。

(遺物) 遺物は出土しなかった。

(時期) 不明。

14号土坑（第29図）

(位置) AN-103 グリッド。

(形態) 平面形はやや不整な楕円形で、断面は北側が一段深くなり、南側の壁面が階段状に立ち上がる。長軸 85cm、短軸 59cm、深さ 49cm。

(遺物) 遺物は出土しなかった。

(時期) 不明。

15号土坑（第29図）

(位置) AM-103 グリッド。

(形態) 平面形はやや不整な楕円形で、断面はやや凹凸があるものの、底面は平らで、壁面は開きながら立ち上がる。長軸 112cm、短軸 74cm、深さ 12cm（2層は地山）。

(遺物) 遺物は出土しなかった。

(時期) 不明。

16号土坑（第29図）

(位置) AM-103 グリッド。

(形態) 平面形は不整な楕円形で、断面は底面に凹凸があり、壁面は開きながら立ち上がる。長軸 121cm、短軸

100cm、深さ 38cm。

(遺物) 遺物は出土しなかった。

(時期) 不明。

17号土坑（第29図）

(位置) AM - 103 グリッド。

(形態) 平面形は不整な円形で、断面は南側の壁面下部が膨らむ。長軸 77cm、短軸 66cm、深さ 36cm。

(遺物) 遺物は出土しなかった。

(時期) 不明。

18号土坑（第29図）

(位置) AM・AN - 108 グリッド。

(形態) 平面形は検出時にはほぼ円形であったが、半截断面では土坑の壁面上部が北側に広がる状況が観察され、橢円形になると考えられる。断面は底面中央部が窪み、壁面は階段状に立ち上がる。長軸 117cm（半截断面）、短軸 85cm、深さ 49cm。

(遺物) 遺物は出土しなかった。

(時期) 不明。

19号土坑（第30図）

(位置) AM - 104 グリッド。

(形態) 平面形は不整な円形で、断面は壁面に凹凸がある。長軸 123cm、短軸 104cm、深さ 48cm。

(遺物) 遺物は出土しなかった。

(時期) 不明。

20号土坑（第30図）

(位置) AI - 98 グリッド。

(形態) 平面形は円形で、断面は幅の広いU字形である。長軸 139cm、短軸 133cm、深さ 39cm。

(遺物) 遺物は出土しなかった。

(時期) 不明。

21号土坑（第27図）

(位置) AJ・AK - 98 グリッド。

(形態) 平面形はやや不整な円形である。断面は底面が平らで南側がやや浅くなり、壁面が開きながら立ち上がる。長軸 123cm、短軸 110cm、深さ 22cm。

(遺物) 遺物は出土しなかった。

(時期) 不明。

2. 溝状遺構

1号溝状遺構（第27図）

(位置) AK - 98 グリッド。

(形態) 西側で6号土坑と重複し、切られているため、長さは不明。北側では、部分的に5号土坑と重複し、切られている。断面は箱形である。幅 48cm、深さ 18cm。主軸は東西方向。

(遺物) 遺物は出土しなかった。

(時期) 不明。

2号溝状遺構（第27図）

(位置) AL - 99 グリッド。

(形態) 西側が調査区の外側に延びている。断面は箱形である。幅 65cm、深さ 57cm。主軸は不明（東西方向か）。

(遺物) 遺物は出土しなかった。

(時期) 不明。

3号溝状遺構（第28図）

(位置) AK - 95 グリッド。

(形態) 南側で7号土坑を切っている。また、試掘トレーナーによって壁面の上部がわざかに失われている。断面は箱形である。長さ 205cm、幅 65cm、深さ 52cm。主軸は東西方向。

(遺物) 遺物は出土しなかった。

(時期) 不明。

4号溝状遺構（第28図）

(位置) AL・AM - 101 グリッド。

(形態) 西側が調査区の外側に延びている。東側の上部が10号土坑に切られている。断面はU字形である。長さ不明、幅 90 ~ 108cm、深さ 37 ~ 95cm。主軸は東西方向。東側に向かって底面が傾斜し、東側端部では地中を掘り込んでいる。底面付近からは 10 ~ 40cm 大の礫が検出され、東側の地中に掘り込み始める周辺では礫がまとまって検出された。地中に掘り込まれる形態から、地下式土坑の可能性も考えられる。

(遺物) 遺物は出土しなかった。

(時期) 不明。

5号溝状遺構（第30図）

(位置) AM - 101 グリッド。

(形態) 西側の調査区壁周辺から一部を検出した。西側の調査区外へ延びていると考えられる。断面は壁面上方がやや開く箱形である。長さ不明、幅 70cm、深さ 34cm。

(遺物) 遺物は出土しなかった。

(時期) 不明。

6号溝状遺構（第30図）

(位置) AL - 101 グリッド。

(形態) 南側で7号溝状遺構と重複しているが、新旧関係は不明である。覆土も同じであることから、ほぼ同時期の遺構と考えられる。断面はU字形である。長さ 187cm、幅 45cm、深さ 23cm。主軸は東西方向。

(遺物) 遺物は出土しなかった。

(時期) 不明。

7号溝状遺構（第30図）

(位置) AL - 101 グリッド。

(形態) 北側で6号溝状遺構と重複しているが、新旧関係は不明である。断面は、底面が平らで、壁面がやや開

きながら立ち上がる。長さ 133cm、深さ 15cm。主軸は東西方向。

(遺物) 遺物は出土しなかった。

(時期) 不明。

8号溝状遺構（第30図）

(位置) AL - 102 グリッド。

(形態) 西側へ約 80cm 離れた地点にある 9号溝状遺構と同軸上に存在することから、9号溝状遺構と同一の溝状遺構である可能性が考えられる。断面は、箱形である。長さ 91cm、幅 46cm、深さ 11cm。主軸は東西方向。

(遺物) 遺物は出土しなかった。

(時期) 不明。

9号溝状遺構（第30図）

(位置) AL - 102 グリッド。

(形態) 北側に 6・7号溝状遺構があり、並んでいる。東側の同軸上には 8号溝状遺構があり、同一の溝状遺構である可能性が考えられる。断面は底面がやや平らで壁面が開きながら立ち上がる。長さ 153cm、幅 54cm、深さ 20cm。主軸は東西方向。

(遺物) 遺物は出土しなかった。

(時期) 不明。

10号溝状遺構（第30図）

(位置) AL・AM - 104 グリッド。

(形態) 断面は箱形で、ほぼ垂直に掘り込まれている。長さ 325cm、幅 63cm、深さ 38cm。主軸は東西方向。

(遺物) 遺物は出土しなかった。

(時期) 不明。

11号溝状遺構（第31図）

(位置) AI - 98・99 グリッド。

(形態) 南側で 2号竪穴状遺構と重複し、切られている。東側が調査区外へ延びている。南西隅に土坑状の窪みがある。長さ・幅不明、深さ 9cm。主軸は東西方向か。

(遺物) 遺物は出土しなかった。

(時期) 不明。

3. 竪穴状遺構

1号竪穴状遺構（第31図）

(位置) AI・AJ - 97 グリッド。

(形態) 北側が調査区外へ延びている。平面・断面ともに不整な形状で、床面部分は酸化鉄が多く見られ、凸凹に硬化している。長軸・短軸不明。深さ 24cm。

(遺物) 遺物は出土しなかった。

(時期) 不明。

2号竪穴状遺構（第31図）

(位置) AI - 99 グリッド。

(形態) 東側が調査区外へ延びている。調査区東壁付近の北側で 11 号溝状遺構と重複し、切っている。検出された平面形では、長方形になると推測される。断面は底面にやや凹凸のある箱形である。長軸不明、短軸 131cm、深さ 24cm。覆土には約 5~20cm 大の礫が大量に含まれていた。

(遺物) 覆土中から明治期の陶磁器片が出土した。

(時期) 近代。

3号竪穴状遺構（第 31 図）

(位置) AJ - 99・100 グリッド。

(形態) 平面形はいびつな長方形で、断面は底面が平らで壁面は開きながら立ち上がる。長軸 283cm、短軸 118cm、深さ 10cm。竪穴中央やや北寄りの底面に長軸 69cm、短軸 56cm、深さ 39cm の土坑状の窪みがある。

(遺物) 底面から覆土中にかけて近世後半～明治期以降の陶磁器片が一括して廃棄されたような状態で出土した。また、陶磁器片に混ざって弥生土器の口縁部破片が出土した。弥生土器は周辺からの混入と考えられる。

(時期) 近代。

4号竪穴状遺構（第 31 図）

(位置) AJ・AK - 99・100 グリッド。

(形態) 長軸 139cm、短軸 127cm、深さ 52cm のややいびつな方形竪穴の北東側から東側にかけて一段高い（幅約 40~50cm、深さ約 15cm）の張り出しを持つ。方形の竪穴が重複しているように見えるが、覆土は同じで、全面から 5~30cm 大の礫が大量に検出された。

(遺物) 大量の礫に混ざって、近世後半～明治期の陶磁器片やキセルやリング状等の金属製品が一括廃棄されたような状態で出土した。

(時期) 近代。

●A 区 2-3

1. 住居跡

1号住居跡（第 32 図）

(位置) AT - 113・114 グリッド。

(形態) 竪穴東壁のカマド左袖部分から住居中央にかけて 3 号溝状遺構に切られ、北側の床面の一部を 2 号溝状遺構に切られている。また、北西側を調査区北西壁沿いの表土剥ぎ作業時の深堀りによって失っている。平面形は、やや隅の丸い方形になると考えられ、壁面はやや開きながら立ち上がる。長軸（南北）426cm、短軸（東西）390cm、深さ 14cm。柱穴は検出されなかった。

(カマド) 竪穴東壁の南東コーナー寄りに設けられている。右側の袖部に袖石が残る。左側の袖部は重複する 3 号溝状遺構によって失われている。煙道は竪穴の壁面を 10cm ほど奥に掘り込んで、斜めに立ち上がる。カマドの南側から南壁までの床面で甲斐型土器の壺などの遺物が多く出土した。

(遺物) カマド内部とカマド南側の床面から甲斐型土器の壺や甕の破片が出土した。

(時期) 平安時代（9 世紀前半）。

2号住居跡（第 33 図）

(位置) AT・AU - 114・115 グリッド。

(形態) 竪穴西壁中央の上部で 13 号土坑と重複し、切られている。平面形はやや東西に長い長方形で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。長軸（東西）366cm、短軸（南北）309cm、深さ 37cm。柱穴は検出されなかった。

(カマド) 竪穴北壁の中央やや東寄りに設けられている。袖部は検出されなかったが、袖部または覆い部の構築

材と考えられる 10 ~ 30cm 大の礫が燃焼部奥側から東側にかけてカマド覆土中に集中していた。煙道は竪穴の壁面を 30cm ほど奥に掘り込んで斜めに立ち上がり、さらにカマド奥壁の上部が浅く掘り広げられて、竪穴の外側へ 70cm ほど広がっている。

(遺物) カマド内部および前面から土師器の球胴甕や丸底の壺の破片が出土した。また、竪穴中央付近の床面からは須恵器の高台壺が出土している。

(時期) 古墳時代末～奈良時代（7世紀末～8世紀初頭）。

3号住居跡（第 34・35 図）

(位置) AU・AV - 115・116 グリッド。

(形態) 竪穴南壁の中央やや東寄り地点で 5号土坑と重複し、切られている。竪穴東壁中央やや南寄りの周辺で 6・7号土坑と重複し、切られている。竪穴の北西コーナー付近で 27号土坑と重複し切られている。竪穴北壁のカマド西側で 30号土坑と重複し、切られている。平面形はやや隅の丸い方形で、壁面はほぼ垂直に立ち上がるが、南壁の西側では開きながら立ち上がる。長軸（南北）534cm、短軸（東西）510cm、深さ 46cm。南壁付近の床面に 2基（住居内土坑 1・2）、南西コーナー寄りの西壁付近の床面に 1基の土坑（住居内土坑 3）を検出したが、形状が不整で配置も不規則であるため、柱穴とは断定できない。住居内土坑 1は、平面が梢円形、断面は底面が平らで、壁面の上部が開きながら立ち上がる。長軸 73cm、短軸 55cm、深さ 22cm。住居内土坑 2は、平面が不整形、断面は底面が平らで、壁面の上部が開きながら立ち上がる。長軸 96cm、短軸 64cm、深さ 19cm。住居内土坑 3は平面がややいびつな梢円形、断面は底面が平らで、壁面は東側でほぼ垂直に、西側では開きながら立ち上がる。長軸 53cm、短軸 41cm、深さ 29cm。また、竪穴の北壁北東コーナー付近外側から長軸 40cm、短軸 28cm、深さ 14cm のピットを検出したが、他に竪穴の外側を廻るようなピットは確認されなかつた。

3号住居跡の東西セクション中央部で竪穴状の掘り込みを確認した。南北セクションでは掘り込みを確認できなかったが、3号住居跡が埋没した後に竪穴状の遺構（東西 300cm、南北不明、深さ 17cm ほどの規模）が掘られていた可能性も考えられる。

(カマド) 竪穴北壁のほぼ中央部に設けられている。両袖の基底部がわずかに残り、左右の袖からは袖石を検出した。竪穴の壁面を斜めに掘り込んで奥壁が斜めに立ち上がり、奥壁上部から幅 20 ~ 25cm、遺構確認面からの深さ 5cm ほどの煙道が 80cm ほど竪穴の外側へ伸びる。

(遺物) カマドの両袖部の外側から須恵器の蓋が裏返しの状態で 1点ずつ出土した。また、カマド南西側の床面からは焼土と 10 ~ 40cm 大の礫が検出され、礫の下から須恵器の蓋が出土した。これらは、カマド廃棄時の祭祀行為の痕跡と考えられる。また、カマドの燃焼部からは、堀ノ内原 type の甕底部が出土した。竪穴南壁付近では、床面より 15 ~ 20cm ほど上層で 10 ~ 20cm ほどの礫が集中して検出されたが、角礫で、加工痕は見られなかつた。周囲からは焼土と炭化材を検出した。

(時期) 奈良時代（8世紀前半）。

2. 土坑

1号土坑（第 36 図）

(位置) AV・AW - 116・117 グリッド。

(形態) 平面形は不整円で、断面は底面が平らで、壁面はやや開きながら立ち上がる。長軸 154cm、短軸 129cm、深さ 28cm。土坑の中央から長軸 46cm、短軸 41cm、深さ 11cm の窪みを検出した。平面はやや不整な円形で、断面は箱形である。

(遺物) 土坑の覆土上層から土師器環もしくは皿の小破片が出土した。

(時期) 不明（奈良・平安時代か）。

2号土坑（第36図）

（位置）AV・AW - 116 グリッド。

（形態）西側が調査区の外側に延びているため、平面形は不明。断面は箱形で、壁面上部がやや開く。長軸・短軸不明、深さ 63cm。

（遺物）遺物は出土しなかった。

（時期）不明。

3号土坑（第36図）

（位置）AV - 116 グリッド。

（形態）平面やや不整な円形で、断面は不整形。長軸 65cm、短軸 63cm、深さ 38cm。西側に深さ 7 cm ほどの浅い掘り込みが広がる。掘り込み部分の広さは、東西 81cm、南北 89cm。2基の土坑が重複している可能性も考えられる。

（遺物）土坑の覆土上層から土師器の壺もしくは皿の小破片が出土した。

（時期）不明（奈良・平安時代か）。

4号土坑（第36図）

（位置）AV - 116 グリッド。

（形態）西側が調査区の外側に延びているため、平面形は不明。断面は不整形で、西側が一段深くなる。長軸・短軸不明、深さ 43cm。

（遺物）遺物は出土しなかった。

（時期）不明。

5号土坑（第36図）

（位置）AU - 116 グリッド。3号住居跡の南壁と重複している。

（形態）3号住居跡の南壁と重複し、南壁を切っている。平面形はいびつな楕円形で、断面は底面がやや丸く、壁面は開きながら立ち上がる。長軸 118cm、短軸 61cm、深さ 20cm。

（遺物）遺物は出土しなかった。

（時期）不明。

6号土坑（第36図）

（位置）AU - 116 グリッド。3号住居跡の東壁やや南寄り付近の覆土上層から検出した。

（形態）北東側で7号土坑と重複し、切られているため、平面形は不明。断面は底面が平らで、開きながら立ち上がる。長軸・短軸不明、深さ 9 cm。

（遺物）遺物は出土しなかった。

（時期）不明。

7号土坑（第36図）

（位置）AU - 115・116 グリッド。

（形態）3号住居跡の東壁やや南寄りの部分で重複し、切っている。南西側では6号土坑と重複し、切っている。平面形はやや不整な楕円形で、断面は底面が丸く、開きながら立ち上がる。長軸 129cm、短軸 109cm、深さ 29cm。

（遺物）遺物は出土しなかった。

(時期) 不明。

8号土坑（第36図）

(位置) AS・AT - 116 グリッド。

(形態) 北側が表土剥ぎ作業時の深堀りによって失われているため、平面形は不明。断面は底面の広いU字形である。長軸・短軸不明、深さ 31cm。

(遺物) 遺物は出土しなかった。

(時期) 不明。

9号土坑（第36図）

(位置) AT - 116 グリッド。

(形態) 南側が表土剥ぎ作業時の深堀りによって失われているため、平面形は不明。断面はややいびつで、東側丸く膨らみ、西側は垂直に立ち上がる。長軸・短軸不明、深さ 42cm。

(遺物) 遺物は出土しなかった。

(時期) 不明。

10号土坑（第36図）

(位置) AS - 116 グリッド。

(形態) 東側が調査区の外側に延びているため、平面形は不明。断面は不整形で、底面から立ち上がりにかけて凹凸がある。長軸・短軸不明、深さ 14cm。

(遺物) 遺物は出土しなかった。

(時期) 不明。

11号土坑（第36図）

(位置) AS - 115 グリッド。

(形態) 東側が調査区の外側に延びているため、平面形は不明。断面は不整形で、底面から立ち上がりにかけてやや凹凸がある。長軸・短軸不明、深さ 23cm。

(遺物) 遺物は出土しなかった。

(時期) 不明。

12号土坑（第37図）

(位置) AT - 114・115 グリッド。

(形態) 北側で6号溝状遺構と重複し、切られているが、平面形はやや不整な円形になると考えられる。断面は底面が平らで、壁面はやや開きながら立ち上がる。長軸 119cm、短軸 113cm、深さ 29cm。

(遺物) 遺物は出土しなかった。

(時期) 不明。

13号土坑（第37図）

(位置) AU - 114・115 グリッド。

(形態) 東側で2号住居跡と重複し、切っている。平面形はやや不整な梢円形。断面は底面が平らで、壁面は東側がほぼ垂直に立ち上がり、西側は開きながら立ち上がる。長軸 106cm、短軸 91cm、深さ 14cm。

(遺物) 遺物は出土しなかった。

(時期) 不明。

14号土坑（第37図）

(位置) AT - 114 グリッド。

(形態) 北西側で15号土坑と、北東側で25号土坑と重複し、2つの土坑を切っている。平面形はやや不整な円形。断面は、底面が平らで、壁面は南側がほぼ垂直に立ち上がり、北側は開きながら立ち上がる。長軸122cm、短軸120cm、深さ27cm。

(遺物) 遺物は出土しなかった。

(時期) 不明。

15号土坑（第37図）

(位置) AT - 114 グリッド。

(形態) 南東側で14号土坑と重複し、切られている。平面形はやや不整な円形になるとされる。断面は底面が平らで南側にやや傾斜し、壁面は北側でほぼ垂直に立ち上がり、南側ではやや開きながら立ち上がる。長軸・短軸不明（南西-北東方向73cm）、深さ40cm。

(遺物) 遺物は出土しなかった。

(時期) 不明。

16号土坑（第37図）

(位置) AS - 114 グリッド。

(形態) 北西側で土坑壁面の上端が4号溝状遺構と接している。平面形は不整な椭円形で、断面は底面が平らで、西側では丸みを帯びながらほぼ垂直に立ち上がり、東側では段差を持ってさらに浅く広がる。長軸145cm、短軸91cm、深さ23cm。土坑の東側は別の土坑と重複し、切られている可能性が高い。

(遺物) 遺物は出土しなかった。

(時期) 不明。

17号土坑（第37図）

(位置) AS - 114 グリッド。

(形態) 北西側で3号溝状遺構と、南側で4号溝状遺構と重複し、それぞれ切られており、北東側の一部が残る。平面形は不明で、残存する部分の断面は底面が平らで、壁面はほぼ垂直に立ち上がっている。長軸・短軸不明、深さ45cm。

(遺物) 遺物は出土しなかった。

(時期) 不明。

18号土坑（第37図）

(位置) AS - 114 グリッド。

(形態) 東側で調査区東壁に接し、南側で4号溝状遺構と重複し、切られているが、平面形は円形になるとされる。断面は底面が平らで、壁面は開きながら立ち上がる。長軸・短軸不明、深さ10cm。

(遺物) 遺物は出土しなかった。

(時期) 不明。

19号土坑（第37図）

（位置）AS-114グリッド。4号溝状遺構の底面から検出した。

（形態）土坑上部が4号溝状遺構によって失われている。残存部の断面は、U字形である。北西側で17号土坑と重複していた可能性も考えられる。規模は不明。

（遺物）遺物は出土しなかった。

（時期）不明。

20号土坑（第38図）

（位置）AU・AV-116グリッド。3号住居跡の西壁中央付近の覆土上層から検出した。

（形態）3号住居跡と重複し、切っている。平面形は不整な橢円形。断面は底面から壁面にかけて丸く緩やかに開きながら立ち上がるが、断面観察において東側では3号住居跡の覆土との境界が判然とせず、立ち上がりが明確に確認できなかった。長軸171cm、短軸110cm、深さ49cm。

（遺物）遺物は出土しなかった。

（時期）不明。

21号土坑（第38図）

（位置）AS-113グリッド。

（形態）東側が調査区の外側に延び、北側は7号溝状遺構と重複し、切っているため、平面形は不明。断面は底面が平らで、壁面はやや開きながら立ち上がる。長軸・短軸不明、深さ29cm。

（遺物）遺物は出土しなかった。

（時期）不明。

22号土坑（第38図）

（位置）AS-111グリッド。

（形態）西側が調査区の外側に延びているため、平面形は不明。断面は底面が平らで、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。長軸・短軸不明、深さ48cm。

（遺物）遺物は出土しなかった。

（時期）不明。

23号土坑（第38図）

（位置）AS-111グリッド。

（形態）西側の一部が調査区の外側に延びているが、平面形は不整形になるとされる。断面は底面から壁面にかけて丸く緩やかに開きながら立ち上がる。長軸・短軸不明、深さ16cm。

（遺物）遺物は出土しなかった。

（時期）不明。

24号土坑（第38図）

（位置）AR・AS-111グリッド。

（形態）北側と東側が調査区の外側に延びているため、平面形は不明。断面は底面がほぼ平らで、壁面は西側ではほぼ垂直に、南側ではやや開きながら立ち上がる。長軸・短軸不明、深さ15cm。

（遺物）遺物は出土しなかった。

（時期）不明。

25号土坑（第37図）

（位置）AT-114グリッド。

（形態）南西側で14号土坑と、南東側で6号溝状遺構と重複し、それぞれ切られている。また、北側で1号住居跡と重複し、切っている。平面形は不明で、断面は底面が平らで、壁面が開きながら立ち上がる。長軸・短軸不明（東西方向128cm）、深さ15cm。

（遺物）遺物は出土しなかった。

（時期）不明。

26号土坑（第38図）

（位置）AV-115グリッド。

（形態）西側が調査区の外側に延びているため、平面形は不明。東側で3号住居跡と重複し、切っている。断面は底面が平らで、壁面は北側ではほぼ垂直に立ち上がり、南側で中間部分がやや膨らむ。長軸・短軸不明、深さ45cm。

（遺物）遺物は出土しなかった。

（時期）不明。

27号土坑（第38図）

（位置）AV-115グリッド。

（形態）平面形はやや不整な橢円形で、断面は底面に凹凸があり、北側が一段深くなる。壁面は開きながら立ち上がる。長軸73cm、短軸57cm、深さ13cm。

（遺物）遺物は出土しなかった。

（時期）不明。

28号土坑（第38図）

（位置）AS-113グリッド。

（形態）平面形は不整形、断面は西側が底面から丸く立ち上がり、東側では開きながら真っ直ぐ立ち上がる。東側の土坑壁面上部に溝状の浅い掘り込みがあり、東側の調査区外へ延びている。長軸・短軸不明（南北方向59cm）、深さ25cm。

（遺物）遺物は出土しなかった。

（時期）不明。

29号土坑（第39図）

（位置）AV-116グリッド。

（形態）西側で5号溝状遺構と重複し、切っている。さらに西側で31号土坑と重複し、切られている。平面形は不整形で、断面は底面が平らで、壁面はやや開きながら立ち上がる。長軸・短軸不明（南北方向123cm）、深さ28cm。

（遺物）遺物は出土しなかった。

（時期）不明。

30号土坑（第39図）

（位置）AU・AV-115グリッド。

（形態）南側で3号住居跡と重複し、切っている。平面形は不整形で、断面は北側が一段深くなり、底面から丸

みを帯びて立ち上がる。長軸 122cm、短軸 52cm、深さ 73cm。

(遺物) 土坑覆土の上層や 3 号住居跡と接する地点から土器器表の破片が出土したが、3 号住居跡から流入したものと考えられる。

(時期) 不明。

31 号土坑（第 39 図）

(位置) AV - 116 グリッド。

(形態) 東側で 5 号溝状遺構・29 号土坑と重複し、切っている。平面形はやや不整な円形で、断面は底面が丸く、壁面は開きながら立ち上がる。長軸 59cm、短軸 58cm、深さ 68cm。

(遺物) 遺物は出土しなかった。

(時期) 不明。

32 号土坑（第 39 図）

(位置) AU - 115 グリッド。

(形態) 西側が調査区の外側に延びているため、平面形は不明。断面は底面に凹凸があり、壁面はやや開きながら立ち上がる。長軸・短軸不明、深さ 60cm。

(遺物) 遺物は出土しなかった。

(時期) 不明。

33 号土坑（第 39 図）

(位置) AS - 113 グリッド。28 号土坑の下層を精査中に調査区壁面の断面観察により確認した。

(形態) 東側が調査区の外側に延びているため、平面形は不明。断面は底面が平らで、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。長軸・短軸不明、深さ 48cm。

(遺物) 遺物は出土しなかった。

(時期) 不明。

3. 溝状遺構

1 号溝状遺構（第 39 図）

(位置) AS - 112・113 グリッド。

(形態) 断面は箱型で、ほぼ垂直に掘り込まれている。長さ 473cm、幅 58cm、深さ 38cm。主軸は南南東-北北西方向。

(遺物) 遺物は出土しなかった。

(時期) 不明。

2 号溝状遺構（第 39 図）

(位置) AT - 113 グリッド。

(形態) 北側が表土剥ぎ作業時の深堀りによって失われている。1 号住居跡と重複し、切っている。断面は箱型で、ほぼ垂直に掘り込まれている。長さ不明、幅 56cm、1 号住居跡床面からの深さ 14cm。主軸は南南東-北北西。

(遺物) 遺物は出土しなかった。

(時期) 不明。

3号溝状遺構（第37図）

（位置）AS・AT-114 グリッド。

（形態）西側で1号住居跡と、東側で17号土坑と重複し、切っている。南東側で4号溝状遺構と重複し、切られている。断面は箱形で、ほぼ垂直に掘り込まれている。長さ298cm、幅78cm、深さ23cm。主軸は東西方向。

（遺物）遺物は出土しなかった。

（時期）不明。

4号溝状遺構（第37図）

（位置）AS・AT-114 グリッド。

（形態）北東側で3号溝状遺構と、その東側で17・18号土坑と重複し、切っている。東側で調査区外に延びている。断面は箱形で、壁面の上部がやや開きながら立ち上がる。長さ不明、幅77cm、深さ36cm。主軸は東西方向。

（遺物）遺物は出土しなかった。

（時期）不明。

5号溝状遺構（第39図）

（位置）AV-116・117 グリッド。

（形態）北側端部で29・31号土坑と重複し、それぞれ切られている。南側が調査区の外側に延びている。底面は平らであるが、壁面はやや凹凸が見られる。長さ不明、幅50～60cm、深さ50cm。主軸は南北方向であるが、北側端部で蛇行する。南側で溝の東側に深さ6～10cmの突出部があり、別の土坑が重複している可能性も考えられる。

（遺物）土坑の覆土中から土師器の壺や甕、須恵器壺の小破片が出土した。

（時期）不明（奈良・平安時代か）。

6号溝状遺構（第37図）

（位置）AT-114 グリッド。

（形態）北側で25号土坑と、南側で12号土坑と重複し、切っている。断面は箱形でほぼ垂直に掘り込まれているが、東側壁面の北側上部がやや開きながら立ち上がる。長さ148cm、幅68～73cm、深さ5cm。主軸は南南西～北北東方向。

（遺物）遺物は出土しなかった。

（時期）不明。

●C区北側・南側

本調査区は、水路を挟んで調査区が分かれている。このため、便宜上C区北・C区南という名称を用いる。調査の結果、住居跡4軒、土坑118基、溝状遺構51条、集石土坑6基、配石遺構4基、焼土遺構24基、ピット111期、遺物集中区などが検出され、縄文時代早期後半～前期、弥生時代、平安時代以降・中世の遺物が発見された。

1. 住居跡

1号住居跡（第40図）

（位置）U20・V20・U21・V21 グリッド（C区南）

（形態）東西約3.5m、南北約4mの隅丸方形と推定される。西壁の2/3～北壁の1/2強が調査区外であるため、全容は確認出来ていない。調査面積とこの時期のカマドの傾向から、西壁北寄りから北西の角近くにカマドが存

在すると推定する。住居跡のプランが確認出来る前から、焼土と炭化材が広く確認でき、プラン確認後の掘削中にも、焼土・炭化材が沢山検出できた。

(カマド) 検出できていないが、西壁北寄りから北西角に存在すると想定する。

(遺物) 土器類はほとんど確認されなかったが、炭化材が多く検出でき、中でも縄が炭化したものや、種などが検出できた。これらの分析を行ったところ、竹のような植物を細く裂いて織維状にしている可能性が指摘された。

(年代) 遺物がほとんど出土しなかったため、土器などから時期を推定することはできない。そこで、炭化材を分析にかけた結果、 960 ± 20 yrBP、11世紀前半～12世紀中ごろの曆年代が測定されている。

2号住居跡（第40・41図）

(位置) Y-35～36・Z-35～36 グリッド（C区南）

(形態) 東西約5.4m、南北約5.6m、深さ0.4mの隅丸方形である。深さ東南隅にカマドを持つ。東壁の一部に周溝が確認された。住居内には、西南隅に土坑（118号土坑）と中央付近に張り床のように堅い焼土の層が検察されている。また、掘り方が浅いが、ピットが2基検出された。

(カマド) 東南隅に作られていた。東西2.1m、南北2.6m、深さ0.36m、人頭大や拳大の礫が散乱していることから、もとは、石組カマドであった可能性が大きい。部分的に粘土も検出されている。

(遺物) 強生土器の破片がほとんどで、鉄製品が1点出土しているが、用途不明である。

(年代) 遺物がほとんど出土しなかったため、土器などから時期を推定することはできない。そこで、炭化材を分析にかけた結果、 960 ± 20 yrBP、11世紀前半～12世紀中ごろの曆年代が測定されている。

3号住居跡（第41図）

(位置) O-20～21 グリッド（C区北）

(形態) 東西3.34m、南北4.1m、深さ0.3mの楕円形である。

(発) 中央に焼土がレンズ状に堆積する状態が観察できる。その周辺が炉と推測される。

(遺物) 床面直上に台石が出土している（第84図-438）。

(年代) 遺物がほとんど出土しなかったため、土器などから時期を推定することはできない。そこで、炭化材を分析にかけた結果、 $6,345 \pm 30$ yrBP、縄文時代早期末～前期後葉頃の曆年代が測定されている。

4号住居跡（第41図）

(位置) AB-39 グリッド（C区南）

(形態) C区南側の西壁を土層観察するため、精査している段階で発見された。カマドのみ。2号住居跡と同時期であることから、住居跡のほとんどが調査区外になる。

(カマド) カマドは、2号住居跡同様、東南コーナーの可能性がある。壁際に人頭大の石が確認できたので、石組みカマドと思われる。

(遺物) カマド袖部分と想定する位置から、須恵器カメ破片1点が出土している（第77図-266）。

(年代) 遺物がほとんど出土しなかったため、土器などから時期を推定することは難しい。そこで、炭化材を分析にかけた結果、 $1,000 \pm 20$ yrBP、11世紀前半～12世紀中ごろの曆年代が測定されている。

2. 土坑

1号土坑（第42図）

(位置) N-19～20 グリッド（C区北）

(形態) 東西1.36m、南北約1.28m、深度0.15mの円形で、底部は皿状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安以降

2号土坑（第42図）

(位置) N-20 グリッド (C 区北)

(形態) 東西 1.5 m、南北約 1.6 m、深度 0.3 m の円形で、底部は鍋底状である。

(遺物) 弥生時代前期の条痕文土器の破片 6 点

(年代) 弥生時代前期の可能性あり。

3号土坑（第42図）

(位置) M-20 ~ N-20 グリッド (C 区北)

(形態) 東西 1.15 m、南北約 1.11 m、深度 0.18 m の円形で、底部は皿状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安以降

4号土坑（第42図）

(位置) N-20 グリッド (C 区北)

(形態) 東西 1.25 m、南北約 1.34 m、深度 0.18 m の円形で、底部は皿状である。5 土と重複し、それよりも新しい。

(遺物) 縄文土器と弥生土器片が出土している。

(年代) 平安以降

5号土坑（第42図）

(位置) N-20 グリッド (C 区北)

(形態) 東西 0.55 m、南北約 0.63 m、深度 0.05 m の円形で、底部は皿状である。4 土と重複し、それよりも古い。

(遺物) 縄文土器 1 点出土している。

(年代) 平安以降

6号土坑（第42図）

(位置) P-19 グリッド (C 区北)

(形態) 東西 0.9 m、南北約 0.85 m、深度 0.1 m の円形で、底部は皿状である。7 土と重複し、それより古い。

9 土と近接している。

(遺物) 縄文土器と弥生土器片が出土している。

(年代) 平安以降

7号土坑（第42図）

(位置) O-19 ~ P-19 グリッド (C 区北)

(形態) 東西 1.4 m、南北約 1.3 m、深度 0.42 m の円形で、底部は鍋底状である。6・8 土と重複し、それより新しい。9 土と近接する。

(遺物) 縄文土器と弥生土器片が出土している。

(年代) 弥生時代前期の可能性あり。

8号土坑（第42図）

(位置) O-19 ~ 20 グリッド (C 区北)

(形態) 東西 1.23 m、南北約 1.2 m、深度 0.52 m の円形で、底部は鍋底状である。7 土と重複し、それよりも古い。9 土と近接している。

(遺物) 縄文土器と弥生土器片が出土している。

(年代) 弥生時代前期の可能性あり。

9号土坑（第 42 図）

(位置) O-19 ~ 20・P-19 ~ 20 グリッド (C 区北)

(形態) 東西 1.38 m、南北約 1.36 m、深度 0.35 m の円形で、底部は鍋底状である。6・7・8 土と近接している。

(遺物) 縄文土器と弥生土器片が出土している。

(年代) 弥生時代前期の可能性あり。

10号土坑（第 42 図）

(位置) O-20 グリッド (C 区北)

(形態) 東西 0.85 m、南北約 0.85 m、深度 0.06 m の円形で、底部は皿状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降

11号土坑（第 42 図）

(位置) L-19 ~ 20 グリッド (C 区北)

(形態) 東西 1.35 m、南北約 1.29 m、深度 0.34 m の円形で、底部は鍋底状である。

(遺物) 縄文土器と弥生土器片が出土している。

(年代) 平安時代以降

12号土坑（第 42 図）

(位置) N-20 グリッド (C 区北)

(形態) 東西 1.35 m、南北約 1.29 m、深度 0.34 m の円形で、底部は鍋底状である。

(遺物) 縄文土器と弥生土器片が出土している。

(年代) 弥生時代前期の可能性あり。

13号土坑（第 42 図）

(位置) N-20 グリッド (C 区北)

(形態) 東西 0.83 m、南北約 0.8 m、深度 0.29 m の円形で、底部は鍋底状である。

(遺物) 縄文土器 1 点出土している。

(年代) 平安時代以降

14号土坑（第 43 図）

(位置) N-21 グリッド (C 区北)

(形態) 東西 0.67 m、南北約 0.65 m、深度 0.15 m の円形で、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 縄文時代

15号土坑（第43図）

(位置) J-17 グリッド (C 区北)

(形態) 東西 0.89 m、南北約 0.82 m、深度 0.4 m の円形で、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 縄文時代

16号土坑（第43図）

(位置) J-17 グリッド (C 区北)

(形態) 東西 0.84 m、南北約 0.84 m、深度 0.23 m の円形で、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 縄文時代

17号土坑（第43図）

(位置) J-17 グリッド (C 区北)

(形態) 東西 0.79 m、南北約 0.83 m、深度 0.25 m の円形で、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 縄文時代

18号土坑（第43図）

(位置) K17 ~ L17 グリッド (C 区北)

(形態) 東西 0.8 m、南北約 0.85 m、深度 0.18 m の円形で、底部は鍋底状である。

(遺物) 縄文土器破片

(年代) 縄文時代

19号土坑（第43図）

(位置) L-18 グリッド (C 区北)

(形態) 東西 0.9 m、南北約 0.85 m、深度 0.6 m の円形で、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 縄文時代

20号土坑（第43図）

(位置) P-21 グリッド (C 区北)

(形態) 東西 1 m、南北約 0.53 m、深度 0.25 m の円形で、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 縄文時代

21号土坑（第43図）

(位置) O-21 グリッド (C 区北)

(形態) 東西 0.78 m、南北約 0.46 m、深度 0.35 m の円形で、底部は鍋底状である。

(遺物) 縄文土器 1 点

(年代) 縄文時代

22号土坑（第43図）

(位置) K-18 グリッド

(形態) 東西0.85m、南北約0.7m、深度0.1mの楕円形で、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 縄文時代

23号土坑（第43図）

(位置) L-16～M-16 グリッド（C区北）

(形態) 東西0.8m、南北約0.66m、深度0.08mの楕円形で、底部は鍋底状である。

(遺物) 平面上長軸0.1mの平石を中心に、やや平らな礫が5点出土。

(年代) 縄文時代

24号土坑（第43図）

(位置) L-19～M-19 グリッド（C区北）

(形態) 東西1.05m、南北約1m、深度0.55mの円形で、底部は鍋底状である。調査区のなかでは、大きめで深い土坑。

(遺物) 黒曜石の破片

(年代) 縄文時代

25号土坑（第43図）

(位置) M-19 グリッド（C区北）

(形態) 東西1.04m、南北約0.9m、深度0.45mの円形で、底部は鍋底状である。24号土坑より大きく深い。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 縄文時代

26号土坑（第43図）

(位置) M-19 グリッド（C区北）

(形態) 東西0.55m、南北約0.55m、深度0.22mの円形で、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 縄文時代

27号土坑（第43図）

(位置) J-17～18・K-17～18 グリッド（C区北）

(形態) 東西1.04m、南北約1m、深度0.1mの円形で、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 縄文時代

28号土坑（第44図）

(位置) M-17 グリッド（C区北）

(形態) 東西1.05m、南北約0.46m、深度0.25mの円形で、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 縄文時代

29号土坑（第44図）

(位置) L-18 グリッド（C区北）

(形態) 東西0.9m、南北約2.2m、深度0.38mの楕円形で、底部は皿状である。中心が褐色で、周りがドーナツ状に黒褐色土であったため、風倒木痕の可能性もある。

(遺物) 縄文土器片

(年代) 縄文時代

30号土坑（第44図）（C区北）

(位置) P-20～21 グリッド

(形態) 東西1.08m、南北約1m、深度0.4mの推定円形で、底部は鍋底状である。調査区壁面から検出された。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降

31号土坑（第51図）

(位置) S-20 グリッド（C区南）

(形態) 東西0.64m、南北約0.4m、深度0.23mの楕円形で、底部はややすり鉢状である。31号土坑が検出されたS-20グリッド周辺は、焼土が点在する地点で、締まりの欠ける黒色土が観察できた。C区北側の土層観察では、平安時代以前とした層で、この層からは陶器片がほんの少しが検出される。この黒色土を少しづづ掘削していく段階で、遺物と骨の一部が確認できた。

(遺物) 人骨・歯・短刀。人骨は、頭部とかろうじて分かれる位の残存率で、顎にあたる位置で歯が検出された。分析の結果、成年にも満たないがそれに近い年齢との結果であった。短刀は、長さ27.9cm。幅2.8cmの鉄製で、外側に鞘があったことが、木質部分が残っていたことから推測できる。短刀以外の遺物は確認できなかった。

(年代) 中世以降

33号土坑（第44図）

(位置) Q-20 グリッド（C区南）

(形態) 東西1.05m、南北約0.6m、深度0.15mの円形で、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安以降

34号土坑（第44図）

(位置) T-21 グリッド（C区南）

(形態) 東西0.92m、南北約0.98m、深度0.09mの円形で、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安以降

35号土坑（第44図）

(位置) T20 グリッド（C区南）

(形態) 東西1.06m、南北約1.07m、深度0.41mの円形で、底部は鍋底状である。36号土坑と重複している。35号土坑の方が36号土坑より新しい。

(遺物) 炭化材が1点出土している。

(年代) 平安以降

36号土坑（第44図）

(位置) T-20 グリッド（C区南）

(形態) 東西1.25m、南北約1.28m、深度0.18mの円形で、底部は皿状である。35土と重複している。36土の方が35土より古い。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降

37号土坑（第51図）

(位置) S-22 グリッド（C区南）

(形態) 長軸0.72m、短軸約0.67m、深度0.19mの円形で、底部は鍋底状である。C区南側は、平安時代以前の焼土遺構が検出されるため、表土剥ぎを表土から0.7mほどで止めていた。この確認時に、すでに甕の上部は存在しておらず、後世の開墾で削られていたものと考える。土壤分析を行ったが、リンの含有量は、周辺の土壤と変わらないとの結果であったため、どのような性格の遺構かは不明である。

(遺物) 常滑産のものに類似する陶器甕胴部下から底部が出土している。底部は中央を欠損しているようである。正位の状態で埋められ、内側に重なるように破片が出土していた。

(年代) 常滑産の甕に類似していることから、中世に属すると考えている。

38号土坑（第51図）

(位置) S-21～22 グリッド（C区南）

(形態) 長軸1.06m、短軸約0.75m、深度0.48mの半円形で、底部は鍋底状である。試掘トレンチにて東側半分が掘削されているが、39号土坑に類似する形態と推測する。土坑の覆土中には、人頭大の礫が詰め込まれている。並べたような形跡は見られず、無作為に入れられた感がある。

(遺物) 人頭大の礫以外なし。

(年代) 平安時代以降と思われる。

39号土坑（第44図）

(位置) S-21～22・T-21～22 グリッド（C区南）

(形態) 長軸1.97m、短軸0.95m、深度0.36mの隅丸長方形で、底部は鍋底状である。38号土坑と同じ形態と思われるが、38土のような礫は入らない。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

40号土坑（第44図）

(位置) T-23 グリッド（C区南）

(形態) 長軸1.18m、短軸1.17m、深度0.18mの円形で、底部は皿状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

41号土坑（第44図）

(位置) T-22～U-22 グリッド (C区南)

(形態) 長軸 1.58 m、短軸 1.17 m、深度 0.31 m の楕円形で、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

42号土坑（第44図）

(位置) U-21 グリッド (C区南)

(形態) 長軸 0.67 m、短軸 0.67 m、深度 0.12 m の円形で、底部は皿状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

43号土坑（第44図）

(位置) U-22 グリッド (C区南)

(形態) 長軸 1 m、短軸 0.95 m、深度 0.16 m の円形で、底部は皿状である。10号溝と重複し、それより新しい。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 10溝より新しい。平安時代以降と思われる。

44号土坑（第44図）

(位置) U-22～23 グリッド (C区南)

(形態) 長軸 1.03 m、短軸 0.89 m、深度 0.13 m の円形で、底部は皿状である。11・12溝と重複し、それより新しい。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 11・12溝より新しい。平安時代以降と思われる。

45号土坑（第45図）

(位置) S-22 グリッド (C区南)

(形態) 長軸 1.15 m、短軸 1.12 m、深度 0.2 m の円形で、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

46号土坑（第45図）

(位置) R-23 グリッド (C区南)

(形態) 長軸 1.48 m、短軸 0.58 m、深度 0.2 m の隅丸長方形？で、底部は鍋底状である。17溝と重複し、それより古い。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

47号土坑（第45図）

(位置) S-23 グリッド (C区南)

(形態) 長軸 0.82 m、短軸 0.77 m、深度 0.07 m の円形で、底部は皿状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

48号土坑（第45図）

(位置) R-24～S-24 グリッド（C区南）

(形態) 長軸 1.07 m、短軸 1.02 m、深度 0.06 m の円形で、底部は皿状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

49号土坑（第45図）

(位置) S-24～T-24 グリッド（C区南）

(形態) 長軸 1.09 m、短軸 1 m、深度 0.3 m の円形で、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

50号土坑（第45図）

(位置) S-24～25・T-24～25 グリッド（C区南）

(形態) 長軸 1.23 m、短軸 1.2 m、深度 0.19 m の円形で、底部は皿状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

51号土坑（第45図）

(位置) U-23 グリッド（C区南）

(形態) 長軸 1.3 m、短軸 1 m、深度 0.28 m の円形で、底部は鍋底状である。22溝と重複し、それより古い。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

52号土坑（第45図）

(位置) U-23 グリッド（C区南）

(形態) 長軸 1.23 m、短軸 1.07 m、深度 0.28 m の円形で、底部は鍋底状である。22溝・101ピットと重複し、それらより新しい。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

53号土坑（第45図）

(位置) U-23～24 グリッド（C区南）

(形態) 長軸 2.45 m、短軸 0.7 m、深度 0.18 m の隅丸長方形で、底部は鍋底状である。23溝と重複し、それより新しい。長軸が 2 m を超えるため、本来は溝状遺構に含まれる。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

54号土坑（第45図）

(位置) S-25 グリッド（C区南）

(形態) 長軸 1.16 m、短軸 1.06 m、深度 0.24 m の橢円形で、底部は鍋底状である。試掘トレーニングで切られている。
北隅でテラス状の段がある。
(遺物) 特に遺物は出土していない。
(年代) 平安時代以降と思われる。

55号土坑（第45図）

(位置) U-24～V-24 グリッド（C区南）
(形態) 長軸 1 m、短軸 0.75 m、深度 0.5 m の円形で、底部は鍋底状である。C区南西壁の外側に続いている。
ほとんどの土坑の掘り方が浅く皿状なのに対し、深度十分な鍋底状である。他の土坑と時期・性格など違うのか
もしれない。
(遺物) 特に遺物は出土していない。
(年代) 平安時代以降と思われる。

56号土坑（第45図）

(位置) U-25 グリッド（C区南）
(形態) 長軸 0.95 m、短軸 0.93 m、深度 0.2 m の円形で、底部は鍋底状である。25溝と重複し、それより新しい。
(遺物) 特に遺物は出土していない。
(年代) 平安時代以降と思われる。

57号土坑（第46図）

(位置) T-26 グリッド（C区南）
(形態) 長軸 0.98 m、短軸 0.93 m・深度 0.2 m の円形で、底部は皿状である。
(遺物) 特に遺物は出土していない。
(年代) 平安時代以降と思われる。

58号土坑（第46図）

(位置) T-26 グリッド（C区南）
(形態) 長軸 0.85 m、短軸 0.73 m、深度 0.03 m の円形で、底部は皿状である。
(遺物) 特に遺物は出土していない。
(年代) 平安時代以降と思われる。

59号土坑（第46図）

(位置) S-25 グリッド（C区南）
(形態) 長軸 1.1 m、短軸 1 m、深度 0.35 m の円形で、底部は鍋底状である。
(遺物) 特に遺物は出土していない。
(年代) 平安時代以降と思われる。

60号土坑（第46図）

(位置) V-26 グリッド（C区南）
(形態) 長軸 1.42 m、短軸 0.65 m、深度 0.05 m の隅丸長方形で、底部は皿状である。61土と近接する。
(遺物) 特に遺物は出土していない。
(年代) 平安時代以降と思われる。

61号土坑（第46図）

(位置) V-26 グリッド (C区南)

(形態) 長軸 0.42 m、短軸 0.25 m、深度 0.07 m の不正形で、底部は皿状である。

(遺物) 磬が数点入る。

(年代) 平安時代以降と思われる。

62号土坑（第46図）

(位置) U-29 グリッド (C区南)

(形態) 長軸 1.1 m、短軸 1.1 m、深度 0.45 m の円形で、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

63号土坑（第46図）

(位置) V-29 グリッド (C区南)

(形態) 長軸 1.04 m、短軸 1.03 m、深度 0.42 m の円形で、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

64号土坑（第46図）

(位置) V-29 グリッド (C区南)

(形態) 長軸 0.88 m、短軸 0.77 m、深度 0.1 m の円形で、底部は皿状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

65号土坑（第46図）

(位置) T-19～20 グリッド (C区南)

(形態) 長軸 1.85 m、短軸 1.84 m、深度 0.39 m のほぼ円形で、底部は鍋底状である。

(遺物) 繩文土器 2点と瀬戸産鉄軸の小壺 1点を出土している。

(年代) 13世紀末から14世紀頃

66号土坑（第46図）

(位置) T-28～U-28 グリッド (C区南)

(形態) 長軸 0.95 m、短軸 0.92 m、深度 0.28 m の円形で、底部は鍋底状である。67土と重複し、それより新しい。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

67号土坑（第46図）

(位置) T-28～U-28 グリッド (C区南)

(形態) 長軸 1.13 m、短軸 0.97 m、深度 0.35 m の円形で、底部は鍋底状である。66土と重複し、それより古い。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

69号土坑（第46図）

（位置）U-28～29 グリッド（C区南）

（形態）長軸1.05m、短軸1.01m、深度0.25mの円形で、底部は鍋底状である。覆土中に人頭大の礫が沢山入る。

89土と重複し、それより新しい。

（遺物）特に遺物は出土していない。

（年代）平安時代以降と思われる。

71号土坑（第55図）

（位置）U-28～V-28 グリッド（C区南）

（形態）長軸0.79m、短軸0.78m、深度0.2mの円形で、底部は皿状である。35溝と重複し、それより新しい。

（遺物）特に遺物は出土していない。

（年代）平安時代以降と思われる。

72号土坑（第46図）

（位置）V-31 グリッド（C区南）

（形態）長軸1.14m、短軸0.9m、深度0.1mの円形で、底部は鍋底状である。

（遺物）特に遺物は出土していない。

（年代）平安時代以降と思われる。

73号土坑（第47図）

（位置）U-26 グリッド（C区南）

（形態）長軸1.35m、短軸1.28m、深度0.27mの円形で、底部は鍋底状である。30溝と重複し、それより古い。

（遺物）特に遺物は出土していない。

（年代）平安時代以降と思われる。

74号土坑（第47図）

（位置）W-29～X-29 グリッド（C区南）

（形態）長軸1.3m、短軸1.27m、深度0.18mの円形で、底部は皿状である。

（遺物）特に遺物は出土していない。

（年代）平安時代以降と思われる。

75号土坑（第47図）

（位置）X-29～30 グリッド（C区南）

（形態）長軸0.82m、短軸0.7m、深度0.1mの円形で、底部は皿状である。104土と重複し、それより新しい。

（遺物）特に遺物は出土していない。

（年代）平安時代以降と思われる。

76号土坑（第47図）

（位置）X-30～Y-30 グリッド（C区南）

（形態）長軸1.09m、短軸0.98m、深度0.38mの円形で、底部は鍋底状である。

（遺物）特に遺物は出土していない。

（年代）平安時代以降と思われる。

77号土坑（第47図）

(位置) Y-30 グリッド (C区南)

(形態) 長軸 1.23 m、短軸 1.21 m、深度 0.44 m の円形で、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

78号土坑（第46図）

(位置) X-31 グリッド (C区南)

(形態) 長軸 0.82 m、短軸 0.81 m、深度 0.1 m の円形で、底部は皿状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

79号土坑（第47図）

(位置) Y-31 グリッド (C区南)

(形態) 長軸 0.9 m、短軸 0.87 m、深度 0.13 m の円形で、底部は皿状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

81号土坑（第47図）

(位置) U-22 グリッド (C区南)

(形態) 長軸 1 m、短軸 0.81 m、深度 0.2 m の円形で、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

82号土坑（第47図）

(位置) W-32 グリッド (C区南)

(形態) 長軸 1.12 m、短軸 0.9 m、深度 0.3 m の円形で、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

83号土坑（第47図）

(位置) Y-31 グリッド (C区南)

(形態) 長軸 1.03 m、短軸 1 m、深度 0.2 m の円形で、底部は鍋底状である。42溝と重複し、それより古い。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

84号土坑（第48図）

(位置) X-31～32 グリッド (C区南)

(形態) 長軸 1.3 m、短軸 1.21 m、深度 0.3 m の円形で、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

85号土坑（第48図）

(位置) X-31～32 グリッド (C区南)

(形態) 長軸 1.17 m、短軸 1.06 m、深度 0.3 m の円形で、底部は鍋底状である。84 土と隣接する。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

86号土坑（第48図）

(位置) Y-32 グリッド (C区南)

(形態) 長軸 0.77 m、短軸 0.67 m、深度 0.21 m の円形で、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

87号土坑（第48図）

(位置) X-33・Y-33～34 グリッド (C区南)

(形態) 長軸 1.41 m、短軸 1.37 m、深度 0.5 m の円形で、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

88号土坑（第48図）

(位置) Y-33～34 グリッド (C区南)

(形態) 長軸 1.1 m、短軸 1.1 m、深度 0.2 m の円形で、底部は鍋底状である。覆土中に礫が入る。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

89号土坑（第46図）

(位置) U-28～29 グリッド (C区南)

(形態) 長軸 2.06 m、短軸 0.92 m、深度 0.19 m の隅丸長方形で、底部は皿状である。69 土と重複し、それより古い。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

90号土坑（第55図）

(位置) V-29 グリッド (C区南)

(形態) 長軸 0.8 m、短軸 0.78 m、深度 0.32 m の円形で、底部は鍋底状である。45 溝と重複し、それより古い。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

91号土坑（第48図）

(位置) U-28～V-28 グリッド (C区南)

(形態) 長軸 0.75 m、短軸 0.75 m、深度 0.1 m の円形で、底部は皿状である。112 土と重複し、それより新しい。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

92号土坑（第48図）

(位置) Y-34 グリッド (C区南)

(形態) 長軸 1.16 m、短軸 1.14 m、深度 0.39 m の円形で、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

93号土坑（第48図）

(位置) Y-34 グリッド (C区南)

(形態) 長軸 1.25 m、短軸 1.19 m、深度 0.17 m の円形で、底部は皿状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

94号土坑（第48図）

(位置) Y-34～Z-34 グリッド (C区南)

(形態) 長軸 1.47 m、短軸 1.4 m、深度 0.18 m の円形で、底部は皿状である。覆土に人頭大の礫が沢山入る。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

95号土坑（第48図）

(位置) Y-36～Z-36 グリッド (C区南)

(形態) 長軸 1.52 m、短軸 1.25 m、深度 0.42 m の円形で、底部は鍋底状である。2号住居跡と重複し、それより新しい。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

96号土坑（第48図）

(位置) Z-36 グリッド (C区南)

(形態) 長軸 1.35 m、短軸 1.25 m、深度 0.3 m の円形で、底部は鍋底状である。2号住居跡と重複し、それより新しい。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

98号土坑（第49図）

(位置) Z-36～37 グリッド (C区南)

(形態) 長軸 1 m、短軸 1 m、深度 0.18 m の円形で、底部は皿状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

99号土坑（第49図）

(位置) Z-36 グリッド (C区南)

(形態) 長軸 1.45 m、短軸 1.3 m、深度 0.25 m の円形で、底部は皿状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

100号土坑（第49図）

(位置) AA-38 グリッド (C区南)

(形態) 長軸 1.36m、短軸 1.22m、深度 0.24m の円形で、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

101号土坑（第49図）

(位置) AA-38 グリッド (C区南)

(形態) 長軸 1.17m、短軸 1.17m、深度 0.5m の円形で、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

102号土坑（第49図）

(位置) AB-38～39 グリッド (C区南)

(形態) 長軸 0.82m、短軸 0.53m、深度 0.15m のほぼ円形で、底部は皿状である。全体の 1/2 が調査区壁内にある。

103土と重複し、それより新しい。

(遺物) 石器が 2 点出土している。S2 は打製石斧である（第82図-405）。

(年代) 繩文時代

103号土坑（第49図）(C区南)

(位置) AB-38～39 グリッド

(形態) 長軸 1.08m、短軸 1.05m、深度 0.13m の円形で、底部は皿状である。102 土と重複し、それより古い。

(遺物) 骨片・炭化材を含む。分析の結果、ニホンジカの骨である可能性を指摘されている。

(年代) 繩文時代

104号土坑（第47図）(C区南)

(位置) X-29～30・Y-29 グリッド

(形態) 長軸 2.34m、短軸 1m、深度 0.4m の隅丸長方形で、底部は鍋底状である。75 土・19 焼土と重複し、それより古い。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

105号土坑（第49図）

(位置) AB-39 グリッド (C区南)

(形態) 長軸 1.07m、短軸 1.02m、深度 0.1m の円形で、底部は皿状である。106 土と重複し、それより古い。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

106号土坑（第49図）

(位置) AB-39 グリッド (C区南)

(形態) 長軸 0.87 m、短軸 0.82 m、深度 0.2 m の円形で、底部は鍋底状である。105 土と重複し、それより新しい。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

107 号土坑（第 49 図）

(位置) AA-39 ~ 40 グリッド (C 区南)

(形態) 長軸 1.7 m、短軸 1.17 m、深度 0.35 m のひょうたん形で、底部は鍋底状である。他の遺構と重複関係の可能性ある。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

108 号土坑（第 49 図）(C 区南)

(位置) AB-40 グリッド

(形態) 長軸 0.65 m、短軸 0.5 m、深度 0.13 m の円形で、底部は皿状である。51 溝と重複し、それより古い。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

109 号土坑（第 49 図）

(位置) AB-40 グリッド (C 区南)

(形態) 長軸 0.99 m、短軸 0.98 m、深度 0.09 m の円形で、底部は皿状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

110 号土坑（第 49 図）

(位置) AB-40 グリッド (C 区南)

(形態) 長軸 0.82 m、短軸 0.8 m、深度 0.14 m のほぼ円形で、底部は皿状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

111 号土坑（第 56 図）

(位置) W-29 グリッド (C 区南)

(形態) 長軸 0.88 m、短軸 0.8 m、深度 0.13 m の円形で、底部は皿状である。38 溝と重複し、それより新しい。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

112 号土坑（第 48 図）

(位置) U-27 ~ 28 • V-27 ~ 28 グリッド (C 区南)

(形態) 長軸 3.35 m、短軸 0.9 m、深度 0.3 m の隅丸長方形で、底部は鍋底状である。91 土と重複し、それより古い。

29 溝と重複し、それよりも古い。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

113号土坑（第50図）

(位置) U-27 グリッド (C区南)

(形態) 長軸0.9m、短軸0.8m、深度0.1mの円形で、底部は皿状である。18焼土に隣接する浅い土坑。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

114号土坑（第50図）

(位置) V-28 グリッド (C区南)

(形態) 長軸1.05m、短軸1.02m、深度0.24mの円形で、底部は鍋底状である。38溝に近接する。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 弥生時代以降と思われる。

115号土坑（第50図）

(位置) X-33～Y-33 グリッド (C区南)

(形態) 長軸1.78m、短軸1.2m、深度0.25mの楕円形で、底部は鍋底状である。覆土中に礫が沢山はいる。

116号と近接し、87土の下層から検出された。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 弥生時代以降と思われる。

116号土坑（第50図）

(位置) X33～34 グリッド (C区南)

(形態) 長軸1m、短軸0.98、深度0.26mの円形で、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 弥生時代以降と思われる。

117号土坑（第50図）

(位置) Y-34 グリッド (C区南)

(形態) 長軸1.17m、短軸1.17m、深度0.26mの円形で、底部は鍋底状である。92土の直下であり、同一の可能性がある。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 弥生時代以降と思われる。

118号土坑（第50図）

(位置) Z-36 グリッド (C区南)

(形態) 長軸0.92m、短軸0.84m、深度0.52mの円形で、底部は鍋底状である。2号住居内から検出されている。住居の床面から掘り込まれているため、住居内土坑の可能性が強い。

(遺物) 磚と土師器片が出土している。

(年代) 2号住の年代から平安時代末と思われる。

3. 集石土坑

1号集石土坑（第60図）

(位置) K-18 グリッド (C区北)

(形態) 長軸 0.5 m、短軸 0.3 m、深度 0.2 m の円形で、底部はすり鉢状である。上層に人頭大の大きめの石を置き、その周囲に拳大ほどの礫が集中する。礫は焼けて崩れやすい。

(遺物) 炭化物は入るが、土器などは発見されなかった。

(年代) 繩文時代前期後半頃。

2号集石土坑（第 60 図）

(位置) K-18～19 グリッド (C 区北)

(形態) 長軸 1 m、短軸 0.9 m、深度 0.3 m の円形で、底部はすり鉢状である。拳大ほどの礫がびっしり覆土中に含まれる。最下層には、人頭大ほどの平らな石が壁面に四つ敷かれた状態で発見された。

(遺物) 覆土中に炭化物が多く検出される。

(年代) 出土した炭化材から年代測定を行った結果、繩文時代前期後半の年代が与えられた。

3号集石土坑（第 61 図）

(位置) M-19 グリッド (C 区北)

(形態) 長軸 0.8 m、短軸 0.4 m、深度 0.1 m の円形で、底部は皿状である。試掘トレーニチで掘削されていて、半分の検出である。拳大の礫がほとんどで、床面まで礫が達しない。

(遺物) 炭化材は少なめである。

(年代) 繩文時代前期後半頃。

4号集石土坑（第 61 図）

(位置) N-21 グリッド (C 区北)

(形態) 長軸 1.82 m、短軸 1.82 m、深度 0.4 m の円形で、底部はすり鉢状である。遺構確認面で確認された礫類は、最下層までは達していない。

(遺物) 炭化材以外、出土していない。

(年代) 繩文時代前期後半頃。

5号集石土坑（第 62 図）

(位置) O-21 グリッド (C 区北)

(形態) 長軸 1.15 m、短軸 0.8 m の梢円形である。覆土中に礫が沢山入る。

(遺物) 炭化材以外、出土していない。

(年代) 繩文時代前期後半頃。

6号集石土坑（第 61 図）

(位置) L-18 グリッド (C 区北)

(形態) 長軸 0.8 m、短軸 0.7 m、深度 0.2 m の円形で、底部は鍋底状である。確認時は、三日月状に礫が検出された。覆土中全体に礫が入る。

(遺物) 炭化材以外、出土していない。

(年代) 繩文時代前期後半頃。

4. 溝状遺構

1号溝状遺構（第 52 図）

(位置) M-19～N-19 グリッド (C 区北)

(形態) 長軸 3.7 m、短軸 0.35 m、深度 0.35 m の溝状遺構で、底部は鍋底状である。

(遺物) 弥生土器が 5 点検出されている。

(年代) 平安時代以降と思われる。

2号溝状遺構（第 52 図）

(位置) N-18 ~ 19 グリッド (C 区北)

(形態) 長軸 3.93 m、短軸 0.63 m、深度 0.48 m の溝状遺構で、底部は鍋底状である。

(遺物) 弥生時代・縄文時代の土器片数点が出土している。

(年代) 平安時代以降と思われる。

3号溝状遺構（第 52 図）

(位置) N-19 ~ O-19 グリッド (C 区北)

(形態) 長軸 1.77 m、短軸 0.48 m、深度 0.13 m の溝状遺構で、底部は皿状である。

(遺物) 弥生土器 1 点出土している。

(年代) 平安時代以降と思われる。

4号溝状遺構（第 52 図）

(位置) O-18 ~ 19 グリッド (C 区北)

(形態) 長軸 2.08 m、短軸 0.59 m、深度 0.08 m の溝状遺構で、底部は皿状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

5号溝状遺構（第 52 図）

(位置) O-18 ~ 19 グリッド (C 区北)

(形態) 長軸 2.13 m、短軸 0.55 m、深度 0.08 m の溝状遺構で、底部は皿状である。

(遺物) 縄文土器 1 点出土している。

(年代) 平安時代以降と思われる。

6号溝状遺構（第 52 図）

(位置) M-19 ~ 20 グリッド (C 区北)

(形態) 長軸 4.4 m、短軸 0.65 m、深度 0.16 m の溝状遺構で、底部は皿状である。

(遺物) 縄文土器・弥生土器片が出土している。

(年代) 平安時代以降と思われる。

7号溝状遺構

(位置) P-22 グリッド (C 区北)

(形態) 長軸 1.47 m、短軸 0.53 m の溝状遺構で、平面図でのみ確認されたもの。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

8号溝状遺構（第 52 図）

(位置) U-21 ~ 22・V-22 グリッド (C 区南)

(形態) 長軸 2.5 m、短軸 0.53 m、深度 0.23 m の溝状遺構で、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

9号溝状遺構（第 52 図）

(位置) V-22 グリッド (C 区南)

(形態) 長軸 2.7 m、短軸 0.7 m、深度 0.36 m の溝状遺構で、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

10号溝状遺構（第 44 図）

(位置) U-22 グリッド (C 区南)

(形態) 長軸 1.8 m、南北約 0.8 m、深度 0.23 m の溝状遺構で、底部は鍋底状である。43 土と重複し、それより古い。11 溝と近接。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

11号溝状遺構（第 44 図）

(位置) U-22 グリッド (C 区南)

(形態) 東西 0.8 m、南北約 0.8 m、深度 0.23 m の溝状遺構で、底部は鍋底状である。44 土と重複し、それより古い。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

12号溝状遺構（第 44 図）

(位置) T-22 ~ 23・U-22 グリッド (C 区南)

(形態) 東西 0.8 m、南北約 0.8 m、深度 0.23 m の溝状遺構で、底部は鍋底状である。44 土と重複し、それより古い。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降

13号溝状遺構（第 52 図）

(位置) N-17 グリッド (C 区北)

(形態) 長軸 0.94 m、短軸 0.7 m、深度 0.15 m の溝状遺構で、底部は鍋底状である。11 号焼土と重複し、それより新しい。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

14号溝状遺構（第 53 図）

(位置) Q-22 ~ R-22 グリッド (C 区南)

(形態) 長軸 2.2 m、短軸 0.7 m、深度 0.28 m の溝状遺構で、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

15号溝状遺構（第53図）

(位置) Q-22 グリッド (C区南)

(形態) 長軸2.34m、短軸0.48m、深度0.36mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。遺構半分は調査区外。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

16号溝状遺構（第53図）

(位置) R-23 グリッド (C区南)

(形態) 長軸2.64m、短軸0.64m、深度0.24mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

17号溝状遺構（第53図）

(位置) Q-23～R-23 グリッド (C区南)

(形態) 長軸3m、短軸0.5m、深度0.3mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。46土と重複して、それより新しい。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

18号溝状遺構（第53図）

(位置) S-20～T-20 グリッド (C区南)

(形態) 長軸3.3m、短軸0.72m、深度0.14mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。33土に隣接する。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

19号溝状遺構（第53図）

(位置) R-24 グリッド (C区南)

(形態) 長軸1.35m、短軸0.9m、深度0.68mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。遺構半分は調査区外。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

20号溝状遺構（第53図）

(位置) S-24 グリッド (C区南)

(形態) 長軸2.2m、短軸0.7m、深度0.08mの溝状遺構で、底部は皿状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

21号溝状遺構（第53図）

(位置) R-24～S-24 グリッド (C区南)

(形態) 長軸1.8m、短軸0.7m、深度0.23mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。遺構半分は調査区外。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

22号溝状遺構（第54図）

（位置）T-23～U-23 グリッド（C区南）

（形態）長軸6.22m、短軸0.7m、深度0.18mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。53土と重複し、それより古い。

（遺物）特に遺物は出土していない。

（年代）平安時代以降と思われる。

23号溝状遺構（第45図）

（位置）U-23～24 グリッド（C区南）

（形態）長軸2.2m、短軸0.7m、深度0.04mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。53土と重複し、それより古い。

（遺物）特に遺物は出土していない。

（年代）平安時代以降と思われる。

24号溝状遺構（第53図）

（位置）U-24 グリッド（C区南）

（形態）長軸1.3m、短軸0.52m、深度0.1mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。

（遺物）特に遺物は出土していない。

（年代）平安時代以降と思われる。

25号溝状遺構（第53図）

（位置）U-24～25 グリッド（C区南）

（形態）長軸1.48m、短軸0.5m、深度0.1mの溝状遺構で、底部は皿状である。56土と重複し、それより古い。

（遺物）特に遺物は出土していない。

（年代）平安時代以降と思われる。

26号溝状遺構（第53図）

（位置）U-24～25 グリッド（C区南）

（形態）長軸2.6m、短軸0.74m、深度0.1mの溝状遺構で、底部は皿状である。

（遺物）特に遺物は出土していない。

（年代）平安時代以降と思われる。

27号溝状遺構（第54図）

（位置）V-26 グリッド（C区南）

（形態）長軸3.25m、短軸0.7m、深度0.1mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。28溝と近接する。

（遺物）特に遺物は出土していない。

（年代）平安時代以降と思われる。

28号溝状遺構（第54図）

（位置）U-26～V-26 グリッド（C区南）

（形態）長軸1.24m、短軸0.6m、深度0.1mの溝状遺構で、底部は皿状である。27溝と近接する。

（遺物）特に遺物は出土していない。

（年代）平安時代以降と思われる。

29号溝状遺構（第54図）

(位置) U-27～V-27 グリッド（C区南）

(形態) 長軸0.3m、短軸0.82m、深度0.1mの溝状遺構で、底部は皿状である。112土と重複し、それより新しい。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

31号溝状遺構（第54図）

(位置) V-30・W-30～31 グリッド（C区南）

(形態) 長軸2.08m、短軸0.7m、深度0.1mの溝状遺構で、底部は皿状である。東側半分ほどが試掘トレーンチで壊されている。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

32号溝状遺構（第54図）

(位置) W-31 グリッド（C区南）

(形態) 長軸2.1m、短軸0.84m、深度0.18mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

33号溝状遺構（第54図）

(位置) U-28～V-28 グリッド（C区南）

(形態) 長軸5.64m、短軸1m、深度0.22mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。他の溝に比べて長い。34溝と重複し、それより古い。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

34号溝状遺構（第54図）

(位置) V-28 グリッド（C区南）

(形態) 長軸2m、短軸1m、深度0.1mの溝状遺構で、底部は皿状である。33溝と重複し、それより新しい。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

35号溝状遺構（第55図）

(位置) U-28～V-28 グリッド（C区南）

(形態) 長軸5.1m、短軸0.8m、深度0.26mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。69・71・89土と重複し、それより古い。45溝と重複し、それより新しい。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

36号溝状遺構（第54図）

(位置) V-27～W-27 グリッド（C区南）

(形態) 長軸3.78m、短軸0.62m、深度0.3mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

37号溝状遺構（第54図）

(位置) W-28～X-28 グリッド（C区南）

(形態) 長軸1.36m、短軸0.54m、深度0.1mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

38号溝状遺構（第56図）

(位置) V-27～29・W-28～29 グリッド（C区南）

(形態) 長軸13m、短軸1m、深度0.5mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。3・4mの溝状遺構が南北に4本、東西に1本重複している可能性が高い。

(遺物) 特に遺物は出土していないが、部分的に礫の出土があった。

(年代) 平安時代以降と思われる。

39号溝状遺構（第55図）

(位置) W-29～30 グリッド（C区南）

(形態) 長軸2.1m、短軸0.7m、深度0.1mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

41号溝状遺構（第55図）

(位置) W-31～32 グリッド（C区南）

(形態) 長軸2.2m、短軸0.7m、深度0.1mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

42号溝状遺構（第47図）

(位置) Y-31 グリッド

(形態) 長軸2.8m、短軸0.62m、深度0.28mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。83土と重複し、それより新しい。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

43号溝状遺構（第55図）

(位置) X-32～33 グリッド（C区南）

(形態) 長軸1.7m、短軸0.7m、深度0.3mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

44号溝状遺構A（第55図）

(位置) W-32～33・X-33 グリッド（C区南）

(形態) 長軸 2.7 m、短軸 0.7 m、深度 0.5 m の溝状遺構で、底部は鍋底状である。44 溝 B と重複し、それより古い。
(遺物) 特に遺物は出土していない。
(年代) 平安時代以降と思われる。

44 号溝状遺構 B (第 55 図)

(位置) W-32 ~ 33・X-33 グリッド (C 区南)

(形態) 長軸 2.1 m、短軸 0.46 m、深度 0.54 m の溝状遺構で、底部は鍋底状である。44 溝 A・C と重複し、それより新しい。

(遺物) 特に遺物は出土していない。
(年代) 平安時代以降と思われる。

44 号溝状遺構 C (第 55 図)

(位置) W-32 ~ 33・X-33 グリッド (C 区南)

(形態) 長軸 1.9 m、短軸 0.54 m、深度 0.34 m の溝状遺構で、底部は鍋底状である。44 溝 B と重複し、それよりも新しい。

(遺物) 特に遺物は出土していない。
(年代) 平安時代以降と思われる。

45 号溝状遺構 (第 55 図)

(位置) V-28 ~ 29 グリッド (C 区南)

(形態) 長軸 3.35 m、短軸 0.6 m、深度 0.3 m の溝状遺構で、底部は鍋底状である。90 土と重複し、それよりも新しい。また、35 溝と重複し、それよりも古い。

(遺物) 特に遺物は出土していない。
(年代) 平安時代以降と思われる。

46 号溝状遺構 (第 55 図)

(位置) Y-36 ~ 37 グリッド (C 区南)

(形態) 長軸 2.15 m、短軸 0.56 m、深度 0.34 m の溝状遺構で、底部は鍋底状である。47 溝と重複し、それよりも新しい。また 2 号住居跡と重複するが、それよりも新しい。

(遺物) 特に遺物は出土していない。
(年代) 平安時代以降と思われる。

47 号溝状遺構 (第 55 図)

(位置) Y-36 ~ 37・Z-36 グリッド (C 区南)

(形態) 長軸 1.8 m、短軸 0.74 m、深度 0.2 m の溝状遺構で、底部は鍋底状である 46 溝と重複し、それより古い。また、2 号住居跡と重複し、それよりは新しい。

(遺物) 特に遺物は出土していない。
(年代) 平安時代以降と思われる。

48 号溝状遺構 (第 56 図)

(位置) Y-37 グリッド (C 区南)

(形態) 長軸 2.4 m、短軸 0.6 m、深度 0.4 m の溝状遺構で、底部は鍋底状である。2 号住居跡と重複し、それ

よりも新しい。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

49号溝状遺構（第56図）

(位置) Z-37 グリッド（C区南）

(形態) 長軸 3.14 m、短軸 0.7 m、深度 0.35 m の溝状遺構で、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

50号溝状遺構（第56図）

(位置) AA-39～40 グリッド（C区南）

(形態) 長軸 2.8 m、短軸 0.65 m、深度 0.3 m の溝状遺構で、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

51号溝状遺構（第49図）

(位置) AA-40～AB-40 グリッド（C区南）

(形態) 長軸 3.4 m、短軸 0.6 m、深度 0.28 m の溝状遺構で、底部は鍋底状である。108土と重複し、それよりも新しい。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

5. 配石遺構

1号配石遺構（第58・59図）

(位置) M-17～N-17 グリッド（C区北）

(形態) 東西 2.5 m、南北約 4.5 m の範囲に広がる手のひら半分ほどの小礫と平らな人頭大の礫が広がる。1面・2面と掘り下げていくと、ピットが確認でき、中央で焼土が発見された。大きめの平坦な石があることなどから、敷石住居跡の崩れの可能性もある。

(遺物) 縄文時代後期の遺物が検出される。

(年代) 縄文時代後期

2号配石遺構（第59図）

(位置) M-20・N-20～21 グリッド（C区北）

(形態) 東西 3 m、南北約 3 m の不整形の範囲に小礫が広がる。掘方はなく礫がまとまっている。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 縄文時代？

3号配石遺構（第59図）

(位置) T-20 グリッド（C区南）

(形態) 東西 1.7 m、南北約 1.1 m、深さ 0.4 m である。人頭大の礫が配置される。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 縄文時代?

4号配石遺構(第59図)

(位置) O-19 グリッド(C区北)

(形態) 東西2.1m、南北約1.1mの範囲に小礫が広がる。掘方はなく礫がまとまっている。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 縄文時代?

6. 焼土遺構

1号焼土遺構(第57図)

(位置) J-18～K-18 グリッド(C区北)

(形態) 長軸0.84m、短軸0.64m、深度0.15mで、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 縄文時代早期頃と思われる。

2号焼土遺構(第57図)

(位置) O-18 グリッド(C区北)

(形態) 長軸0.7m、短軸0.64m、深度0.15mで、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降思われる。

3号焼土遺構(第57図)

(位置) Q-20 グリッド(C区南)

(形態) 長軸0.7m、短軸0.4m、深度0.12mで、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 中世以降と思われる。

4号焼土遺構(第57図)

(位置) Q-20～R-20 グリッド(C区南)

(形態) 長軸0.8m、短軸0.5m、深度0.14mで、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 中世以降と思われる。

5号焼土遺構(第57図)

(位置) S-19 グリッド(C区南)

(形態) 長軸0.86m、短軸0.48m、深度0.16mで、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 中世以降と思われる。

6号焼土遺構(第57図)

(位置) S-19 グリッド(C区南)

(形態) 長軸0.96m、短軸0.54m、深度0.14mで、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 中世以降と思われる。

7号焼土遺構（第57図）

(位置) S-20 グリッド（C区南）

(形態) 長軸 0.7 m、短軸 0.54 m、深度 0.012 mで、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 中世以降と思われる。

10号焼土遺構（第57図）

(位置) T-19 グリッド（C区南）

(形態) 長軸 0.54 m、短軸 0.5 m、深度 0.24 mで、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 中世以降と思われる。

11号焼土遺構（第59図）

(位置) N-17 グリッド（C区北）

(形態) 長軸 0.8 m、短軸 0.8 m、深度 0.09 mで、底部は鍋底状である。1号配石内焼土である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 中世以降と思われる。

12号焼土遺構（第57図）

(位置) U-23 グリッド（C区南）

(形態) 長軸 1.6 m、短軸 0.23 m、深度 0.07 mで、底部は鍋底状である。22溝と重複し、それより新しい。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 中世以降と思われる。

13号焼土遺構（第57図）

(位置) V-23 グリッド（C区南）

(形態) 長軸 0.5 m、短軸 0.4 m、深度 0.3 mで、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 中世以降と思われる。

14号焼土遺構（第57図）

(位置) V-22～23 グリッド（C区南）

(形態) 長軸 0.3 m、短軸 0.1 m、深度 0.1 mで、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 中世以降と思われる。

16号焼土遺構（第57図）

(位置) W-28 グリッド（C区南）

(形態) 長軸 1.1 m、短軸 0.7 m、深度 0.22 mで、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

17号焼土遺構（第57図）

(位置) X-29 グリッド（C区南）

(形態) 長軸 0.5 m、短軸 0.4 m、深度 0.3 mで、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

18号焼土遺構（第57図）

(位置) U-28 グリッド（C区南）

(形態) 長軸 2.2 m、短軸 2 m、深度 0.2 mで、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

19号焼土遺構（第57図）

(位置) X-29 グリッド（C区南）

(形態) 長軸 0.7 m、短軸 0.4 m、深度 0.3 mで、底部は鍋底状である。104 土と重複し、それより新しい。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 平安時代以降と思われる。

20号焼土遺構（第57図）

(位置) X-29 グリッド（C区南）

(形態) 長軸 0.4 m、短軸 0.3 m、深度 0.3 mで、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 中世以降と思われる。

21号焼土遺構（第57図）

(位置) AB-40 グリッド（C区南）

(形態) 長軸 0.6 m、短軸 0.5 m、深度 0.3 mで、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 中世以降と思われる。

22号焼土遺構（第57図）

(位置) X-28 グリッド（C区南）

(形態) 長軸 0.5 m、短軸 0.4 m、深度 0.2 mで、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 中世以降と思われる。

23号焼土遺構（第57図）

(位置) W-28 グリッド（C区南）

(形態) 長軸 0.2 m、短軸 0.2 m、深度 0.3 mで、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 中世以降と思われる。

24号焼土遺構（第57図）

(位置) W-28 グリッド（C区南）

(形態) 長軸0.3m、短軸0.3m、深度0.2mで、底部は鍋底状である。

(遺物) 特に遺物は出土していない。

(年代) 中世以降と思われる。

7. その他の遺構

1号遺物集中区

(位置) L-19 グリッド（C区北）

(形態) 東西0.8m、南北約0.8mの円形である。

(遺物) 縄文土器の大きめの破片が出土している。

(年代) 縄文時代早期末～前期頃と思われる。

2号遺物集中区

(位置) N-20 グリッド（C区北）

(形態) 東西0.8m、南北約0.8mの円形である。

(遺物) 縄文土器が出土している。

(年代) 縄文時代早期末～前期頃と思われる。

1号ピット群（第50図）

計測値を一覧表に示した。第1表を参照。

●A区・C区の石器

美通遺跡A及びC区から出土した計54点をもとに整理しておきたい。

・縄文時代早期の石器

美通遺跡から出土した縄文時代早期に位置づけられる石器の総点数は29点であり、石器の器種組成は礫器8点（遺構外8点）、石匙1点（遺構外1点）、石鏃5点（遺構外5点）、台石1点（遺構内1点）、剥片7点である。

礫器 矶器の石材組成は計8点のうち、凝灰岩4点、（第85・86図439,440,443,447）凝灰角礫岩1点、（第85図441）緑色凝灰岩2点（第85・86図442,445）、砂岩1点（第86図444）。刃部を形態的分類すると平刃、凸刃に分けられ、剥離も片面にのみ施される片刃礫器と両面に施される両刃礫器に分類される。439は両刃礫器で、440は片刃礫器で刃部は凸刃である。両端の刃部を敲打による刃潰し加工が施されている。

石匙 石匙は緑色凝灰岩1点のみである。刃部は表面と裏面の両面から交互剥離が施された両刃である。また刃部は鋭いが、中央部のみで両端まで作出されていない。

石鏃 石鏃の石材組成は計5点の内、黒曜石3点（第83図424は右の脚部が欠損している。）と黄色風化泥岩1点は凹基鏃だが、瑪瑙1点の第83図419のみ平基鏃である。

台石 台石の石器組成は花崗岩で1点（第84図438）のみである。C区3号住居の床面から出土した。

剥片 剥片は泥岩ホルンフェルス1点（第86図446）、緑色凝灰岩3点（第87図448,451,453）、砂岩1点（第86図449）、黄色風化泥岩1点（第87図452）、水晶1点（第87図454）である。

・縄文時代の石器

共伴する土器がなかったため、遺構や土層の層位から縄文時代であろうと位置づけた石器の総点数は 22 点であり、打製石斧 6 点（遺構内 1 点・遺構外 5 点）、磨製石斧 2 点（遺構内 1 点・遺構外 1 点）、石匙 1 点（遺構外 1 点）、石鐵欠損品 1 点（遺構外 1 点）、石棒 1 点（遺構内 1 点）、敲き石 2 点（遺構外 2 点）、磨石 5 点（遺構内 1 点・遺構外 4 点）、石錐 1 点（遺構外 1 点）である。

打製石斧 打製石斧の石材組成は、泥岩ホルンフェルス 3 点（第 82 図 400,402,403）、結晶片岩 2 点（第 82 図 401,404）、凝灰岩 1 点（第 82 図 405）である。400 と 405 は完形であり、401 はほぼ完形、402,403,404 は欠損している。405 は片面のみ調整を施して、刃部を作出している。

磨製石斧 磨製石斧の石材組成は緑色凝灰岩 1 点（第 82 図 407）、凝灰岩 1 点（第 82 図 408）。

石匙 石匙はチャート 1 点（第 83 図 427）。

石鐵 石鐵の石材組成は計 8 点（遺構外 3 点）のうち、チャート 2 点（第 83 図 418,423）、黒曜石 6 点（石鐵欠損品は黒曜石 1 点（第 83 図 425）。

石棒 石棒は粘板岩 1 点（第 83 図 412）。

敲石 敲石は花崗岩 1 点（第 83 図 413）、凝灰角礫岩 1 点（第 83 図 414）。

磨石 磨石の石材組成は凝灰角礫岩 1 点（第 83 図 406）、軽石 1 点（第 83 図 409）、安山岩 2 点（第 83 図 410,411）、玄武岩 1 点（第 83 図 415）。410 は両面とも磨り面として利用されている。

石錐 石錐は凝灰岩 1 点（第 83 図 416）。

剥片 剥片の石材は水晶 1 点（第 83 図 426）で遺構外から出土している。

・弥生時代の石器

弥生時代及び弥生時代以降に位置づけられる石器の総点数は 1 点（遺構外出土）である。

磨製石鐵 磨製石鐵の石材は粘板岩（第 83 図 428）の 1 点のみ。ほぼ完形の磨製石鐵であるが、脚部が欠損しているため基部の形態的分類はできない。

平安時代以降の石製品

平安時代以降に位置づけられる石製品の総点数は、砥石 1 点（遺構内 2 点・遺構外 1 点）で石材はすべて凝灰岩である。C 区から出土したのが 2 点（第 84 図 429,430）、A 区 2-3 の 3 号住居から出土したのが 1 点（第 84 図 431）、C 区北 I 面から出土したのが 1 点（第 84 図 432）、A 区 1 の 26 号土坑で出土したのが 1 点（第 83 図 433）である。

近世の石製品

近世に位置づけられる石製品の総点数は 3 点であり、碁石 1 点、石臼 2 点である。石材組成は、碁石は黒色頁岩 1 点（第 84 図 434）で A 区 2-2 の 3 号土坑から出土している。石臼は安山岩 2 点（第 84 図 436,437）で 2 点とも遺構外出土である。

第4章 自然化学分析

美通遺跡（A1区・C区）の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

山梨県都留市井倉地内に所在する美通遺跡は、桂川右岸に位置し、吉村ほか（1987）による地形分類図によれば、桂川の支流である朝日川が形成したとみられる谷底平野および河岸段丘面に立地する。本遺跡のA・C区の各調査区の発掘調査の結果、縄文時代早～中期の竪穴住居跡や集石土坑を含む土坑、古代の竪穴住居跡などが確認されている。また、放射性炭素年代で約8,500年前頃（遠藤・村井, 1978）に発生したとされる猿橋溶岩なども確認されている。

本報告では、美通遺跡A区1・A区2・C区の発掘調査成果から課題とされた遺構の年代、縄文時代および古代墳の植物資源利用の検討、土坑埋植物の化学性による用途推定に関する資料の作成、須恵器の器面に確認される黒色物質の性状、土坑より出土した骨片の種類、部位の検討を目的として、自然科学分析調査を実施する。

第1節 遺構の年代

1. 試料

試料は、A区1およびC区北・南側より検出された住居跡、集石とA区2-3-2号住居跡カマド、A区2-3-3号住居跡集中から出土した炭化材10点である。試料の観察では、A区1-1号住 炭化物No.8が芯持丸木（径約5cm）、A区1-3号住 C-1が先端加工とみられる痕跡を有する芯持丸木（径約6cm）、A区1-4号住 炭化物1が板状（接線面；約4.5cm、放射面；約2.5cm）を呈する破片、C区南1号住 C23が板状（接線面；約3cm、放射面；約3.5cm）を呈する破片、C区南2号住 炭化物No.3が板状（接線面；約1cm、放射面；約2.5cm）を呈する破片、C区北3号住 C-1が最大1.5cm角の炭化材が混じる土壤、C区南4号住 C-6が芯持丸木（横断面；梢円、長径約2.0cm、短径約1.5cm）、C区2号集石 炭化物16が最大1.5cm角の炭化材が混じる土壤である。また、A区2-3-2号住居跡カマドが約1cm角の炭化材片、A区2-3-3号住居跡が板状を呈する炭化材片である。発掘調査所見によれば、A区2-3-2号住居跡は、奈良時代の竪穴住居跡のカマドの火床面直上に確認された炭化材に相当する。

これらの炭化材のうち、芯持丸木試料は最外年輪を含む部位、板状試料については観察範囲内の外側年輪に相当する部位、炭化材混じり土壤試料は最大の炭化材を抽出し、それぞれ分析試料としている。また、放射性炭素年代測定試料抽出後の炭化材は、試料の履歴（由来）の検討を目的として、後述する樹種同定試料と併せて分析を行っている。

平成22年度に分析を追加した試料は、C区65号土坑覆土より採取された土壤5点（土壤③～⑦）である。いずれも炭化物が微量混じる土壤であったため、それぞれ試料500g（湿重）程度について水洗選別を実施し、測定試料の回収を試みた。その結果、土壤⑦を除く試料より炭化したオオムギ（胚乳）、コムギ（胚乳）が検出されたことから、担当者との協議に基づき、土壤③より検出されたコムギ胚乳（7点:0.03g）を測定試料に供した。

2. 分析方法

試料は、超音波煮沸洗浄と酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸1.2N、水酸化ナトリウム1N、塩酸1.2N）により、不純物を取り除いた後、グラファイトを合成し、測定用試料とする。測定機器は、NEC製コンパクトAMS-1.5SDHを用いる。C区65号土坑の試料は、土壤など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、ビンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後HClによる炭酸塩等酸可溶成分の除去、NaOHによる腐植酸等アルカリ可溶成分の除去、HClによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分の除去を行う（酸・アルカリ・酸処理）。試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅（II）と銀浴（硫化物を除去するため）を加えて、管内を真空中にして封じきり、500°C（30分）850°C（2時間）で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用して、真空ラインにてCO₂を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO₂と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコ

ル管底部のみを 650°Cで 10 時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径 1mm の孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV 小型タンデム加速器をベースとした 14C-AMS 専用装置 (NEC Pelletron 9SDH-2) を使用する。AMS 測定時に、標準試料である米国国立標準局 (NIST) から提供されるシュウ酸 (HOX-II) とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に $^{13}C/^{12}C$ の測定も行うため、この値を用いて $\delta^{13}C$ を算出する。放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5,568 年を使用する。また、測定年代は 1950 年を基点とした年代 (BP) であり、誤差は標準偏差 (One Sigma; 68%) に相当する年代である。なお、曆年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.0 (Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer) を用い、誤差として標準偏差 (One Sigma) を用いる。

曆年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5,568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い (^{14}C の半減期 $5,730 \pm 40$ 年) を較正することである。曆年較正結果は、測定誤差 σ 、 2σ (σ は統計的に真の値が 68% の確率で存在する範囲、 2σ は真の値が 95% の確率で存在する範囲) 双方の値を示す。表中の相対比 (確率分布) とは、 σ 、 2σ の範囲をそれぞれ 1 とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

3. 結果

各遺構から出土した炭化材の同位体効果による補正を行った測定結果 (補正年代) は、A 区 1-1 号住 炭化物 8 が $1,265 \pm 20$ yrBP、A 区 1-3 号住 C-1 が $1,200 \pm 20$ yrBP、A 区 1-4 号住 炭化物 1 が 960 ± 20 yrBP、C 区 南 1 号住 C23 が 960 ± 20 yrBP、C 区 南 2 号住 炭化物 №3 が 950 ± 20 yrBP、C 区 北 3 号住 C-1 が $6,345 \pm 30$ yrBP、C 区 南 4 号住 C-6 が $1,000 \pm 20$ yrBP、C 区 2 号集石 炭化物 16 が $4,900 \pm 25$ yrBP、A 区 2-3-2 号住 居跡カマドの炭化材が $1,295 \pm 20$ yrBP、A 区 2-3-3 号住居跡集中の炭化材が $1,395 \pm 20$ yrBP、C 区 65 号土坑 土壤③から検出された炭化種実 (コムギ胚乳) が 630 ± 30 yrBP である。

これらの補正年代に基づく曆年較正結果 (σ) は、A 区 1-1 号住 炭化物 8 が calAD691-calAD772、A 区 1-3 号住 C-1 が calAD779-calAD869、A 区 1-4 号住 炭化物 1 が calAD1.025-calAD1,148、C 区 南 1 号住 C23 が calAD1.026-calAD1,148、C 区 南 2 号住 炭化物 №3 が calAD1.030-calAD1,150、C 区 北 3 号住 C-1 が calBC5,360-calBC5,306、C 区 南 4 号住 C-6 が calAD999-calAD1,036、C 区 2 号集石 炭化物 16 が calBC3,695-calBC3,654、A 区 2-3-2 号住居跡カマドの炭化材が calAD671-calAD765、A 区 2-3-3 号住居跡集中の炭化材が calAD638-calAD658、C 区 65 号土坑 土壤③から検出された炭化種実 (コムギ胚乳) が calAD1,296-calAD1,388 である (表 1-2)。

このうち、C 区 北 3 号住および C 区 2 号集石から得られた曆年代は、小林 (2008) を参考すると、それぞれ縄文時代早期末頃および縄文時代前期後葉頃に相当する。また、A 区 1-1 号住、3 号住、4 号住、C 区 南 1 号住、2 号住、4 号住、A 区 2-3-2 号住居跡と同区 3 号住居跡は、古代および古代末頃の遺構と推定される。このうち、A 区 1-4 号住、C 区 南 1 号住および C 区 南 2 号住は、いずれも 11 世紀前半～12 世紀中頃の曆年代範囲にあり、同時期の遺構の可能性もある。C 区 65 号土坑の炭化種実より得られた曆年代を参考すると、当土坑は中世前半 (13 世紀末から 14 世紀後半) 頃の遺構の可能性がある。なお、測定試料が検出された土壌③は、土坑覆土 1 層下部に相当し、同じ層より鉄軸のかかった小壺が出土している。今回の分析結果については、この出土遺物の考古学的所見等による評価が望まれる。

第 2 節 植物利用

1. 試料

(1) 炭化材・炭化物

試料は、放射性炭素年代測定試料とした炭化材 10 点と、A 区 1-3 号住 C-3 および C-10、A 区 1-4 号住 C-1 の炭

化材 3 点、さらに、C 区南 1 号住から出土した繩状炭化物 (C-9)、の計 12 点である。

(2) 種実

試料は、C 区南 1 号住より出土した種実 3 試料 (22 個) (C21,C6,C5) と、C 区 4 号住より出土した種実 1 試料 (13 個) (C5-2)、A 区 2-3-3 号住居跡から出土した炭化種実である。

2. 分析方法

(1) 樹種同定

試料を自然乾燥させた後、木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の 3 断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

木材組織の名称と特徴は、島地・伊東 (1982)、Wheeler 他 (1998)、Richter 他 (2006) を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林 (1991) や伊東 (1995,1996,1997,1998,1999) を参考にする。

(2) 種実分析

試料を双眼実体顕微鏡下で観察する。現生標本および石川 (1994)、中山ほか (2000) 等との対照から、種類と部位を同定し、個数を数えて表示する。分析後は、種類毎に容器に入れて保管する。

3. 結果

(1) 樹種同定

A 区 1・C 区の結果を表 3 に、A 区 2 の結果を表 4 に示す。A 区 1・C 区の炭化材は、広葉樹 7 分類群（クマシデ属イヌシデ節・コナラ属コナラ亜属クヌギ節・コナラ属コナラ亜属コナラ節・クリ・エノキ属・ケヤキ・トネリコ属）に同定された。また、繩状炭化物は、草木類に同定された。A 区 2 の炭化材は、針葉樹 1 分類群（モミ属）と広葉樹 3 分類群（クリ・ヤマグワ・バラ属）に同定された。以下に、各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・クマシデ属イヌシデ節 (*Carpinus* subgen. *Euarpinus*) カバノキ科

散孔材で、道管は単独または 2-4 個が放射方向に複合して散在する。道管は單穿孔を有し、壁孔は対列状～交互状に配列する。放射組織は異性、1-3 細胞幅、1-40 細胞高のものと集合放射組織がある。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節 (*Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Cerris*) ブナ科

環孔材で、孔圈部は 1-2 列、孔圈外で急激に管径を減じたのち、単独で放射方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20 細胞高のものと複合放射組織がある。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Prinoides*) ブナ科

環孔材で、孔圈部は 1-2 列、孔圈外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20 細胞高のものと複合放射組織がある。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

試料はいずれも年輪界で割れており、早材部の多くを欠き、観察できる組織は晩材部が中心である。早材部の終わりから晩材部への移行は緩やか。晩材部の道管は小径で多数が集まって火炎状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15 細胞高。

・エノキ属 (*Celtis*) ニレ科

環孔材で、孔圈部は 3-5 列、孔圈外で急激～やや緩やかに径を減じたのち、塊状に複合して接線・斜方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-6 細胞幅、1-50 細胞高で精細細胞が認められる。

・ケヤキ (*Zelkova serrata* (Thunb.) Makino) ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔團部は1列、孔團外で急激に管径を減じたのち、塊状に複合して接線・斜方向に紋様状あるいは帶状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-5細胞幅、1-50細胞高。放射組織の上下縁辺部を中心に結晶細胞が認められる。

・トネリコ属 (*Fraxinus*) モクセイ科

環孔材で、孔團部は1-2列、孔團外で急激に管径を減じたのち、厚壁の道管が単独または2個が放射方向に複合して配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、1-3細胞幅、1-30細胞高。

・モミ属 (*Abies*) マツ科

試料は保存状態が悪く脆い。軸方向組織は仮道管のみで構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は比較的緩やかで、晩材部の幅は狭い。放射組織は柔細胞のみで構成される。柔細胞壁は粗く、垂直壁および水平壁にじゅず状の肥厚が認められる。分野壁孔は保存が悪く観察できない。放射組織は単列、1-20細胞高。

・バラ属 (*Rosa*) バラ科

環孔材で、孔團部は1-2列、孔團外でやや急激に径を減じた後、ほぼ単独で散在する。道管は單穿孔を有する。放射組織は異性、單列で1-10細胞高前後のものと、10細胞幅以上、60～100細胞高以上の大型のものとがある。

(2) 種実分析

A区1・C区の結果を表5に、A区2の結果を表6に示す。C区1号住より出土した種実は、栽培種のスモモの核2個とモモの核の破片19個・種子1個（計1個体）に同定された。C区4号住より出土した種実は、落葉広葉樹のウルシ属の核2個、栽培種のオオムギの胚乳3個、コムギの胚乳6個、マメ類の種子1個に同定され、1個は不明であった。種実遺体は、全て炭化している。A区2-3-3号住居跡より出土した種実は、炭化した栽培種のモモの核に同定された。以下に、種実の形態的特徴等を記す。

・スモモ (*Prunus salicina* Lindley) バラ科サクラ属

核（内果皮）が検出された。炭化しており黒色。レンズ状広楕円体。大きさは、C区1号住C21は長さ11.16mm、幅10.05mm、厚さ6.84mm（一部欠損）。C区1号住C6は長さ13.17mm、幅11.12mm、厚さ8.38mm。基部に丸く臍点がある。1本の明瞭な縦の縫合線上が発達し、背面正中線上に細い縦隆条が、腹面正中線上には浅い縦溝とその両側に幅の狭い帯状部がある。内果皮は厚く硬く、表面にはごく浅い凹みが不規則にみられる。

・モモ (*Prunus persica* Batsch) バラ科サクラ属

核（内果皮）の破片と種子が検出された。炭化しており黒色。C区1号住C5は核の破片が19個と種子の完形1個確認され、接合し計1個体となる。核は、完形ならばやや偏平な広楕円体。頂部はやや尖り、基部は切形で中央部に湾入した臍がある。1本の明瞭な縦の縫合線が発達し、背面正中線上に細い縦隆条が、腹面正中線上には浅い縦溝とその両側に幅の狭い帯状部がある。

破片の最大個体は、縫合線に沿って割れた半分未満で、長さ16.68mm。内果皮は厚く硬く、表面は縦に流れる不規則な線状の深い窪みがあり、全体として粗いわし状にみえる。核の内側表面は平滑で、種子1個が入る楕円状の窪みがみられる。種子は長さ16.73mm、幅9.48mm、厚さ4.10mmのやや偏平な非対称楕円体で頂部が尖る。種皮表面には縦方向の微細な皺がある。（A区1・C区試料）

・モモ (*Prunus persica* Batsch) バラ科サクラ属

核（内果皮）の破片が検出された。炭化しており黒色。完形ならばやや偏平な広楕円体で頂部はやや尖り、基部は切形で中央部に湾入した臍がある。1本の明瞭な縦の縫合線が発達し、背面正中線上に細い縦隆条が、腹面正中線上には浅い縦溝とその両側に幅の狭い帯状部がある。A2-3区3号住居跡では、核の破片が44個確認されたが

1個体未満と推定される。最大の破片は、縫合線に沿って割れており、長さ 20.93mm、幅 14.73mm を測る。内果皮は厚く硬く、表面は縫に流れる不規則な線状の深い窪みがあり、全体として粗いしわ状にみえる。核の内側表面は平滑で、種子 1 個が入る楕円状の窪みがみられる。(A 区 2 試料)

・ウルシ属 (*Rhus*) ウルシ科

核(内果皮)が検出された。炭化しており黒色。長さ 2.61mm、幅 3.30mm、厚さ 1.92mm と、長さ 2.50mm、幅 3.17mm、厚さ 1.92mm のやや偏平な横楕円体。背腹両面の中央が凹み、織状。腹面中央に臍がある。内果皮表面はやや平滑。

・オムギ (*Hordeum vulgare L.*) イネ科オムギ属

胚乳が検出された。炭化しており黒色、長さ 5.0mm、径 2.2mm 程度のやや偏平な紡錘状長楕円体。両端は尖る。腹面は正中線上にやや太く深い縫溝があり、背面は基部正中線上に胚の痕跡があり丸く窪む。表面には微細な縦筋がある。

・コムギ (*Triticum aestivum L.*) イネ科コムギ属

胚乳が検出された。炭化しており黒色。長さ 4.0mm、径 3.2mm 程度の楕円体。腹面は正中線上にやや太く深い縫溝があり、背面は基部正中線上に胚の痕跡があり丸く窪む。表面は粗面。

・マメ類 (Leguminosae) マメ科

種子が検出された。炭化しており黒色。長さ 6.19mm、幅 4.87mm、厚さ 2.85+mm(一部欠損)のやや偏平な楕円体。腹面の子葉合わせ目上にある長さ 1.8mm、幅 0.5mm 程度の細長い長楕円形の臍が確認される。表面は粗面。

4. 考察

(1) 木材

A 区 1・C 区について、縄文時代早期末頃の曆年代が得られた C 区北 3 号住の炭化材は落葉広葉樹のクリ、縄文時代前期後葉頃の曆年代が得られた C 区 2 号集石の炭化材は落葉広葉樹のエノキ属であった。

クリは、二次林などに生育し、木材は重硬で強度・耐朽性が高い。都留市域では、中谷遺跡で縄文時代後期の堅穴住居跡からクリの炭化材が確認されている(パリノ・サーヴェイ株式会社, 1996)。また、周辺では、大月遺跡(大月市)の縄文時代中期の住居跡から出土した炭化材にクリと広葉樹、原・郷原遺跡(上野原町)の縄文時代後期の住居跡から出土した炭化材にクリとオニグルミが確認されている(パリノ・サーヴェイ株式会社, 2000a, 2000b)。今回の分析試料は、炭化材が混じる土壤より抽出していることから用途については今後の課題であるが、当時のクリ材の利用が示唆される。一方、エノキ属は河畔林を構成する分類群である。本遺跡では、B3 区 1 号集石から出土した炭化材にヤマグワヒクリが認められており、今回の分析結果からエノキ属も燃料材等として利用されたと考えられる。

古代および古代末頃の曆年代が得られた住居跡出土炭化材からは、イヌシデ節、クヌギ節、コナラ節、エノキ属、クリ、トネリコ属が確認された。炭化材の形状観察等から、これらの試料は住居構築材の一部とみられ、様々な木材が利用されていた状況が看取される。とくに、炭化材 3 点について調査を行った A1 区 3 号住では、少なくとも 3 種類の木材の利用が看取される。また、先端加工とみられる痕跡を有する芯持丸木の炭化材(A1 区 3 号住 C-1)はクリであったことから、重硬で強度・耐朽性が高い木材が柱材等として利用された可能性もある。これらの住居跡出土炭化材に確認された分類群は、河畔林や二次林を構成する種類が多いことから、周辺の沖積地、段丘崖、山地斜面等に生育していた樹木の利用が推定される。

A 区 2 について、各遺構から出土した炭化材試料からは、針葉樹のモミ属と、広葉樹のバラ属が確認された。また、放射性炭素年代測定に供した炭化材と、この他に抽出した炭化材はいずれも同じ分類群が確認された。

奈良時代の堅穴住居跡から出土した炭化材は、A2-3 区 2 号住居跡カマド試料がバラ属、A2-3 区 3 号住居跡磯集中試料がモミ属であった。バラ属は、藤本あるいは低木で、河畔等の林縁部を中心に生育する。棘が多く、木材としての用途はほとんど無いことや、カマド内出土試料であることから、周辺に生育した小径木などを燃料材として利用した可能性がある。針葉樹のモミ属は、木理が直通で割裂性が高く、加工は容易であるが、保存性は低い。モミ

属は、扇状地や山地斜面等に生育することから、周囲の段丘崖や山地斜面等に生育していた可能性がある。本地域では、上野原小学校遺跡の7世紀後半とされる住居跡から出土した住居構築材の可能性がある炭化材に、針葉樹のモミ属と広葉樹のクヌギ節が認められた事例がある（パリノ・サーヴェイ株式会社,2003）。

（2）縄状炭化物

C区南1号住から出土した縄状炭化物（C-9）は、木繊維や管束の一部と考えられる道管状の組織が観察されたが、放射組織が全く認められることから草本類と考えられる。炭化して残存している状況等から、木質化する種類とみられ、横断面が不定形であることや縦断面で繊維の断面が見られることから、タケア科等を細く裂いて繊維状としている可能性がある。

（3）種実および微細植物片

A区1・C区について、古代墳の暦年代が得られた住居跡から出土した種実は、C区1号住試料が炭化した栽培種のスモモの核とモモの核・種子、C区4号住居試料が栽培種のオオムギ、コムギの胚乳、マメ類の種子と、炭化した落葉低木～高木のウルシ属の核であった。このうち、モモやスモモ等は、栽培のために持ち込まれた渡来種とされ、観賞用の他、果実や核の中にある種子（仁）などが食用、薬用等に利用される。モモについては、本遺跡の奈良時代と考えられるA2-3区3号住居跡覆土からも出土しており、当該期における利用が窺われる。オオムギ、コムギおよびマメ類は、いずれも可食部位となる胚乳や種子が確認されたことから、植物質食糧としての利用が示唆される。また、C区4号住居から出土したウルシ属は、落葉低木～高木であり、周辺の森林の林縁等に生育していたものと考えられる。ウルシ属には、漆をとるウルシや、ロウをとるハゼノキなどの有用な分類群が含まれるが、当該期におけるウルシの利用状況については今後の課題である。

A区2について、奈良時代のA2-3区3号住居跡から出土した種実は、栽培種のモモの核であった。モモは、古くから栽培のために中国から持ち込まれた渡来種とされ、観賞用の他、果実や核の中にある種子（仁）などが食用、薬用、祭祀等に広く利用される。モモの遺跡出土例は、弥生～古墳時代以降から多数報告されている（南木,1991; 粉川,1988など）。発掘調査所見では、住居廃絶後の祭祀行為の可能性が示唆されているが、古代の住居廃絶後の祭祀とモモの関わりについては、今後さらに資料を蓄積する必要がある。

第3節 土壤理化学分析

1. 試料

試料は、A1区およびC区より検出された土坑埋植物より採取された土壤である。以下に、各遺構の概要および試料の詳細を記す。

（1）A1区11号土坑

A1区11号土坑は、平面が直径約140cmの円形を呈し、深さ約10cmを測る。土壤試料は、覆土上・中・下層（試料1～3）および底面を構成する堆植物（試料1～4）が採取されている。分析には、覆土上・下層（試料1,3）と底部（試料4）を供する。

（2）A1区22号土坑

A1区22号土坑は、平面が直径約140～160cmの円形を呈し、深さ約65cmを測る。土坑覆土は、1～5層までの5層に分層されている。土壤試料は、2層から5試料（試料2-1～2-5）、3層から3試料（試料3-1～3-3）、4層から2試料（試料4-1,4-2）、5層から1試料（試料5）の11点が採取されている。分析には、2層と3層の最上位試料（試料2-1,3-1）および5層（試料5）の3点を供する。

（3）C区37号土坑

C区37号土坑は、平面が直径約70cmの円形を呈し、深さ約10cmを測る。土壤試料は、土坑内から出土した底部が穿孔された甕内埋積土の上・中・下層より採取されている。分析には、甕内より採取された土壤3点を供する。

（4）C区65号土坑

C区65号土坑は、1辺が約170cmを測る不整形形を呈し、深さ約40cmを測る。土坑覆土は、I～III層の3

層に分層されている。土壤試料は、I層から3試料(試料①～③)、II層から3試料(試料④～⑥)、III層から1試料(試料⑦)の7点が採取されている。分析には、I層とII層の最上位試料(試料①, ④)およびIII層(試料⑦)の3点を供する。また、比較対照試料として採取された、土壤試料2点(遺構外北側・南側)も分析に供する。

2. 分析方法

リン酸含量は硝酸・過塩素酸分解一バナドモリブデン酸比色法(土壤標準分析・測定法委員会, 1986)で行った。以下に操作工程を示す。

(1) 分析試料の調製

試料を風乾後、土塊を軽く崩して2mmの篩でふるい分けをする。この篩通過試料を風乾細土試料とし、分析に供する。また、風乾細土試料の一部を乳鉢で粉砕し、0.5mm篩を全通させ、粉砕土試料を作成する。風乾細土試料については、105°Cで4時間乾燥し、分析試料水分を求める。

(2) リン酸含量

粉砕土試料1.00gをケルダール分解フラスコに秤量し、はじめに硝酸(HNO₃)約5mlを加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸(HClO₄)約10mlを加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、水で100mlに定容してろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計によりリン酸(P2O5)濃度を測定する。測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりのリン酸含量(P2O5mg/g)を求める。

3. 結果

結果を表4に示す。以下、遺構別に結果を示す。

(1) A1区11号土坑

試料は、いずれも粘質土であり、国際法区分における野外土性(ペドロジスト懇談会編, 1984)はLiC(軽埴土)である。土色は、10YR2/2(黒褐色)と比較的黒色味が強い。リン酸含量は、中心部上(試料1)で僅かに多い傾向はあるが、5.23～5.57mg/gの範囲で概ね一定である。

(2) A1区22号土坑

野外土性はいずれもLiC(軽埴土)、土色は10YR2/2～2/3(黒褐色)と比較的黒色味が強い。リン酸含量は、2層(試料2-1)が3.72mg/g、3層(試料3-1)が4.66mg/g、5層(試料5)が5.31mg/gである。下位の試料ほどリン酸含量が多い傾向が看取される。

(3) C区37号土坑

野外土性は、CL(埴土)～LiC(軽埴土)、土色は10YR2/2(黒褐色)と比較的黒色味が強い。リン酸含量は、カメ内上で僅かに多い傾向はあるが、3.03～3.40mg/gの範囲で概ね一定である。

(4) C区65号土坑

野外土性はCL(埴土)～LiC(軽埴土)、土色は10YR2/2(黒褐色)と比較的黒色味が強い。リン酸含量は、I層(試料①)が8.01mg/g、II層(試料④)が7.02mg/g、III層(試料⑦)が5.82mg/gであり、上位試料ほどリン酸含量が多い。また、比較対照試料である土坑外試料のリン酸含量は、北側が2.06mg/g、南側が3.15mg/gである。

4. 考察

リンは生物にとって主要な構成元素であり、動植物中に普遍的に含まれる元素であるが、特に人や動物の骨や歯には多量に含まれている。生物体内に蓄積されたリンはやがて土壤中に還元され、土壤有機物や土壤中の鉄やアルミニウムと難溶性の化合物を形成する。特に活性アルミニウムの多い火山灰土壤ではリンの保持能力が高いため、遺跡での生物起源残留物の痕跡確認などに有効である。

土壤中に普通に含まれるリン酸量、いわゆる天然賦存量については、いくつかの報告事例がある(Bowen, 1983; Bolt・Bruggenwert, 1980; 川崎ほか, 1991; 天野ほか, 1991)。これらの事例から推定される天然賦存量の上限

は約 3.0P2O5mg/g 程度である。また、人為的な影響（化学肥料の施用など）を受けた黒ボク土の既耕地では 5.5P2O5mg/g (川崎ほか, 1991) という報告例があり、これまでの調査事例では骨片などの痕跡が認められる土壤では 6.0P2O5mg/g を越える場合が多い。

本遺跡では C 区 65 号土坑の土坑外より採取された土壤（北側・南側）が対照試料として供され、2.06 ~ 3.15P2O5mg/g という値が得られている。また、隣接する調査区の B3 区 13 号土坑の調査では、最もリン酸含量が多い試料で 3.26P2O5mg/g という値が得られているが、腐植含量やカルシウム含量の分析結果から、植物遺体を給源として自然蓄積した可能性が高いことが推定されている。これらの結果を考慮すると、本遺跡におけるリン酸の天然賦存量は少なくとも 3.0P2O5mg/g 以上と推定される。

4 基の土坑埋積物におけるリン酸含量は、C 区 37 号土坑の甕内試料で最もリン酸含量が少なく、3.03 ~ 3.40P2O5mg/g の範囲で概ね一定である。比較対照試料とほぼ同レベルの値であることから、リン酸の富化を想定することはできない。一方、A1 区 11 号土坑は、覆土上・下部および底で 5.0mg/g 以上、A1 区 22 号土坑は覆土下位の試料ほどリン酸含量が多く、5 層（試料 5）で 5.0mg/g 以上であり、C 区 65 号土坑においても 5.0mg/g 以上の値が確認された。これら土坑には、上記した本遺跡の推定天然賦存量を大きく上回るリン酸が含まれていることが推定される。

以上の結果、C 区 37 号土坑を除く 3 基の土坑については、推定される天然賦存量を上回るリン酸含量の高い試料が確認されたことから、リン酸を富化する動植物遺体を含む原因物が存在した可能性がある。ただし、これらの土坑では、リン酸含量の偏在性が異なっており、土坑の埋積過程におけるリン酸の供給、あるいは蓄積（例えば、後世の施肥の影響など）を示唆する可能性もある。また、美通遺跡の A2 区・3 区で行った腐植含量とリン酸含量の調査では、正の相関が確認されている（図 1）。そのため、A1 区 11 号土坑、22 号土坑、C 区 65 号土坑については、リン酸含量の由来の検討を目的とする腐植含量の調査や、動植物遺体の痕跡の確認を目的とする微細物分析等による検証が望まれる。

第 4 章 須恵器片付着黒色物質の材質

1. 試料

試料は、2 号掘立柱建物跡周辺から出土した須恵器片（注記名：09 美トオシ A1 区 -PS49）である。須恵器片は、内・外面ともに黒色物質が一樣に付着する。黒色物質は、鏡下での観察ではガラス光沢を有したことから、漆や炭化物といった有機物の可能性は低いと予想された。そのため、本調査では須恵器片から微量採取した黒色物質を対象とし、分析走査電子顕微鏡（SEM-EDS）による元素分析を実施した。

2. 分析方法

須恵器片の内面から採取した黒色物質を水平試料載台にカーボン両面テープで固定し、エネルギー分散形 X 線分光装置（JED-2300）を備えた日本電子製可搬形走査電子顕微鏡（JCM-5700）により、元素分析を実施した。試料の観察および分析は、基本的に加速電圧 20kV、低真空モード（30Pa）で行い、分析位置は試料表面を観察し、異物を含まない箇所を選択した。測定条件の詳細は、分析結果とともに図 1 に示す。

得られた特性 X 線スペクトルは元素定性を実施した後、ZAF 补正法を用いたスタンダードレス（簡易定量）分析により定量演算を行い、相対含有率（質量 %）を求めた。なお、算出された結果は、半定量的なものであることに留意されたい。

3. 結果および考察

結果を図 1 に示す。また、試料採取位置を図版 1-1.、採取試料の鏡下での状況を図版 1-2. に示す。黒色物質の偏光顕微鏡下における観察では、無色透光性または褐色～黒褐色を呈するガラスと判断される。ガラスには、発泡組織を示すものや、ガラス中に針状マライトの晶出も認められた。

元素分析では、電子線照射による汚染元素である炭素(C)を除けば、酸素(O)、ナトリウム(Na)、マグネシウム(Mg)、アルミニウム(Al)、ケイ素(Si)、カリウム(K)、カルシウム(Ca)、チタン(Ti)、鉄(Fe)の9元素が認められた。これらの元素を酸化物として演算した結果によれば、黒色物質にはSiO₂が64%、Al₂O₃が19%、Fe₂O₃が7.6%存在し、この他にCaO、K₂O、Na₂O、MgOなども1~4%程度含まれる。黒色物質がガラスであることを踏まえば、ガラスの発色は鉄の作用によると考えられる。なお、黒色物質の由来、例えば釉(この場合、アルカリ釉)あるいは素地表面が高温焼成による溶解、ガラス化によるものであるかの検討は、薄片観察等の分析調査が望まれる。

第5章 遺構内出土骨の分析

1. 試料

試料は、C区31号土坑から出土した歯牙4点(試料名:歯1~4)と、C区103号土坑から出土した骨片1点(試料名:骨(1))の計5点である。C区31号土坑から出土した歯牙は、歯1~3が歯冠部片、歯4が歯冠部の極めて小さな破片である。C区103号土坑から出土した骨(1)は、土壤が付着した状態の破片1点および微細片である。試料の詳細は、結果とともに表2に示す。

2. 分析方法

C区31号土坑の歯1~3は、付着した泥分を水に浸した筆で静かに除去する。C区103号土坑の骨(1)は、乾いたブラシで土壤を除去する。自然乾燥後、試料を肉眼で観察し、その形態的特徴から、種類および部位の特定を行う。

3. 結果および考察

結果を表2に示す。C区31号土坑から出土した歯牙は、いずれもヒトの歯牙であり、歯1が右上顎第2大臼歯、歯2が左上顎犬歯、歯3が右上顎第1小白歯に同定された。歯4もヒトの歯牙片とみられる。

本遺構からは、発掘調査時にヒトの頭蓋骨とともに、小刀が出土している。同定対象の歯牙は、重複する部位がないことや状態などから同一個体に由来すると判断され、発掘調査時に出土した頭蓋骨より遊離した歯牙の可能性がある。なお、出土した歯牙には咬耗が全くみられないことから、萌出直前であったか、萌出して間もない時期であった可能性が高い。第2大臼歯は、歯冠部だけ残存するが、歯根が形成されていた痕跡がみられる。以上の状況から、成年(16~20歳程度)に達していないものの、それに近い年齢であったことが推定される。

一方、C区103号土坑から出土した骨(1)は、白色を呈し、表面に細かなひび割れが生じるなど焼骨の特徴を示す。最も大きな破片は、ニホンジカの中手骨/中足骨の遠位端部片の可能性がある。本遺構は、埋積物中に焼土が混じり、人頭大の礫周囲より炭化材や骨片が出土する状況が確認されている。また、隣接する土坑の検出状況および出土遺物から、縄文時代の遺構と想定されている。出土骨の状態や遺構の性格を考慮すると、当時、食糧等として利用された後の状況を示す資料と考えられる。

引用文献

- 天野洋司・太田 健・草場 敏・中井 信,1991,中部日本以北の土壤型別蓄積リンの形態別計量、土壤蓄積リンの再生循環利用技術の開発、農林水産省農林水産技術会議事務局編,28-36.
- Bowen,H.J.M.,1979,Environmental Chemistry of Elements. [浅見輝男・茅野充男(訳),1983,環境無機化学,元素の循環と生化学,博友社,297p.]
- Bolt,G.H. & Bruggenwert,M.G.M.,1976,SOILCHEMISTRY. [岩田進午・三輪春太郎・井上隆弘・陽 捷行(訳),1980,土壤の化学,学会出版センター,309p.]
- 土壤標準分析・測定法委員会編,1986,土壤標準分析・測定法,博友社,354p.
- 遠藤邦彦・村井公一,1978,山梨県大月市における猿橋溶岩直下の腐植土の¹⁴C年代,地球科学,32,107-108.

- 林 昭三,1991,日本産木材顕微鏡写真集,京都大学木質科学研究所.
- 石川茂雄,1994,原色日本植物種子写真図鑑,石川茂雄図鑑刊行委員会,328p.
- 伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載 I. 木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.
- 伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載 II. 木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所,66-176.
- 伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載 III. 木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.
- 伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載 IV. 木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.
- 伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載 V. 木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.
- 川崎 弘・吉田 澄・井上恒久,1991,九州地域の土壤型別蓄積リンの形態別計量・土壤蓄積リンの再生循環利用技術の開発,農林水産省農林水産技術会議事務局編,23-27.
- 小林謙一,2008,縄文土器の年代(東日本),小林達雄編 小林達雄先生古希記念企画 総覧 縄文土器,株式会社アム・プロモーション,896-903.
- 中山至大・井之口希秀・南谷忠志,2000,日本植物種子図鑑,東北大学出版会,642p.
- 農林省農林水産技術会議事務局監修,1967,新版標準土色帖.
- パリノ・サーヴェイ株式会社,1996,中谷遺跡における自然科学分析,中谷遺跡 山梨リニア実験線建設に伴う発掘調査報告書,山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第116集,山梨県教育委員会・日本鉄道建設公團,180-183.
- パリノ・サーヴェイ株式会社,2000a,大月遺跡 10次調査の自然科学調査,山梨県大月市 大月遺跡(第10次調査) 县立都留高等学校体育館周辺整備に伴う発掘調査報告書一,山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第174集,山梨県教育委員会,14-23.
- パリノ・サーヴェイ株式会社,2000b,原・郷原遺跡における自然科学分析,原・郷原遺跡 県営中山間地域総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書,上野原町埋蔵文化財調査報告書第9集,上野原町教育委員会・山梨県都留土地改良事務所,58-62.
- パリノ・サーヴェイ株式会社,2003,上野原小学校遺跡から出土した炭化材・種実遺体の種類,上野原小学校遺跡II 町立上野原小学校給食施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書,上野原町埋蔵文化財調査報告書10集,上野原町教育委員会,55-57.
- ペドロジスト懇談会,1984,土壤調査ハンドブック,156p.
- Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(編),2006,針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト,伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘(日本語版監修),海青社,70p. [Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E. (2004) IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification].
- 鳥地 謙・伊東隆夫,1982,図説木材組織,地球社,176p.
- Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(編),1998,広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト,伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修),海青社,122p. [Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].
- 吉村 稔・平川一臣,1987,I 地形分類図・土地分類基本調査 都留 5万分の1 国土調査,山梨県農務部農村整備課,15-23.

表1. 放射性炭素年代測定結果および曆年較正結果

試料名	補正年代 (yrBP)	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$	補正年代 (曆年較正用) (yrBP)	曆年較正年代 (cal)						相対比	測定機関 Code No.
				σ	cal AD 691	-	cal AD 730	0.623			
AI 区 1号住 炭化物 8	1,265 ± 20	-24.05 ± 0.24	1,264 ± 21	σ	cal AD 735	-	cal AD 750	0.230		PLD-15550	
				2σ	cal AD 763	-	cal AD 772	0.146			
				σ	cal AD 674	-	cal AD 779	0.996			
				2σ	cal AD 795	-	cal AD 797	0.004			
AI 区 3号住 C-1	1,200 ± 20	-24.95 ± 0.30	1,201 ± 22	σ	cal AD 779	-	cal AD 794	0.197		PLD-15551	
				2σ	cal AD 801	-	cal AD 831	0.387			
				σ	cal AD 836	-	cal AD 869	0.417			
				2σ	cal AD 772	-	cal AD 890	1.000			
AI 区 4号住 炭化物 1	960 ± 20	-24.13 ± 0.22	962 ± 20	σ	cal AD 1,025	-	cal AD 1,046	0.413		PLD-15552	
				2σ	cal AD 1,093	-	cal AD 1,120	0.477			
				σ	cal AD 1,140	-	cal AD 1,148	0.110			
				2σ	cal AD 1,021	-	cal AD 1,054	0.359			
C 区南 1号住 C23	960 ± 20	-24.95 ± 0.18	960 ± 20	σ	cal AD 1,078	-	cal AD 1,154	0.641		PLD-15553	
				2σ	cal AD 1,026	-	cal AD 1,046	0.387			
				σ	cal AD 1,092	-	cal AD 1,121	0.487			
				2σ	cal AD 1,140	-	cal AD 1,148	0.125			
C 区南 2号住 炭化物 №3	950 ± 20	-27.29 ± 0.13	951 ± 20	σ	cal AD 1,021	-	cal AD 1,055	0.341		PLD-15554	
				2σ	cal AD 1,077	-	cal AD 1,154	0.659			
				σ	cal AD 1,030	-	cal AD 1,048	0.279			
				2σ	cal AD 1,087	-	cal AD 1,122	0.557			
C 区北 3号住 C-1	6,345 ± 30	-24.19 ± 0.11	6,346 ± 28	σ	cal AD 1,138	-	cal AD 1,150	0.164		PLD-15555	
				2σ	cal AD 1,024	-	cal AD 1,059	0.283			
				σ	cal AD 1,066	-	cal AD 1,072	0.015			
				2σ	cal AD 1,075	-	cal AD 1,155	0.702			
C 区北 3号住 C-1	6,345 ± 30	-24.19 ± 0.11	6,346 ± 28	σ	cal BC 5,360	-	cal BC 5,306	0.000		PLD-15555	
				2σ	cal BC 5,463	-	cal BC 5,446	0.025			
				σ	cal BC 5,419	-	cal BC 5,410	0.010			
				2σ	cal BC 5,379	-	cal BC 5,290	0.863			
C 区南 4号住 C-6	1,000 ± 20	-23.17 ± 0.18	999 ± 20	σ	cal BC 5,271	-	cal BC 5,224	0.101		PLD-15556	
				2σ	cal AD 999	-	cal AD 1,002	0.043			
				σ	cal AD 1,013	-	cal AD 1,036	0.957			
				2σ	cal AD 990	-	cal AD 1,044	0.911			
C 区 2号集石 炭化物 16	4,900 ± 25	-25.40 ± 0.18	4,902 ± 26	σ	cal AD 1,098	-	cal AD 1,119	0.078		PLD-15557	
				2σ	cal AD 1,142	-	cal AD 1,147	0.011			
				σ	cal BC 3,695	-	cal BC 3,654	1.000			
				2σ	cal BC 3,747	-	cal BC 3,745	0.003			
A 区 2-3-2号住 かまぼこ炭化物サンプル	1,295 ± 20	-24.09 ± 0.16	1,296 ± 19	σ	cal BC 3,712	-	cal BC 3,640	0.997		PLD-15545	
				2σ	cal AD 671	-	cal AD 695	0.477			
				σ	cal AD 698	-	cal AD 708	0.155			
				2σ	cal AD 747	-	cal AD 765	0.369			
A 区 2-3-3号住 かまぼこ炭化物サンプル	1,395 ± 20	-22.88 ± 0.12	1,397 ± 19	σ	cal AD 665	-	cal AD 725	0.642		PLD-15548	
				2σ	cal AD 738	-	cal AD 771	0.358			
				σ	cal AD 638	-	cal AD 658	1.000			
				2σ	cal AD 613	-	cal AD 662	1.000			
C 区 65号土坑 土壤3 炭化度実(コム ギ胚乳)	630 ± 30	-25.40 ± 0.51	634 ± 25	σ	cal AD 1,296	-	cal AD 1,315	0.367		IAAA- 101867	
				2σ	cal AD 1,356	-	cal AD 1,388	0.633			
				σ	cal AD 1,287	-	cal AD 1,328	0.411			
				2σ	cal AD 1,341	-	cal AD 1,395	0.589			

表2. 樹種同定結果…A区 1・C区

地区	遺構	面	試料名	形状	樹種	備考
A1 区	1号住		炭化物 8	芯持丸木	エノキ属	*直徑約 5cm
A1 区	3号住	C-1	芯持丸木	クリ		直徑約 6cm
A1 区	3号住	C-3	芯持丸木	コナラ属コナラ亜属コナラ節		*直徑約 3.5cm
A1 区	3号住	C-10	芯持材	トネリコ属		半徑約 2cm
A1 区	4号住		炭化物 1	板状	エノキ属	*
A1 区	42pit	C-1	—	ケヤキ		

地区	遺構	面	試料名	形状	樹種	備考
C区南	1号住		C23	板状	エノキ属	*
C区南	2号住		炭化物No.3	板状	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	*
C区北	3号住		C-1	—	クリ	*
C区南	4号住		C-6	芯持丸木	クマシデ属イヌシデ節	*径約 2.0 × 1.5cm
C区	2号集石	4面	炭化物 16	—	エノキ属	*
C区南	1号住		C9	—	草本類	繩状炭化物

*放射性炭素年代測定試料

表 2-2. 樹種実定結果…A区 2-3

地区	遺構	地点	樹種	備考
A区 2-3	2号住居跡	カマド	バラ属 バラ属	年代測定試料
A区 2-3	3号住居跡	縄集中	モミ属 モミ属	年代測定試料

表 3-1. 種実同定結果 (C区)

試料名	分類群	部位	状態		個数	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	備考
C区 1号住 C21 (種)	スモモ	核	完形	炭化	1	11.16	10.05	6.84+	一部欠損
C区 (南) 1号住 C6 (種)	スモモ	核	完形	炭化	1	13.17	11.12	8.38	
C区 (南) 1号住 C5 (種)	モモ	核	破片	炭化	19	16.68			1個体
C区南 4号住 C5-2	ウルシ属	核	完形	炭化	1	16.73	9.48	4.10	
					2	2.61	3.30	1.92	
						2.50	3.17	1.92	
オオムギ	胚乳	完形	炭化		3				2個頸付着
コムギ	胚乳	完形	炭化		6				
マメ類	種子	完形	炭化		1	6.19	4.87	2.85+	一部欠損、勝跡認
不明		破片	炭化		1				

表 3-2. 種実分析結果 (A区 2-3)

分類群	部位	状態	A区 2-3	備考
<炭化>				
モモ	核	破片	44	計 1 個体未満

表 4. リン分析結果

地区	遺構	地点・層位	試料名	土性	土色	P ₂ O ₅ (mg/g)	備考
A1 区	11号土坑	中心部上	1	LiC	10YR2/2	黒褐	5.57
		中心部下	3	LiC	10YR2/2	黒褐	5.24
		中心部底	4	LiC	10YR2/2	黒褐	5.23
A1 区	22号土坑	2層	2-1	LiC	10YR2/3	黒褐	3.72
		3層	3-1	LiC	10YR2/2	黒褐	4.66
		5層	5	LiC	10YR2/2	黒褐	5.31
C 区	37号土坑(南)	カメ内上	CL	10YR2/2	黒褐	3.40	底部穿孔箇内
		カメ内中	CL	10YR2/2	黒褐	3.03	
		カメ内下	LiC	10YR2/2	黒褐	3.08	
	65号土坑	I層	(1)	LiC	10YR2/2	黒褐	8.01
		II層	(4)	LiC	10YR2/2	黒褐	7.02
		III層	(7)	CL	10YR2/2	黒褐	5.82
		土坑外(北側)	CL	10YR2/3	黒褐	2.06	対照試料
		土坑外(南側)	CL	10YR2/2	黒褐	3.15	

1) 土色: マンセル表色系に準じた新版標準土色帖 (農林省農林水産技術会議監修, 1967) による。

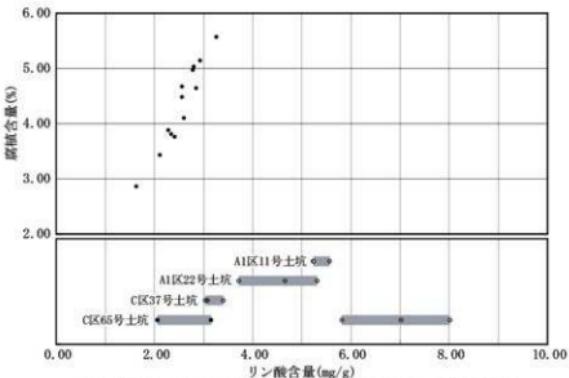
2) 土性: 土壤調査ハンドブック (ペドロジスト懇談会編, 1984) の野外土性による。

LiC: 軽埴土 (粘土 25 ~ 45%、シルト 0 ~ 45%、砂 10 ~ 55%)

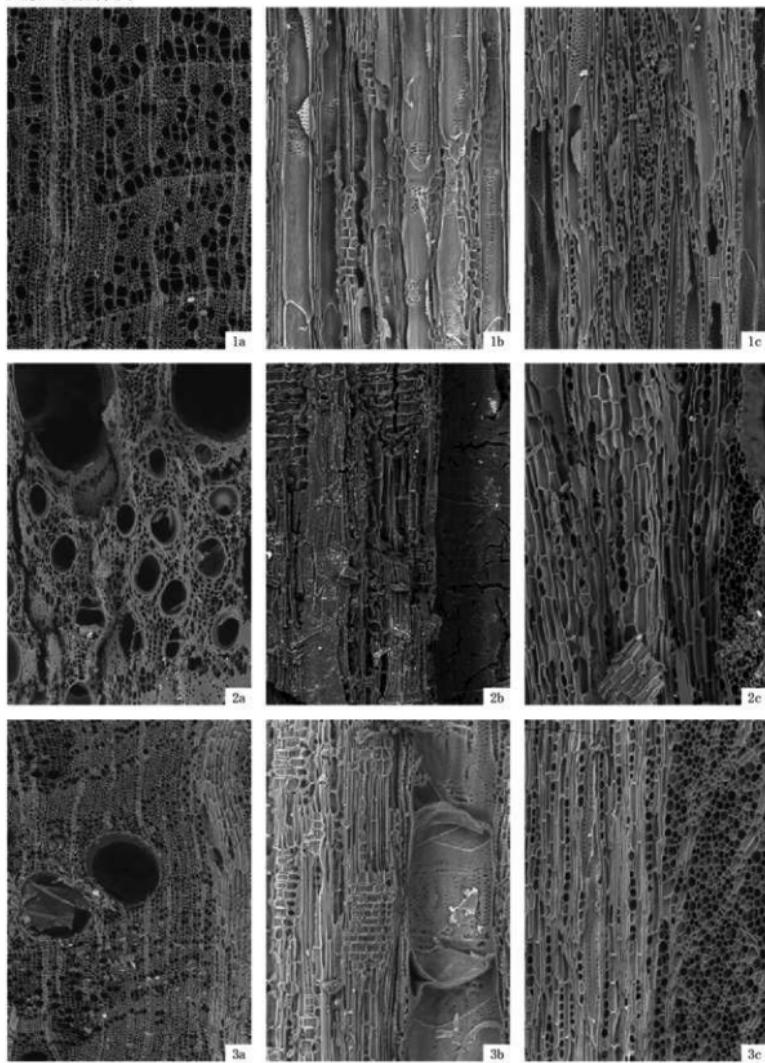
HC: 重埴土 (粘土 45 ~ 100%、シルト 0 ~ 55%、砂 0 ~ 55%)

表5. 骨同定結果

調査区	遺構名	試料名	種類	部位	左	右	部分	数量	備考
C区	31号土坑	歯1	ヒト	上顎第2大臼歯		右	歯冠部	1	
C区	31号土坑	歯2	ヒト	上顎犬歯	左		歯冠部片	1	
C区	31号土坑	歯3	ヒト	上顎第1小白歯		右	歯冠部	1+	
C区	31号土坑	歯4	ヒト	歯牙片			歯冠部片	9+	
C区	103号土坑	骨(1)	ニホンジカ?	中手骨/中足骨			遠位端片	1+	焼骨

図1. 美通遺跡(A2区, B3区)の腐植含量・リン酸含量の相関(上段)
および美通遺跡(A1区, C区)の各土坑のリン酸含量(下段)

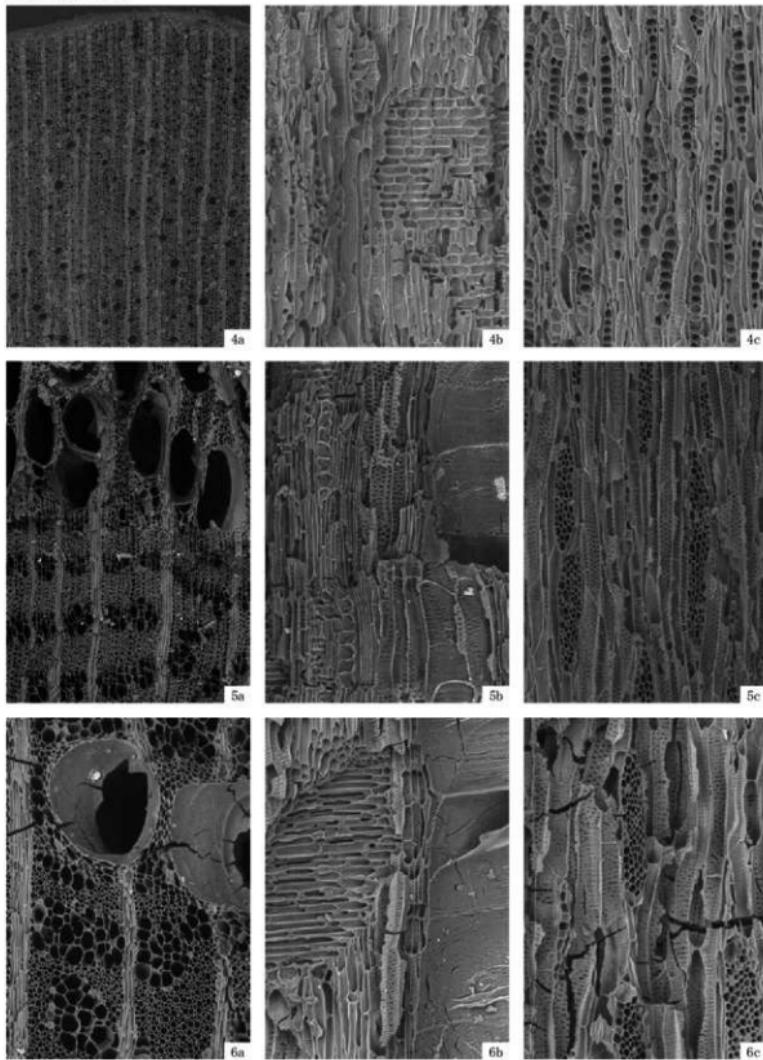
図版1 炭化材(1)



1. クマシデ属イヌシデ節(C区南4号住:C-6)
 2. コナラ属コナラ亜属クヌギ節(C区南2号住:炭化物No.3)
 3. コナラ属コナラ亜属コナラ節(A1区3号住:C-3)
- a:木口, b:柾目, c:板目

200 μ m:2-3a
200 μ m:1a, 2-3b, c
100 μ m:1b, c

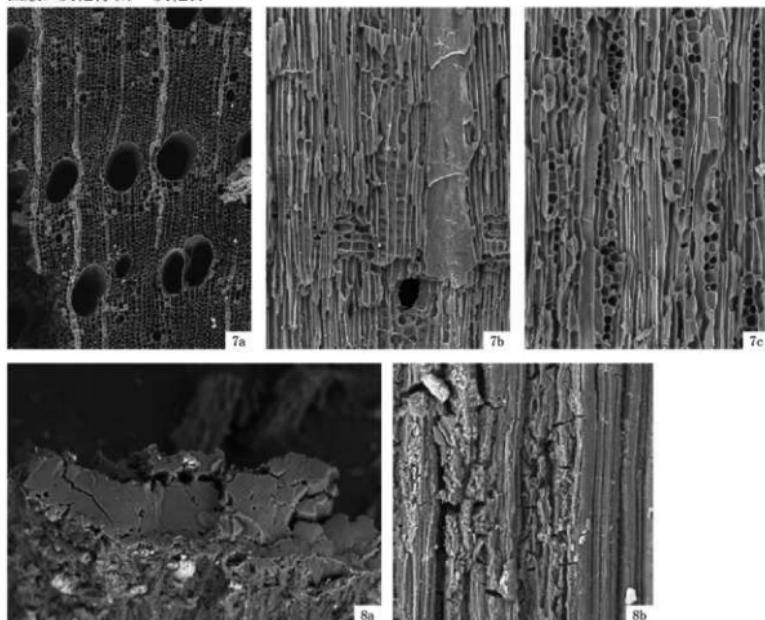
図版2 炭化材(2)



4. クリ (C区北3号住:C-1)
5. エノキ属 (A1区1号住:炭化物8)
6. ケヤキ (A1区42号:C-1)
a:木口, b:柾目, c:板目

200 μm:a
200 μm:b, c

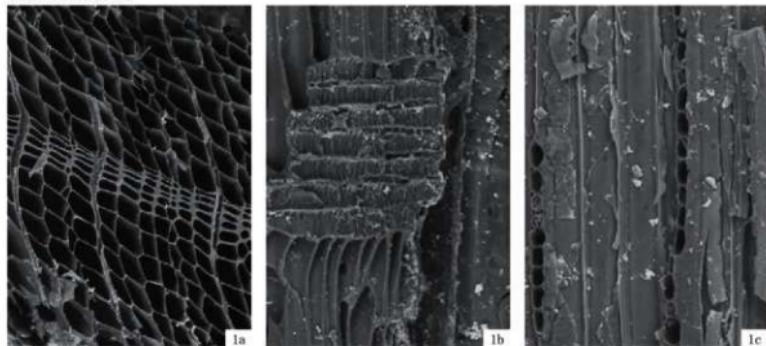
図版3 炭化材(3)・炭化物



7. トネリコ属(A1区3号住;C-10) a:木口, b:柾目, c:板目
8. 草本類(C区南1号住;C9) a:横断面, b:縦断面

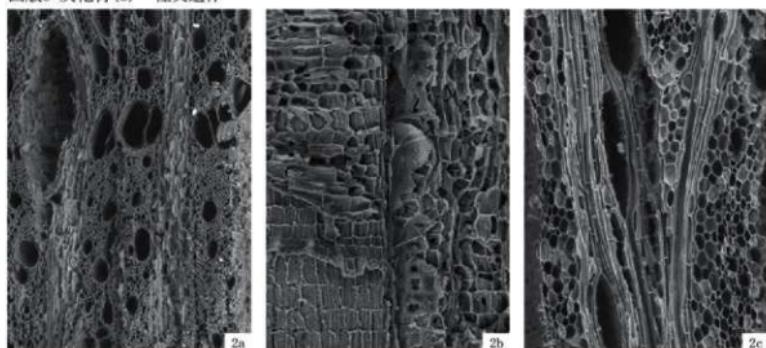
200 μ m:7a
200 μ m:7b, c
100 μ m:8a, b

図版4 炭化材(4)



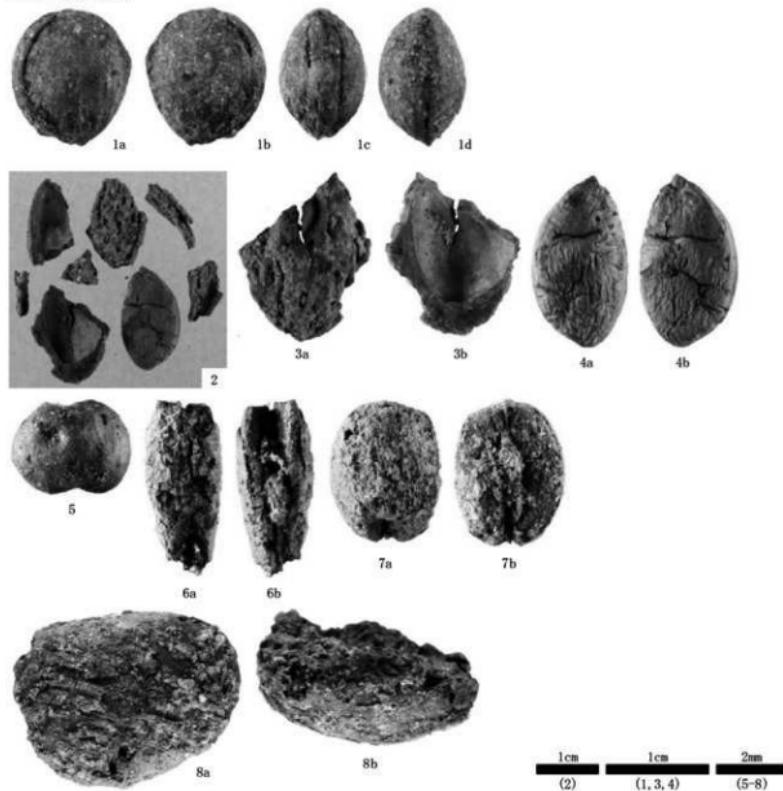
1. モミ属(A区2-3 3号住居跡; 繊集中)
a:木口, b:柾目, c:板目

図版5 炭化材(5)・種実遺体



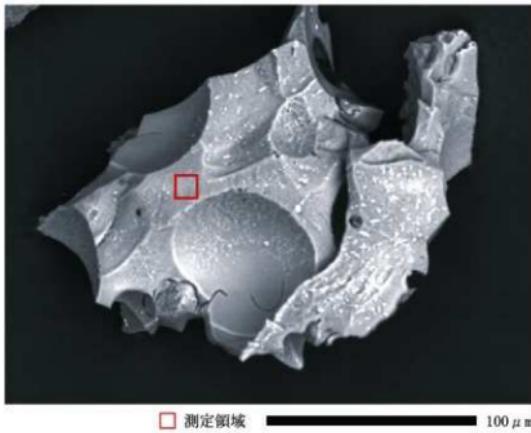
2. パラ属(A区2-3 2号住:カマド) a:木口, b:柾目, c:板目
3. モモ核(A区2-3 3号住:種子)

図版6 種実遺体



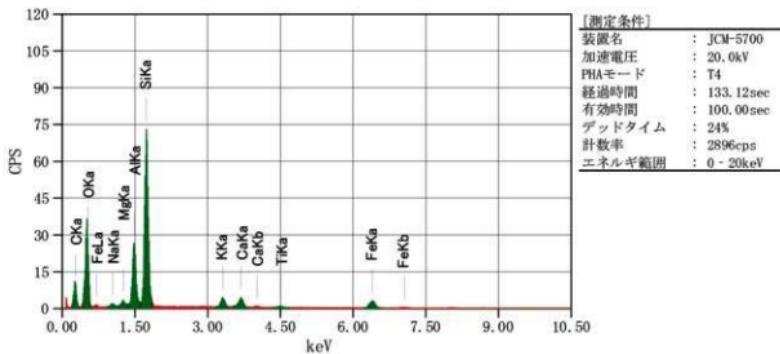
1. スモモ 核(C区(南) 1号住 06 (種))
2. モモ 核(C区(南) 1号住 C5 (種))
3. モモ 種子(C区(南) 1号住 C5 (種))
4. ウルシ属 核(C区南 4号住 C-5-②)
5. コムギ 胚乳(C区南 4号住 C-5-②)

6. オオムギ 胚乳(C区南 4号住 C-5-②)
7. マメ類 種子(C区南 4号住 C-5-②)



タイトル : A1区 PS49
装置 : JCM-5700
加速電圧 : 20.0kV
倍率 : x500
画像 : BES

□ 測定領域 ■ 100 μ m



ZAF法 簡易定量分析(酸化物)

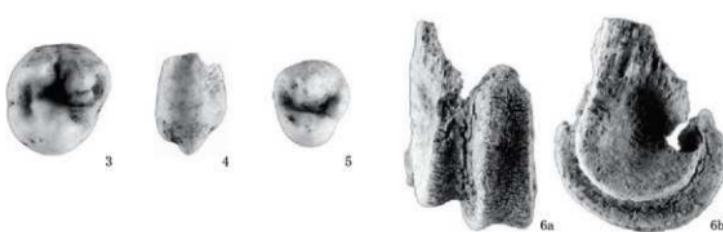
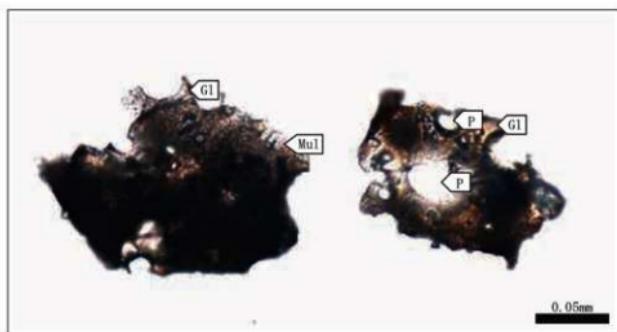
フィッティング係数 : 0.2471

全酸素数:24.0

元素	(KeV)	質量 (%)	誤差 (%)	モル (%)	化合物	質量 (%)	カオチン数	K
C K (禁止)								
O	47.91							
Na K	1.041	0.77	0.30	1.15	Na ₂ O	1.04	0.27	1.2647
Mg K	1.253	0.90	0.28	2.56	MgO	1.50	0.30	1.3250
Al K	1.486	10.03	0.29	12.80	Al ₂ O ₃	18.96	2.98	17.6012
Si K	1.739	29.93	0.36	73.37	SiO ₂	64.02	8.54	55.2037
K K	3.312	2.23	0.24	1.97	K ₂ O	2.69	0.46	5.3800
Ca K	3.690	2.45	0.32	4.22	CaO	3.43	0.49	6.2695
Ti K	4.508	0.46	0.47	0.66	TiO ₂	0.77	0.08	1.0078
Fe K	6.398	5.31	0.71	3.27	Fe ₂ O ₃	7.59	0.76	11.9481
合計		100.00				100.00	13.87	

図2. 須恵器片(09美トオシ A1区-PS49)内面黒色物質のSEM-EDS分析結果

図版7 須恵器片・黒色物質・出土骨



第3章 総括

第1節 美通遺跡の成果

美通遺跡の調査では、縄文時代に加えて、弥生時代、奈良～平安時代、中世までの遺構・遺物、そして、それ以降の時期が限定できない遺構や遺物が発見された。各調査区の特徴を示すと、A区1・A区2-3では、奈良時代から平安時代の遺構が中心で、住居跡8軒・掘立柱建物跡3棟など、この地域では新しい発見となった。また、A区2-1～2は、朝日川の影響を受けて遺構の残りは悪かったが、猿形土製品や墓坑に副葬された短刀などの遺物が発見された。C区では、縄文早期後半から前期にかけての住居跡や集石土坑、弥生時代の遺物包含層、中世の遺物を含む土坑など、様々な時代にわたる遺構・遺物の発見があった。この他にも、全調査区で発見されている時期の確定しにくい円形土坑・溝条遺構などがある。今回の総括では、調査区が細分され遺跡の性格が分かりにくいため、A区・C区の中から時代を限定して美通遺跡の様子を報告していく。

●縄文時代早期後半から前期末について

この時期の遺構・遺物は、住居跡1軒・集石土坑6基・遺物集中区1ヶ所などであり、C区北側の調査区のみで発見されている。C区北側は、都留バイパスの現工事予定地で最も北に位置しており、調査区の北側端から南側にかけて傾斜する地形がみられた。C区北側の端では、B区1でも確認されている約8,000年前の富士山の噴火で流れ出た猿橋溶岩が検出されている。

縄文時代早期末では、1号遺物集中区が調査区中央よりやや北東の位置L-19グリッド、住居跡がそれより南側O-20・21グリッドから検出された。その間ほどにあるM-20グリッドからも縄文時代早期後半頃の深鉢形土器が出土している(第79図-305)。1号遺物集中区は、前期末の条痕文が施された土器片(第78図-295)と緑色凝灰岩の刺片(第85～87図)などが、直径2mほどの範囲で検出されたものである。竪穴のような掘り込みは確認出来なかった。3号住居跡は、覆土に焼土と炭化物が混ざり、中央付近に地床がある。遺物は少なく、床面近くで確認された台石(第84図-438)のみであった。出土した炭化材から年代測定を試みたところ、 $6,345 \pm 30\text{yrBP}$ の測定結果を得た。出土した遺物などと照合して、これらの遺構は、縄文早期後半から前期初頭のものと考えている。猿橋溶岩が流れた、約1,500年後の事である。

縄文時代前期末では、集石土坑6基が検出された。2号集石土坑内で出土した炭化材から年代測定を試みた結果、 $4,900 \pm 25\text{yrBP}$ の測定結果を得た。これは、縄文時代前中期から中期初頭と推定されている。6基の様子は若干異なり、拳大から掌大の礫を詰め込んだようなタイプと、土坑の壁に平石を敷き詰め、その後、礫を詰め込んだようなタイプが存在する。周辺で出土した遺物は、諸磯式土器片が多いため、ほぼ同時期に構築されたものと考えている。

●奈良・平安時代について

この時期の遺構・遺物は、A区1・A区2-3・C区から検出されている。遺構から検出された炭化材などの分析によると、A区2-3の3号住居跡が奈良時代でも若干古めで、A区1の1号住居跡とA区2-3の2号住居跡が奈良時代、A区1の3号住居跡が平安時代前半(9世紀代)、A区1の4号住居跡とC区1・2・4号住居が、平安時代後半(11世紀前半～12世紀中頃)との暦年代が出されている。出土した遺物の観察からも指示できる結果である。分析を行っていないA区1の2・5号住居跡、A区2-3の1号住居跡は、前者が8世紀前半・後者が9世紀前半となる。

8世紀前半の住居跡は、A区1の2号住居跡を中心とするA区1の1・5号住居跡グループとA区2-2・3号住居跡のグループに分けられる。前者は西壁の中央にカマドをもつもので、後者は北壁にカマドをもつという、様相が少し異なる状態である。また、A区2-3の3号住居では、カマドの両袖にあたる部分の上層から須恵器蓋が内側を上にして出土している。これは、カマドの廃棄に伴う祭祀と考えられ、同様の例が、南アルプス市大

塚遺跡B区9号住居址で検出されている。このような祭祀は、3号住居跡でしか確認されていない。9世紀前半のA区1の3号住居跡はカマドが検出されていないが、A区2-3の1号住居跡では東壁にカマドが作られる。3号住居跡から出土した須恵器表の内側に塗布された黒色物質の成分分析を行った結果、ガラス質の物質であり、漆のような植物性のものではなかった。11世紀末～12世紀中頃のA区1の4号住居跡、C区-1・2・4号住居跡ではC区2・4号住みカマドが検出され、それは東壁につくられていた。この時期の住居内からは、ほとんど遺物が検出できなかったが、壁際に周溝が作られる傾向にある。また、C区1号住居跡では、炭化した繩状炭化材が出土し、竹のような繊維を編んだものとの結果がでている。又、県内でも珍しい、スモモの種子が2点検出されている。又、スモモの核が2点検出されている。のことから、果樹利用が明らかとなった。

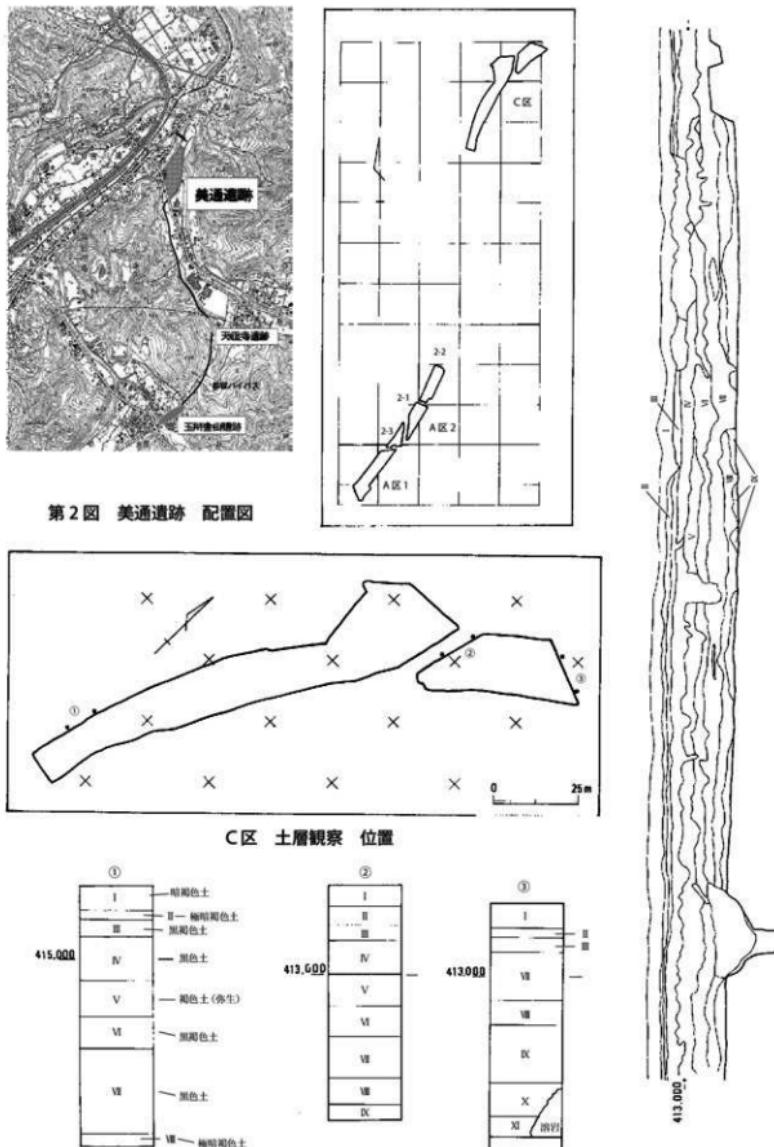
● 13世紀～14世紀について

C区南側の北端南北20m、東西30mほどの範囲は、調査区のなかで最も黒色土の堆積が厚い。この締まりの欠ける黒色土中から陶器片や礫が点在する様子、焼土遺構6カ所ほどが検出された。31土・37土・65土の周辺部分である。この周辺は、黒色土中では焼土遺構以外の遺構は検出しにくいが、この土を取り除く際には、31号・37号土坑が検出された。黒色土が掘削し終わると、38・39・65号土坑が発見される。この中で、31・65号は墓坑と考えられる。

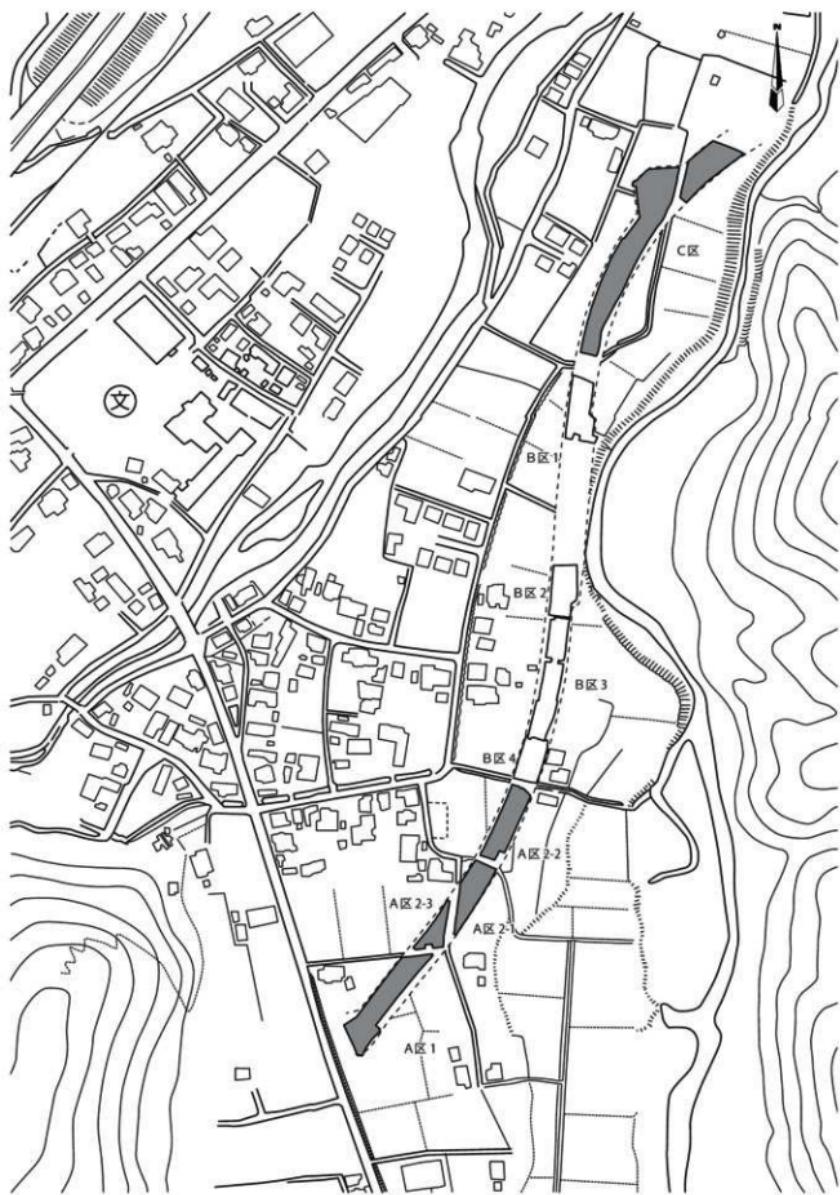
31号土坑は、短刀を副葬品とする墓坑である。確認された時は、すでに土坑の底部に近く、頭骨片・歯牙が出土した。出土した4点の歯牙の種別同定を行った結果、「成年(16～20歳程度)に達していないものの、それに近い年齢」との推定が出された。65号土坑は、瀬戸産と思われる鉄軸小壺(13世紀～14世紀頃)を伴う土坑である。ここでは、土坑内の土壤からリン分析と年代測定を行った。その結果、分析した3点の資料とも、対照資料とした土坑外の土壤より、リン酸の含有量が高めであった。また、土壤から水洗選別で検出した炭化種実(コムギ胚乳)の分析は、630±yrBP・13世紀末から14世紀後半という結果であった。37号土坑は、在地産の陶器表胸部下から底部までが正位の状態で埋められていた。底部は穿孔されていたため、陶器内の土壤をリン分析したが、含有量はそれほど高くないという結果がでた。これらの分析結果や、遺構・遺物の出土状況などから、13世紀から14世紀頃に、この辺りで、墓域としての土地利用があった可能性がてきた。しかし、後世の開墾などによって掘削され、この辺りだけがかろうじて残ったものであろう。また、65号土坑が検出される直上には、焼土遺構があった。31号土坑の周辺でも同じレベルか、それより上層から焼土遺構が検出される状況が見られる。焼土が薄く、長い時間火がかけられたものではないため、その正確が疑問であったが、今回の調査においては、中世の土坑との関連性が指摘出来よう。今後の調査と検討に課題を残すことになった。

参考文献

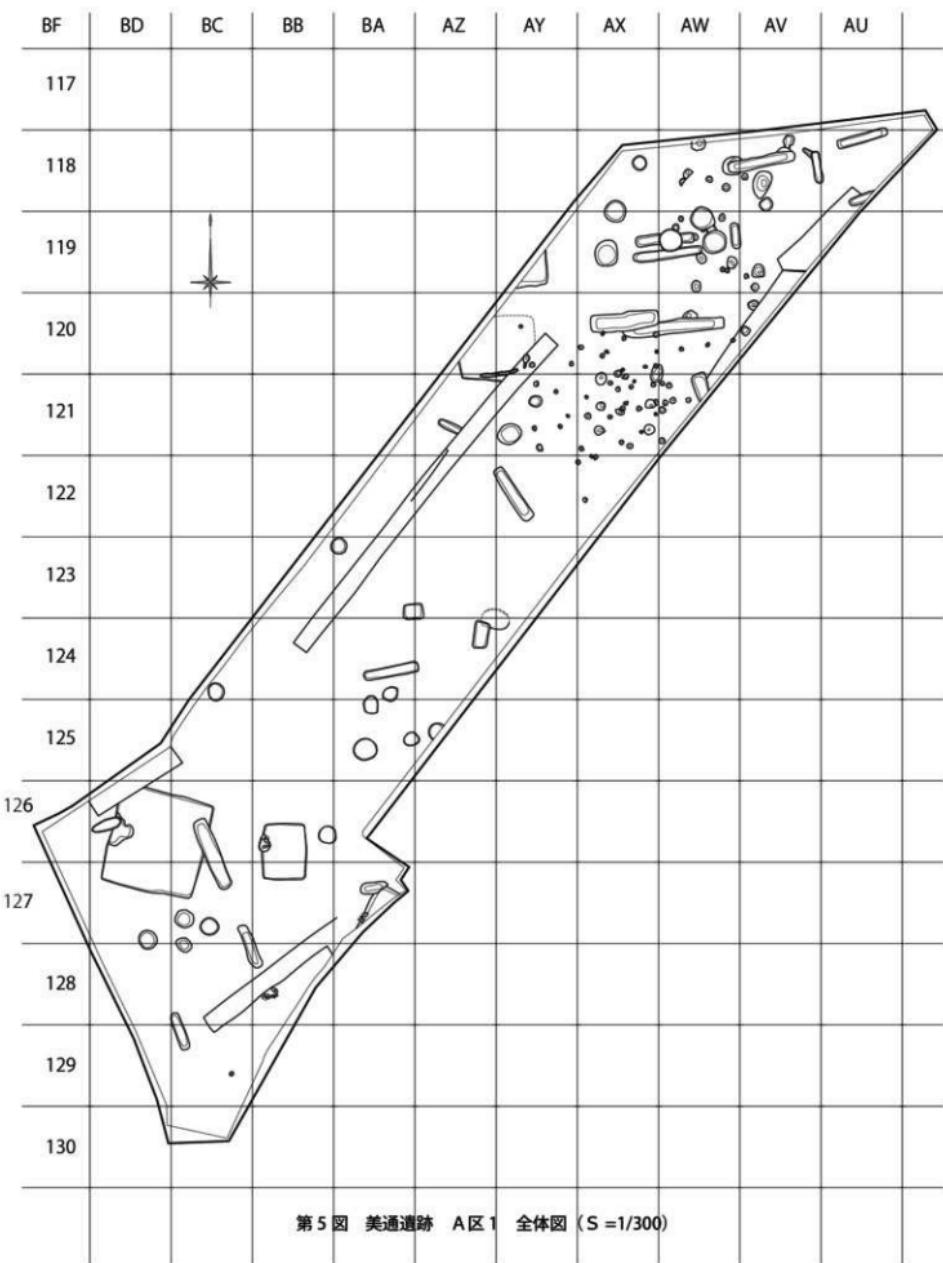
- 都留市教育委員会 1986『都留市史』資料編 地史・考古
山梨県 1999『山梨県史』資料編2 原始・古代2 考古(遺構・遺物)
山梨県 2004『山梨県史』通史編1 原始・古代1
山梨県教育委員会 1996『九鬼II遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告第118集
山梨県教育委員会 2007『天正寺遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告第248集
山梨県教育委員会 2009『玉川金山遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告第261集
小学館 1977『世界陶器全集3 日本中世』



第3図 美通遺跡C区 土層断面図



第4図 美通遺跡 調査区位置図 ($S=1/3000$)



第5図 美通遺跡 A区1 全体図 ($S = 1/300$)

AW AV AU AT AS AR AQ AP AO AN AM AL AK AJ AI AH

96

97

98

99

100

101

102

103

104

105

106

107

108

109

110

111

112

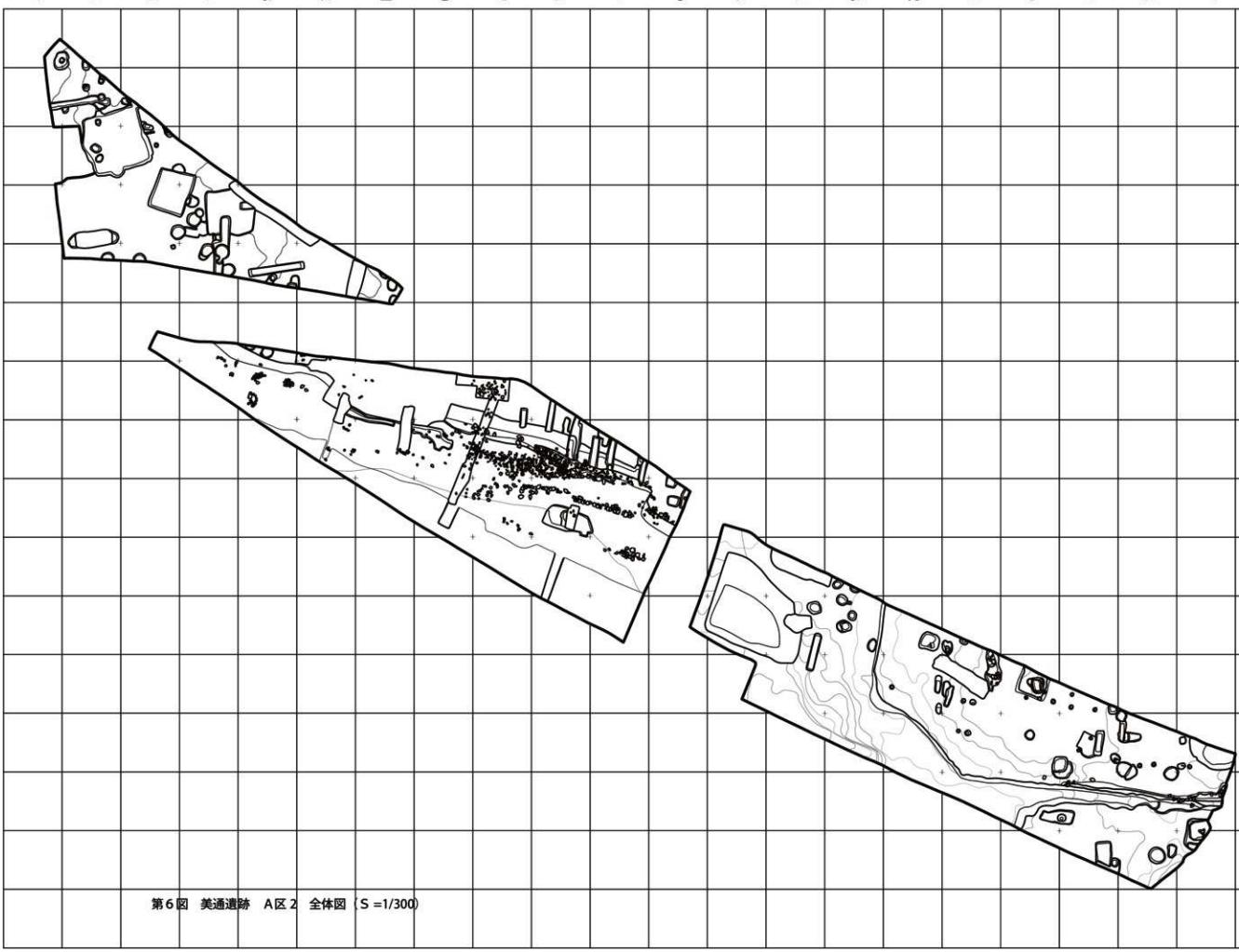
113

114

115

116

117



第6図 美通遺跡 A区2 全体図 (S=1/300)

AC AB AA Z Y X W V U T S R Q P O N M L K J I

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

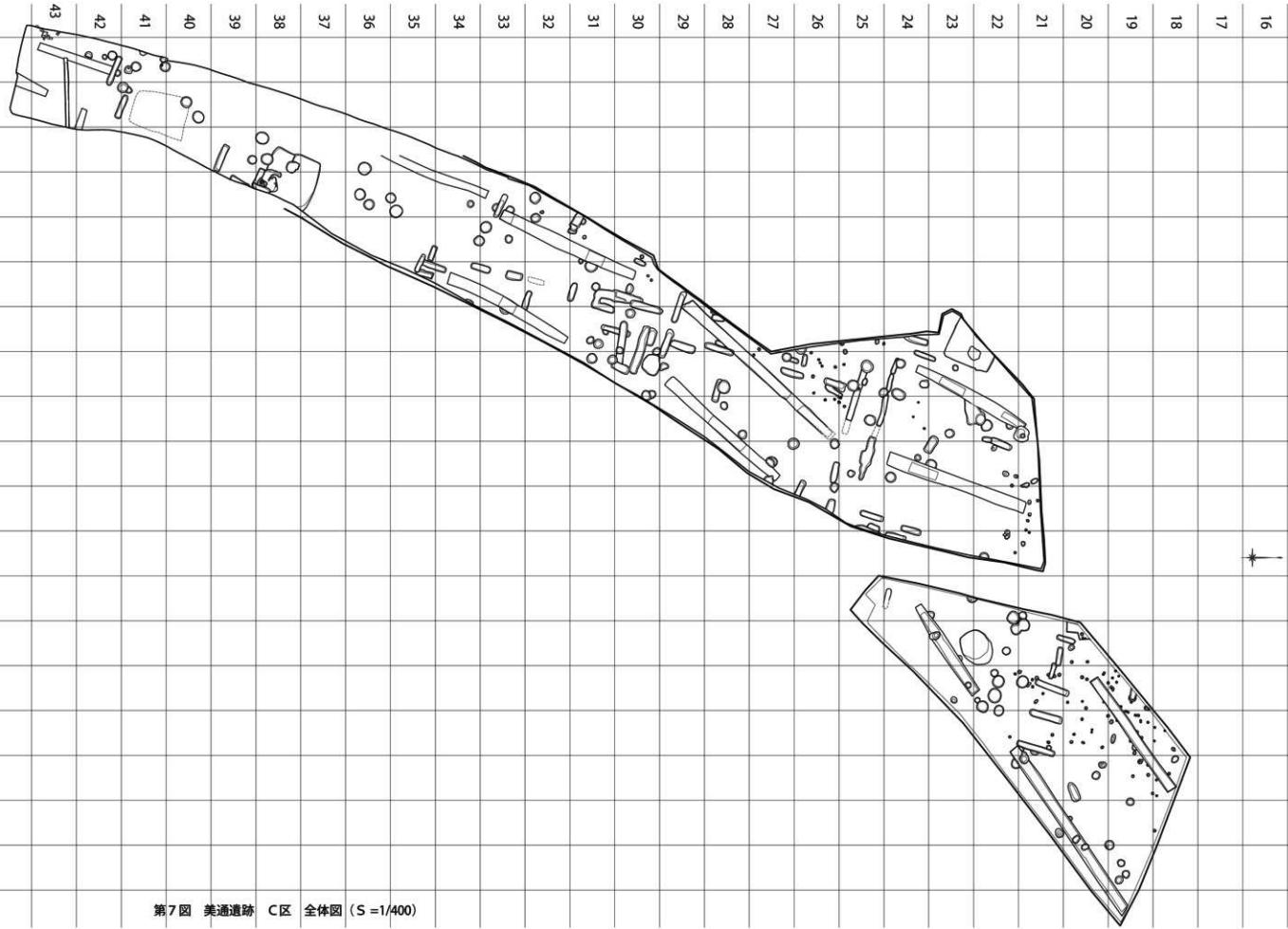
40

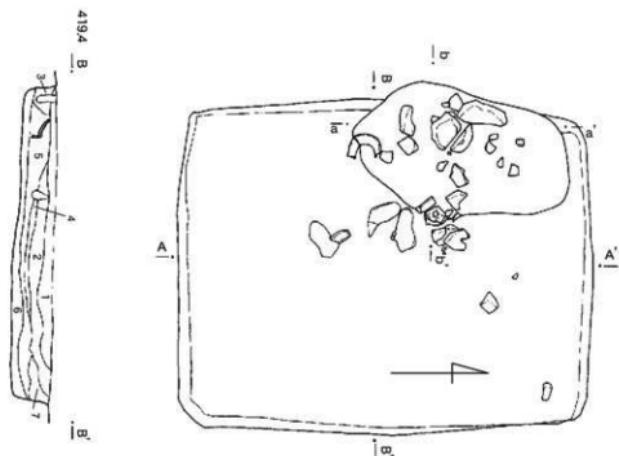
41

42

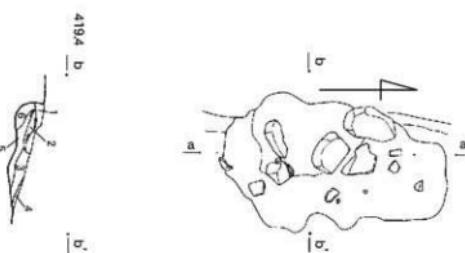
43

第7図 美通遺跡 C区 全体図 ($S = 1/400$)

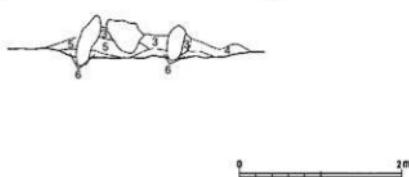




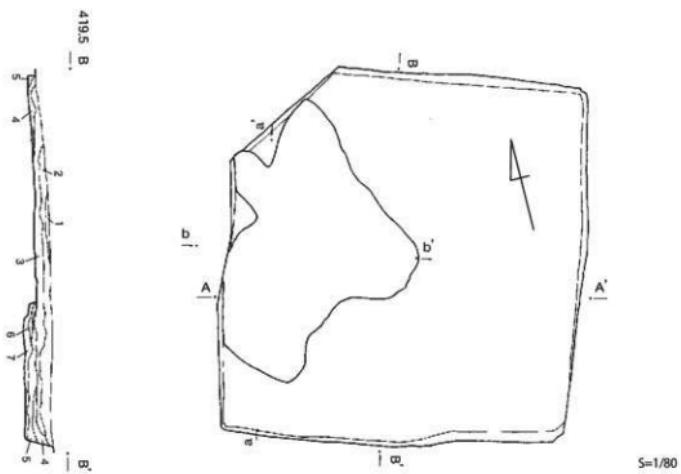
- 1住
1. 黒色土 繰りあり、粘性欠ける
 2. 黒色土 繰りあり、粘性やや欠ける
 3. 黒褐色土 繰り欠け、粘性やや欠ける
 4. 黒色土 繰り強く、粘性欠ける。住居床面
 5. 極暗褐色土 繰りややあり、粘性欠ける
 6. 極暗褐色土 繰りややあり、粘性あり
 7. 黒色土 繰り欠け、粘性ややあり



- 1住カマド
1. 暗褐色土 繰り・粘性欠ける（焼土）
 2. 灰褐色土 繰りややあり・粘性欠ける
 3. 暗褐色土 繰り・粘性欠ける
 4. 暗褐色土 繰り欠け、粘性ややあり
 5. 暗褐色土 繰りややあり、粘性かける
 6. 極暗褐色 繰り・粘性ややあり



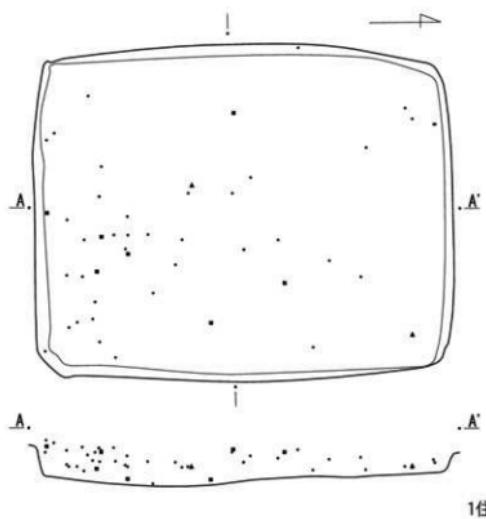
第8図 A区1 遺構平面図及び断面図（1号住居跡）



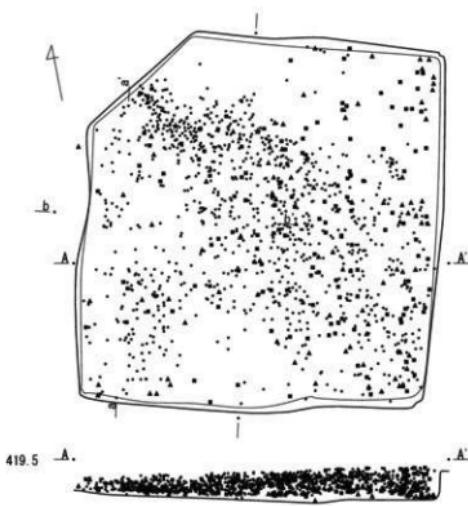
- 2住
1. 黒褐色土 繊り欠け、粘性かける。炭含む。
 2. 黒褐色土 繊り欠け、粘性かける。大きめの炭化物少し含む。
 3. 黒褐色土 繊りややあり、粘性少しある。灰を含む。
 4. 黑褐色土 繊りややあり、粘性かける。
 5. 黒色土 繊り欠け、粘性あり。4層より少し黒い。
 6. 黑褐色土 繊り強い、粘性欠ける。炭・焼土入る。
 7. 黑褐色土 繊りあり、粘性あり。炭少しある。



第9図 A区1 遺構平面図及び断面図（2号住居跡）

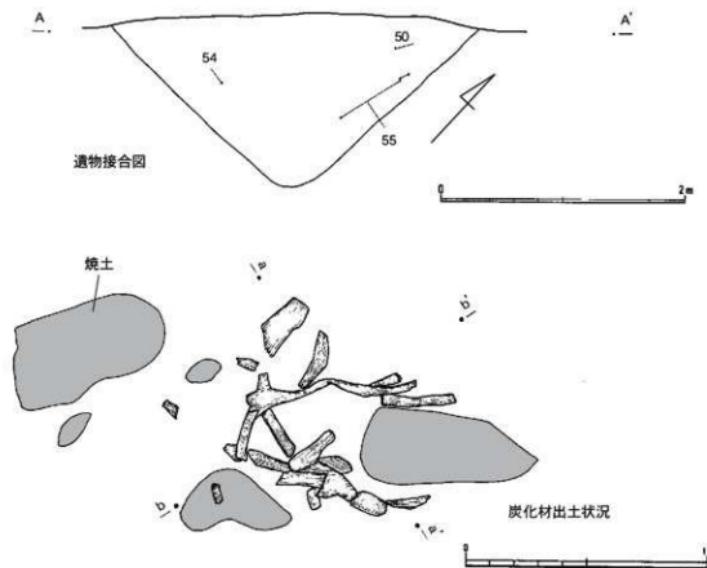
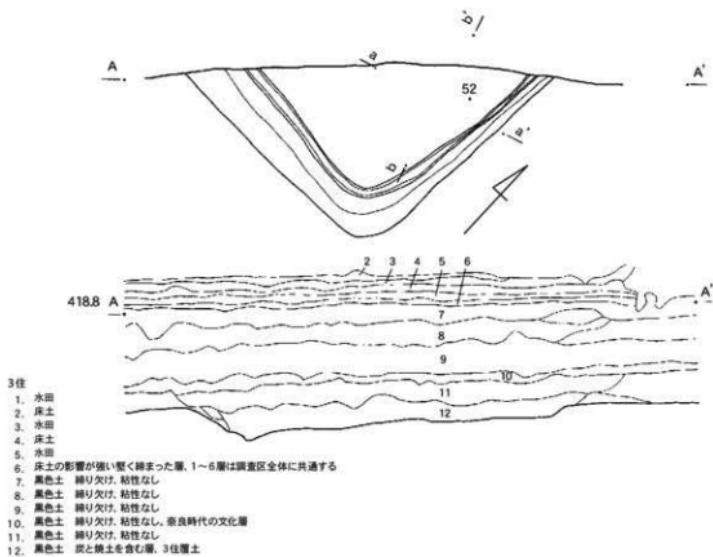


1住

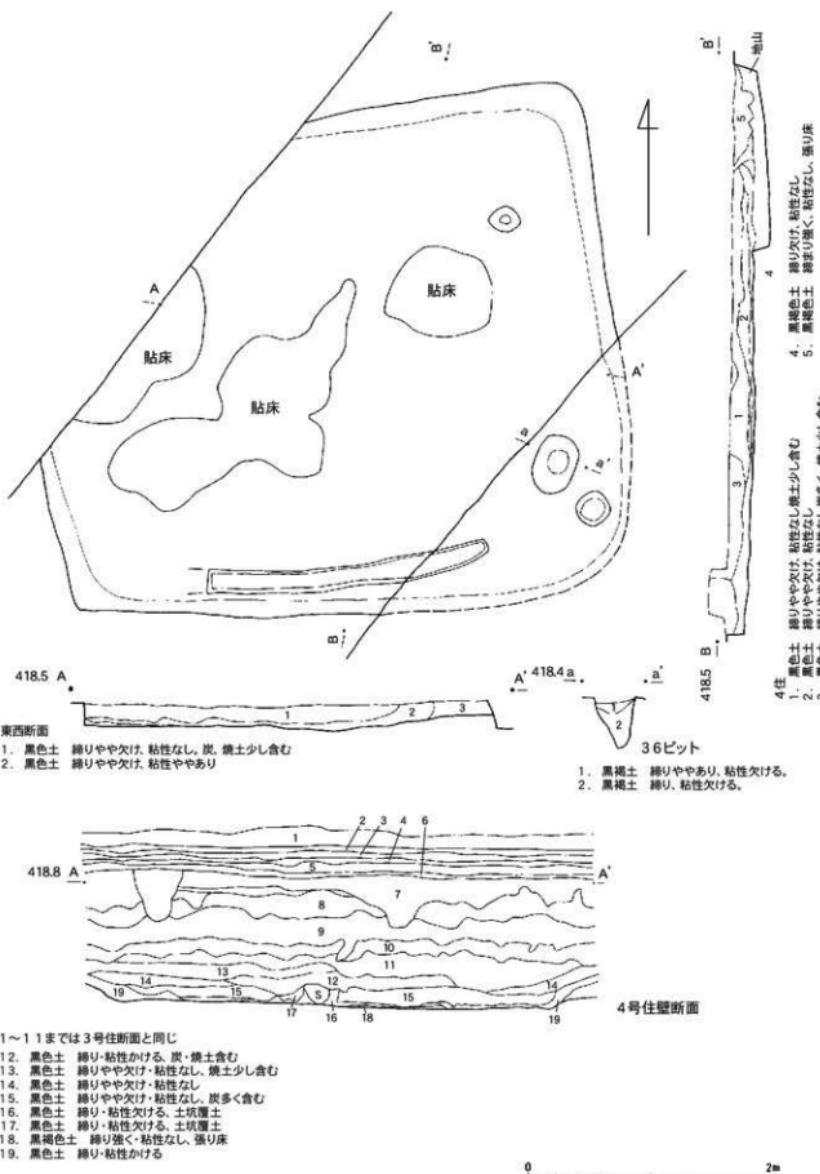


2住

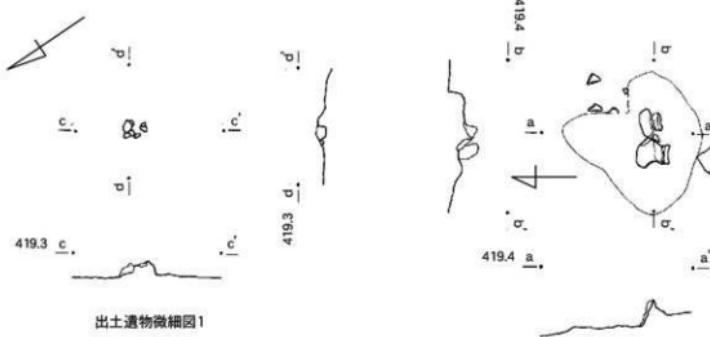
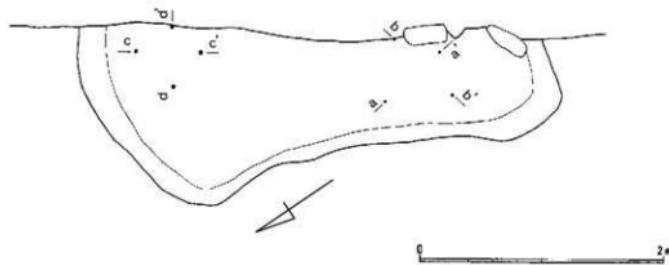
第10図 A区1 遺構平面図及び断面図 (1・2号住居跡遺物分布図)



第11図 A区1 遺構平面図及び断面図（3号住居跡）

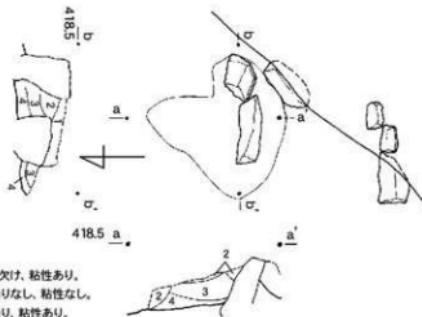


第12図 A区1 以降平面図及び断面図 (4号住居跡)



出土遺物微細図1

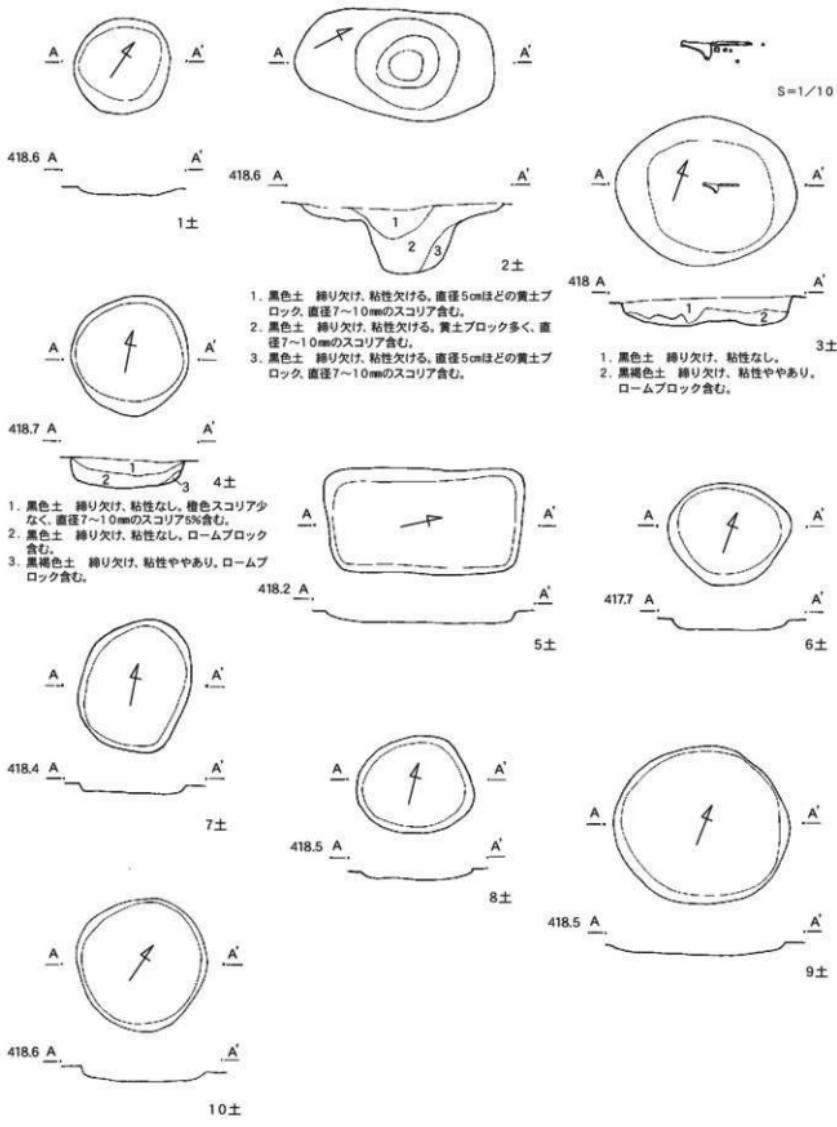
出土遺物微細図2



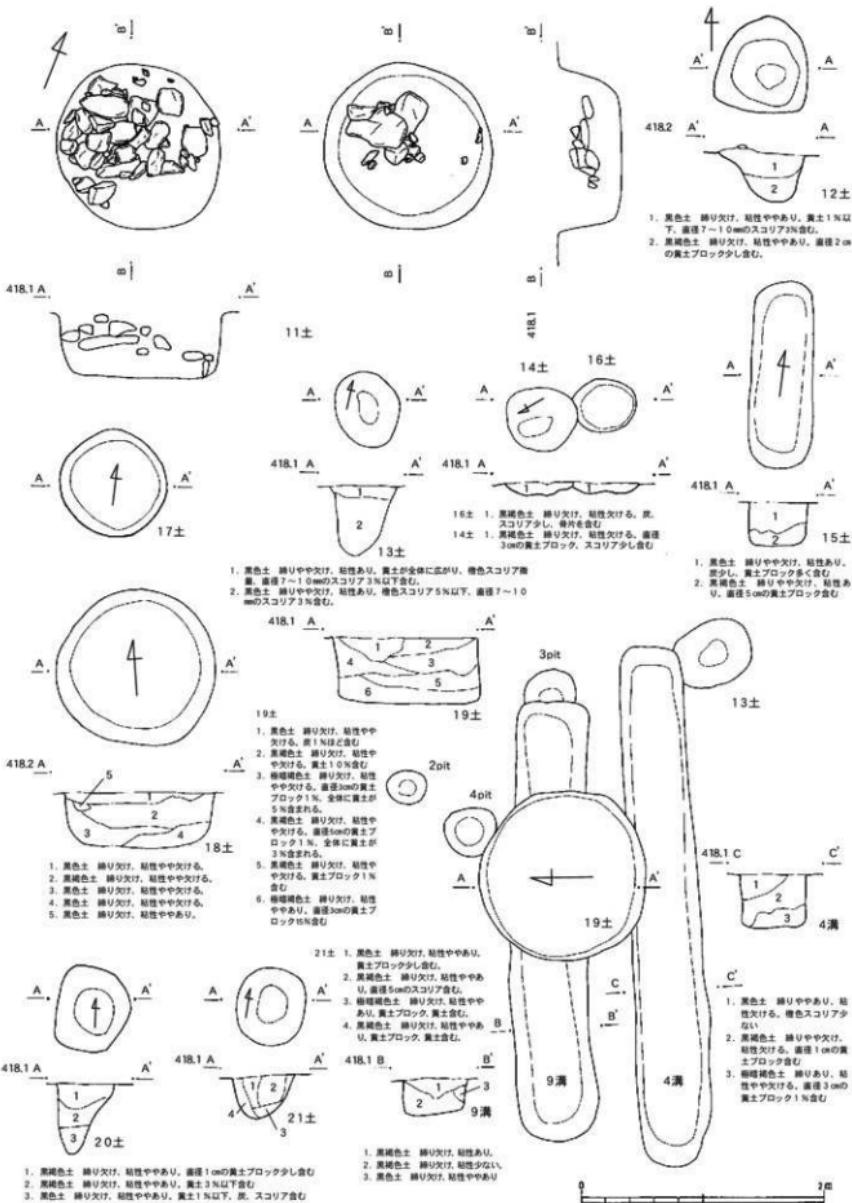
1. 黒色土 繊り欠け、粘性あり。
2. 明褐色土 繊りなし、粘性なし。
3. 明褐色土 繊り、粘性あり。
4. 黒褐色土 繊り、粘性あり。



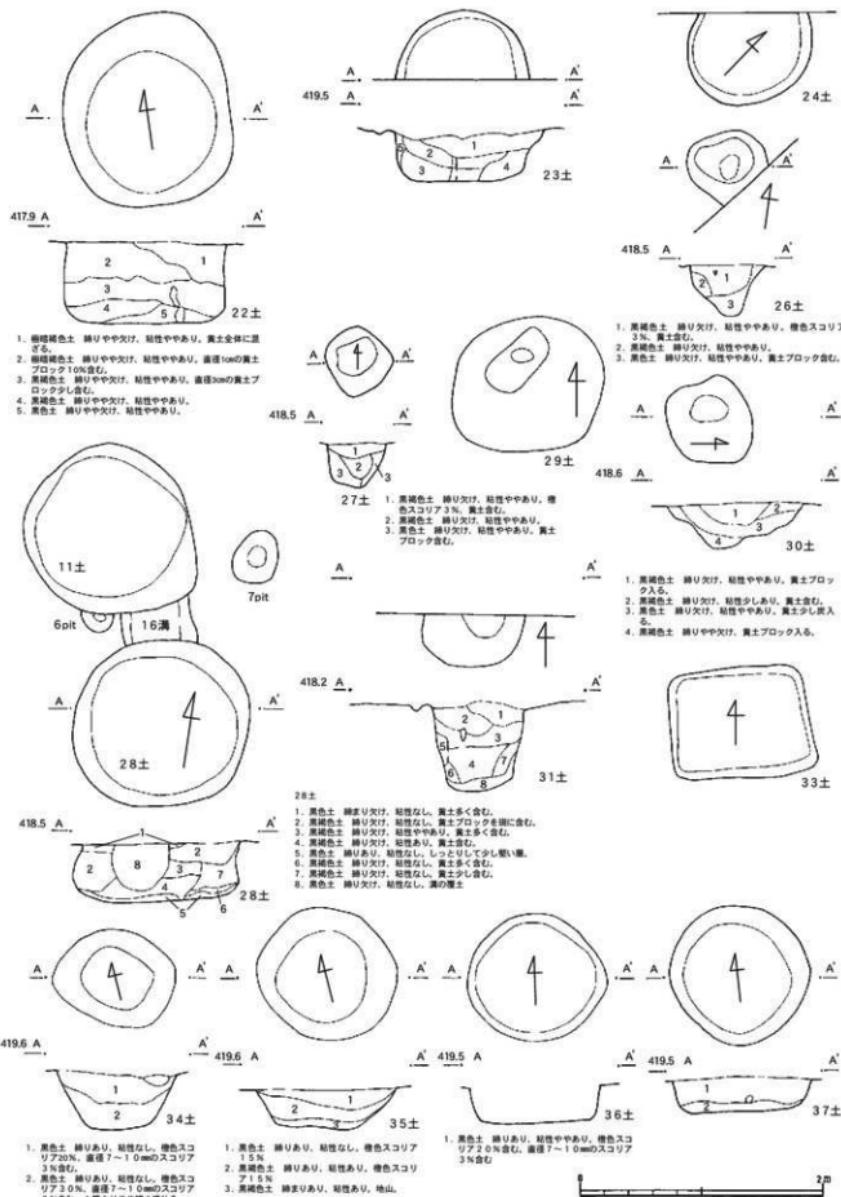
第13図 A区1 遺構平面図及び断面図 (5号住居跡)



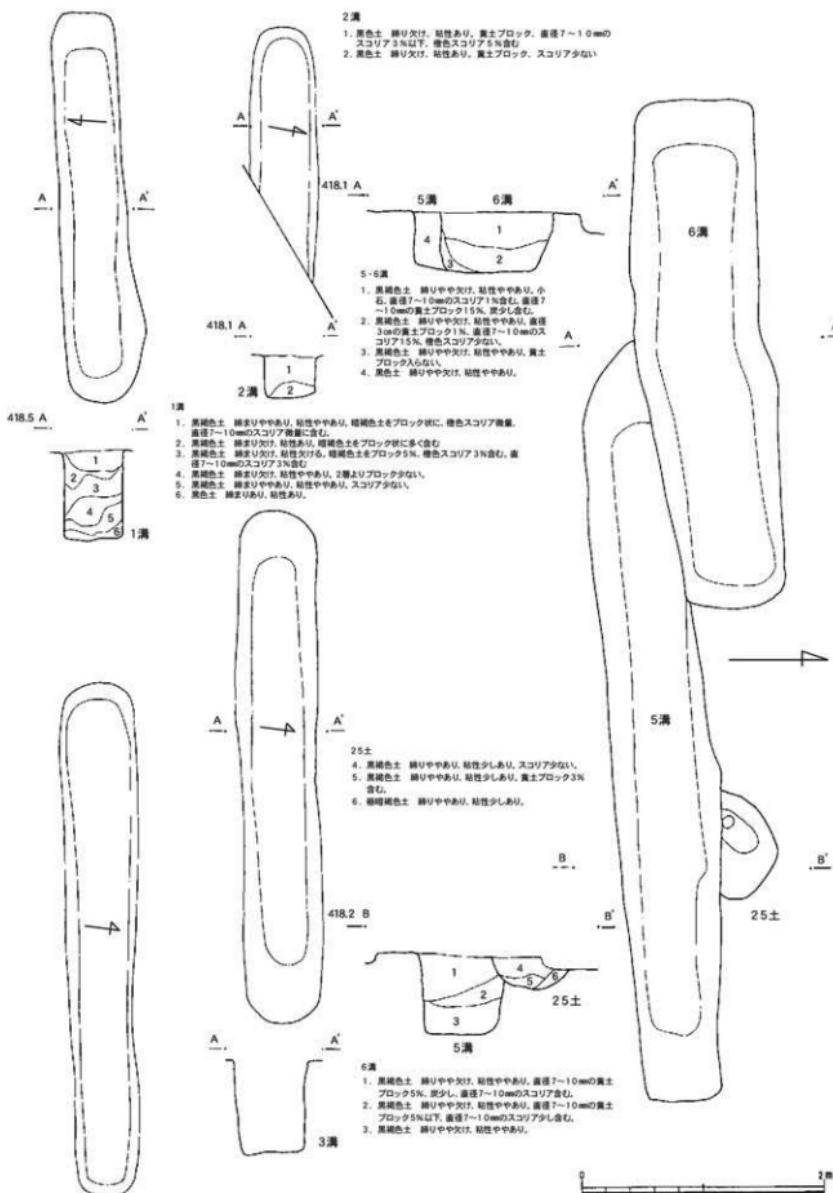
第14図 A区1 遺構平面図及び断面図 (1 ~ 10号土坑)



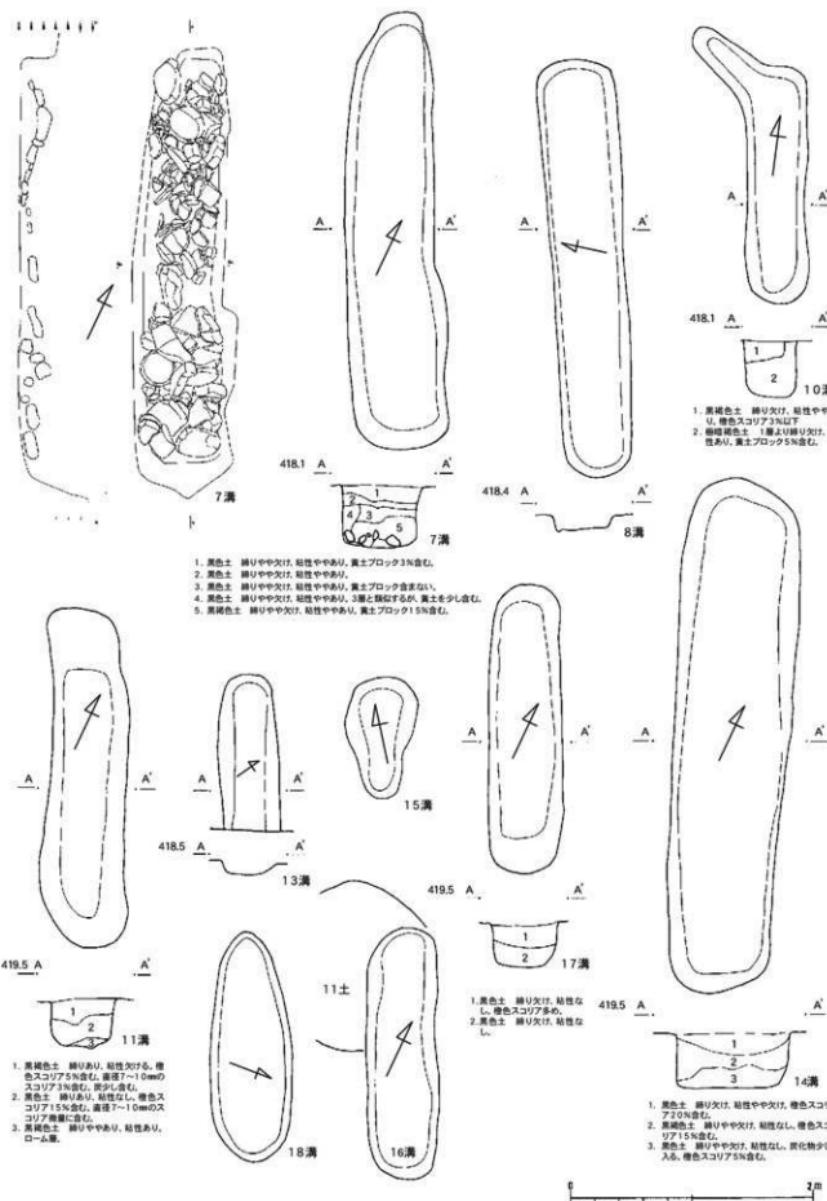
第15図 A区1 遺構平面図及び断面図 (11~21号土坑、4・9号溝状遺構)



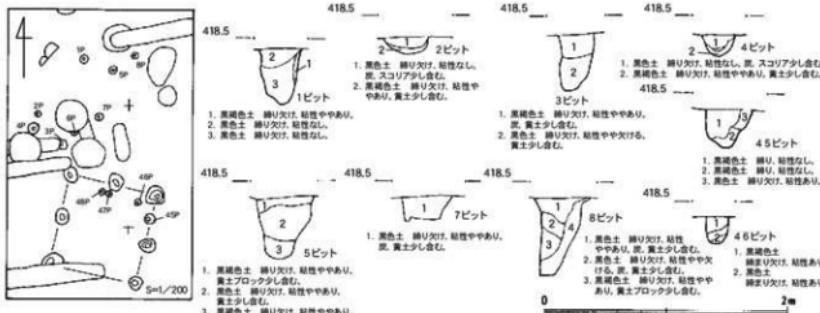
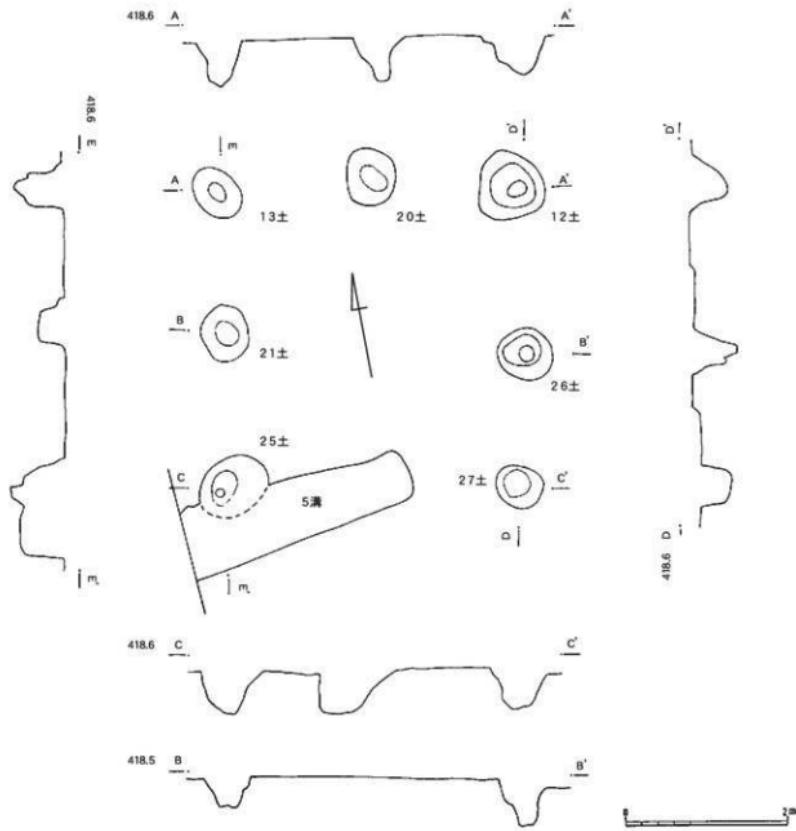
第16図 A区1 遺構平面図および断面図 (22号～37号土坑)



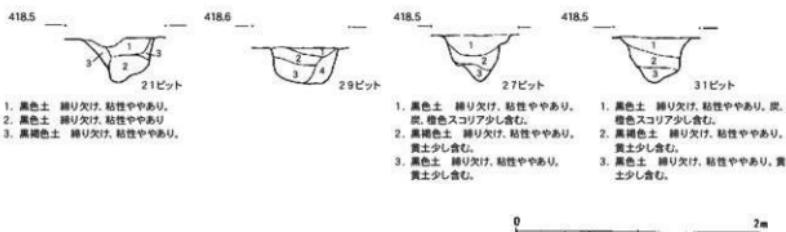
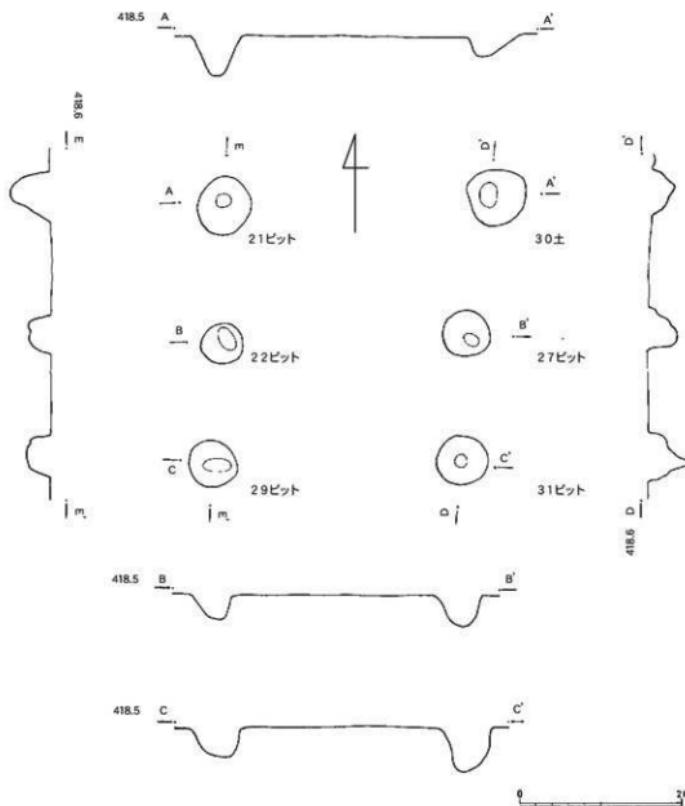
第17図 A区1 遺構平面図および断面図（1～3・5・6号溝状遺構、25号土坑）



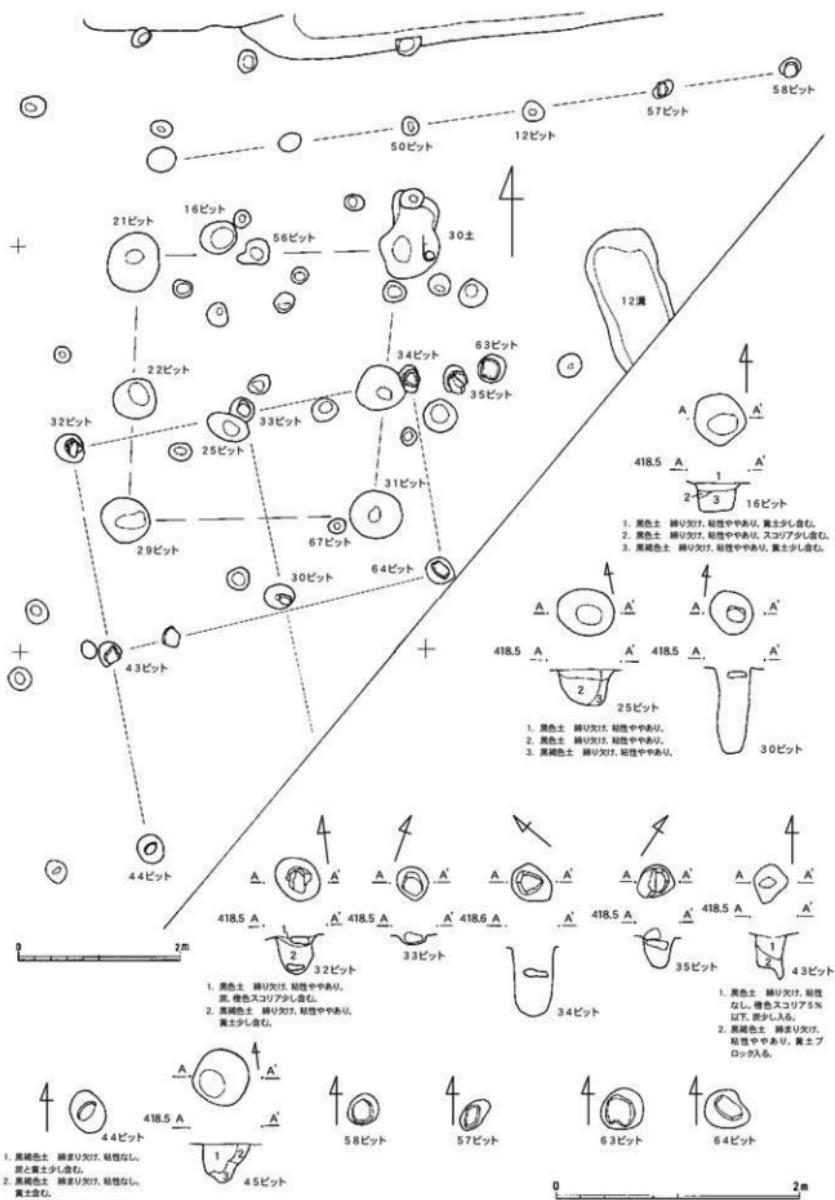
第18図 A区1 遺構平面図および断面図 (7・8・10～18溝状遺構)



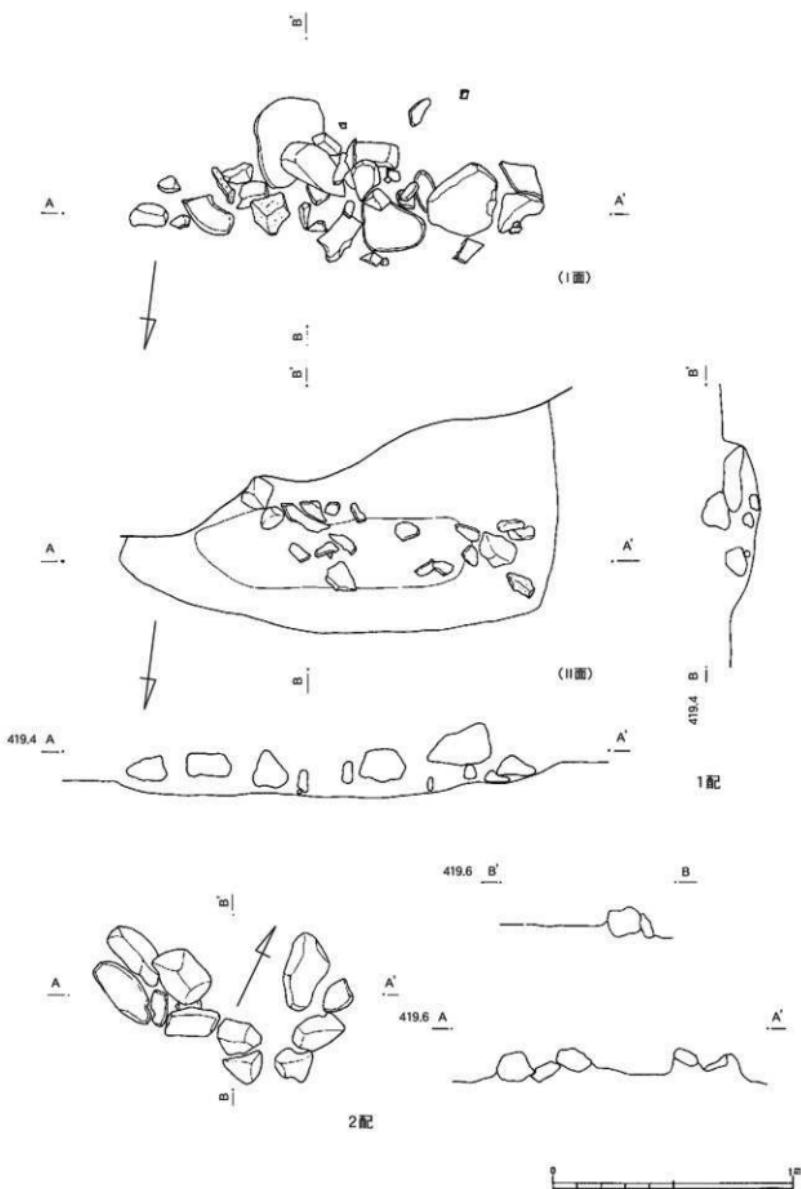
第19図 A区1 遺構平面図および断面図（1号掘立柱建物跡とピット群）



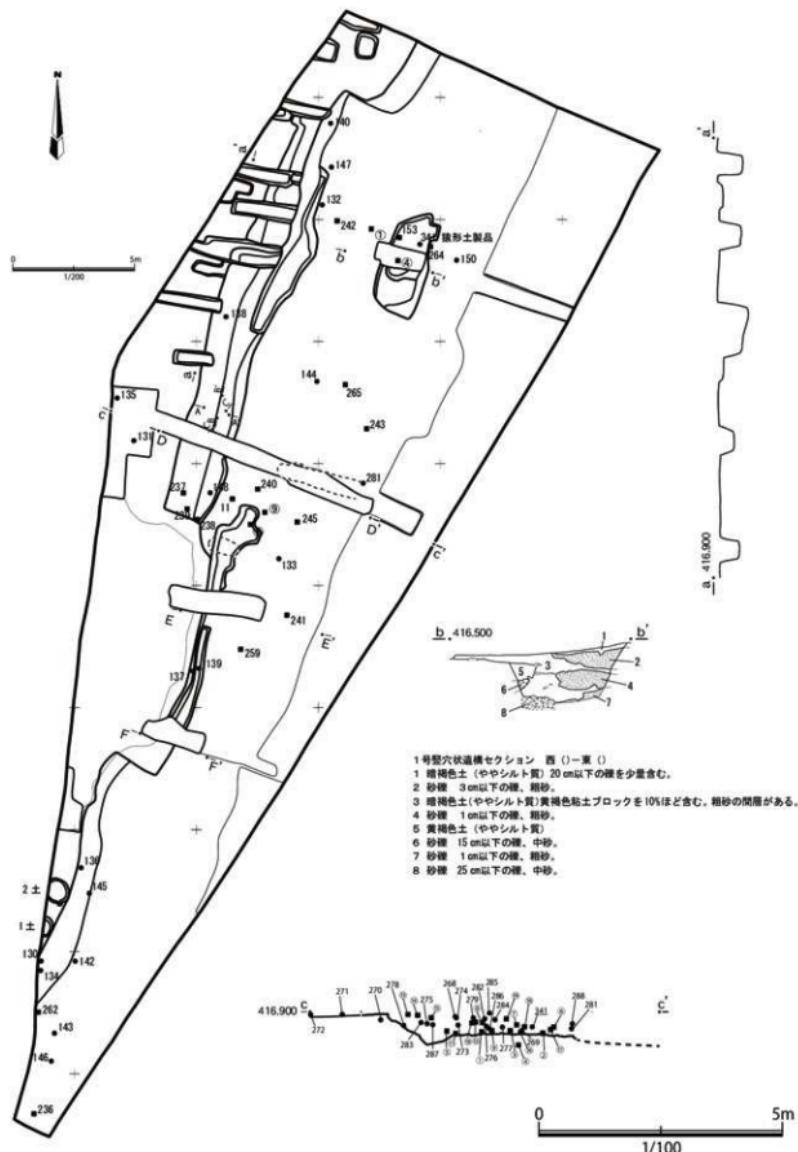
第20図 A区1 遺構平面図および断面図（2号掘立柱建物跡）



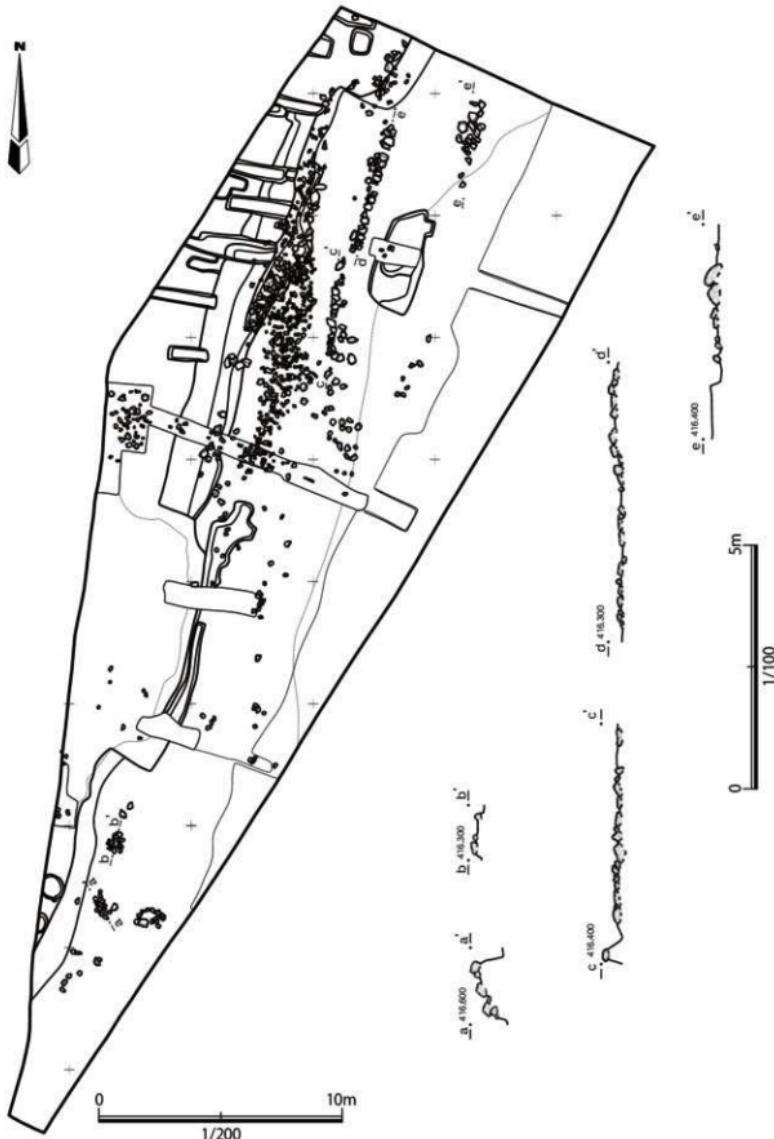
第21図 A区1 遺構平面図および断面図 (2・3号掘立柱建物跡と1号柱穴列)



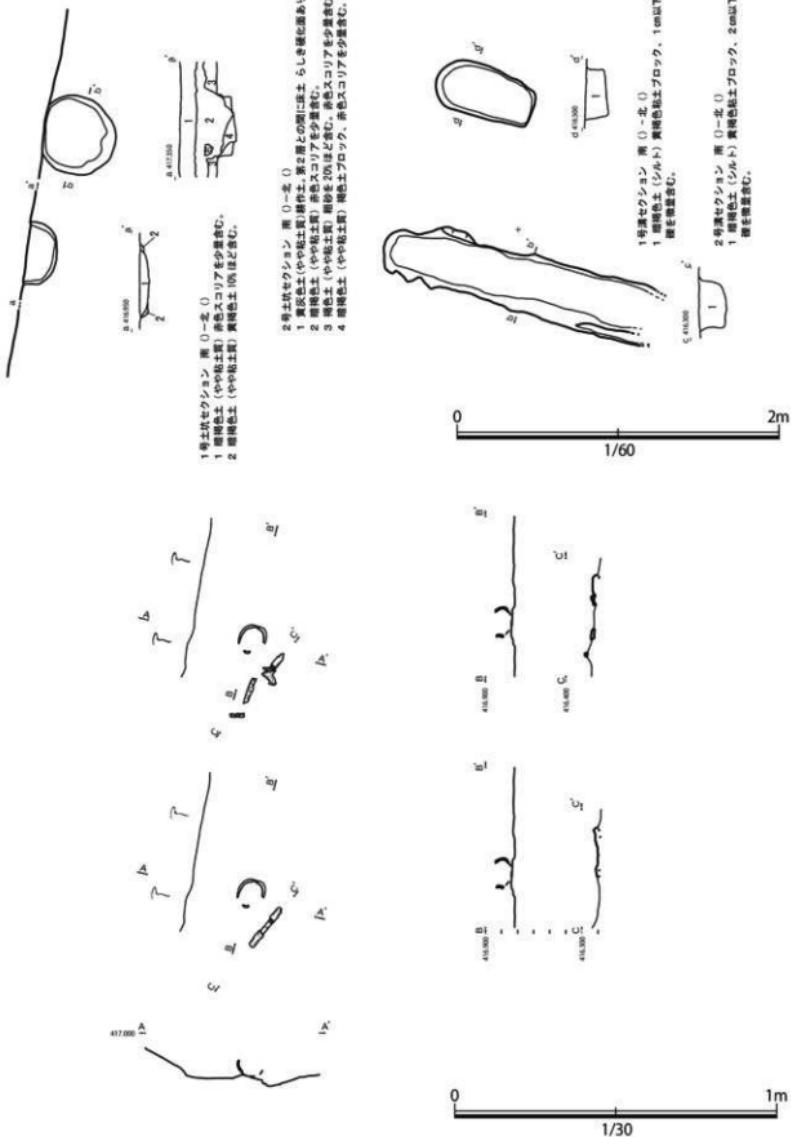
第22図 A区1 遺構平面図および断面図 (1・2号配石遺構)



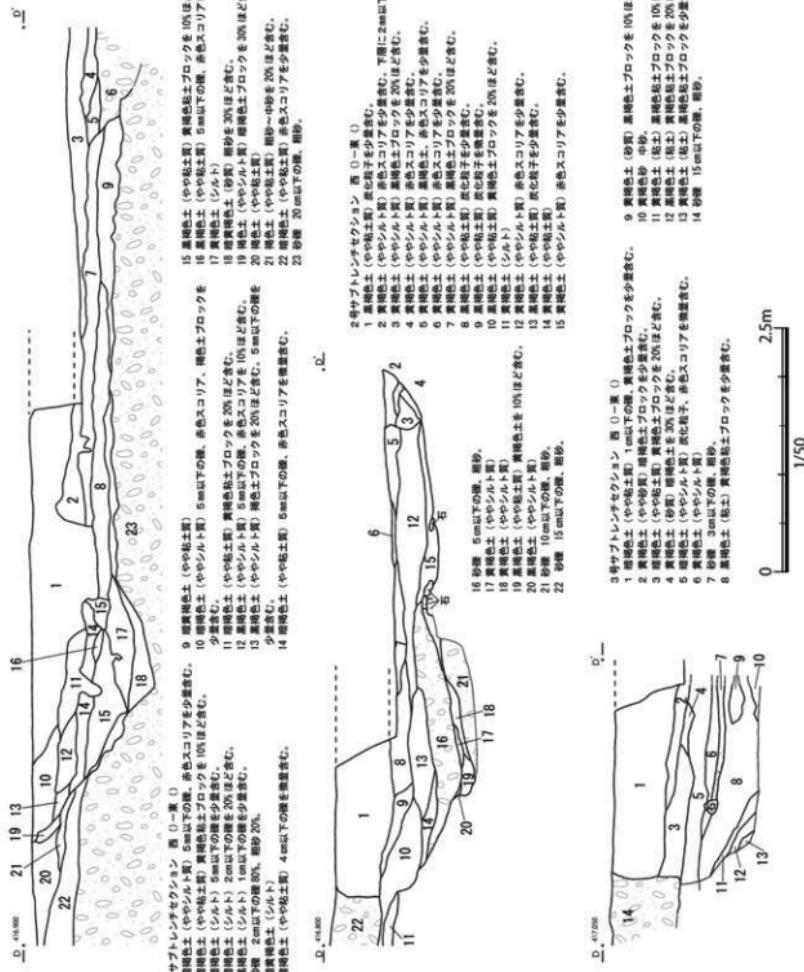
第23図 A区2-1 遺構平面図および断面図(全体図など)



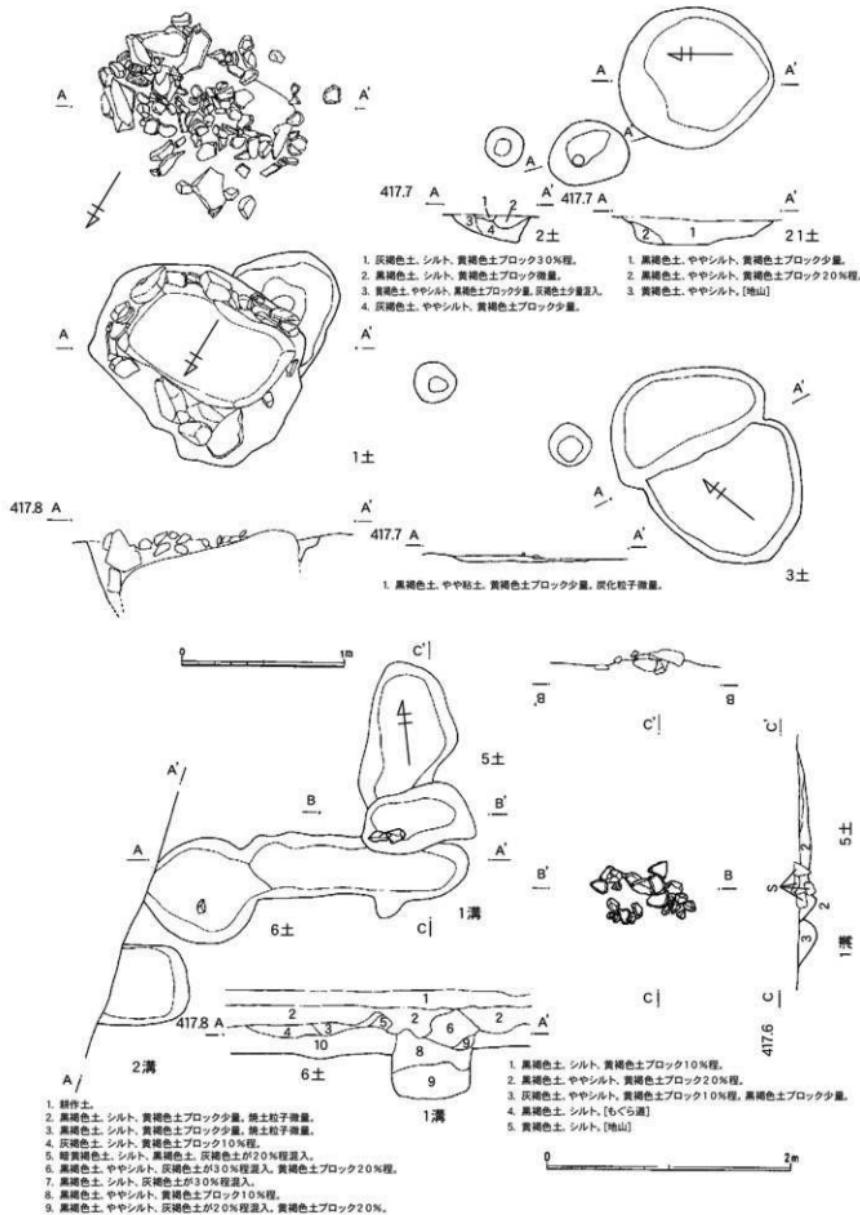
第 24 図 A 区 2-1 遺構平面図および断面図（蝶検出状況）



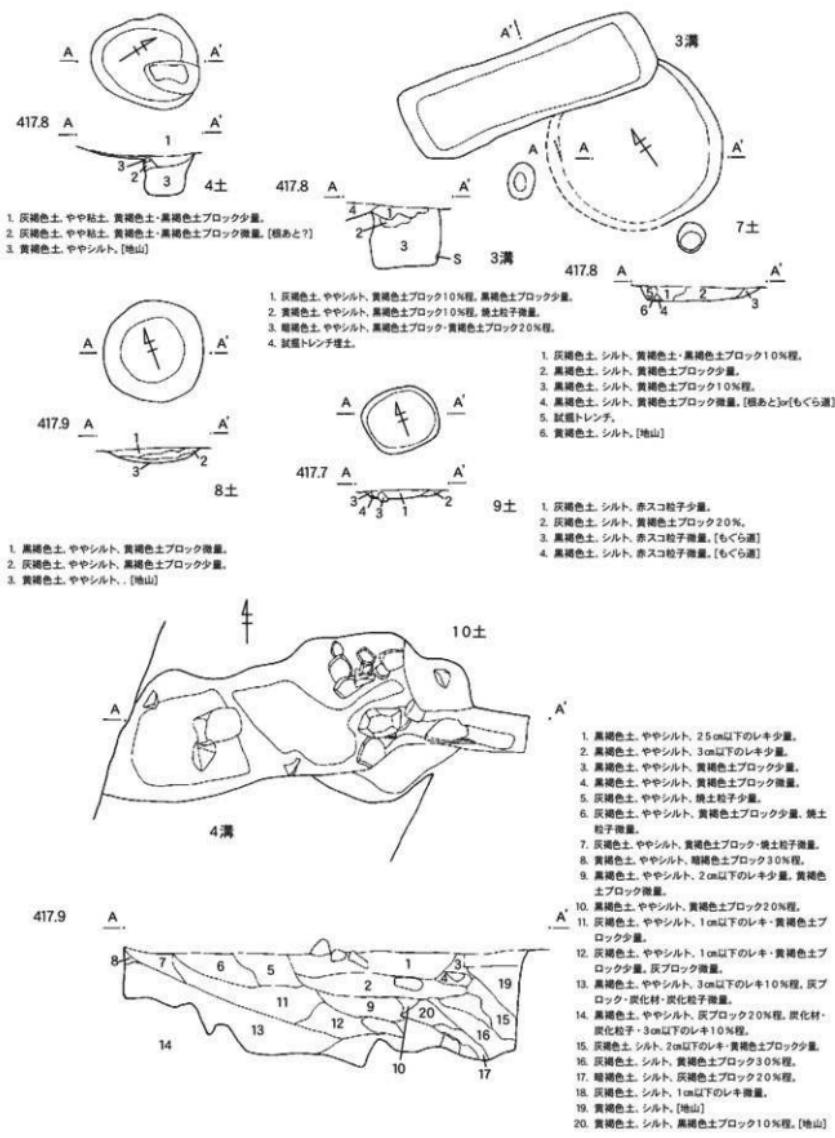
第25図 A区2-1 遺構平面図および断面図 (1・2号土坑、1・2号溝、人骨 (短刀) 検出状況)



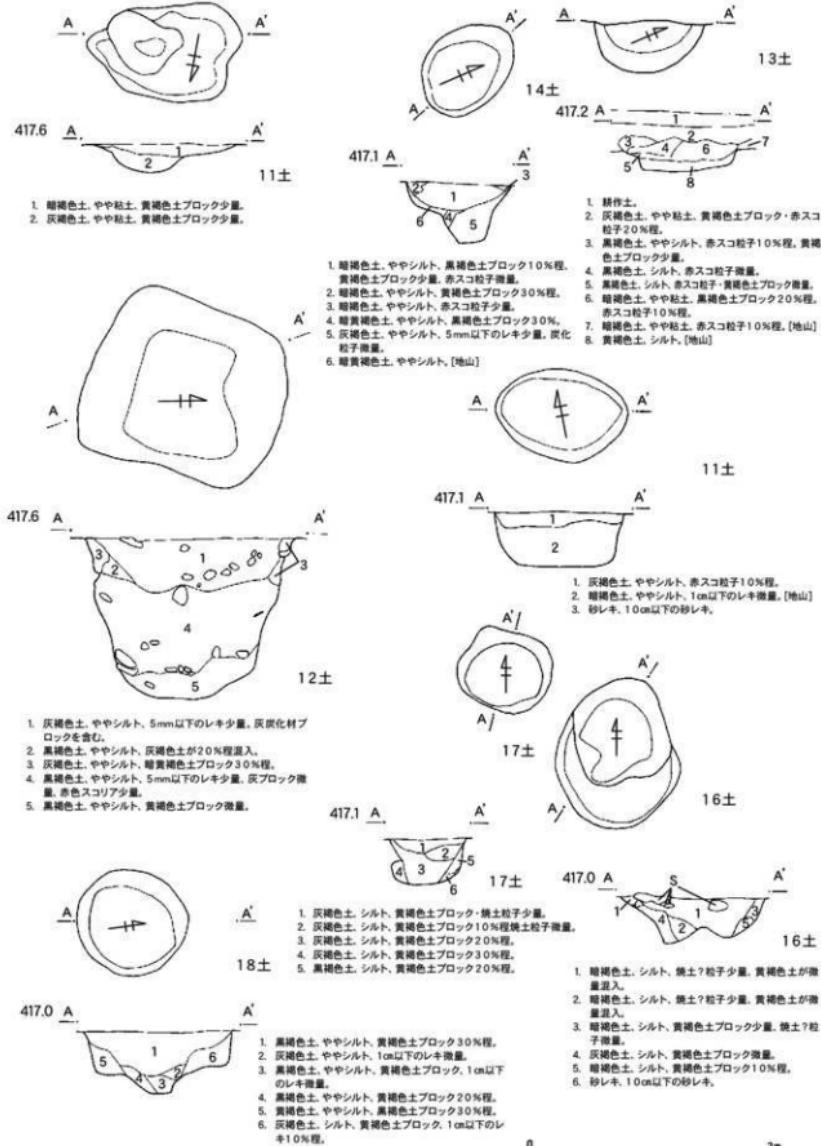
第26図 A区2-1 遺構平面図および断面図（サブレンチセクション）



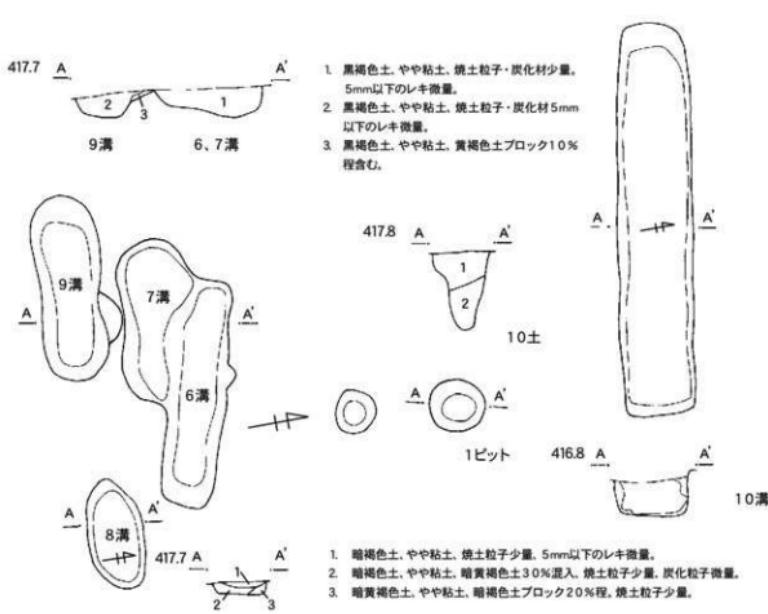
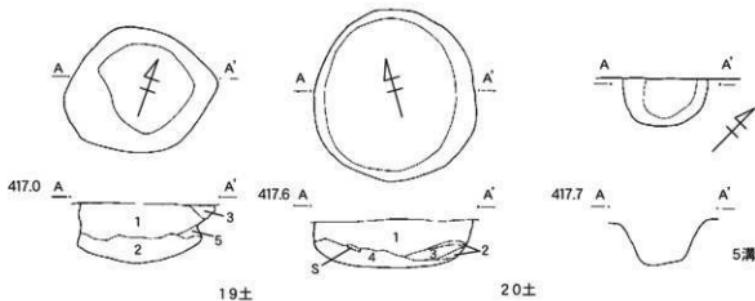
第27図 A区2-2 遺構平面図および断面図（1～3・5・6・21号土坑、1・2号溝状遺構）



第28図 A区2-2 遺構平面図および断面図（4・7～10号土坑、3・4溝状遺構）

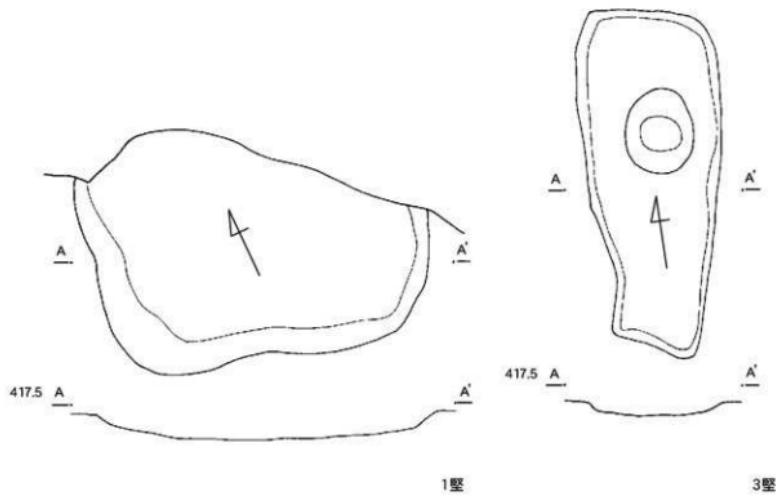
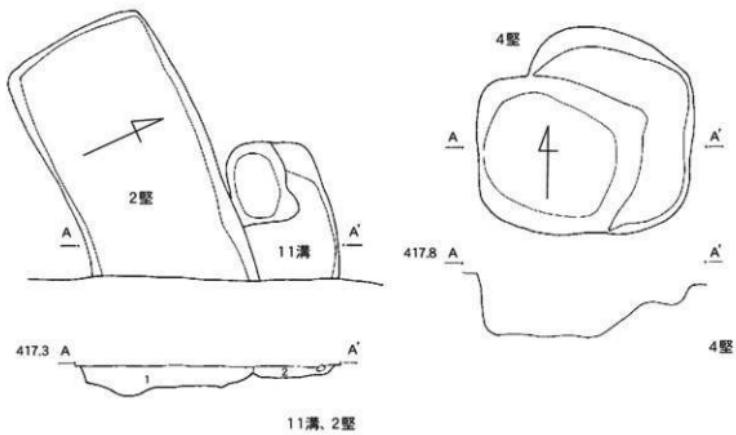


第29図 A区2-2 遺構平面図および断面図 (11~18号土坑)



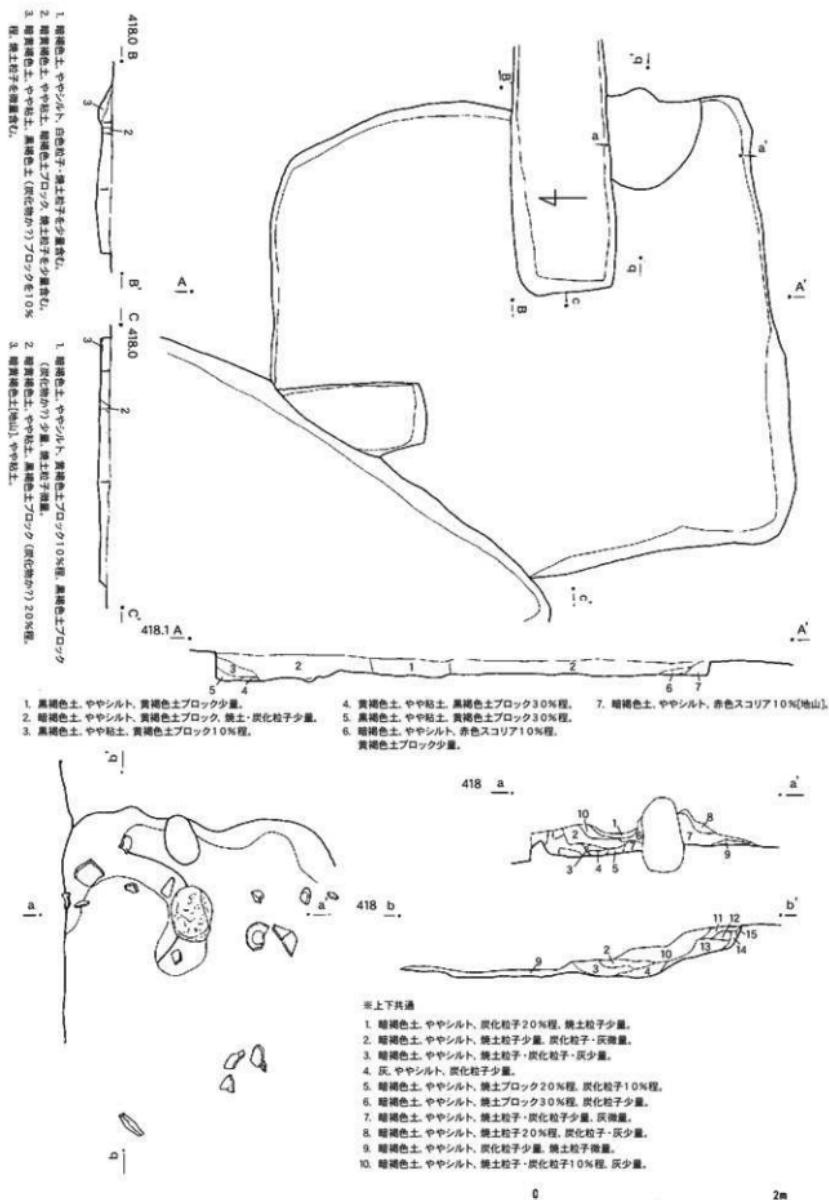
0 2m

第30図 A区2-2 遺構平面図および断面図 (19・20号土坑、5~10号溝状遺構、1号ビット)

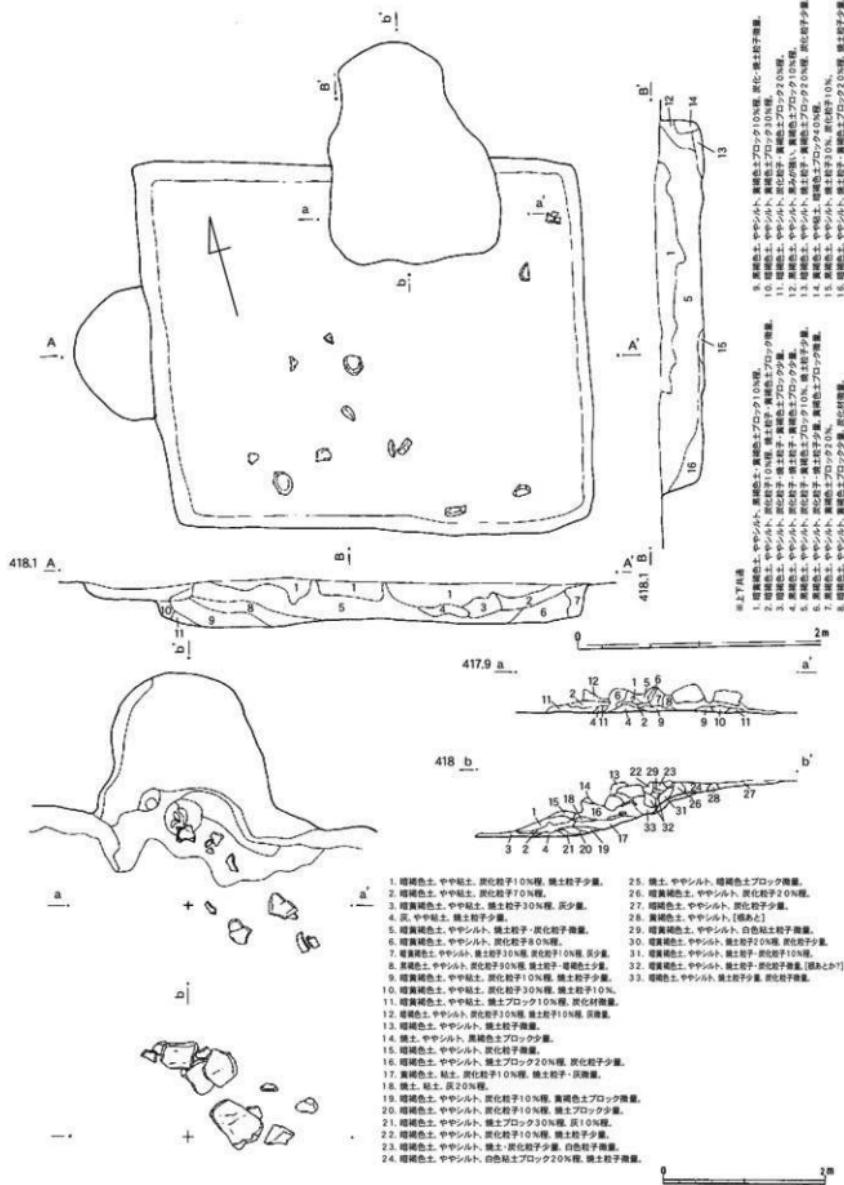


Scale bar: 0 to 2m.

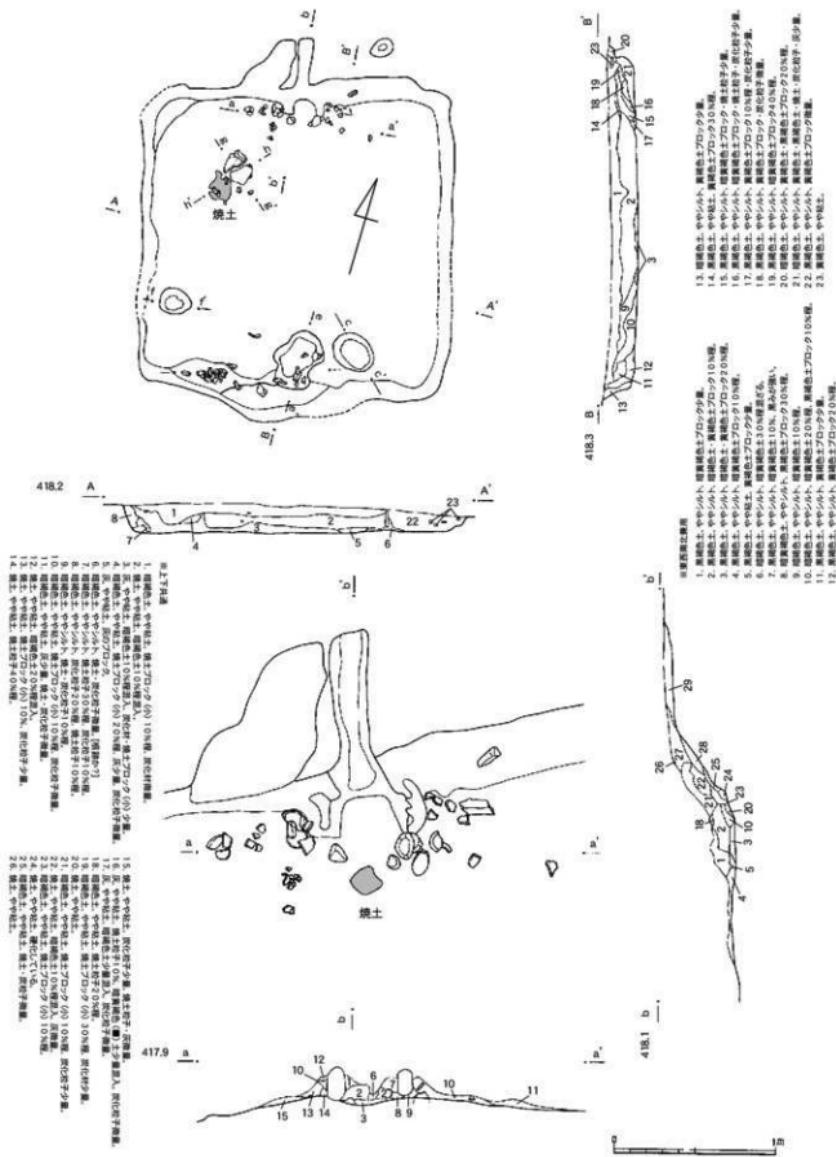
第31図 A区 2-2 遺構平面図および断面図 (11号溝状遺構、1~4号竪穴遺構)



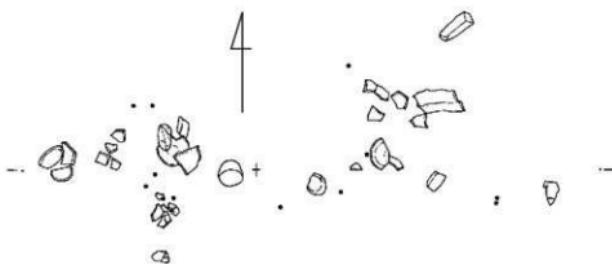
第32図 A区2-3 遺構平面図および断面図（1号住居跡）



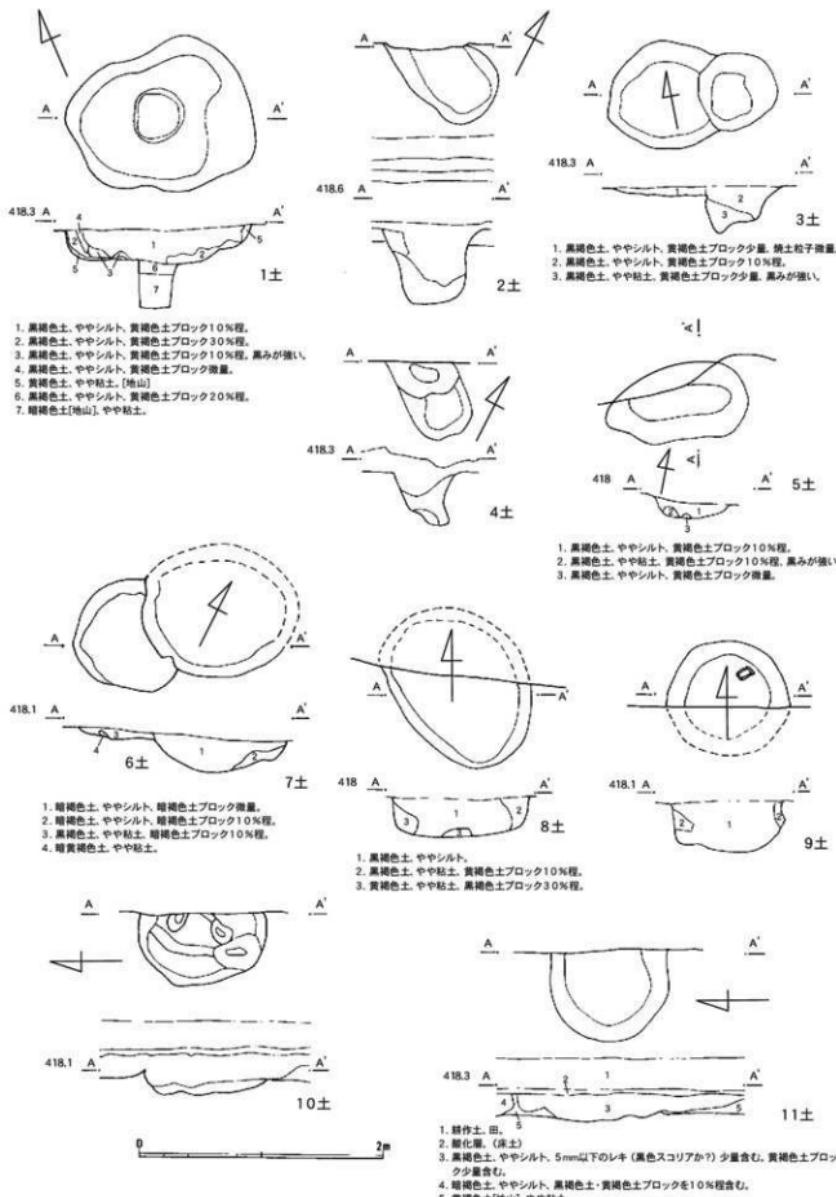
第33図 A区2-3 遺構平面図および断面図（2号住居跡）



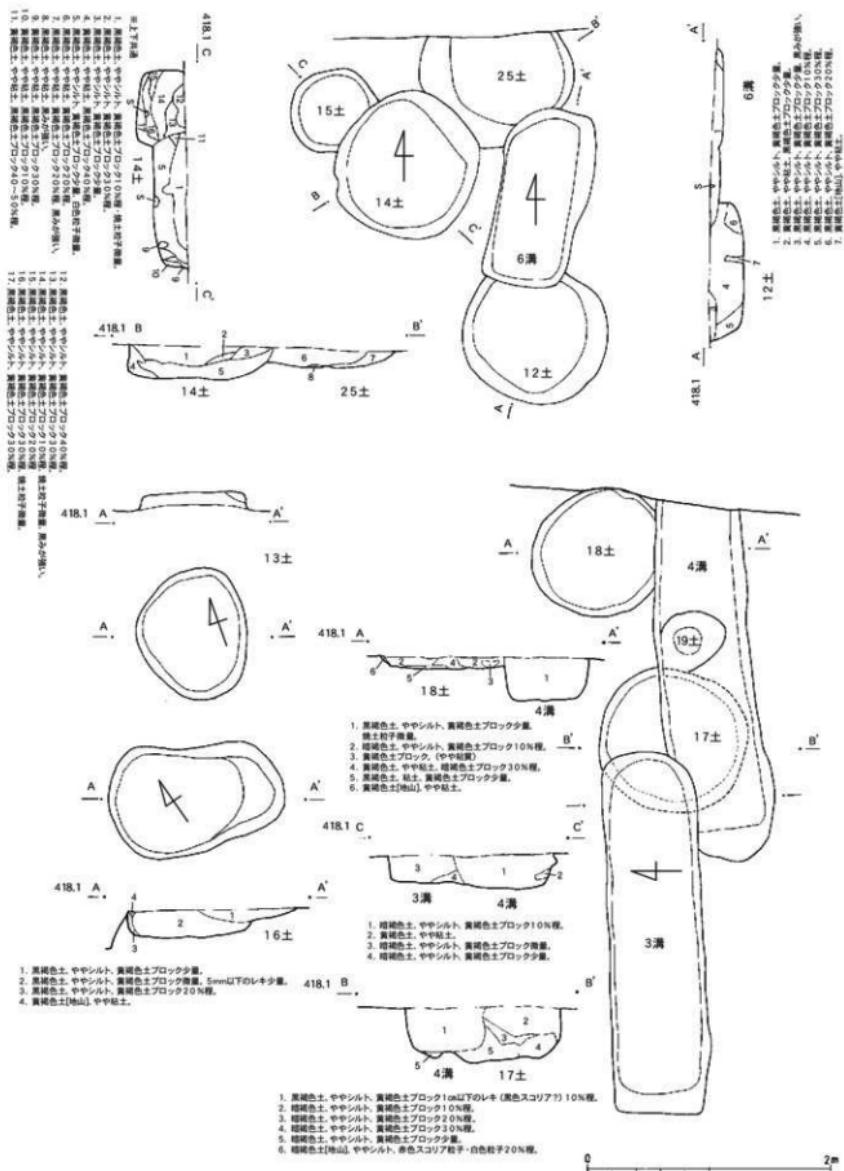
第34図 A区2-3 遺構平面図および断面図（3号住居跡）



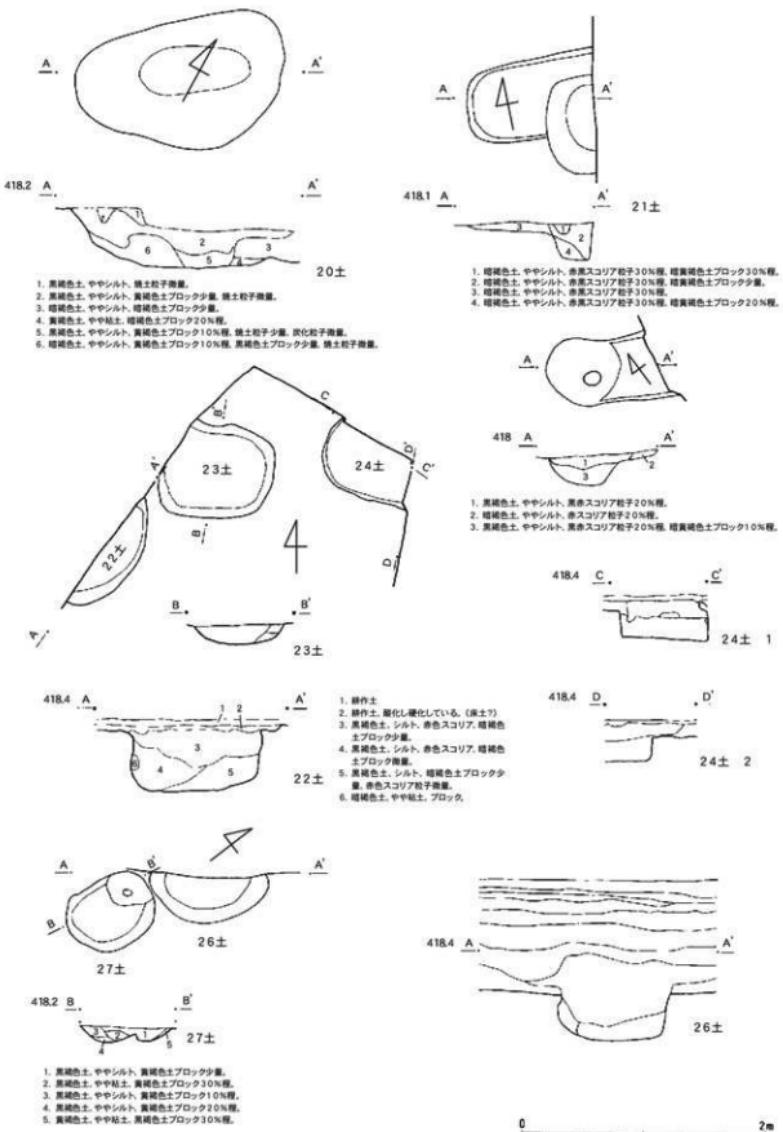
第35図 A区2-3 遺構平面図および断面図（3号住居跡内土坑・カマド前砾集中・カマド周辺出土遺物）



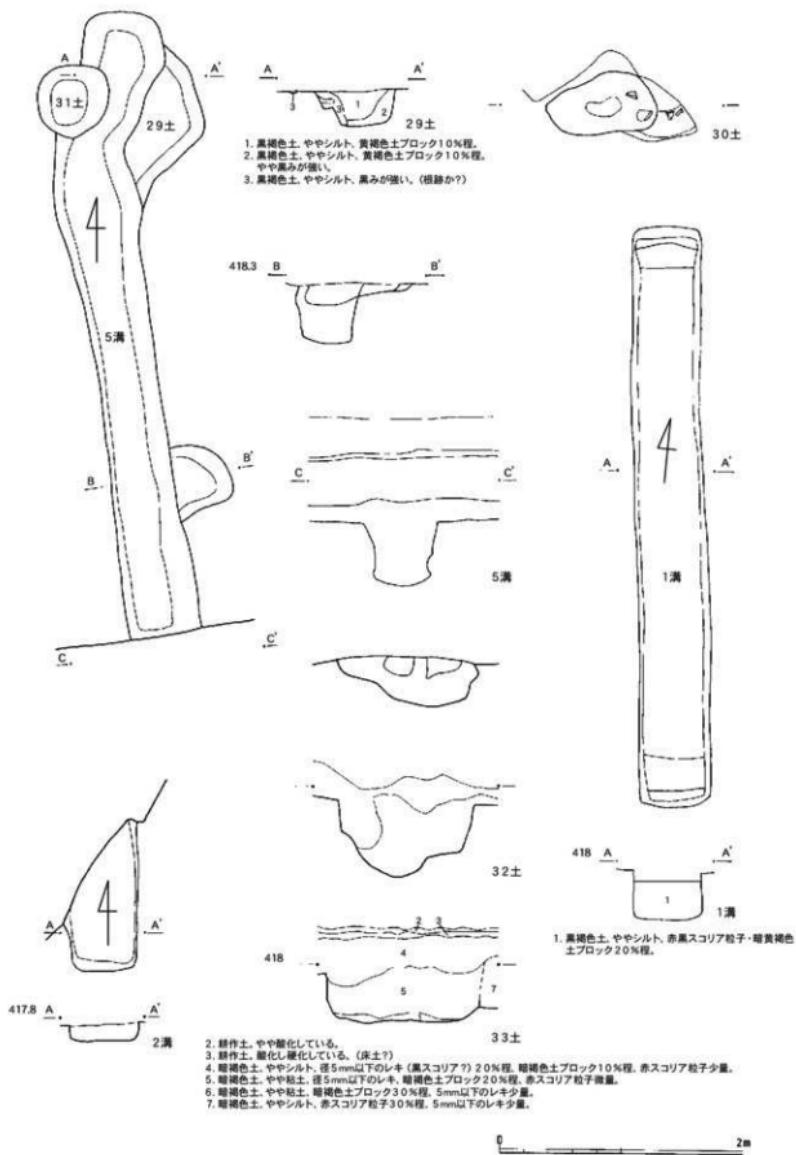
第36図 A区 2-3 遺構平面図および断面図 (1～11号土坑)



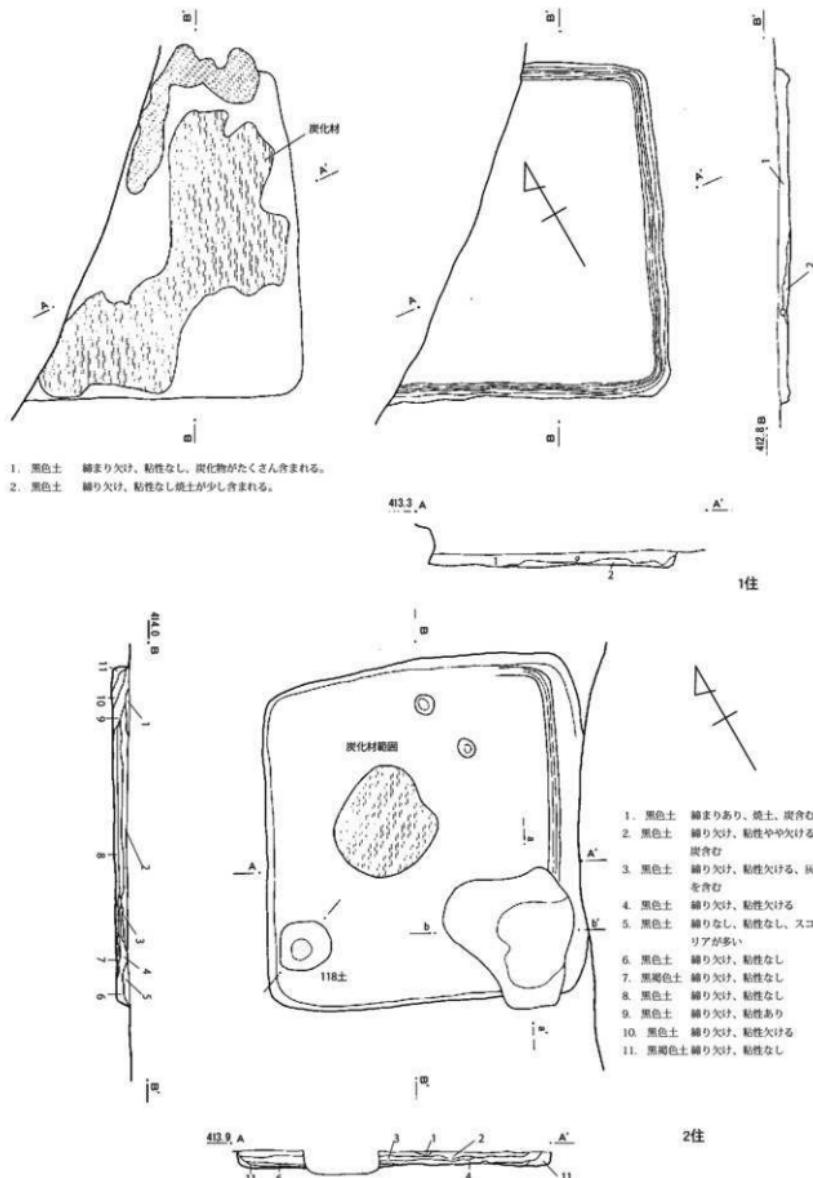
第37図 A区2-3 遺構平面図および断面図 (12~18号土坑、3·4·6号溝状遺構)



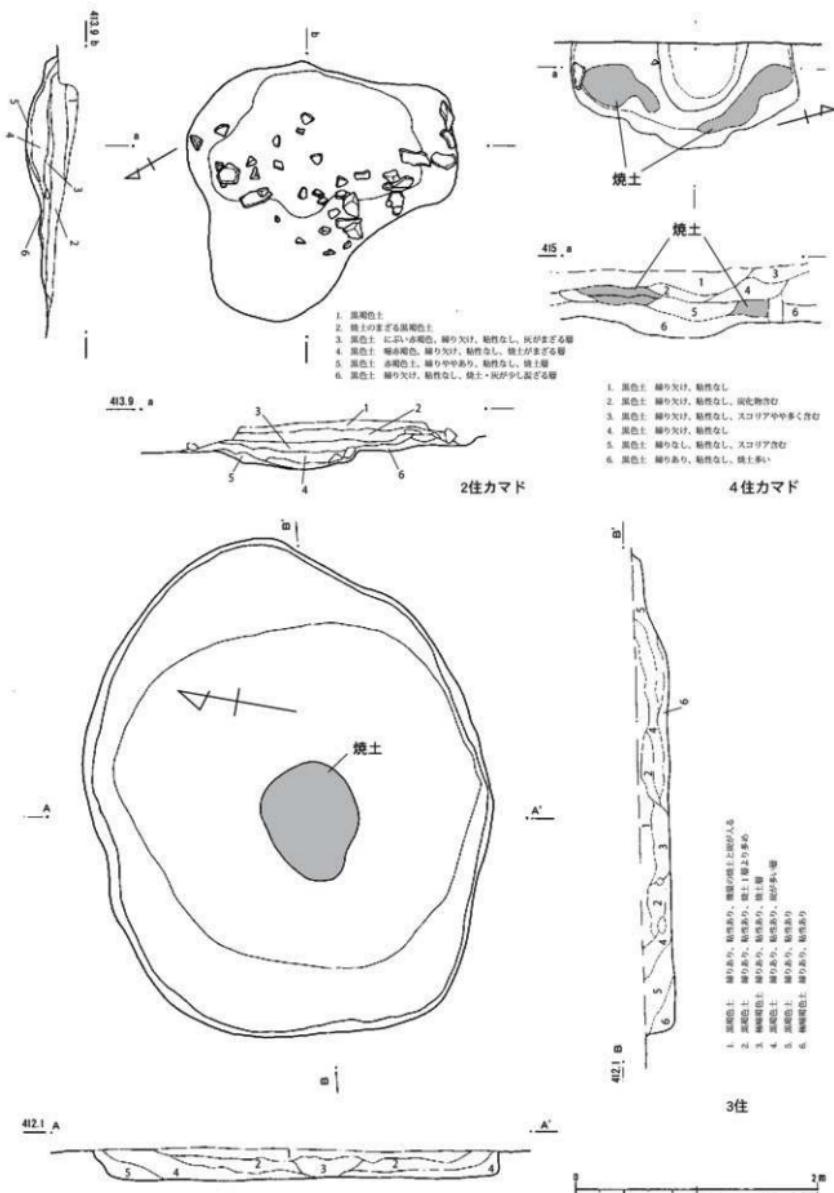
第38図 A区2-3 遺構平面図および断面図 (20~24・26~28号土坑)



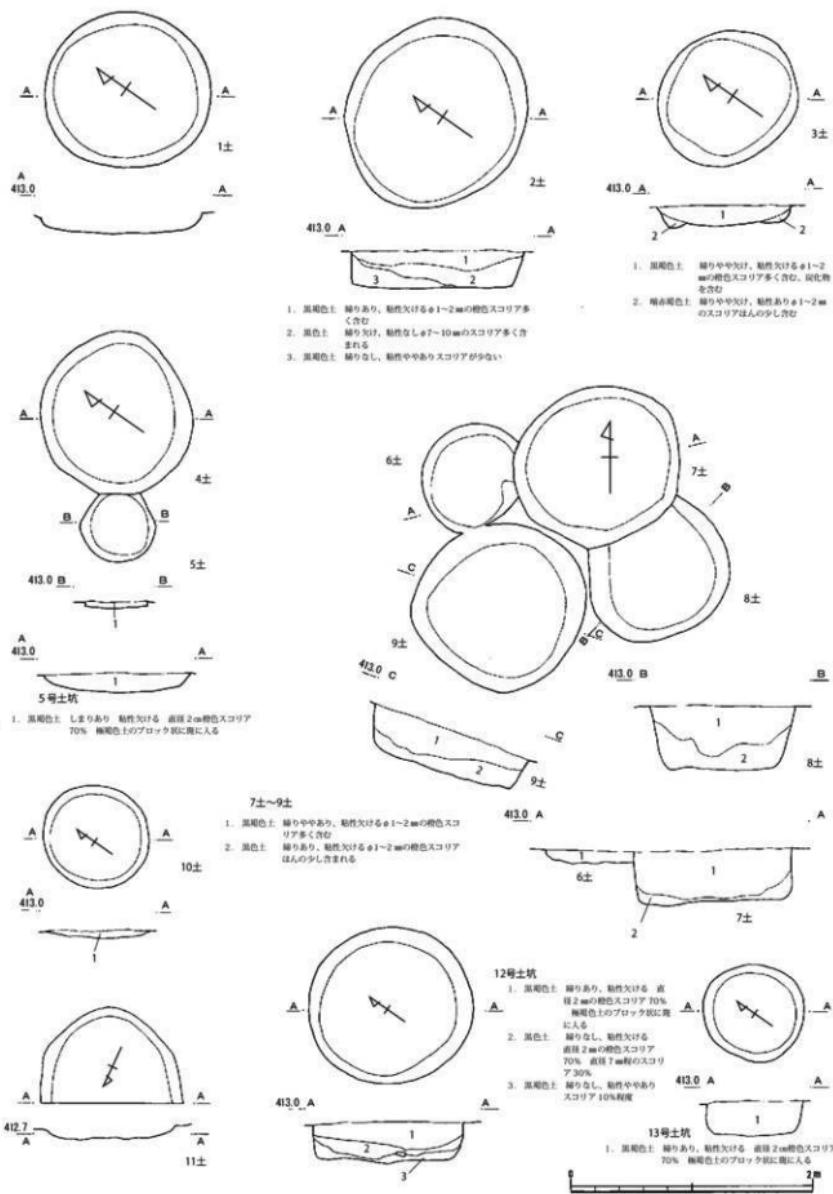
第39図 A区2-3 遺構平面図および断面図 (29・30・32号土坑、1・2・5溝状遺構)



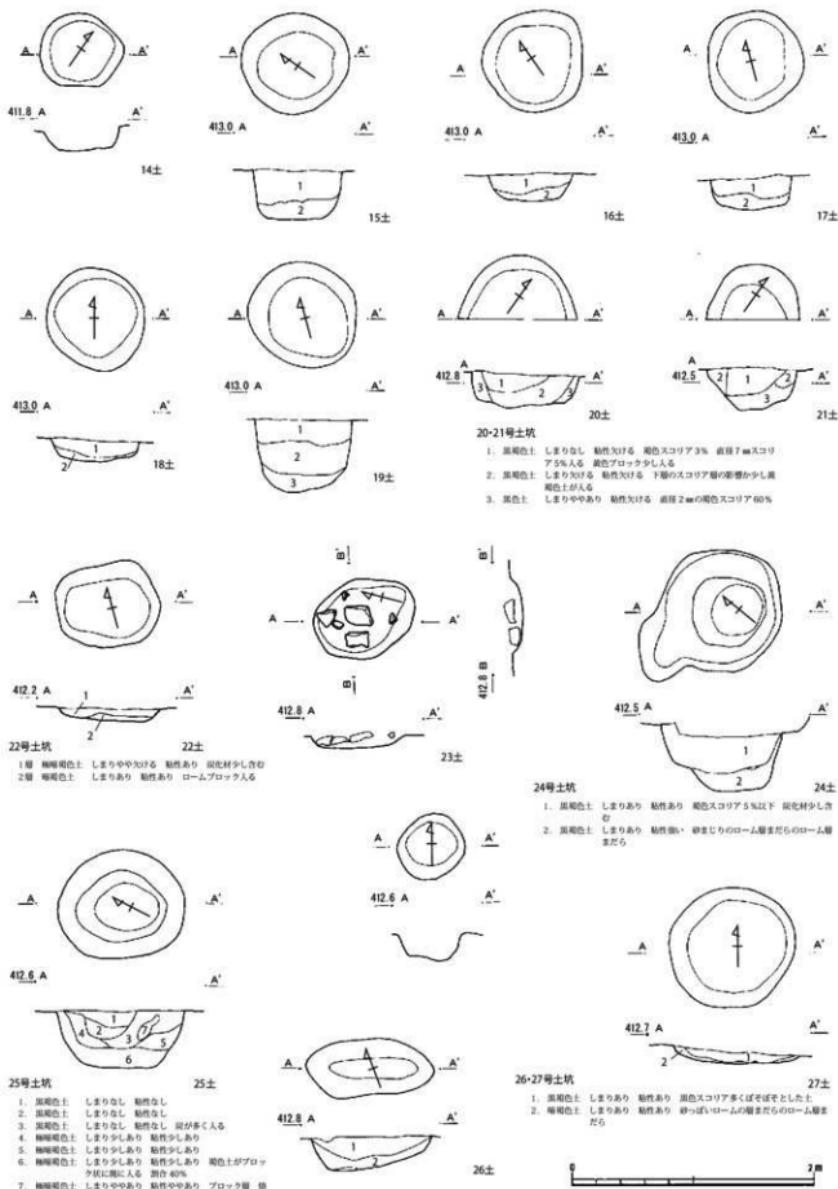
第39図 C区 遺構平面図および断面図（1・2号住居跡）



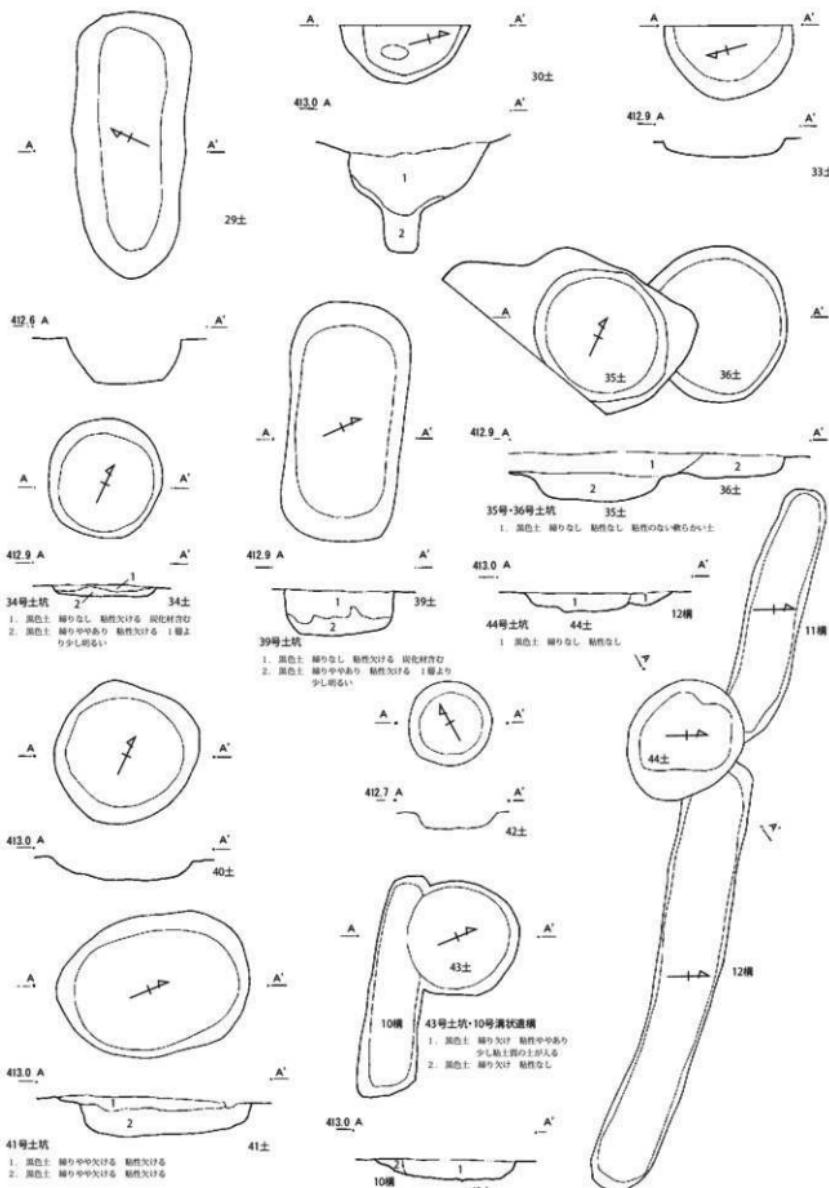
第41図 C区 遺構平面図および断面図 (2・4号住居跡ルマド・3号住居跡)



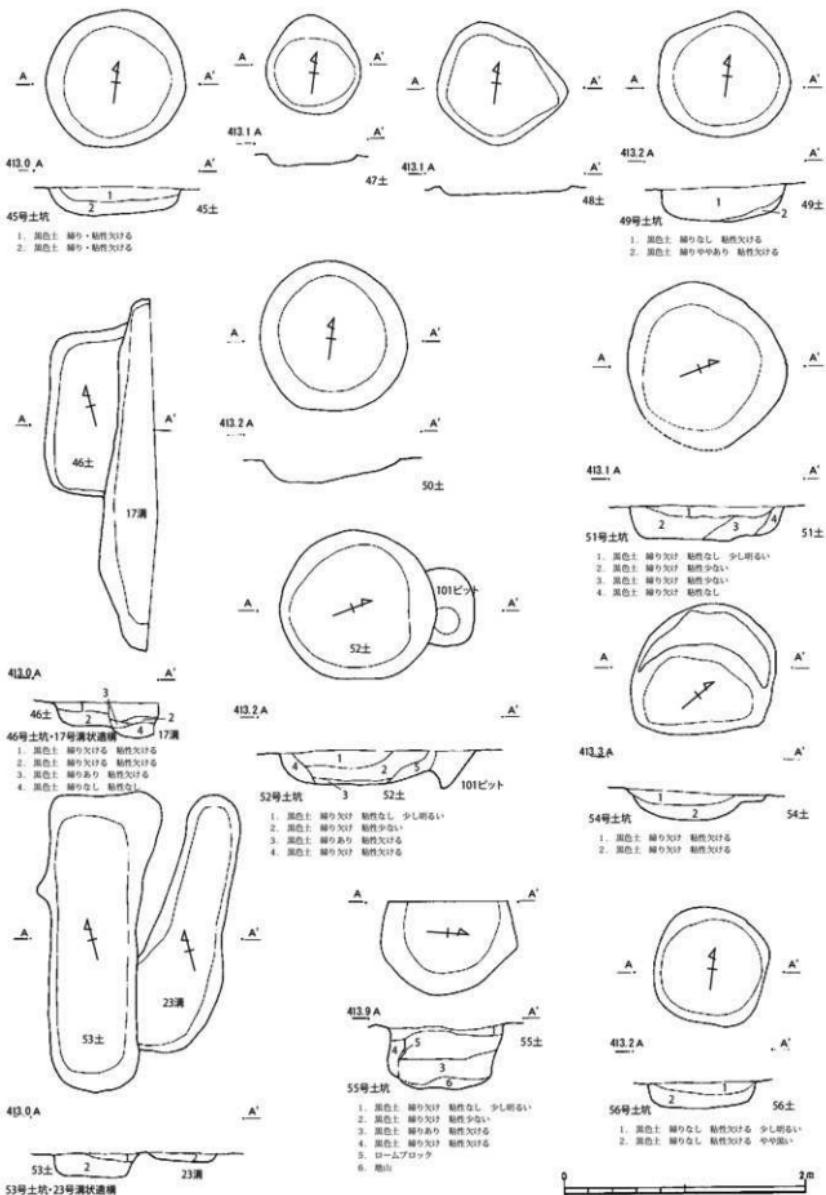
第42図 C区 遺構平面図および断面図（1～13号土坑）



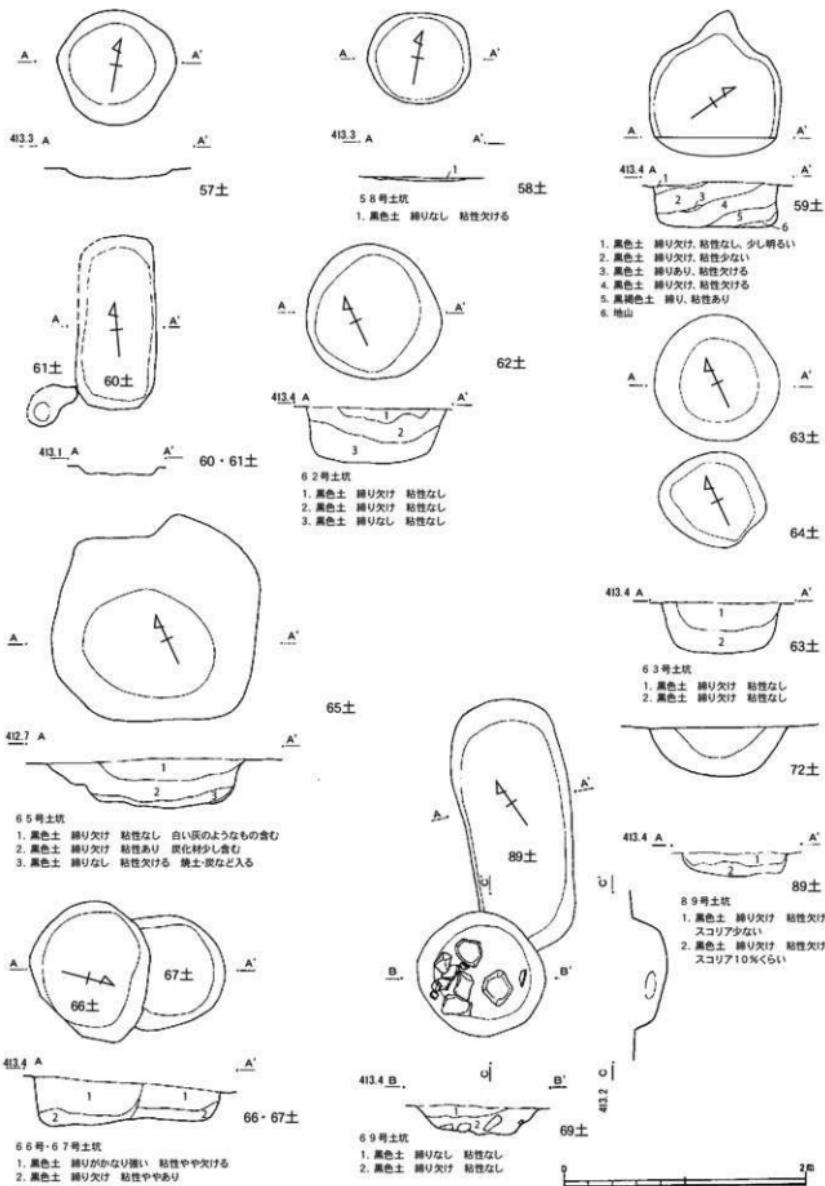
第43図 C区 遺構平面図および断面図 (14~27号土坑)



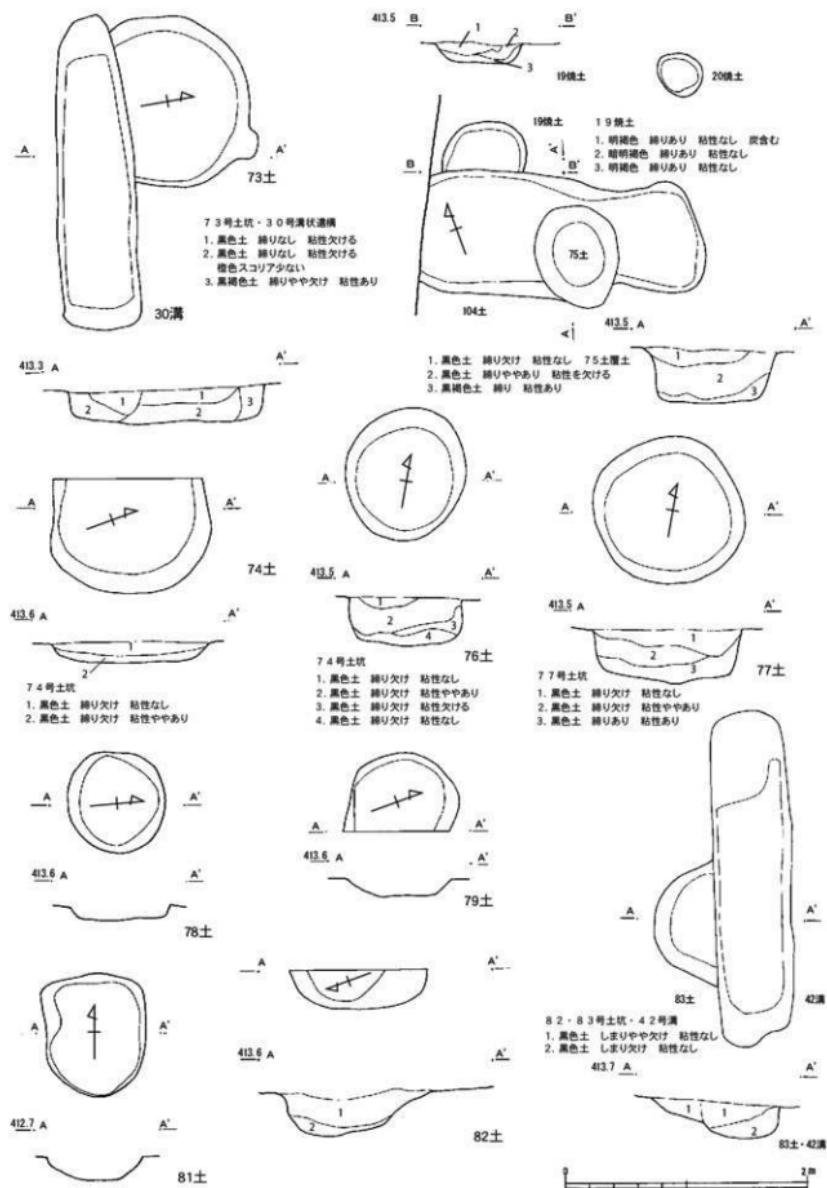
第44図 C区 遺構平面図および断面図 (29・30・33~36・39~44号土坑、10・11号溝状遺構)



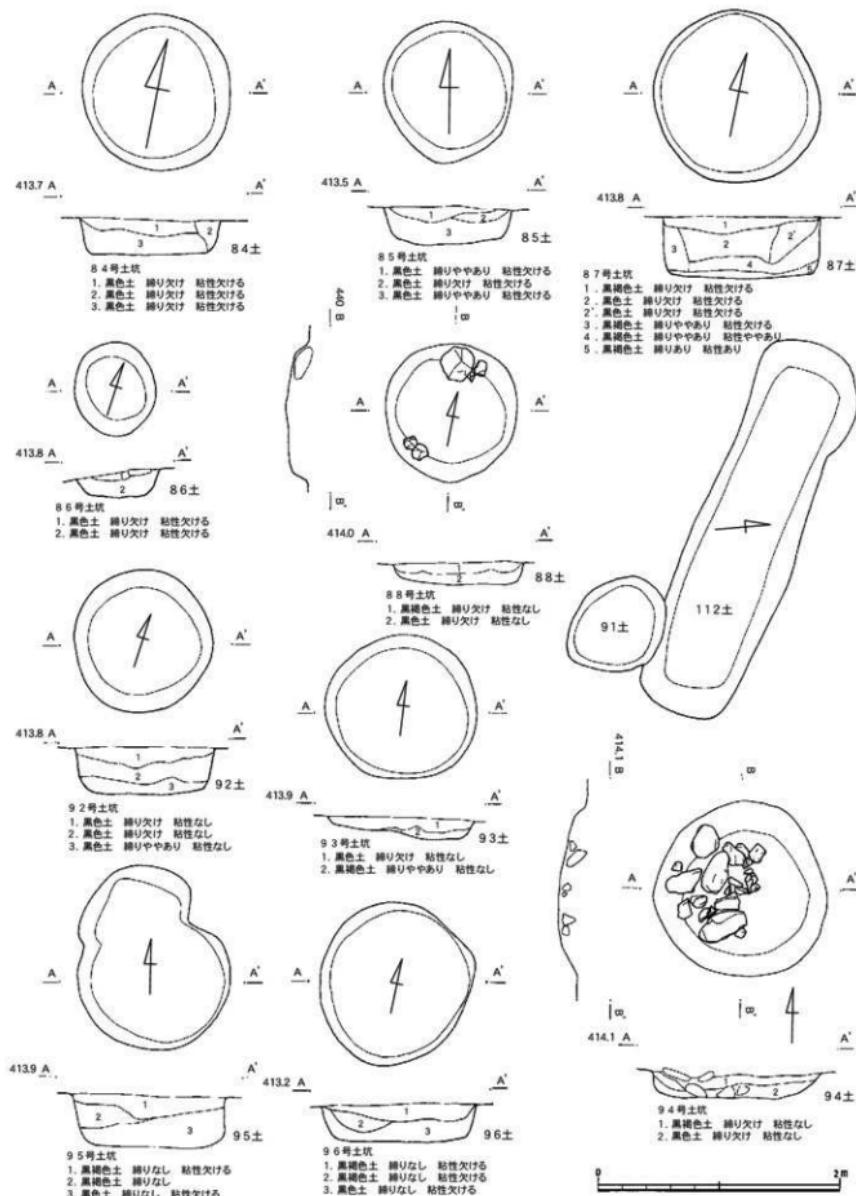
第45図 C区 遺構平面図および断面図 (45号～56号土坑)



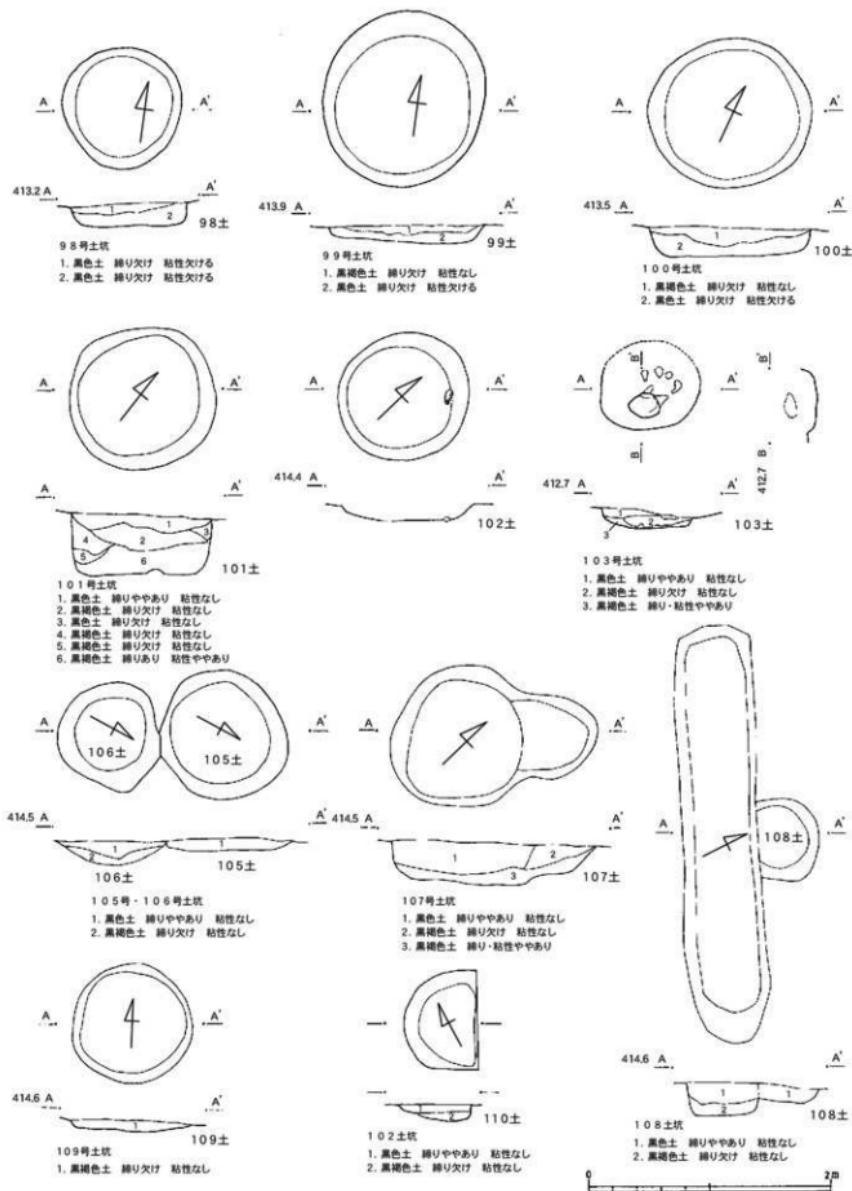
第46図 C区 遺構平面図および断面図 (57号～67・69・72・89号土坑)



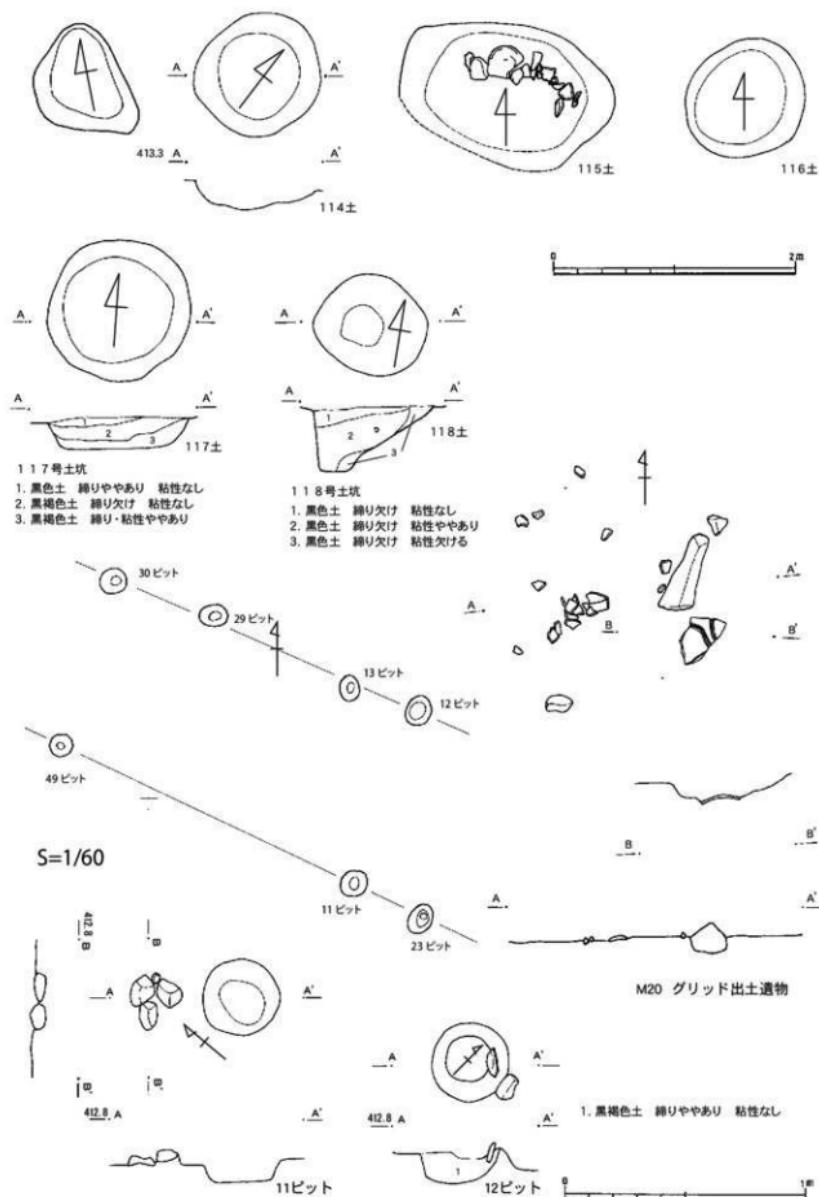
第47図 C区 遺構平面図および断面図 (73号~79・81~83・104号土坑、30・42号溝状遺構)



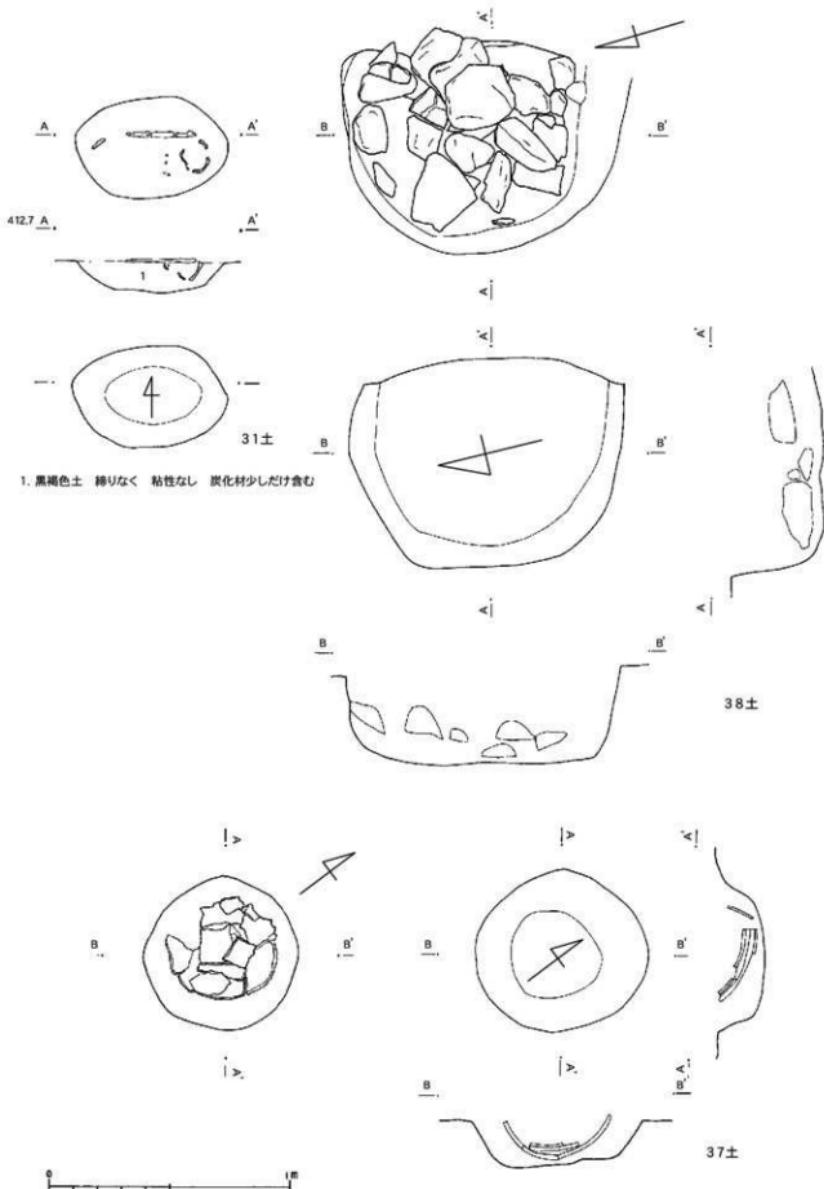
第48図 C区 遺構平面図および断面図 (84号~88・91~96・112号土坑)



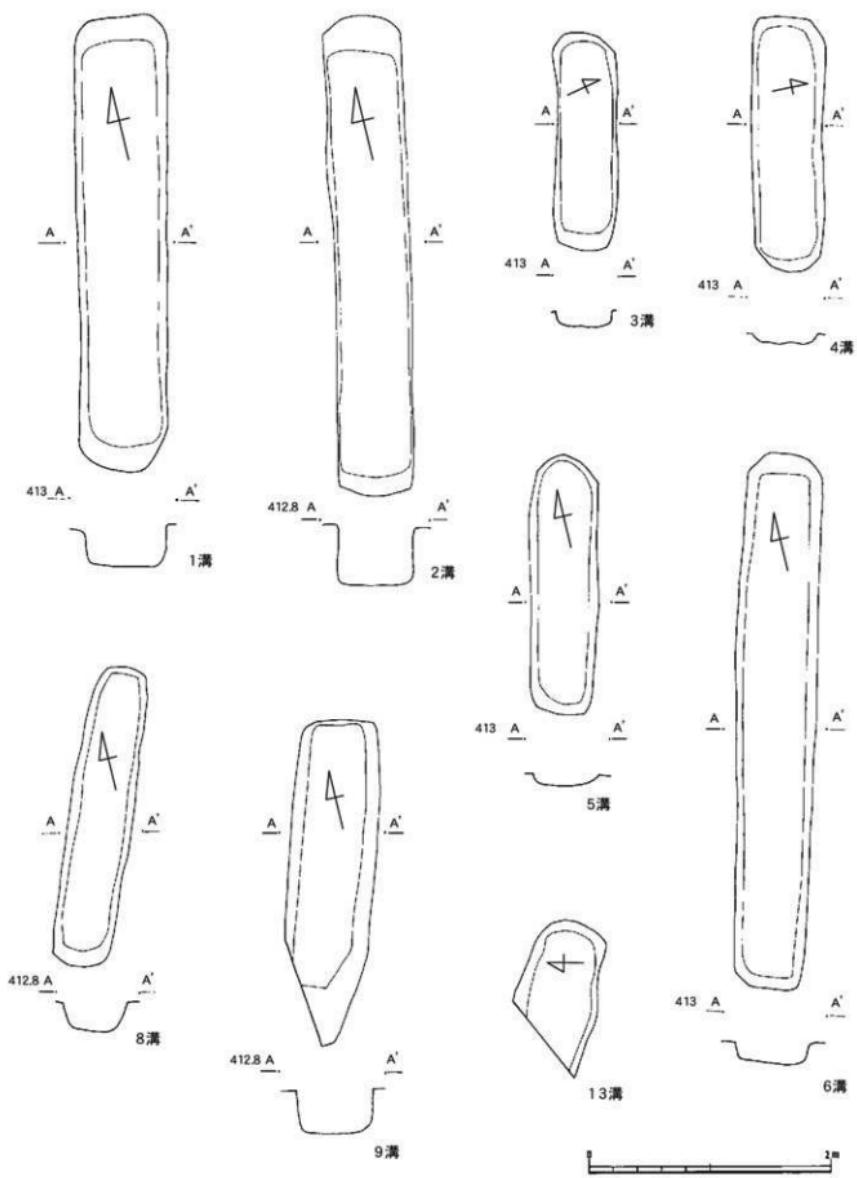
第49図 C区 遺構平面図および断面図 (98号～103、105～110号土坑、51号溝状遺構)



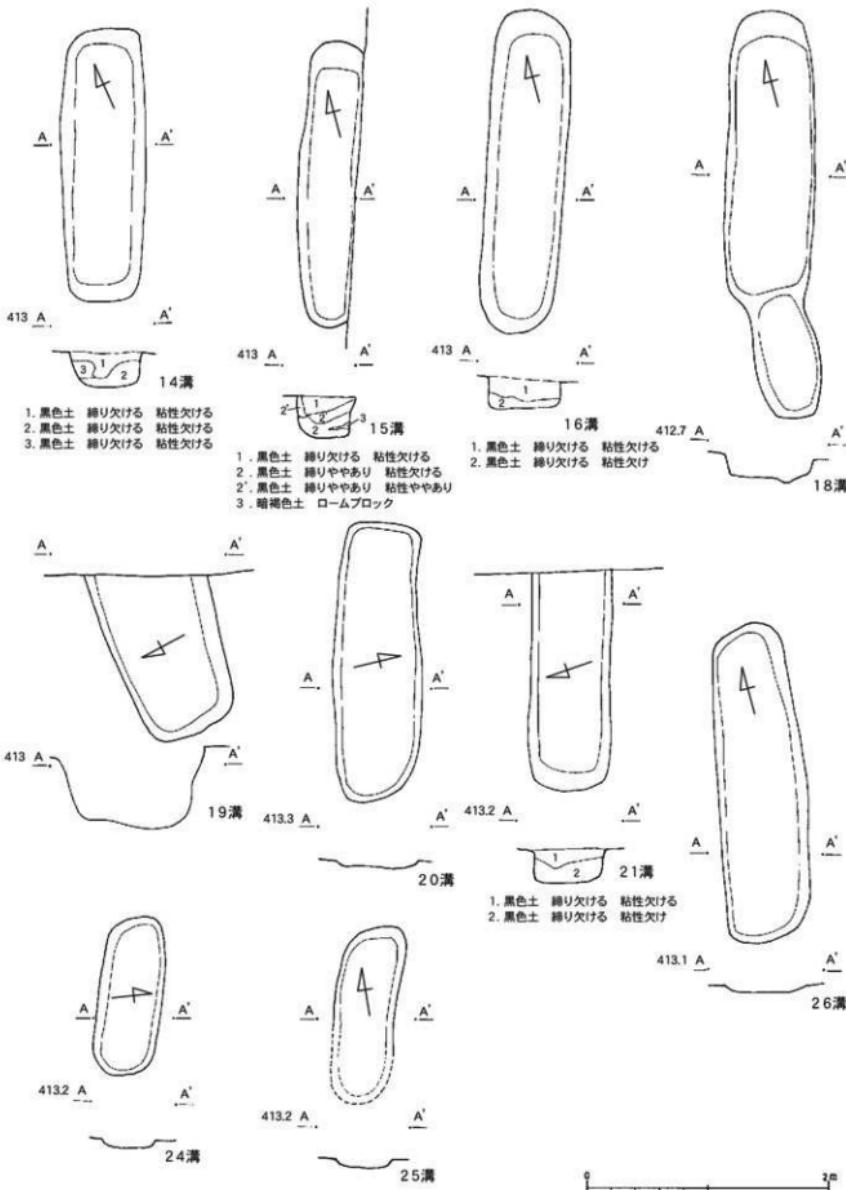
第50図 C区 遺構平面図および断面図 (113・114・116～118号土坑、ピット群、M20グリッド出土物)



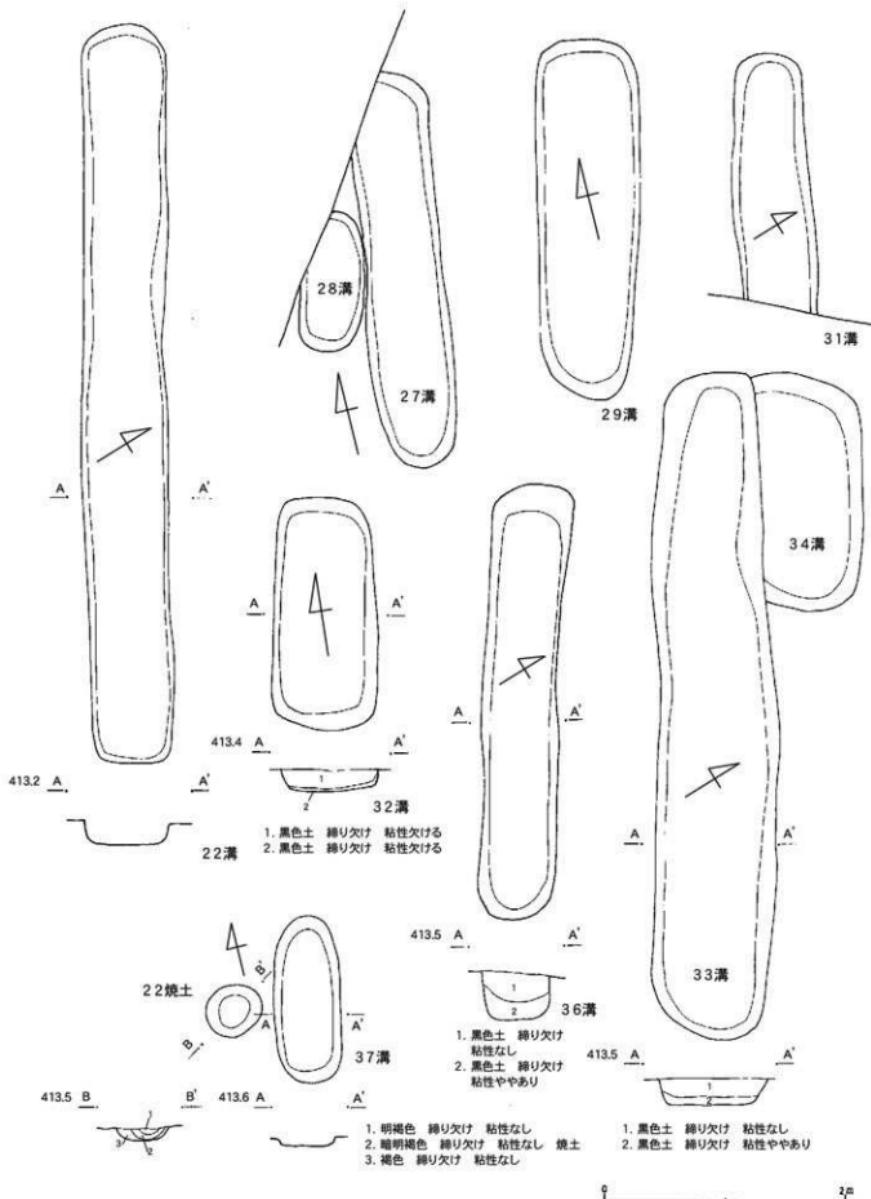
第 51 図 C 区 遺構平面図および断面図 (31・37・38 号土坑)



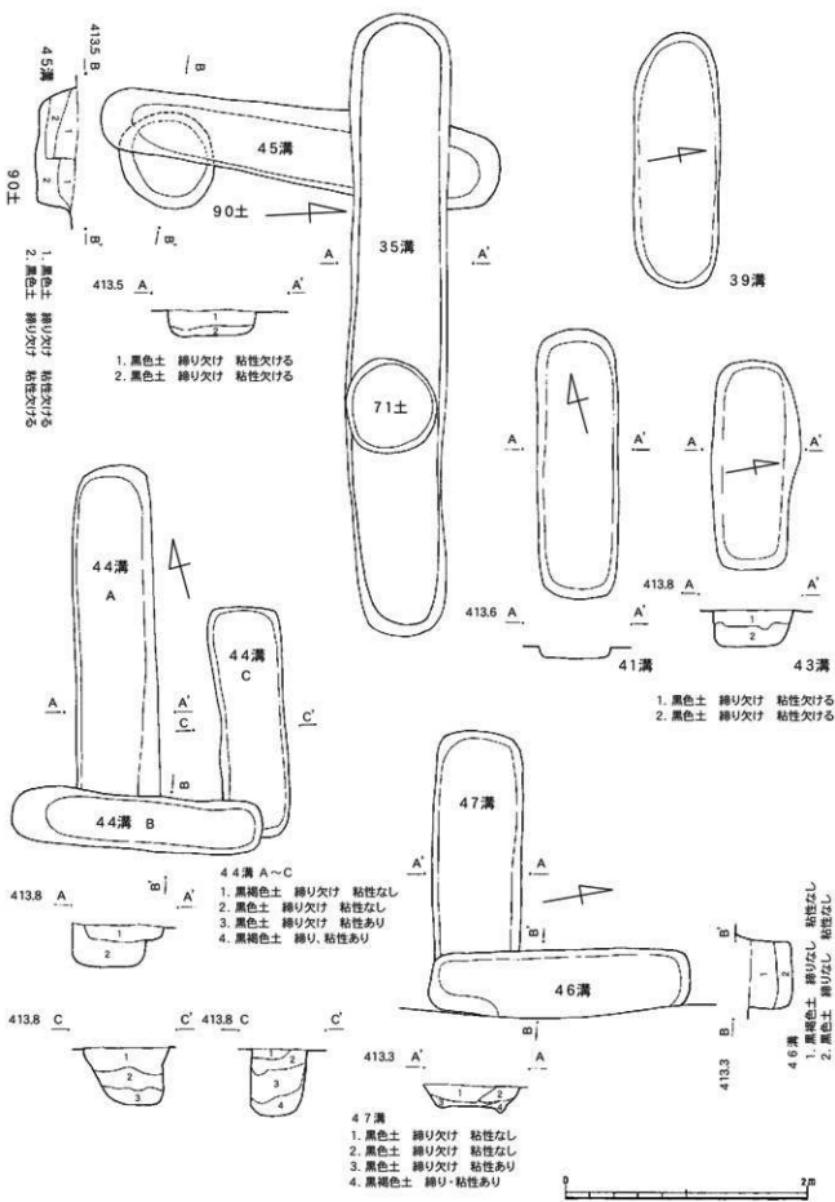
第52図 C区 遺構平面図および断面図 (1~6・8・9・13号溝状遺構)



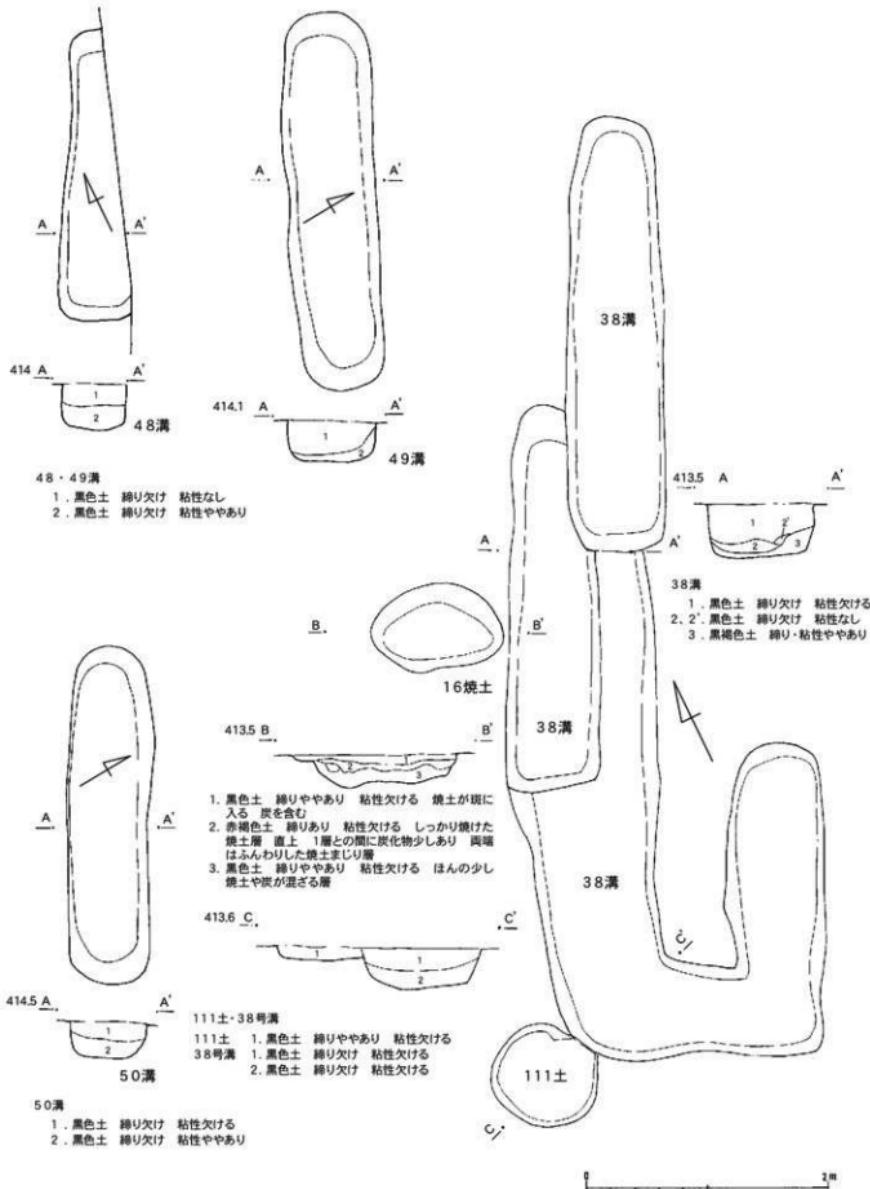
第53図 C区 遺構平面図および断面図 (14~16・18~21・24~26号溝状遺構)



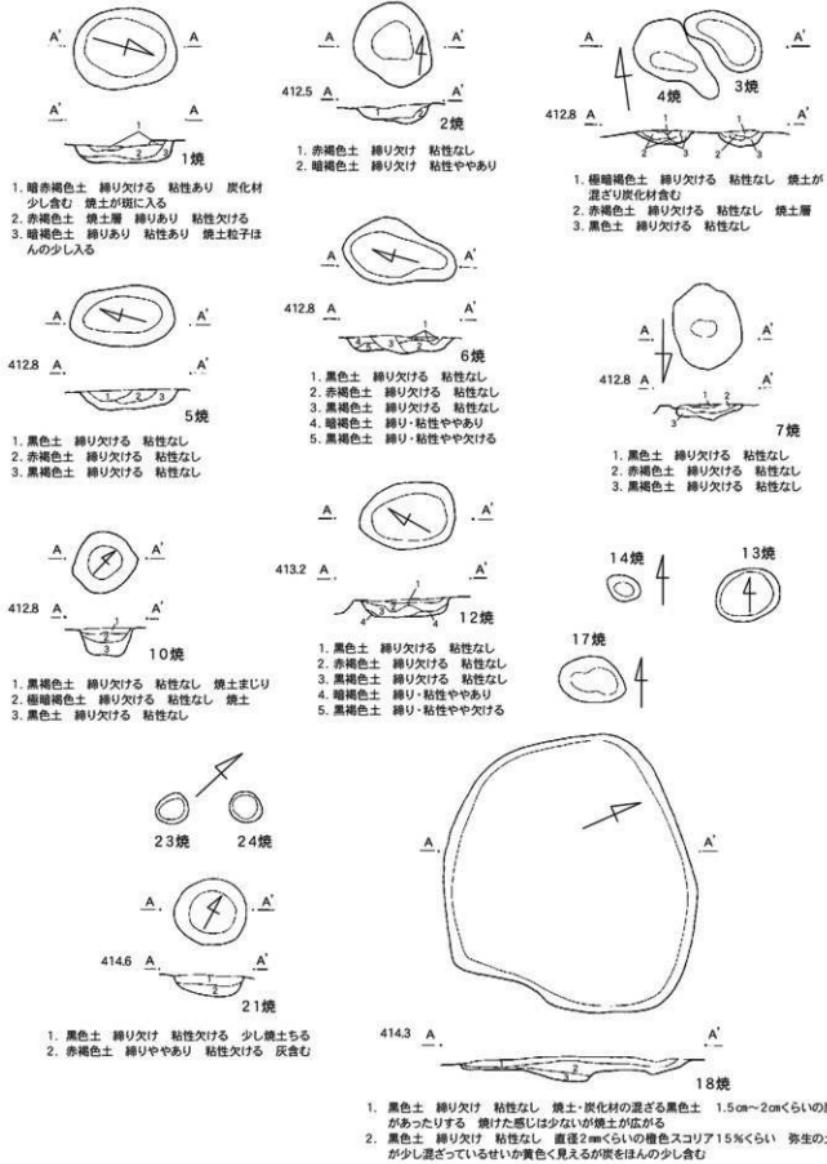
第54図 C区 遺構平面図および断面図 (22・27~29・31~34・36・37号溝状遺構、22号焼土遺構)



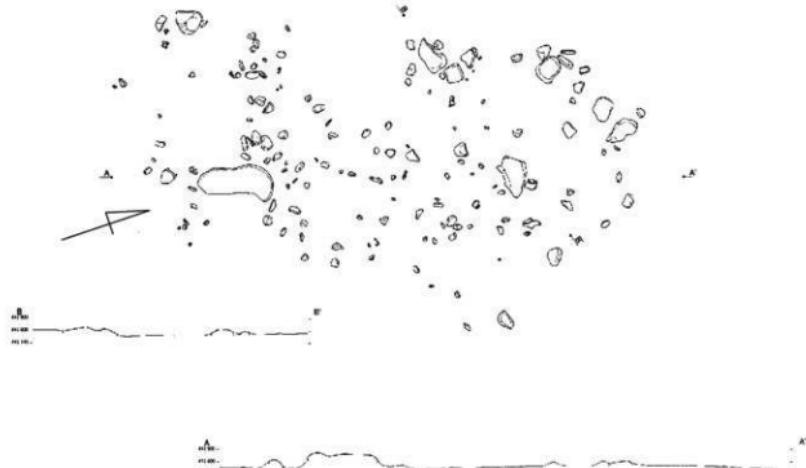
第55図 C区 遺構平面図および断面図 (35・39・41・43～47号溝状遺構、71・90号土坑)



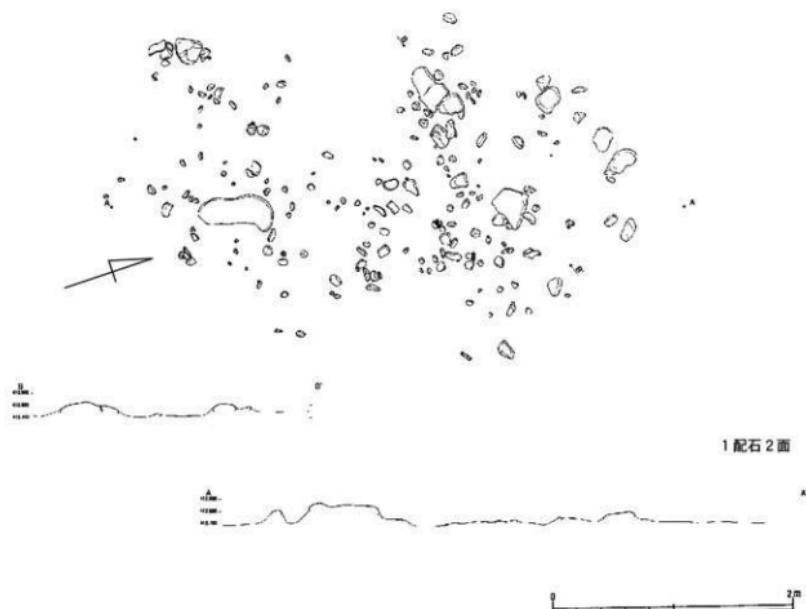
第 56 図 C 区 遺構平面図および断面図 (38・48～50号溝状遺構、111号土坑、16号焼土遺構)



第 57 図 C 区 遺構平面図および断面図 (1 ~ 7 · 10 · 12 ~ 14 · 17 · 18 · 23 · 24 号焼土遺構)

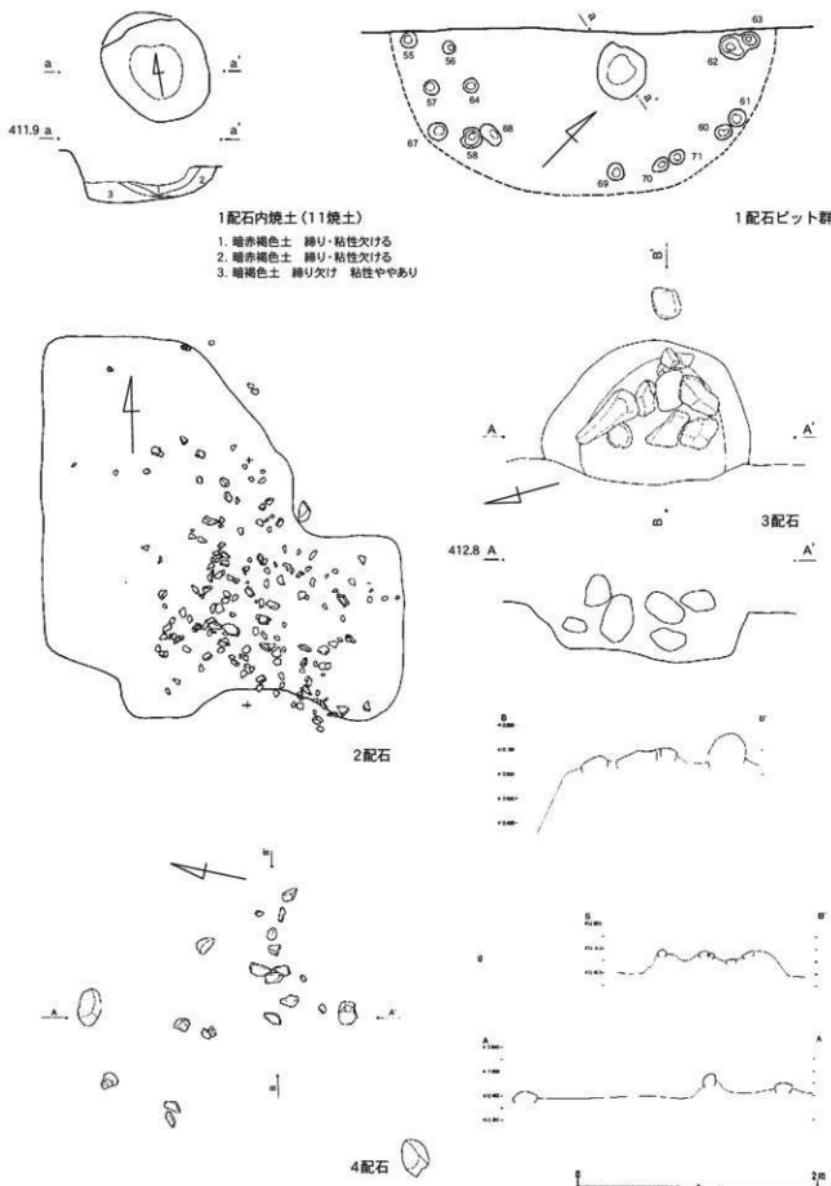


1配石 1面

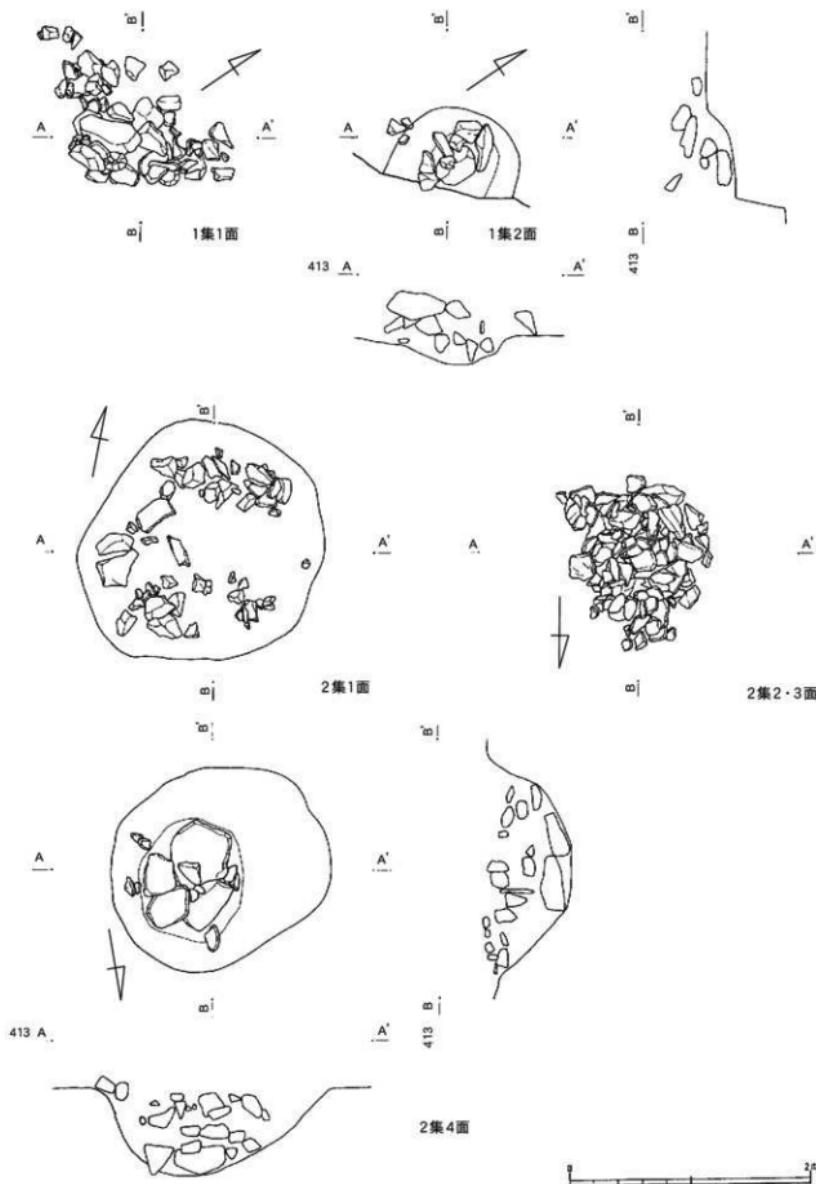


1配石 2面

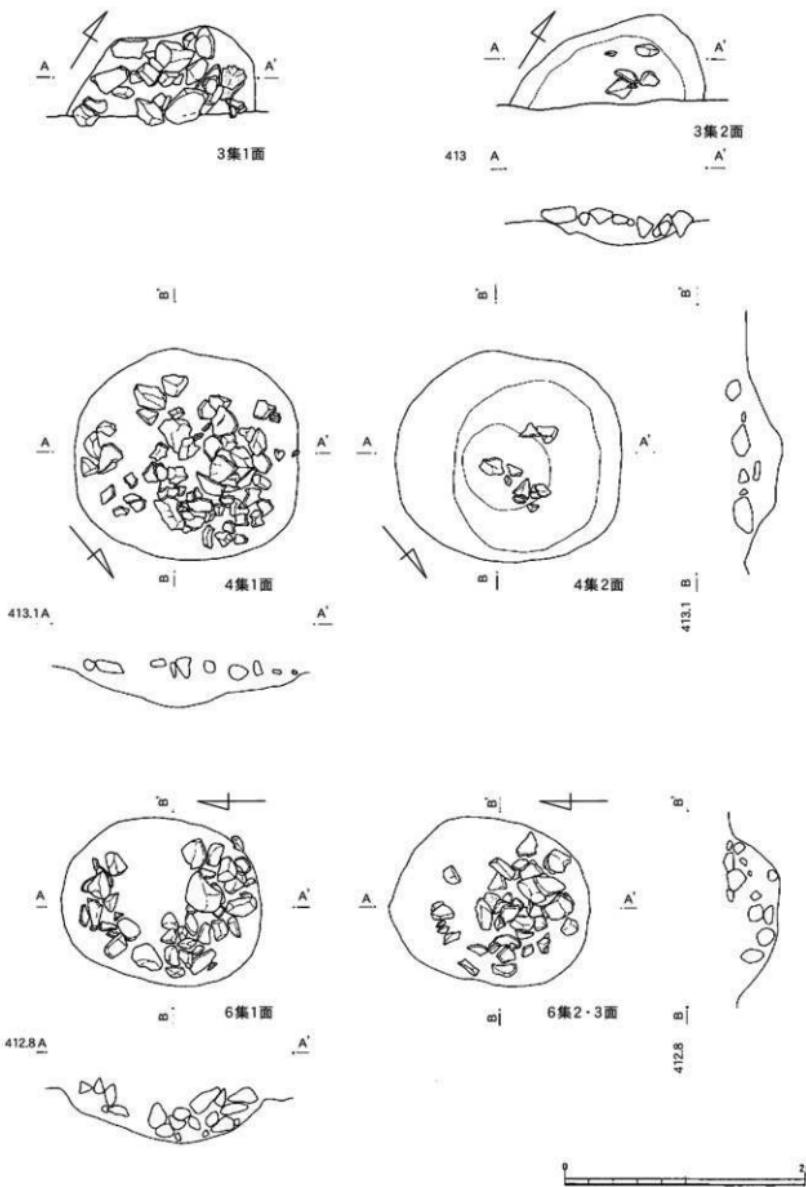
第58図 C区 遺構平面図および断面図（1号配石遺構1面・2面）



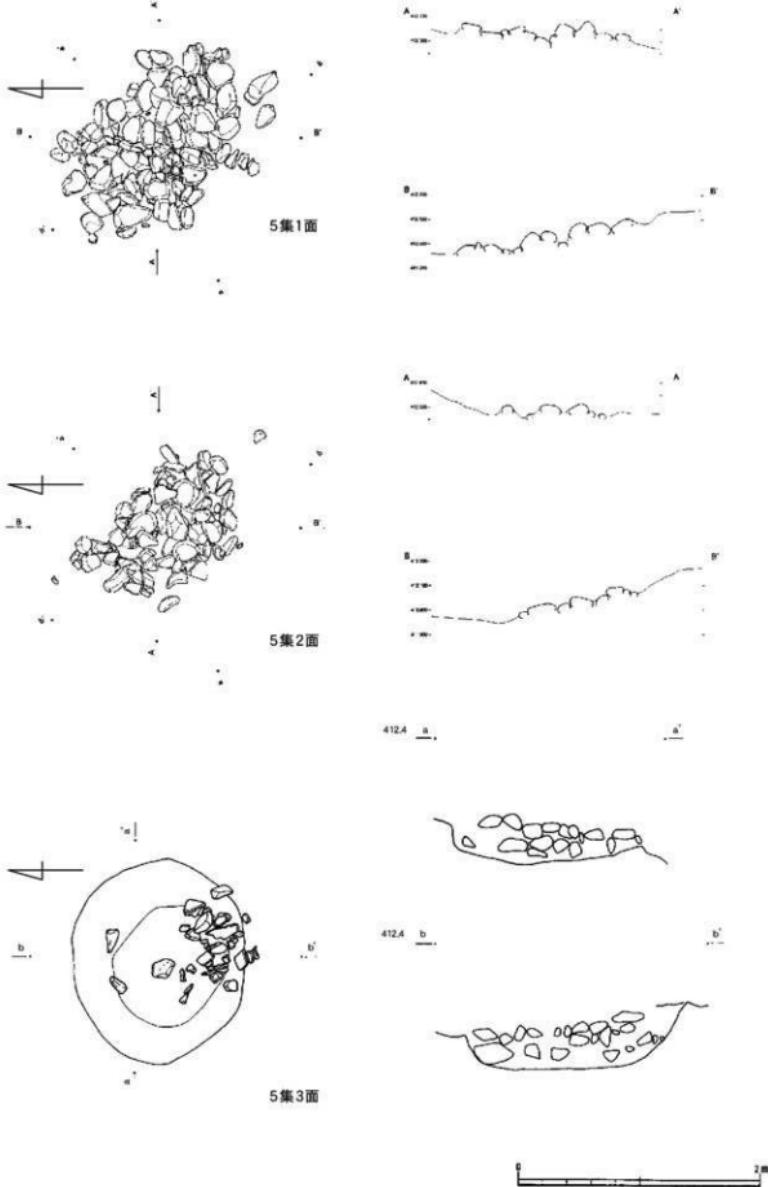
第59図 C区 遺構平面図および断面図（1号配石遺構3面、11号焼土、2・3・4号配石遺構）



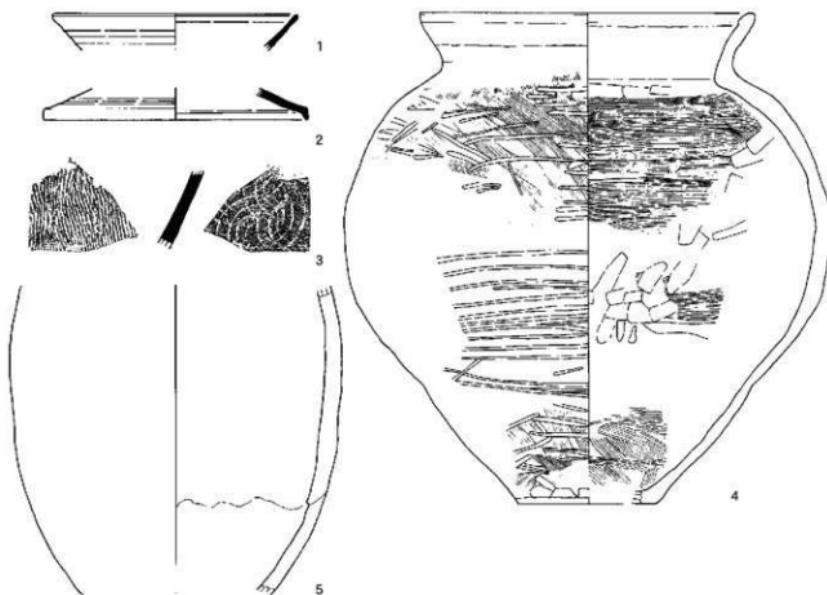
第60図 C区 遺構平面図および断面図 (1・2号集石土坑)



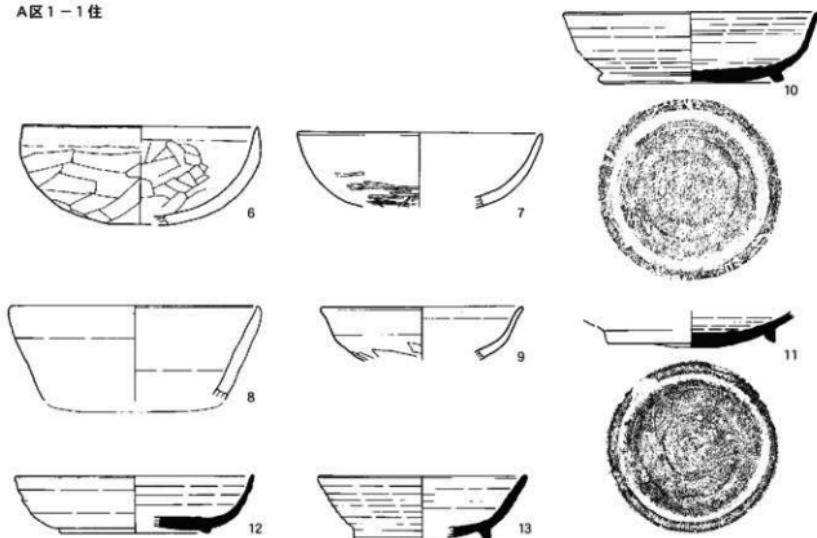
第61図 C区 遺構平面図および断面図（3・4・6号集石土坑）



第62図 C区 遺構平面図および断面図（5号集石土坑）



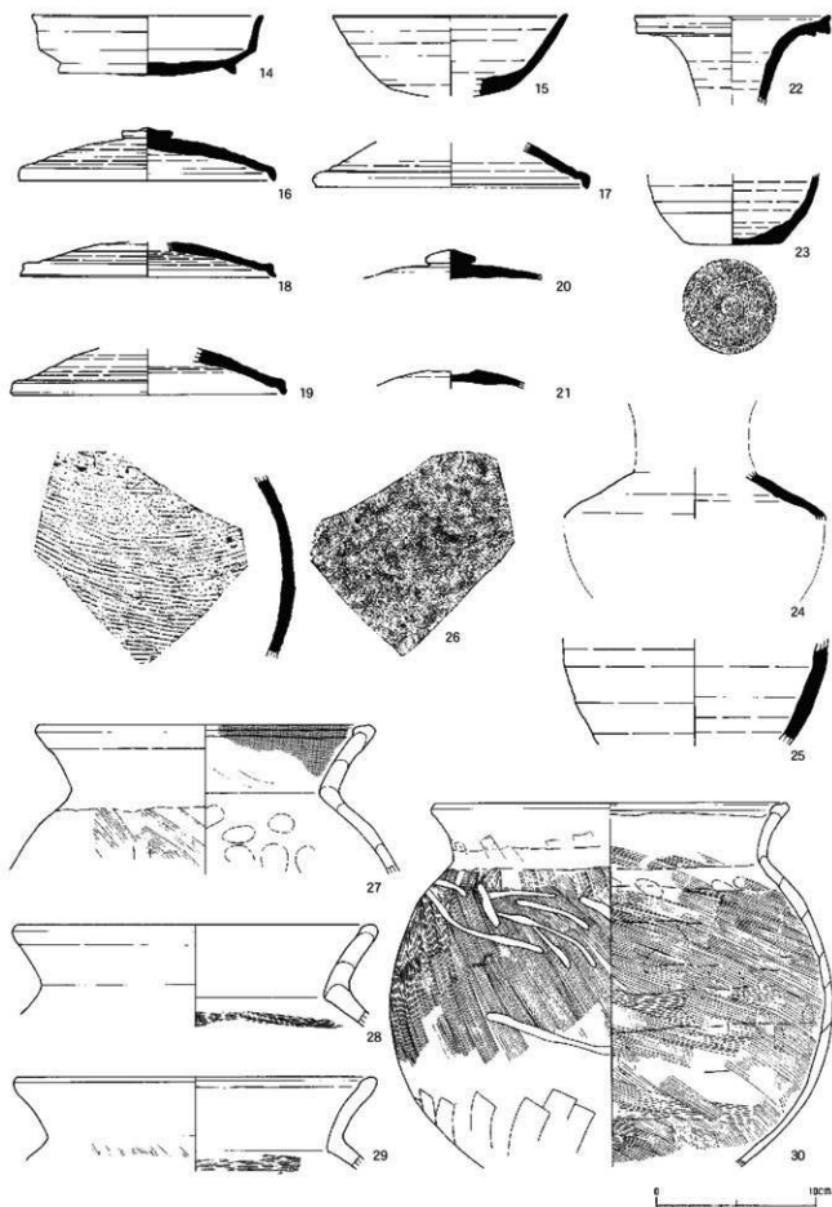
A区1-1住



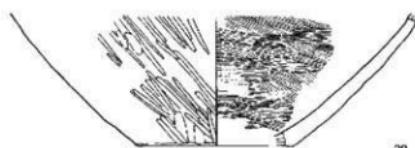
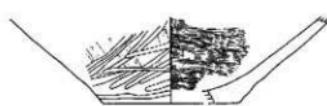
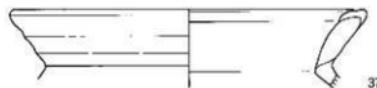
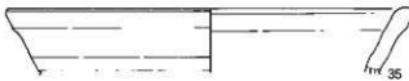
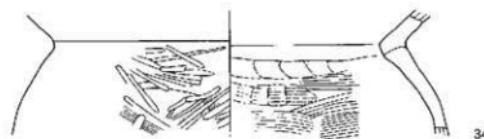
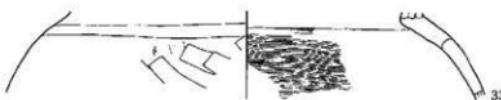
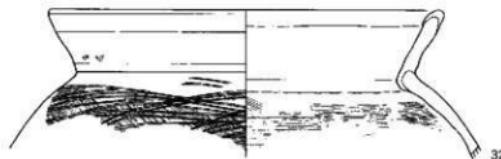
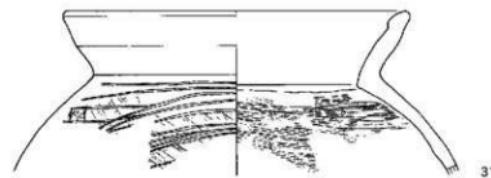
A区1-2住

第63図 A区1 出土遺物（1号住居跡・2号住居跡）

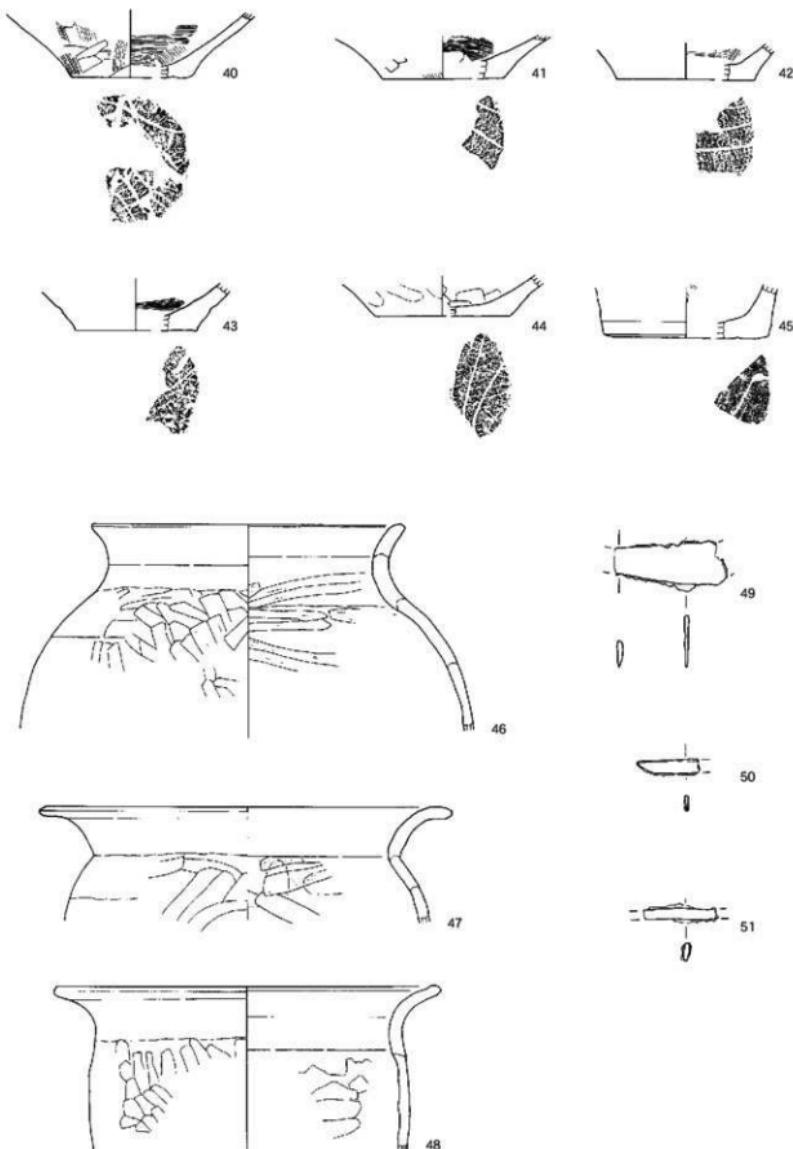




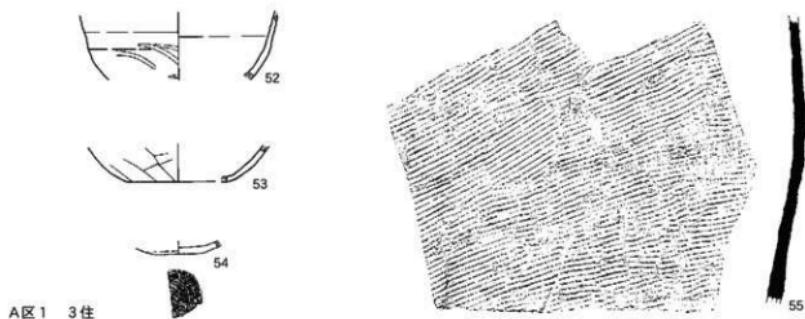
第64図 A区1 出土遺物（2号住居跡）



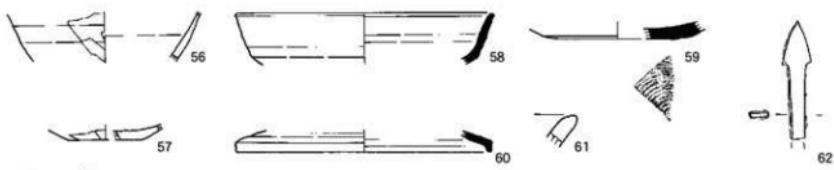
第65図 A区1 出土遺物（2号住居跡）



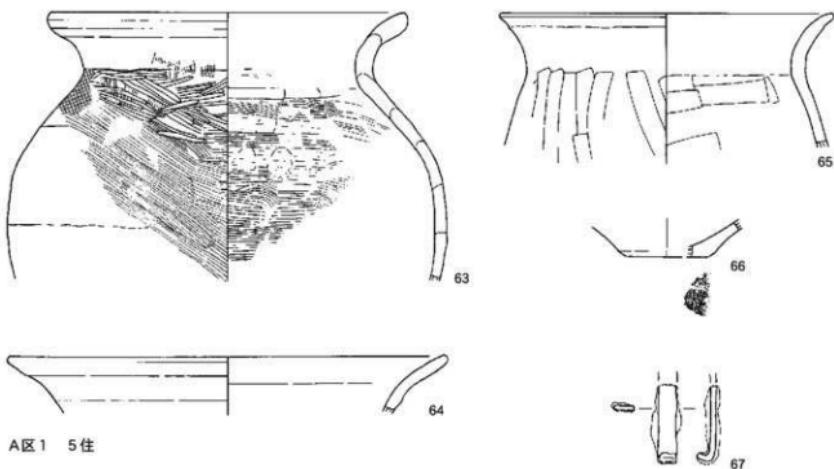
第66図 A区1 出土遺物（2号住居跡）



A区1 3住



A区1 4住



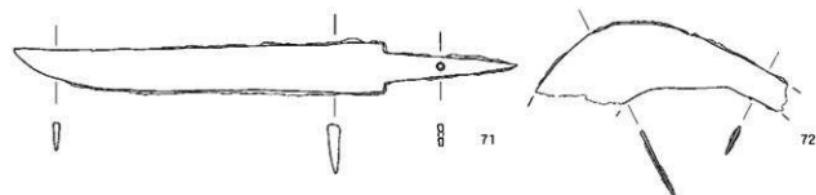
A区1 5住



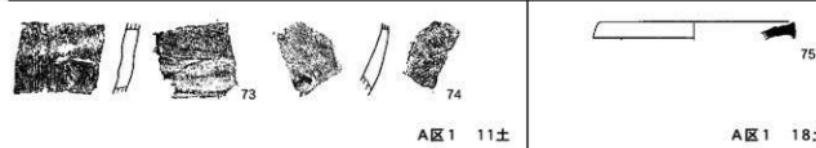
第67図 A区1 出土遺物（3号～5号住居跡）



A区1 2土

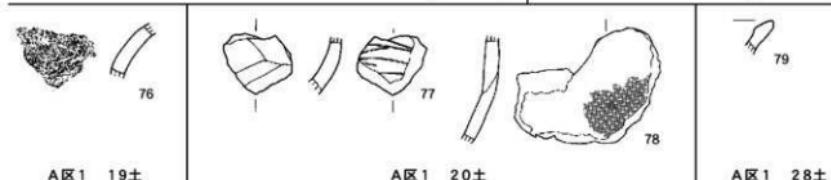


A区1 3土



A区1 11土

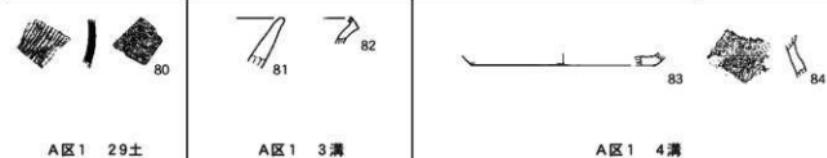
A区1 18土



A区1 19土

A区1 20土

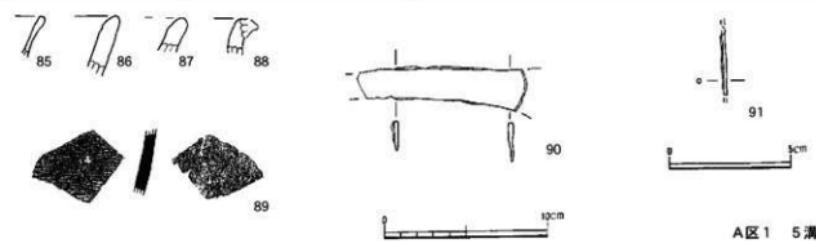
A区1 28土



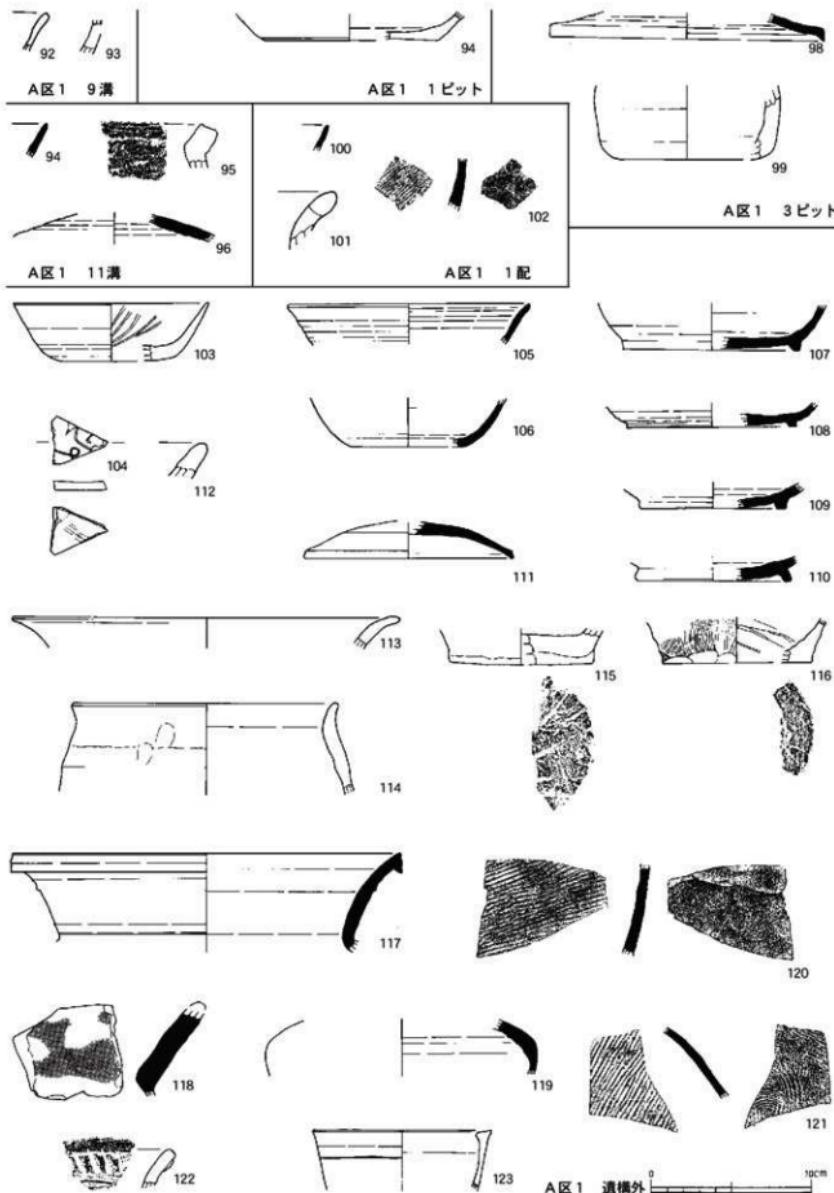
A区1 29土

A区1 3溝

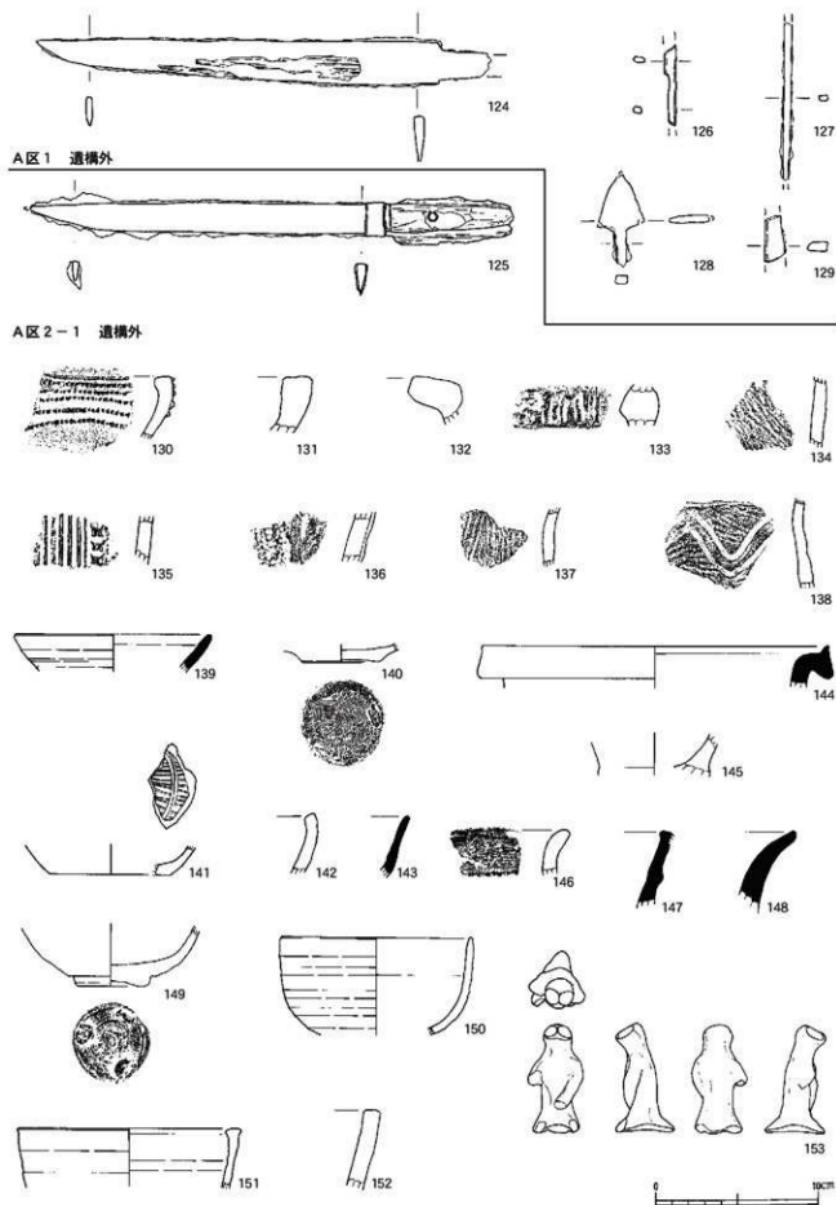
A区1 4溝



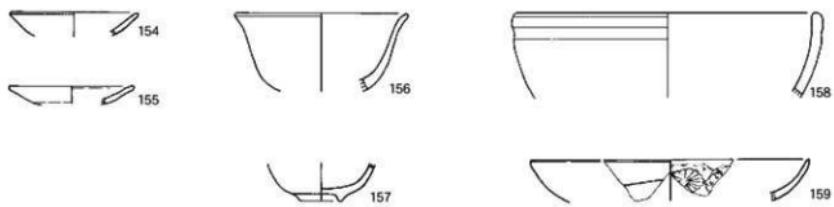
第68図 A区1 出土遺物 (2・3・11・18~20・28・29号土坑、3・4・5号溝状遺構)



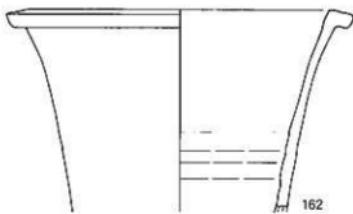
第69図 A区1 出土遺物 (9・11号溝状遺構、1・3ピット、1号配石遺構、遺構外)



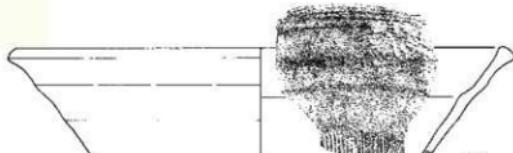
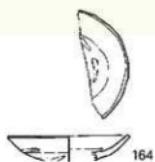
第70図 A区1・A区2-1 出土遺物(遺構外)



A区2-2 1土



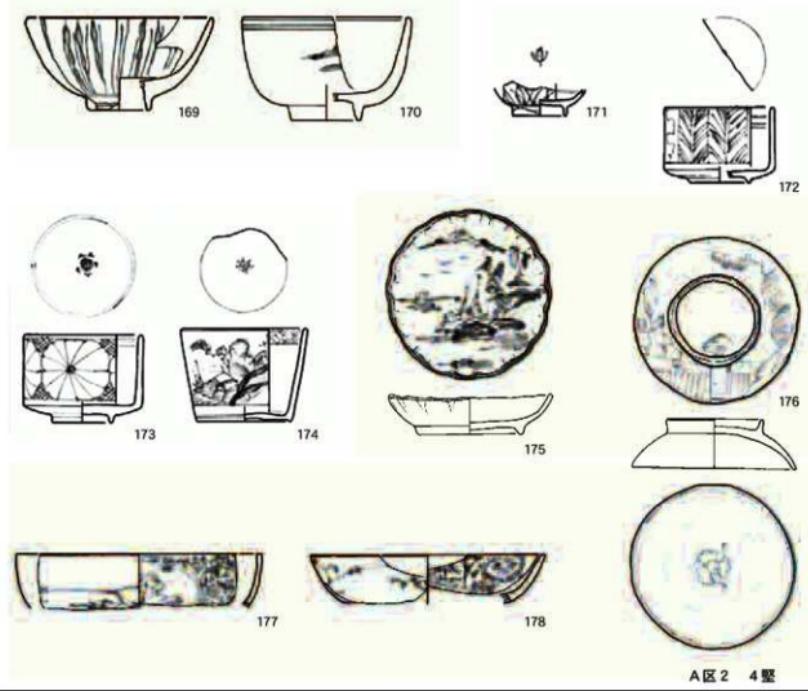
A区2-2 3堅



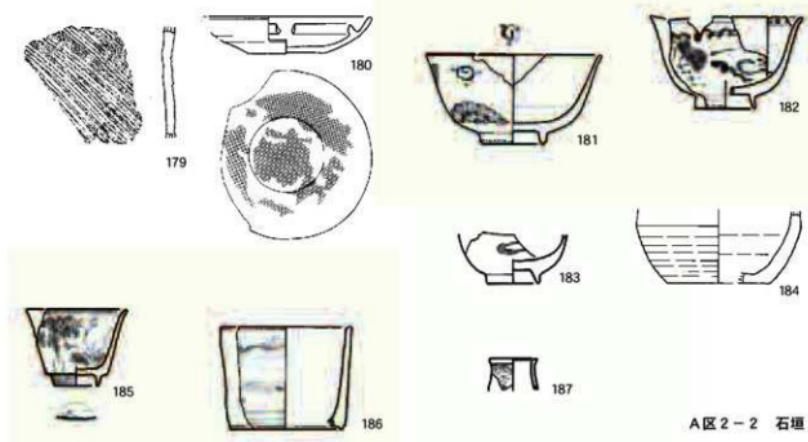
A区2-2 4堅



第71図 A区2-2 出土遺物（1号土坑、3・4号竪穴遺構）



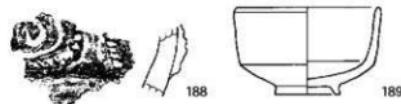
A区 2 4堅



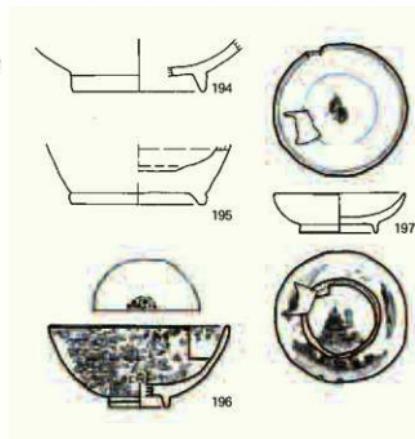
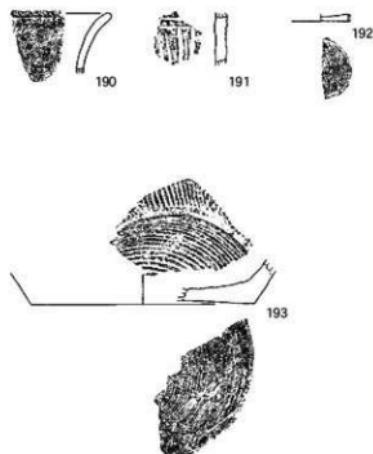
A区 2-2 石垣

0 10cm

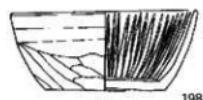
第 72 図 A 区 2-2 出土遺物 (4号竪穴遺構、石垣)



A区 2-2 潟池



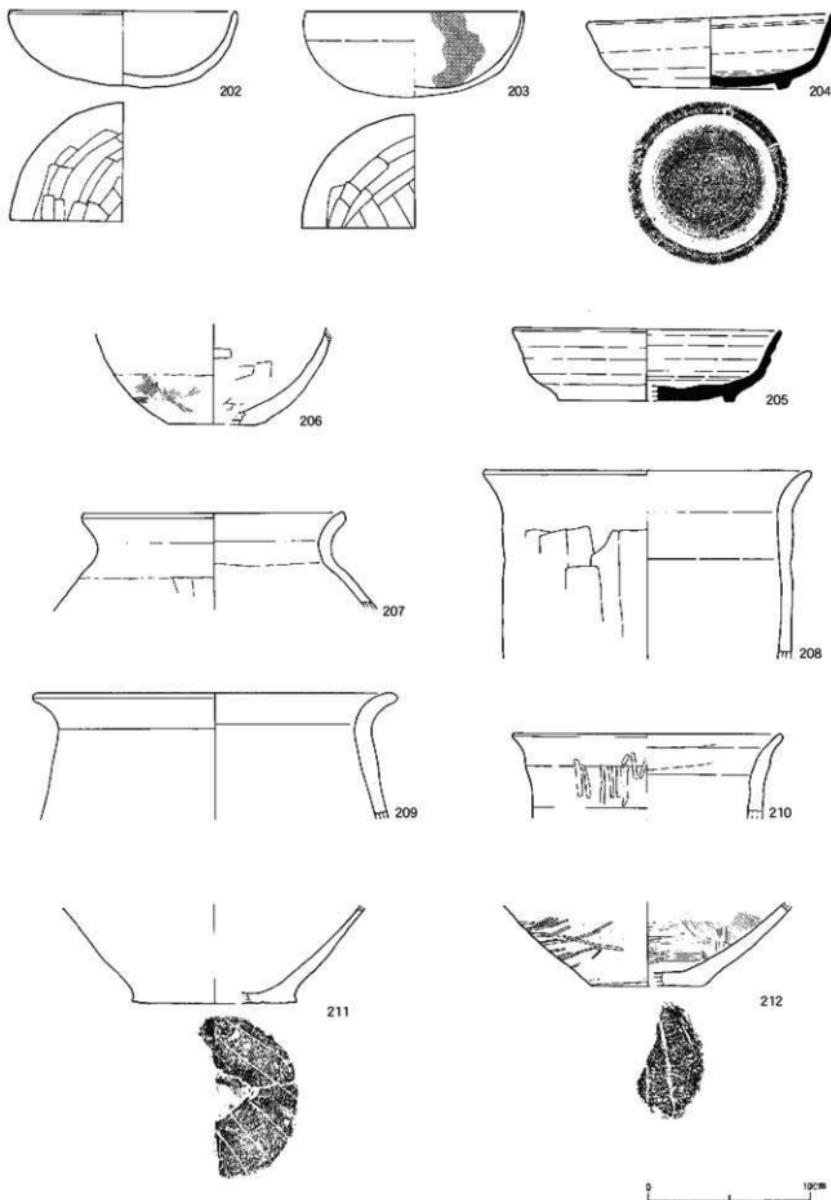
A区 2-2 遺構外



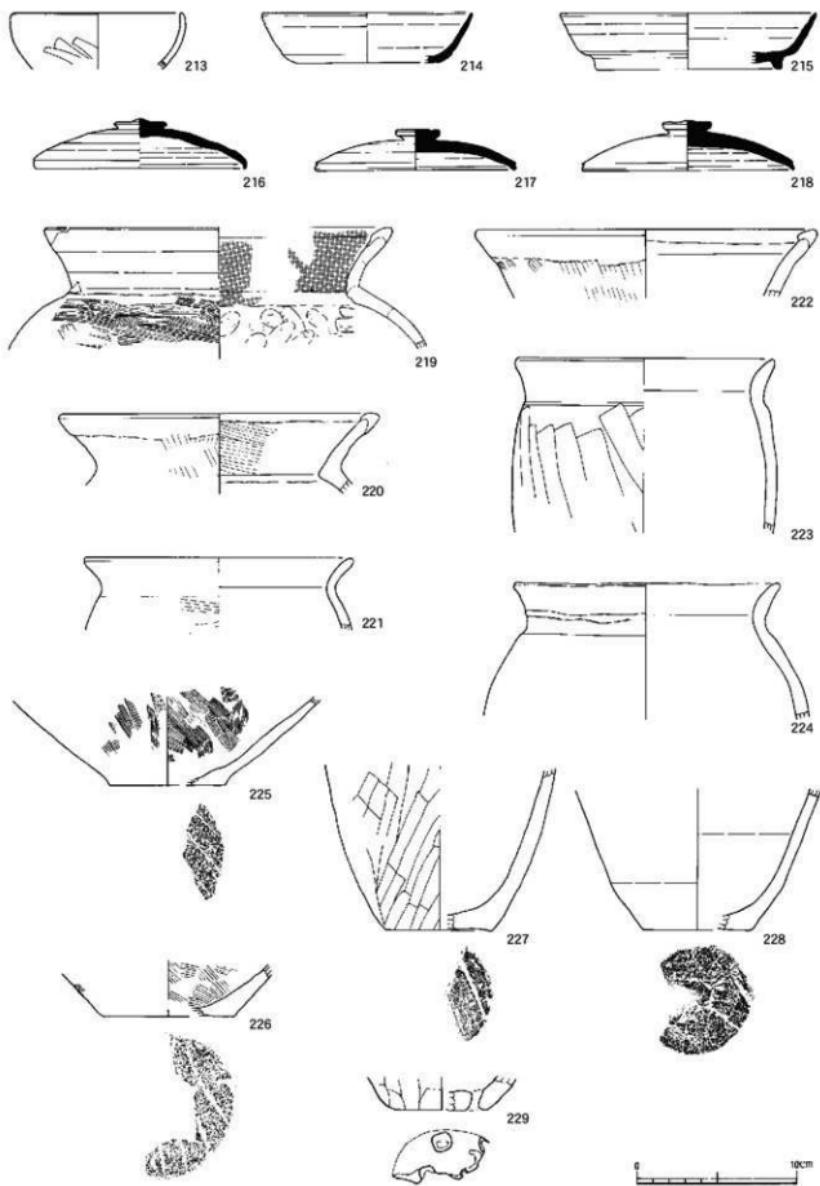
A区 2-3 1住



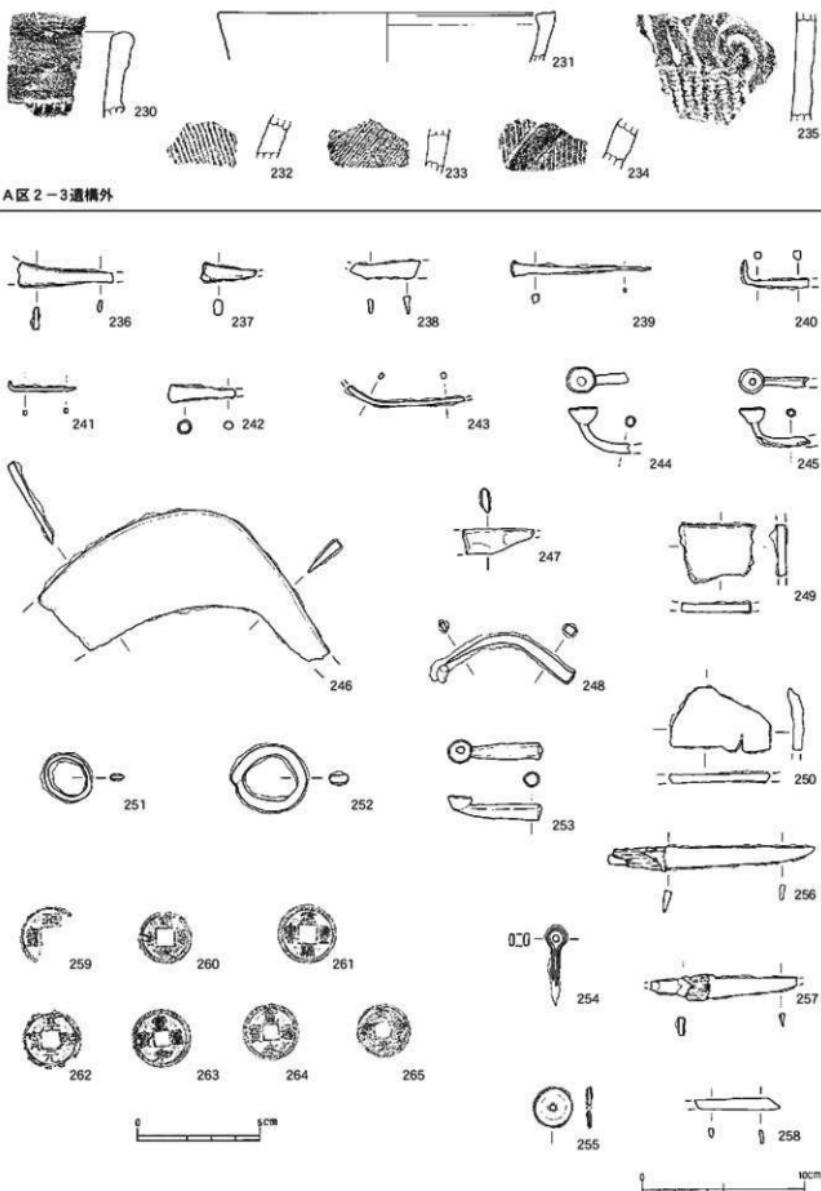
第73図 A区 2-2・A区 2-3 出土遺物 (A区 2-2は澗池状遺構、遺構外、A区 2-3は1号住居跡)



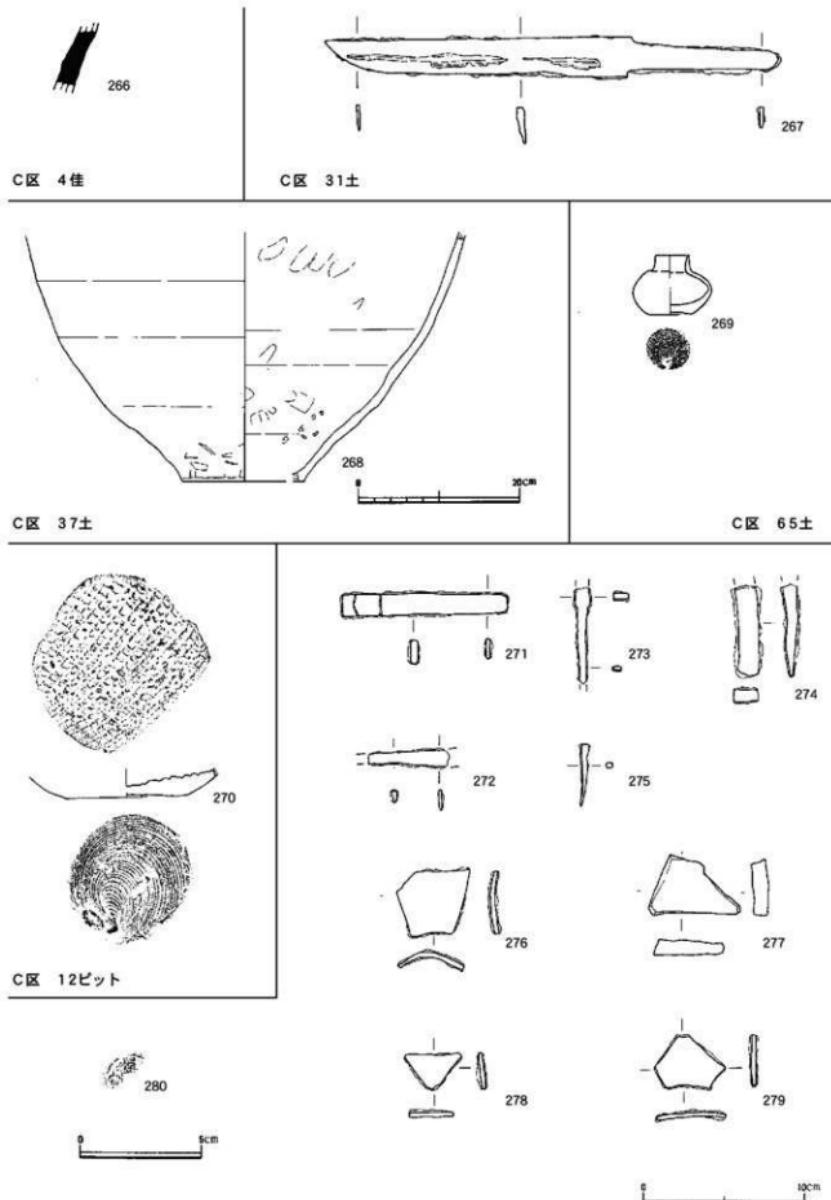
第74図 A区2-3 出土遺物（2号住居跡）



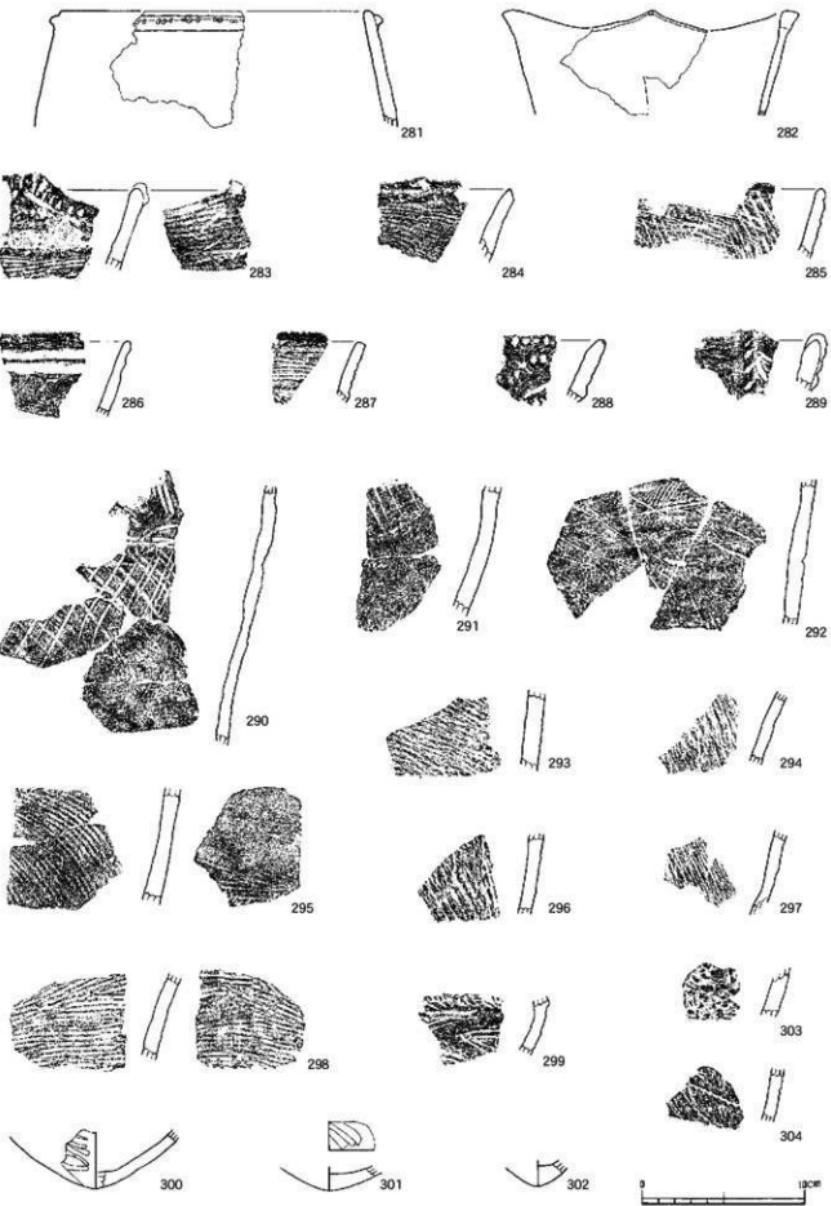
第75図 A区2-3 出土遺物（3号住居跡）



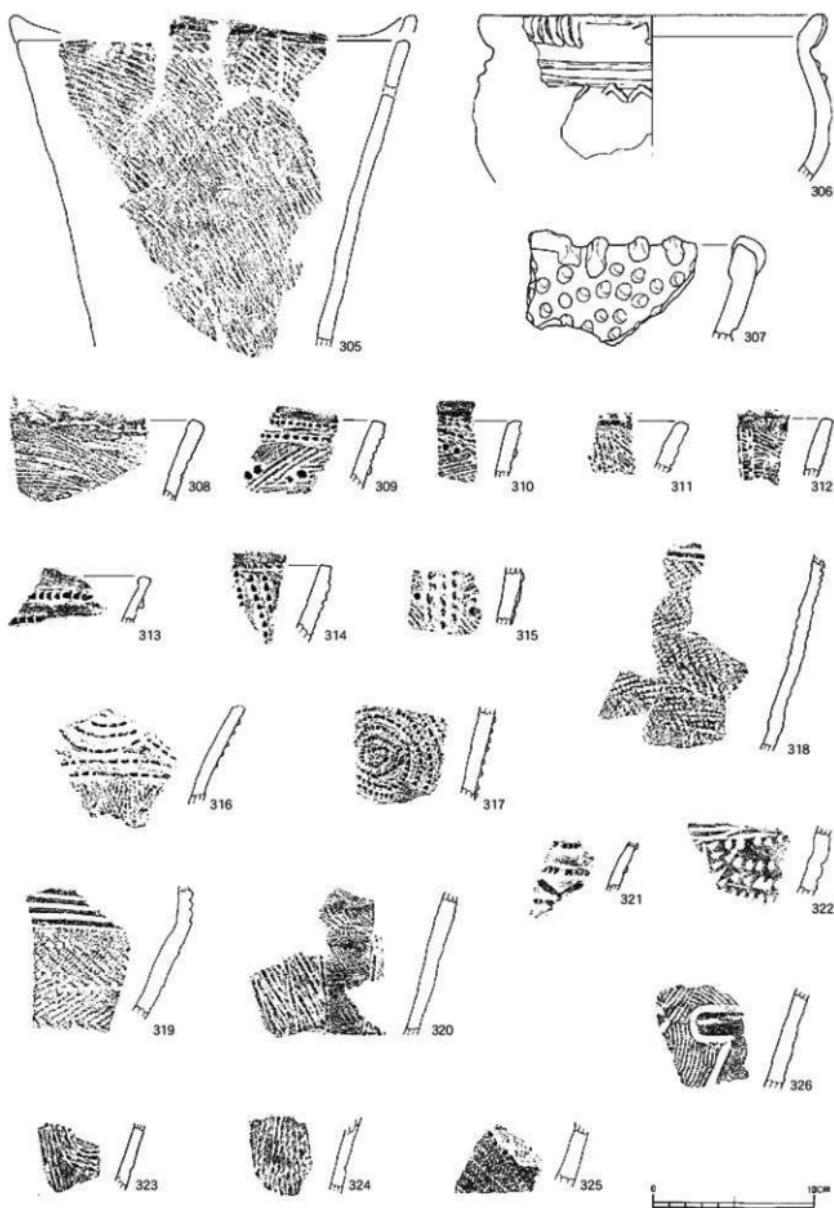
第76図 A区2-3 出土遺物（遺構外、A区2出土金属製品）



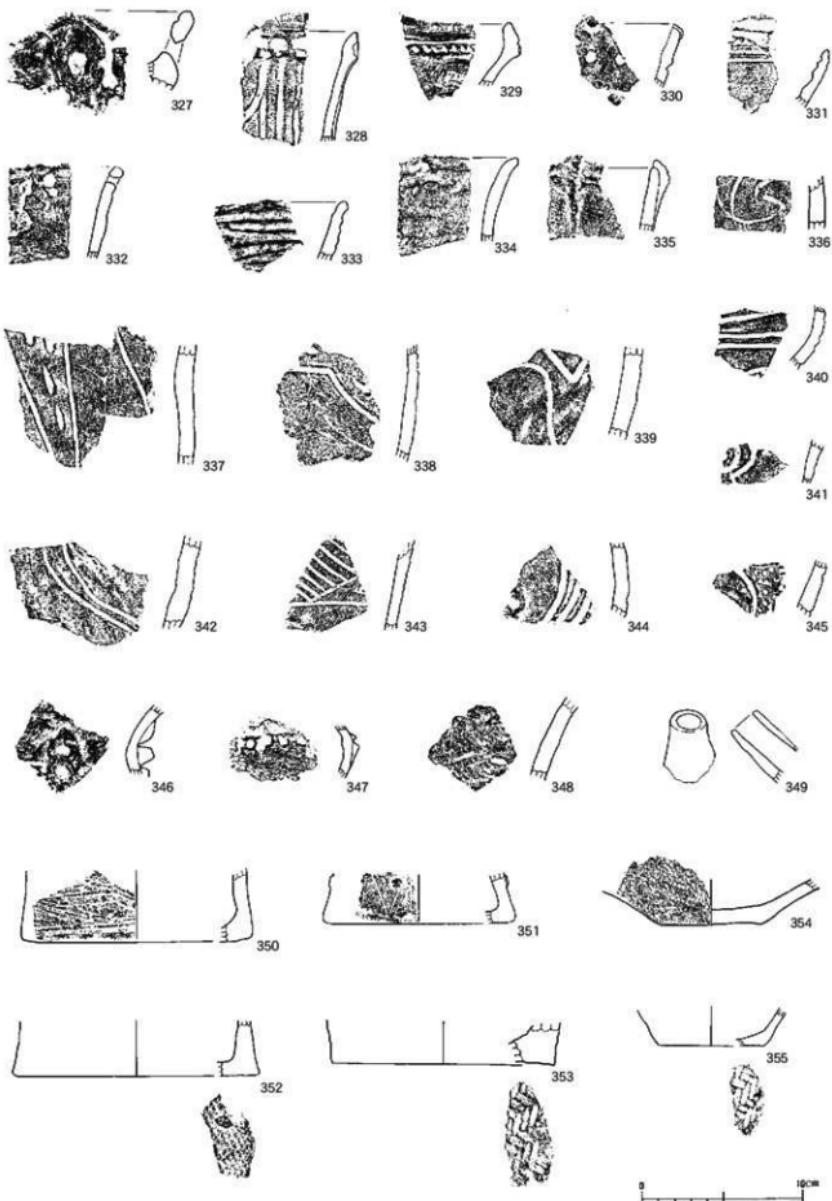
第77図 C区 出土遺物 (4号住居跡、31・37・65号土坑、12ビット、遺構外出土金属製品)



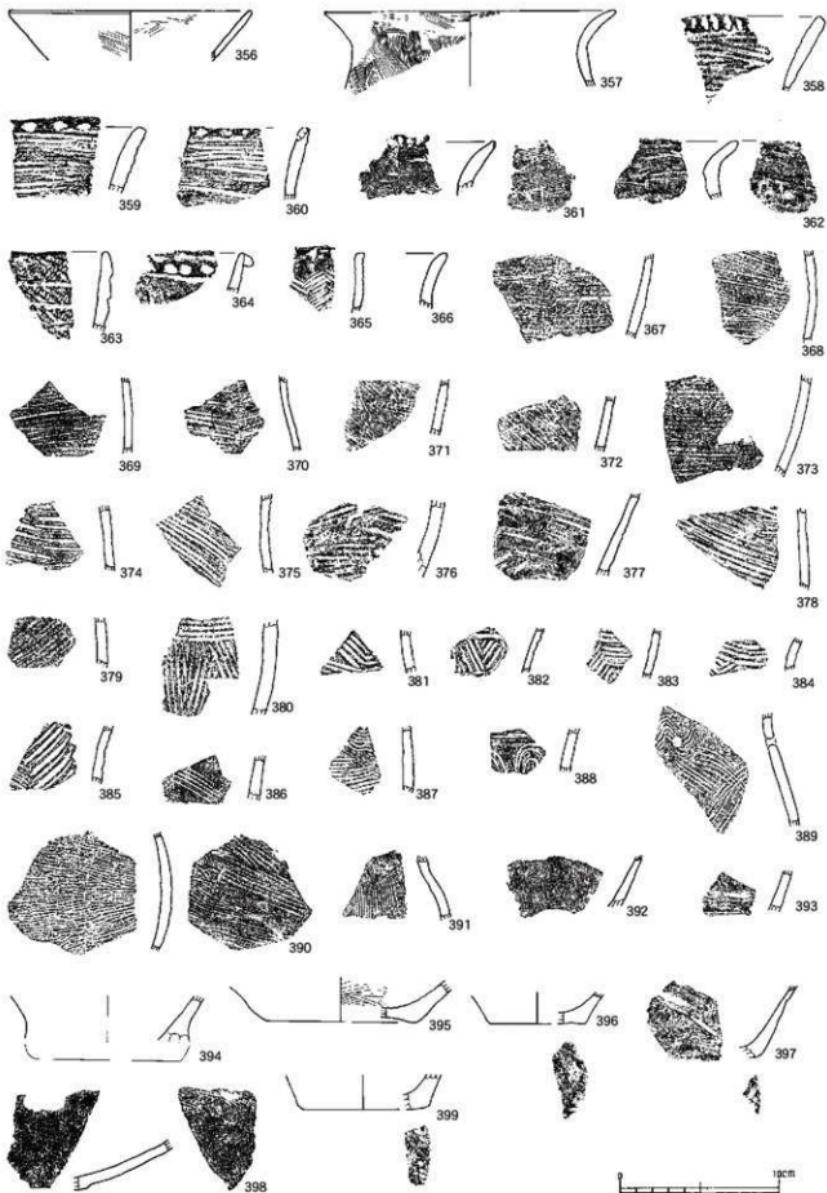
第78図 C区 出土遺物（縄文土器1）



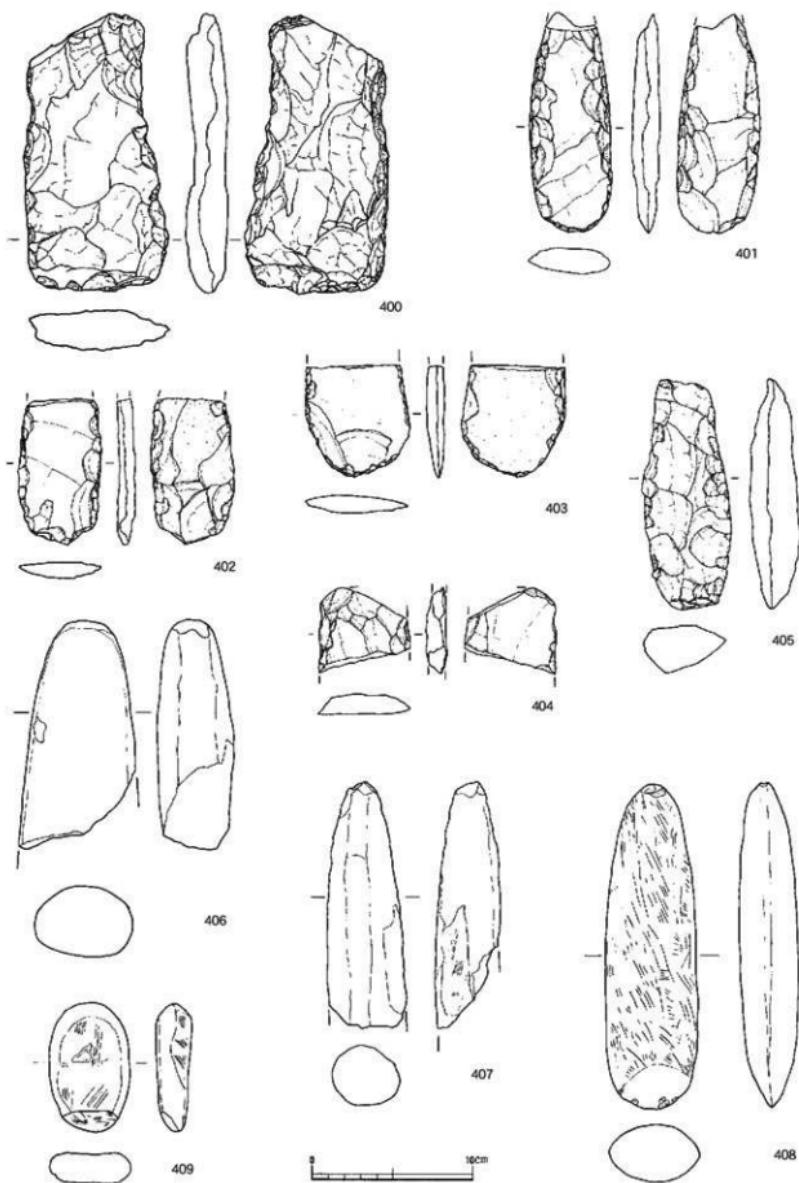
第79図 C区 出土遺物（縄文土器2）



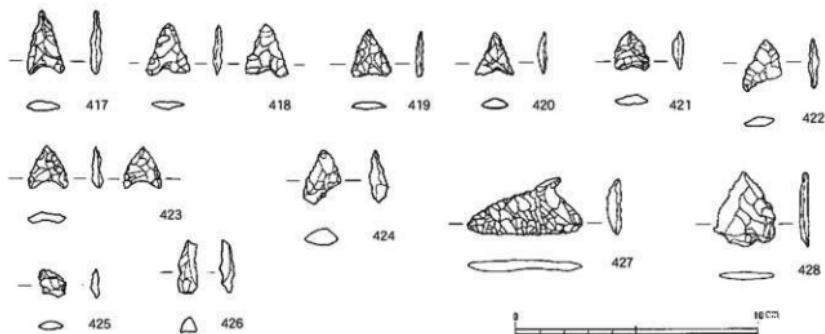
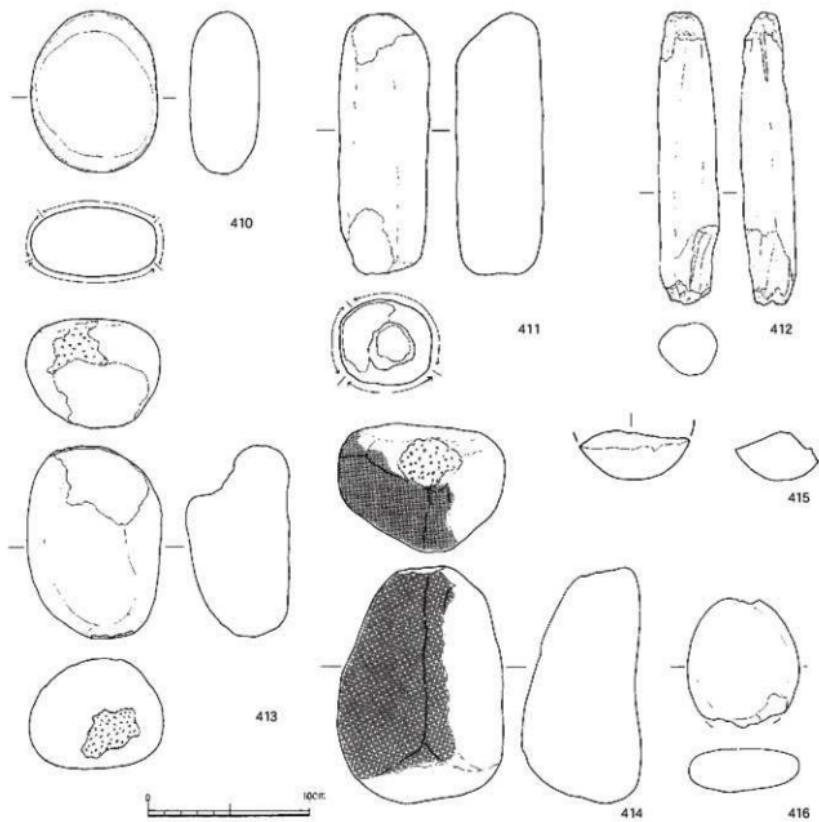
第80図 C区 出土遺物（縄文土器3）



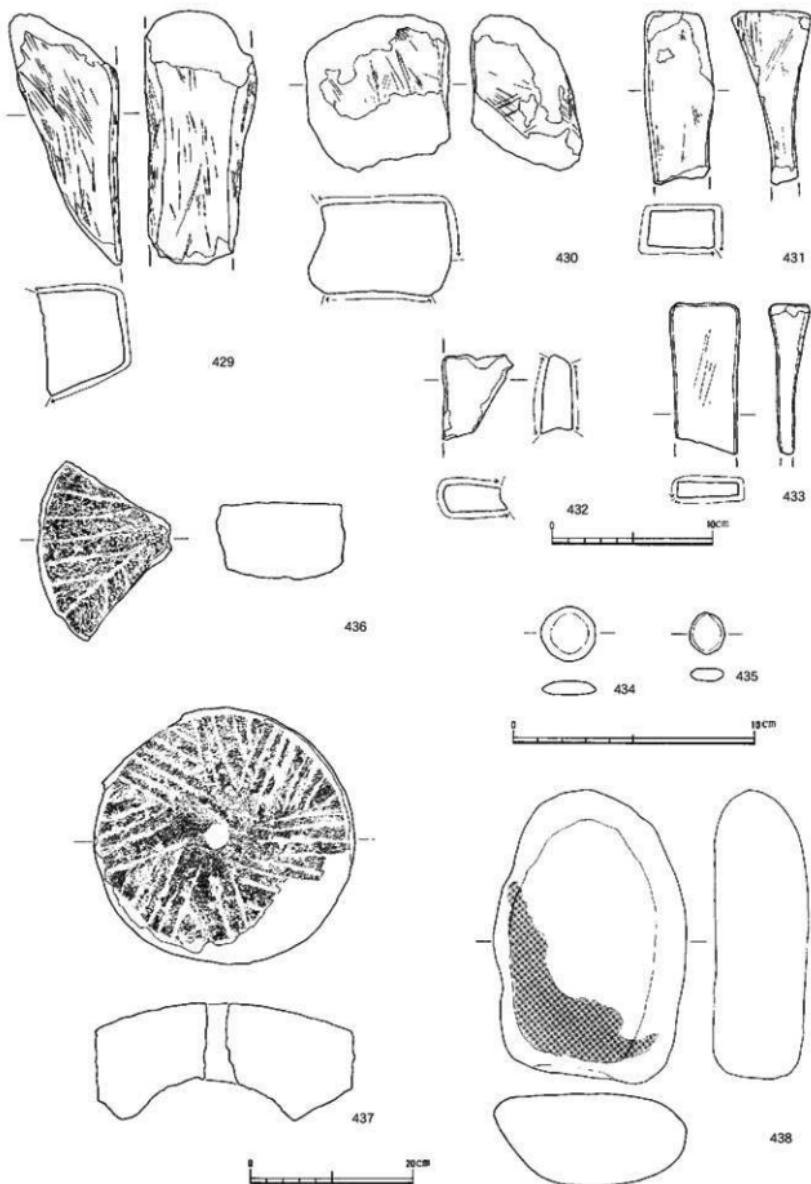
第81図 C区 出土遺物（弥生土器）



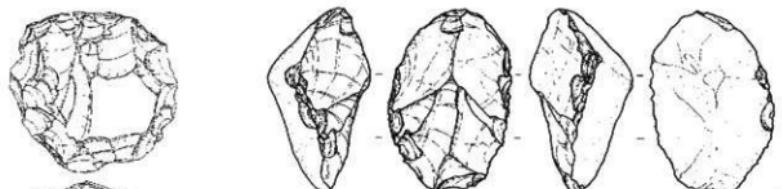
第82図 A・C区 出土遺物（打製石斧・磨製石斧・磨石）



第83図 A・C区 出土遺物（磨石、敲き石、石鏃、石匙、磨製石鏃）



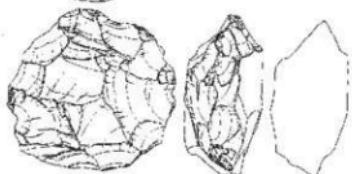
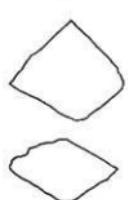
第 84 図 A・C 区 出土遺物 (砥石、石臼、台石、碁石、おはじき)



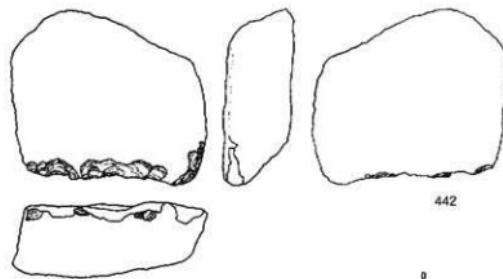
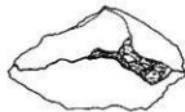
440



439



441



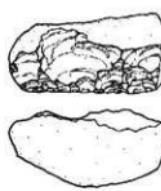
442



第85図 A・C区 出土石器（蝶器）



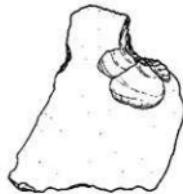
443



444



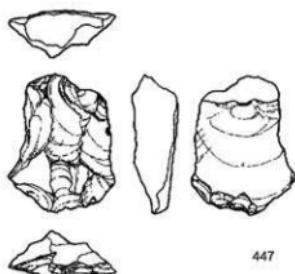
445



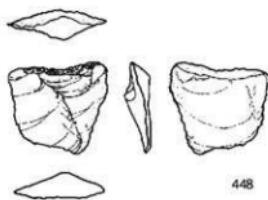
446



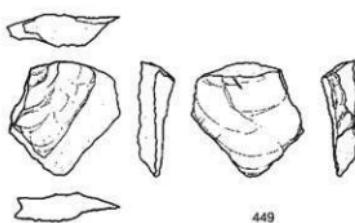
第86図 A・C区 出土石器（礫器・剥片）



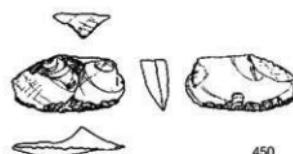
447



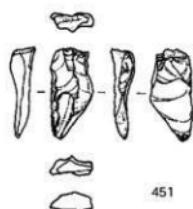
448



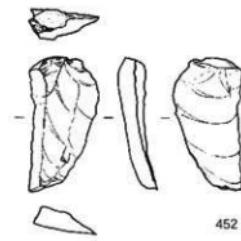
449



450

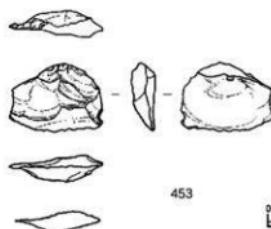


451

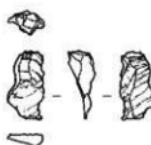


452

0 5CM



453



454

0 5CM

第87図 A・C区 出土石器（砾器・剥片・スクリイバー）

第2表 ピット計測表（A区1）

No.	調査区	グリッド	図版	長軸cm	短軸cm	深度cm	遺物	備考
1	A区	118-AW	19	30	28	45	あり	
2	A区	119-AW	19	32	25	15	あり	
3	A区	119-AW	19	31	30	32	あり	
4	A区	119-AW	19	32	28	18	あり	
5	A区	118-AW	19	30	30	28		
6	A区	119-AW	19	25	28	15		
7	A区	119-AW	19	28	25	30	あり	
8	A区	118-AW	19	30	31	64		
9	A区	120-AX		27	20	13.8		
10	A区	120-AX		24	21	30.6	あり	
11	A区	120-AX	(36)	(26)	24.5			
12	A区	120-AW	26	25	44.5		1号柱穴列	
13	A区	120-AX	24	22	34.5			
14	A区	120-AX	23	21	11.3			
15	A区	120-AX		30	24	22.1	あり	
16	A区	120-AX 121-AX	21	46	40	28.4		
17	A区	120-AX		20	19	26.3		
18	A区	120-AX		26	26	9.0		
19	A区	120-AX		22	18	13.0		
20	A区	120-AW		34	32	24.4		
21	A区	120-AX 121-AX	20	71	64	49.6		2号壠立柱
22	A区	121-AX		52	50	31.2		2号壠立柱
23	A区	121-AX		27	22	22.2		
24	A区	121-AX		30	21	25.1		
25	A区	121-AX		53	34	31.2		
26	A区	121-AX		34	28	34.7		
27	A区	121-AX		58	54	37.4		
28	A区	120-AX 121-AX		42	38	48.8		
29	A区	121-AX	20	60	54	34.1		2号壠立柱
30	A区	121-AX	21	36	33	73.5		3号壠立柱
31	A区	121-AX	20	60	60	73.5		2号壠立柱
32	A区	121-AX	21	36	32	33.0		3号壠立柱
33	A区	121-AX	21	30	25	25.2	あり	3号壠立柱
34	A区	121-AX	21	38	28	57.9		3号壠立柱
35	A区	120-AW	21	34	28	25.6		礫石あり
36	A区	120-AY		54	38	56.2		
37	A区	120-AY		36	32	11.2		
38	A区	120-AY		35	32	27.5		
39	A区	120-AY		32	25	10.7		
40	A区	120-AY		42	32	11.1		
41	A区	121-AX		30	26	10.4		
42	A区	120-AX 121-AX		22	18	13.4		
43	A区	120-AX 121-AX	21	30	28	52.9		3号壠立柱
44	A区	121-AY	21	20	17	6.5		3号壠立柱
45	A区	119-AV	19・21	48	47	33.1		
46	A区	119-AV	19	30	28	27.0		
47	A区	119-AW	19	28	26	16.6		
48	A区	119-AW	19	31	26	16.6		
49	A区	120-AX		31	22	21.7		
50	A区	120-AX		25	26	40		1号柱穴列
51	A区	120-AX		27	25	38		1号柱穴列?
52	A区	120-AX		25	25	40		1号柱穴列?
53	A区	120-AX		28	25	36		
54	A区	121-AX		20	23	30		
55	A区	121-AX		20	18	29.4		
56	A区	120-AX 121-AX		42	32	26.1		
57	A区	120-AW	21	28	18	18.2		1号柱穴列
58	A区	120-AW	21	28	22	16.0		1号柱穴列
59	A区	120-AW		28	26	15.3		
60	A区	121-AX		28	28	13.5		
61	A区	121-AX		29	29	37.6		礫石あり
62	A区	121-AW		30	27	30.1		3号壠立柱
63	A区	120-AW	21	36	34	31.7		

No	調査区	グリッド	回版	長軸cm	短軸cm	深度cm	遺物	備考
64	A区	121-AW	21	35	32	38.8		
65	A区	121-AX		24	24	6.6		
66	A区	121-AX		20	17	9.3		
67	A区	121-AX		20	20	11.2		
68	A区	121-AX		30	26	10.2		
69	A区	121-AY		25	22	23.7		
70	A区	122-AX 122-AY		30	27	21.6		
71	A区	121-AX		30	24	25.3		
72	A区	129-BC		30	30	34.3		

ピット計測表(C区)

No	調査区	グリッド	回版	長軸	短軸	深度	遺物	備考
1	C区	L-16		22	20	11		
2	C区	L-17		32	30	8		
3	C区	17-L		60	46	13		
4	C区	17-M		32	30	17		
5	C区	17-M		(78)	(60)	13		
6	C区	17-L		30	27	16		
7	C区	16-L 17-L		29	25	8		
8	C区	16-L		22	20	12		
9	C区	17-M		(36)	31	18		
10	C区	17-M		(40)	(37)	46	炭化物	
11	C区	19-M	50	32	30	13		
12	C区	18-M	50	32	30	14	第77図-270	
13	C区	18-M	50	26	22	12		
14	C区	18-M		34	23	13		
15	C区	18-O		(22)	16	13		
16	C区	18-O		22	18	17		
17	C区	18-O		33	31	5		
18	C区	16-L		28	27	12		
19	C区	16-M		48	34	28		
20	C区	17-L		(32)	29	23		
21	C区	19-N		50	28	21		
22	C区	20-M		28	24	16	炭化物	
23	C区	19-M	50	34	28	37		
24	C区	18-M		(31)	24	9		
25	C区	18-M		19	17	10		
26	C区	18-M		20	17	9		
27	C区	17-M		44	37	16		
28	C区	17-M		34	30	16		
29	C区	18-M	50	32	26	14		
30	C区	18-N	50	32	30	32		
31	C区	18-N		22	20	10		
32	C区	17-M		(35)	30	13		
33	C区	19-N		26	24	13		
34	C区	19-N		30	24	14		
35	C区	19-N		60	30	13		
36	C区	19-N		29	23	10		
37	C区	19-N		(56)	38	18		
38	C区	18-N		29	28	17		
39	C区	18-N		35	33	20		
40	C区	19-N		38	32	20		
41	C区	19-N		34	34	21		
42	C区	19-N		32	32	18		
43	C区	20-N		28	23	12		
44	C区	19-N		42	30	16	土器片	
45	C区	16-M		22	20	7		
46	C区	16-M		24	21	17		
47	C区	17-M		26	23	10		
48	C区	16-M		24	18	46		
49	C区	18-N	50	26	23	13		
50	C区	17-M		(26)	22	9		
51	C区	17-N		(30)	20	17		
52	C区	18-O		30	29	9		
53	C区	18-O		20	27	15		
54	C区	16-K		33	31	15		
55	C区	17-N		26	23	13		
56	C区	17-N		22	18	21		

No.	調査区	グリッド	図版	長軸	短軸	深度	遺物	備考
57	C区	17-N		24	24	20		
58	C区	17-N		38	31	23		
59	C区	17-N		24	24	9		
60	C区	17-M		29	22	10		
61	C区	17-M		30	16	11		
62	C区	17-N		48	40	30		
63	C区	17-N		30	28	11		
64	C区	17-N		24	22	7		
65	C区	18-N		22	22	13		
66	C区	18-N		24	20	7		
67	C区	17-N		28	26	9		
68	C区	17-N		40	23	12		
69	C区	17-N	(34)	24	7			
70	C区	17-M 17-N		30	23	9		
71	C区	17-M 17-N		26	22	9		
72	C区	17-M		22	20	18		
73	C区	17-M		18	17	8		
74	C区	19-R		50	34	78		
75	C区	23-T 23-U		21	21	53		
76	C区	23-T 23-T		25	22			
77	C区	24-T		26	18	41		
78	C区				22		欠番	
79	C区	24-U		26	20	13		
80	C区	24-U		36	30	19		
81	C区	24-U		30	20	31		
82	C区	24-U		30	28			
83	C区	23-U		27	25	18		
84	C区	23-U 24-U	(24)	(24)	32			
85	C区	23-U 23-V		48	40	32		
86	C区	23-V		41	33	34		
87	C区	30-V		42	31	11		
88	C区						欠番	図中に無し
89	C区	20-Q		24	22			
90	C区	19-Q		50	30			
91	C区	19-Q 19-R		27	23			
92	C区	19-R		26	22	15		
93	C区	19-R		34	24	14		
94	C区	19-R		40	33	17		
95	C区	19-R		32	28	12		
96	C区	20-S		32	31	20		
97	C区	20-S		47	32	59		
98	C区	22-T		24	19	29		
99	C区	22-T		21	18	12		
100	C区	22-T		20	16	5		
101	C区	23-U		22	20	32		
102	C区	23-T		27	24	13		
103	C区	23-U 24-T		32	28	23		
104	C区	24-T		22	22	22		
105	C区	23-U 23-V		54	38	26		
106	C区	24-U		24	20	35		
107	C区	24-U		22	20	32		
108	C区	24-U		27	22	21		
109	C区	24-U 24-V		28	23	11		
110	C区	25-U		23	23	6		
111	C区	25-V		36	30	13		

小類	大類	屬科	種名	學名	別名	分布	形態	類別	寄生		宿主	寄生部位	生活史
									寄生率	寄生量			
小類	油菜區	圓鱗	圓鱗	Brachycerotis bruchi	1.日野稻	1.油菜區	圓鱗	外圍	0.0%	—	無	—	無
小類	油菜區	圓鱗	圓鱗	Brachycerotis bruchi	1.日野稻	2.油菜區	圓鱗	外圍	16.0%	(2.26)	無	—	無
小類	油菜區	圓鱗	圓鱗	Brachycerotis bruchi	2.油菜區	圓鱗	圓鱗	外圍	9.0%	(0.95)	無	—	無
小類	油菜區	圓鱗	圓鱗	Brachycerotis bruchi	3.油菜區	圓鱗	圓鱗	外圍	—	—	無	—	無
區63	到A區1	1.稻田	1.稻田	Brachycerotis bruchi	4.土壤	秧苗型	圓鱗	外圍	20.60%	(30.00)	8.60	—	無
區63	到A區1	1.稻田	5.土壤	秧	—	(18.80)	—	—	—	—	—	—	無
區63	到A區1	2.稻田	6.土壤	秧	6.土壤	14.40	—	6.00	—>幼齡	—	無	—	無
區63	到A區1	2.稻田	7.土壤	秧	7.土壤	14.80	4.5	—	3.0%±	—	無	—	無
區63	到A區1	2.稻田	8.土壤	秧	8.土壤	15.00	5.75	—	—	—	無	—	無
區63	到A區1	2.稻田	9.土壤	秧	9.土壤	12.20	(3.20)	—	—	—	無	—	無
區63	到A區1	2.稻田	10.土壤	秧	10.土壤	15.40	4.35	11.20	口12	—	無	—	無
區63	到A區1	2.稻田	11.土壤	秧	11.土壤	12.20	(2.20)	—	—	—	無	—	無
區63	到A區1	2.稻田	12.土壤	秧	12.土壤	14.40	3.50	0.00	口12	—	無	—	無
區63	到A區1	2.稻田	13.土壤	秧	13.土壤	12.70	(3.05)	—	—	—	無	—	無
區63	到A區1	2.稻田	14.土壤	秧	14.土壤	14.00	3.65	(10.70)	口12	—	無	—	無
區63	到A區1	2.稻田	15.土壤	秧	15.土壤	14.20	4.55	(8.80)	口12	—	無	—	無
區63	到A區1	2.稻田	16.土壤	秧	16.土壤	13.20	(1.50)	—	—	—	無	—	無
區64	到A區1	2.土壤	17.土壤	秧	17.土壤	2.75	(0.60)	—	—	—	無	—	無
區64	到A區1	2.土壤	18.土壤	秧	18.土壤	2.11	(0.15)	—	—	—	無	—	無
區64	到A區1	2.土壤	19.土壤	秧	19.土壤	2.11	(0.15)	—	—	—	無	—	無
區64	到A區1	2.土壤	20.土壤	秧	20.土壤	0.0	—	—	—	—	無	—	無
區64	到A區1	2.土壤	21.土壤	秧	21.土壤	0.0	—	—	—	—	無	—	無
區64	到A區1	2.土壤	22.土壤	秧	22.土壤	12.00%	(5.50)	—	—	—	無	—	無
區64	到A區1	2.土壤	23.土壤	秧	23.土壤	14.30%	(3.80)	—	—	—	無	—	無
區64	到A區1	2.土壤	24.土壤	秧	24.土壤	—	—	—	—	—	無	—	無
區65	到A區1	2.土壤	25.土壤	秧	25.土壤	—	—	—	—	—	無	—	無
區65	到A區1	2.土壤	26.土壤	秧	26.土壤	—	—	—	—	—	無	—	無
區65	到A區1	2.土壤	27.土壤	秧	27.土壤	—	—	—	—	—	無	—	無
區65	到A區1	2.土壤	28.土壤	秧	28.土壤	—	—	—	—	—	無	—	無
區65	到A區1	2.土壤	29.土壤	秧	29.土壤	—	—	—	—	—	無	—	無
區65	到A區1	2.土壤	30.土壤	秧	30.土壤	—	—	—	—	—	無	—	無
區65	到A區1	2.土壤	31.土壤	秧	31.土壤	—	—	—	—	—	無	—	無
區65	到A區1	2.土壤	32.土壤	秧	32.土壤	—	—	—	—	—	無	—	無
區65	到A區1	2.土壤	33.土壤	秧	33.土壤	—	—	—	—	—	無	—	無
區65	到A區1	2.土壤	34.土壤	秧	34.土壤	—	—	—	—	—	無	—	無
區65	到A區1	2.土壤	35.土壤	秧	35.土壤	—	—	—	—	—	無	—	無
區65	到A區1	2.土壤	36.土壤	秧	36.土壤	—	—	—	—	—	無	—	無
區65	到A區1	2.土壤	37.土壤	秧	37.土壤	—	—	—	—	—	無	—	無
區65	到A區1	2.土壤	38.土壤	秧	38.土壤	—	—	—	—	—	無	—	無
區65	到A區1	2.土壤	39.土壤	秧	39.土壤	—	—	—	—	—	無	—	無
區65	到A區1	2.土壤	40.土壤	秧	40.土壤	—	—	—	—	—	無	—	無
區66	到A區1	2.土壤	41.土壤	秧	41.土壤	—	—	—	—	—	無	—	無
區66	到A區1	2.土壤	42.土壤	秧	42.土壤	—	—	—	—	—	無	—	無
區66	到A區1	2.土壤	43.土壤	秧	43.土壤	—	—	—	—	—	無	—	無
區66	到A區1	2.土壤	44.土壤	秧	44.土壤	—	—	—	—	—	無	—	無
區66	到A區1	2.土壤	45.土壤	秧	45.土壤	—	—	—	—	—	無	—	無

第3表 美通遺跡A・C区 土器類觀察表

標名	属名	%	被例	忠情	寄相	口語	器皿	底葉	葉形	外葉	内葉	葉色	花	果	根状茎	留所
第66回 A区1	2.5% 椿	45	±25	椿	椿頭	—	C140 (100)	木葉	心葉	心葉	心葉	綠色	白花椿子・石斑子 白花椿子・金露子	金露子	P1H127	忠原 NO30
第66回 A区1	2.5% 椿	46	±25	椿	椿頭	—	—	19.00 (2.50)	—	~バナナ	—	綠色	白花椿子・金露子	金露子	ガマダラ・3	忠原 NO316
第66回 A区1	2.5% 椿	47	±25	椿	椿頭	—	—	24.80 (7.00)	—	~バナナ	—	綠色	白花椿子・金露子	金露子	P1H167 600	忠原 NO19
第66回 A区1	2.5% 椿	48	±25	椿	椿頭	—	—	23.60 (10.20)	—	~バナナ	—	綠色	白花椿子・金露子	金露子	P1H1308	忠原 NO7
第67回 A区1	3.5% 桃	53	±25	桃	桃頭	—	—	—	—	—	—	綠色	白花椿子・金露子	金露子	P-1	忠原 NO3
第67回 A区1	3.5% 桃	54	±25	桃	桃頭	—	—	—	—	—	—	綠色	白花椿子・金露子	金露子	P1H153	忠原 NO34
第67回 A区1	3.5% 桃	55	±25	桃	桃頭	—	—	0.70 (0.30)	2.60	~バナナ	—	綠色	白花椿子・金露子	金露子	P1H155	忠原 NO35
第67回 A区1	3.5% 桃	56	±25	桃	桃頭	—	—	—	—	—	—	綠色	白花椿子・金露子	金露子	P1H135 136	忠原 NO44
第67回 A区1	4.5% 桃	57	±25	桃	桃頭	—	—	0.10 (0.08)	—	~バナナ	—	綠色	白花椿子・金露子	金露子	P1H186	忠原 NO5
第67回 A区1	4.5% 桃	58	±25	桃	桃頭	—	—	15.60 (3.10)	—	~バナナ	—	綠色	白花椿子	白花椿子	P1H144	忠原 NO34
第67回 A区1	5.5% 桃	59	±25	桃	桃頭	—	—	—	—	—	—	綠色	白花椿子	白花椿子	P1H156	忠原 NO36
第67回 A区1	5.5% 桃	60	±25	桃	桃頭	—	—	—	—	—	—	綠色	白花椿子	白花椿子	P1H157	忠原 NO37
第67回 A区1	4.5% 桃	61	±25	桃	桃頭	—	—	—	—	—	—	綠色	白花椿子	白花椿子	P1H158	忠原 NO38
第67回 A区1	5.5% 桃	62	±25	桃	桃頭	—	—	—	—	—	—	綠色	白花椿子	白花椿子	P1H159	忠原 NO39
第67回 A区1	5.5% 桃	63	±25	桃	桃頭	—	—	—	—	—	—	綠色	白花椿子	白花椿子	P1H160	忠原 NO40
第67回 A区1	5.5% 桃	64	±25	桃	桃頭	—	—	—	—	—	—	綠色	白花椿子	白花椿子	P1H161	忠原 NO41
第67回 A区1	5.5% 桃	65	±25	桃	桃頭	—	—	—	—	—	—	綠色	白花椿子	白花椿子	P1H162	忠原 NO42
第67回 A区1	5.5% 桃	66	±25	桃	桃頭	—	—	—	—	—	—	綠色	白花椿子	白花椿子	P1H163	忠原 NO43
第67回 A区1	5.5% 桃	67	±25	桃	桃頭	—	—	—	—	—	—	綠色	白花椿子	白花椿子	P1H164	忠原 NO44
第67回 A区1	5.5% 桃	68	±25	桃	桃頭	—	—	—	—	—	—	綠色	白花椿子	白花椿子	P1H165	忠原 NO45
第67回 A区1	5.5% 桃	69	±25	桃	桃頭	—	—	—	—	—	—	綠色	白花椿子	白花椿子	P1H166	忠原 NO46
第68回 A区1	2.5% 桃	70	±25	桃	桃頭	—	—	—	—	—	—	綠色	白花椿子	白花椿子	P1H167	忠原 NO47
第68回 A区1	2.5% 桃	71	±25	桃	桃頭	—	—	—	—	—	—	綠色	白花椿子	白花椿子	P1H168	忠原 NO48
第68回 A区1	2.5% 桃	72	±25	桃	桃頭	—	—	—	—	—	—	綠色	白花椿子	白花椿子	P1H169	忠原 NO49
第68回 A区1	2.5% 桃	73	±25	桃	桃頭	—	—	—	—	—	—	綠色	白花椿子	白花椿子	P1H170	忠原 NO50
第68回 A区1	2.5% 桃	74	±25	桃	桃頭	—	—	—	—	—	—	綠色	白花椿子	白花椿子	P1H171	忠原 NO51
第68回 A区1	2.5% 桃	75	±25	桃	桃頭	—	—	—	—	—	—	綠色	白花椿子	白花椿子	P1H172	忠原 NO52
第68回 A区1	2.5% 桃	76	±25	桃	桃頭	—	—	—	—	—	—	綠色	白花椿子	白花椿子	P1H173	忠原 NO53
第68回 A区1	2.5% 桃	77	±25	桃	桃頭	—	—	—	—	—	—	綠色	白花椿子	白花椿子	P1H174	忠原 NO54
第68回 A区1	2.5% 桃	78	±25	桃	桃頭	—	—	—	—	—	—	綠色	白花椿子	白花椿子	P1H175	忠原 NO55
第68回 A区1	2.5% 桃	79	±25	桃	桃頭	—	—	—	—	—	—	綠色	白花椿子	白花椿子	P1H176	忠原 NO56
第68回 A区1	2.5% 桃	80	±25	桃	桃頭	—	—	—	—	—	—	綠色	白花椿子	白花椿子	P1H177	忠原 NO57
第68回 A区1	2.5% 桃	81	±25	桃	桃頭	—	—	—	—	—	—	綠色	白花椿子	白花椿子	P1H178	忠原 NO58
第68回 A区1	2.5% 桃	82	±25	桃	桃頭	—	—	—	—	—	—	綠色	白花椿子	白花椿子	P1H179	忠原 NO59
第68回 A区1	2.5% 桃	83	±25	桃	桃頭	—	—	—	—	—	—	綠色	白花椿子	白花椿子	P1H180	忠原 NO60
第68回 A区1	4.5% 桃	84	±25	桃	桃頭	—	—	—	—	—	—	綠色	白花椿子	白花椿子	P1H181	忠原 NO61
第68回 A区1	5.5% 桃	85	±25	桃	桃頭	—	—	—	—	—	—	綠色	白花椿子	白花椿子	P1H182	忠原 NO62
第68回 A区1	5.5% 桃	86	±25	桃	桃頭	—	—	—	—	—	—	綠色	白花椿子	白花椿子	P1H183	忠原 NO63
第68回 A区1	5.5% 桃	87	±25	桃	桃頭	—	—	—	—	—	—	綠色	白花椿子	白花椿子	P1H184	忠原 NO64
第68回 A区1	5.5% 桃	88	±25	桃	桃頭	—	—	—	—	—	—	綠色	白花椿子	白花椿子	P1H185	忠原 NO65
第68回 A区1	5.5% 桃	89	±25	桃	桃頭	—	—	—	—	—	—	綠色	白花椿子	白花椿子	P1H186	忠原 NO66
第68回 A区1	5.5% 桃	90	±25	桃	桃頭	—	—	—	—	—	—	綠色	白花椿子	白花椿子	P1H187	忠原 NO67
第68回 A区1	5.5% 桃	91	±25	桃	桃頭	—	—	—	—	—	—	綠色	白花椿子	白花椿子	P1H188	忠原 NO68
第68回 A区1	5.5% 桃	92	±25	桃	桃頭	—	—	—	—	—	—	綠色	白花椿子	白花椿子	P1H189	忠原 NO69
第68回 A区1	5.5% 桃	93	±25	桃	桃頭	—	—	—	—	—	—	綠色	白花椿子	白花椿子	P1H190	忠原 NO70
第69回 A区1	11.5% 桃	94	±25	桃	桃頭	—	—	—	—	—	—	綠色	白花椿子	白花椿子	P1H191	忠原 NO71
第69回 A区1	11.5% 桃	95	±25	桃	桃頭	—	—	—	—	—	—	綠色	白花椿子	白花椿子	P1H192	忠原 NO72

标本号	属科	属种	%	解剖	总长	卵管	产卵	外胚	内胚	胎生	卵裂	孵化	幼虫	蛹	成虫
第70回 A区 2.1 融懈9	142	土蚕属	环	幼虫	—	—	—	子♂	—	白带•黑脉化7-	—	50	—	—	留寄
第70回 A区 2.1 融懈9	143	土蚕属	环	幼虫	—	—	—	口器	口器	白带•黑脉化7-脉片	—	36	—	—	留寄 No.284
第70回 A区 2.1 融懈9	144	土蚕属	环	幼虫	—	—	—	口器	口器	白带•黑脉化7-脉片	—	40	—	—	留寄 No.285 • 离寄地脚
第70回 A区 2.1 融懈9	145	土蚕属	融	幼虫	—	—	—	80%	80%	白带•黑脉化7-脉片	—	18	—	—	留寄 No.279
第70回 A区 2.1 融懈9	146	土蚕属	融	幼虫	—	—	—	子♀	子♀	白带•黑脉化7-脉片	—	41	—	—	留寄 No.277
第70回 A区 2.1 融懈9	147	土蚕属	融	幼虫	—	—	—	口器	口器	白带•黑脉化7-脉片	—	AP.107.3	—	—	留寄 No.283
第70回 A区 2.1 融懈9	148	土蚕属	融	幼虫	—	—	—	口器	口器	白带•黑脉化7-脉片	—	AP.110.28	—	—	留寄 No.287 • 全寄地脚
第70回 A区 2.1 融懈9	149	角蝉	融	产卵	—	(3.8)	4.0	口器	口器	白带•黑脉化7-脉片	—	AP.110.3	—	—	留寄 No.290 • 融脚
第70回 A区 2.1 融懈9	150	角蝉	融	产卵	—	(11.6)	(5.9)	口器	口器	白带•黑脉化7-脉片	—	56-57	—	—	留寄 No.288 • 融脚
第70回 A区 2.1 融懈9	151	角蝉	融	产卵	—	13.8	(5.7)	口器	口器	白带•黑脉化7-脉片	—	46	—	—	留寄 No.289 • 融脚
第70回 A区 2.1 融懈9	152	土蚕	始体	后腿	—	—	—	子♂	子♂	白带•黑脉化7-脉片	—	AP.110.2	—	—	留寄 No.281
第70回 A区 2.1 融懈9	153	土蚕属	融	六龄?	—	6.6	—	口器	口器	白带•黑脉化7-脉片	—	AP.108.1	—	—	留寄 No.341
第71回 A区 2.1 号虫	154	土蚕属	6♂7♀?	半成虫	(7.7)	(1.4)	—	子♂	子♂	白带•黑脉化7-脉片	—	30%	—	—	留寄 No.297
第71回 A区 2.1 号虫	155	土蚕属	6♂7♀?	半成虫	(7.5)	(0.1)	—	子♂	子♂	白带•黑脉化7-脉片	—	30%	1.土	—	留寄 No.298
第71回 A区 2.1 号虫	156	角蝉	融	后腿	—	10.50	(4.7)	口器	口器	白带•黑脉化7-脉片	—	1.土	—	—	留寄 No.294
第71回 A区 2.1 号虫	157	角蝉	融	后腿	—	10.50	(4.7)	口器	口器	白带•黑脉化7-脉片	—	1.土	—	—	留寄 No.295 • 融脚
第71回 A区 2.1 号虫	158	角蝉	融	后腿	—	10.00	(5.0)	—	—	白带•黑脉化7-脉片	—	1.土	—	—	留寄 No.296 • 融脚
第71回 A区 2.1 号虫	159	锯翅	融	后腿	—	16.90	(2.50)	—	—	白带•黑脉化7-脉片	—	1.土	—	—	留寄 No.297
第71回 A区 2.1 号虫	160	锯翅	融	后腿	(2.7)	(0.7)	—	—	—	白带•黑脉化7-脉片	—	1.土	—	—	留寄 No.298
第71回 A区 2.1 号虫	161	锯翅	融	后腿	(7.2)	(4.8)	—	—	—	白带•黑脉化7-脉片	—	1.土	—	—	留寄 No.299
第71回 A区 2.1 号虫	162	锯翅	融	后腿	—	18.20	(2.50)	—	—	白带•黑脉化7-脉片	—	1.土	—	—	留寄 No.300
第71回 A区 2.1 号虫	163	土蚕	寄生	寄生	—	—	—	—	—	白带•黑脉化7-脉片	—	3.9	—	—	留寄 No.316
第71回 A区 2.1 号虫	164	土蚕	6♂7♀?	半成虫	7.4	0.6	—	—	—	白带•黑脉化7-脉片	—	4.9	—	—	留寄 No.317
第71回 A区 2.1 号虫	165	锯翅	融	后腿	0.00	5.30	3.20	—	—	白带•黑脉化7-脉片	—	4.9	—	—	留寄 No.318 • 融脚
第71回 A区 2.1 号虫	166	锯翅	融	后腿	(29.9)	(6.7)	—	—	—	白带•黑脉化7-脉片	—	4.9	—	—	留寄 No.319 • 子履化7-脉片
第71回 A区 2.1 号虫	167	锯翅	融	后腿	—	—	—	—	—	白带•黑脉化7-脉片	—	4.9	—	—	留寄 No.320 • 子履化7-脉片
第71回 A区 2.1 号虫	168	锯翅	融	后腿	—	5.10	12.00	—	—	白带•黑脉化7-脉片	—	4.9	—	—	留寄 No.321 • 子履化7-脉片
第72回 A区 2.1 号虫	169	锯翅	融	后腿	11.20	5.70	3.60	—	—	白带•黑脉化7-脉片	—	4.9	—	—	留寄 No.326 • 手履化7-脉片
第72回 A区 2.1 号虫	170	锯翅	融	后腿	10.00	6.3	(4.20)	—	—	白带•黑脉化7-脉片	—	4.9	—	—	留寄 No.327 • 手履化7-脉片
第72回 A区 2.1 号虫	171	锯翅	融	后腿	10.00	6.3	(4.20)	—	—	白带•黑脉化7-脉片	—	4.9	—	—	留寄 No.328 • 手履化7-脉片
第72回 A区 2.1 号虫	172	锯翅	融	后腿	10.00	6.3	(4.20)	—	—	白带•黑脉化7-脉片	—	4.9	—	—	留寄 No.329 • 手履化7-脉片
第72回 A区 2.1 号虫	173	锯翅	融	后腿	10.00	5.40	3.6	—	—	白带•黑脉化7-脉片	—	4.9	—	—	留寄 No.330 • 手履化7-脉片
第72回 A区 2.1 号虫	174	锯翅	融	后腿	(7.40)	5.7	5.75	—	—	白带•黑脉化7-脉片	—	4.9	—	—	留寄 No.331 • 手履化7-脉片
第72回 A区 2.1 号虫	175	锯翅	融	后腿	10.00	6.3	(4.20)	—	—	白带•黑脉化7-脉片	—	4.9	—	—	留寄 No.332 • 手履化7-脉片
第72回 A区 2.1 号虫	176	锯翅	融	后腿	10.00	6.3	(4.20)	—	—	白带•黑脉化7-脉片	—	4.9	—	—	留寄 No.333 • 手履化7-脉片
第72回 A区 2.1 号虫	177	锯翅	融	后腿	10.00	6.3	(4.20)	—	—	白带•黑脉化7-脉片	—	4.9	—	—	留寄 No.334 • 手履化7-脉片
第72回 A区 2.1 号虫	178	锯翅	融	后腿	10.00	6.3	(4.20)	—	—	白带•黑脉化7-脉片	—	4.9	—	—	留寄 No.335 • 手履化7-脉片
第72回 A区 2.1 号虫	179	土蚕	寄生	寄生	—	—	—	—	—	白带•黑脉化7-脉片	—	4.9	—	—	留寄 No.337
第72回 A区 2.1 号虫	180	角蝉	融	后腿	10.00	6.3	2.25	4.60	—	白带•黑脉化7-脉片	—	4.9	—	—	留寄 No.338 • 手履化7-脉片
第72回 A区 2.1 号虫	181	锯翅	融	后腿	10.00	5.45	3.80	—	—	白带•黑脉化7-脉片	—	4.9	—	—	留寄 No.339 • 手履化7-脉片
第72回 A区 2.1 号虫	182	锯翅	融	后腿	(9.20)	(5.00)	(2.60)	—	—	白带•黑脉化7-脉片	—	4.9	—	—	留寄 No.340 • 手履化7-脉片

序号	属科	属种	%	解剖	寄生	寄生	口器	寄生	寄生	寄生	寄生	寄生	寄生	寄生	寄生	寄生
第72项 A区2.6项	姬蜂科	姬蜂	18.1	寄生	寄生	—	(0.00)	(0.00)	寄生	寄生	寄生	寄生	寄生	寄生	寄生	寄生
第72项 A区2.6项	姬蜂科	姬蜂?	18.4	寄生	寄生	—	(4.50)	(6.20)	姬蜂幼虫扁	姬蜂幼虫	姬蜂幼虫	姬蜂幼虫	姬蜂幼虫	姬蜂幼虫	姬蜂幼虫	姬蜂幼虫
第72项 A区2.6项	姬蜂科	姬蜂	18.5	寄生	寄生	—	(0.00)	(4.65)	(3.60)	姬蜂幼虫	姬蜂幼虫	姬蜂幼虫	姬蜂幼虫	姬蜂幼虫	姬蜂幼虫	姬蜂幼虫
第72项 A区2.6项	姬蜂科	姬蜂	18.6	寄生	寄生	—	(8.00)	(6.30)	6.80	灰白色	灰白色	灰白色	灰白色	灰白色	灰白色	灰白色
第72项 A区2.6项	姬蜂科	姬蜂	18.7	寄生	寄生	—	(3.00)	(1.90)	—	—	—	—	—	—	—	—
第73项 A区2.6项	姬蜂科	姬蜂?	18.8	±25	姬蜂	—	(3.00)	(2.80)	—	—	—	—	—	—	—	—
第73项 A区2.6项	姬蜂科	姬蜂?	18.9	姬蜂	姬蜂	—	(8.00)	(5.30)	4.00	—	—	—	—	—	—	—
第73项 A区2.6项	姬蜂科	姬蜂?	19.0	±25	姬蜂	寄生	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
第73项 A区2.6项	姬蜂科	姬蜂?	19.1	±25	姬蜂	寄生	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
第73项 A区2.6项	姬蜂科	姬蜂?	19.2	±25	姬蜂	寄生	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
第73项 A区2.6项	姬蜂科	姬蜂?	19.3	姬蜂	姬蜂	—	(2.7)	(1.30)	—	—	—	—	—	—	—	—
第73项 A区2.6项	姬蜂科	姬蜂?	19.4	姬蜂	姬蜂	—	(3.2)	(0.00)	—	—	—	—	—	—	—	—
第73项 A区2.6项	姬蜂科	姬蜂?	19.5	姬蜂	姬蜂	—	(3.35)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
第73项 A区2.6项	姬蜂科	姬蜂?	19.6	姬蜂	姬蜂	—	(11.00)	(5.00)	3.50	—	—	—	—	—	—	—
第73项 A区2.6项	姬蜂科	姬蜂?	19.7	姬蜂	姬蜂	—	(8.00)	(2.40)	4.60	—	—	—	—	—	—	—
第73项 A区2.6项	姬蜂科	姬蜂?	19.8	±25	姬蜂	姬蜂	—	(11.50)	4.05	7.20	<2>触脚	触脚	触脚	触脚	触脚	触脚
第73项 A区2.6项	姬蜂科	姬蜂?	19.9	±25	姬蜂	寄生	—	(11.00)	4.30	(7.40)	<2>触脚	触脚	触脚	触脚	触脚	触脚
第73项 A区2.6项	姬蜂科	姬蜂?	20.0	±25	姬蜂	寄生	—	(18.00)	(5.00)	—	—	—	—	—	—	—
第74项 A区2.3.2项	姬蜂科	姬蜂?	20.1	±25	姬蜂	寄生	—	(18.00)	—	—	—	—	—	—	—	—
第74项 A区2.3.2项	姬蜂科	姬蜂?	20.2	±25	姬蜂	寄生	—	(3.80)	4.70	—	<>触脚	触脚	触脚	触脚	触脚	触脚
第74项 A区2.3.2项	姬蜂科	姬蜂?	20.3	±25	姬蜂	寄生	—	(13.40)	5.20	—	<>触脚	触脚	触脚	触脚	触脚	触脚
第74项 A区2.3.2项	姬蜂科	姬蜂?	20.4	±25	姬蜂	寄生	—	(4.90)	4.05	(9.60)	12.10	<2>触脚	触脚	触脚	触脚	触脚
第74项 A区2.3.2项	姬蜂科	姬蜂?	20.5	±25	姬蜂	寄生	—	(16.20)	4.40	(10.80)	12.10	<2>触脚	触脚	触脚	触脚	触脚
第74项 A区2.3.2项	姬蜂科	姬蜂?	20.6	±25	姬蜂	寄生	—	(5.90)	5.40	<>触脚	触脚	触脚	触脚	触脚	触脚	触脚
第74项 A区2.3.2项	姬蜂科	姬蜂?	20.7	±25	姬蜂	寄生	—	(5.80)	(5.90)	—	—	—	—	—	—	—
第74项 A区2.3.2项	姬蜂科	姬蜂?	20.8	±25	姬蜂	寄生	—	(19.90)	(11.50)	—	<>触脚	触脚	触脚	触脚	触脚	触脚
第74项 A区2.3.2项	姬蜂科	姬蜂?	20.9	±25	姬蜂	寄生	—	(21.50)	(7.00)	—	<>触脚	触脚	触脚	触脚	触脚	触脚
第74项 A区2.3.2项	姬蜂科	姬蜂?	21.0	±25	姬蜂	寄生	—	(16.20)	(5.20)	—	<>触脚	触脚	触脚	触脚	触脚	触脚
第74项 A区2.3.2项	姬蜂科	姬蜂?	21.1	±25	姬蜂	寄生	—	(6.00)	(10.00)	(10.00)	<>触脚	触脚	触脚	触脚	触脚	触脚
第74项 A区2.3.2项	姬蜂科	姬蜂?	21.2	±25	姬蜂	寄生	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
第75项 A区2.3.2项	姬蜂科	姬蜂?	21.3	黑土	姬蜂	寄生	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
第75项 A区2.3.2项	姬蜂科	姬蜂?	21.4	姬蜂	姬蜂	—	(10.40)	(3.50)	—	—	—	—	—	—	—	—
第75项 A区2.3.2项	姬蜂科	姬蜂?	21.5	姬蜂	姬蜂	—	(13.00)	(3.10)	(8.70)	<>触脚	触脚	触脚	触脚	触脚	触脚	触脚
第75项 A区2.3.2项	姬蜂科	姬蜂?	21.6	姬蜂	姬蜂	—	(15.90)	(3.50)	(1.70)	<>触脚	触脚	触脚	触脚	触脚	触脚	触脚
第75项 A区2.3.2项	姬蜂科	姬蜂?	21.7	姬蜂	姬蜂	—	(3.15)	(13.00)	(1.70)	<>触脚	触脚	触脚	触脚	触脚	触脚	触脚

地點	測量區	面積 %	標高 m	地形	地質	岩性	外觀	色調		風化 帶	風化 帶	風化 帶
								內層	外層			
第75號 A區 2.3.3.1/16分卡子#	217	測量點 箱	無	-	2.55	12.30	~>ナナデ	-(K灰)~>セ	白色	白鈣化	90%	3.640 3.17 40
第75號 A區 2.3.3.1/16分卡子#	218	測量點 箱	無	-	3.20	13.30	~>ナナデ	-(K灰)~>セ	黑色	白鈣化	95%	3.640 3.17 40
第75號 A區 2.3.3.1/16分卡子#	219	上部 测量地點	無	-	21.80	7.00	~>ナナデ	鉛筆H40 ナナデ(12N)	褐色	白鈣化	30%	2.カ7 11 19 32 5 17 18 48
第75號 A區 2.3.3.1/16分卡子#	220	上部 测量地點	無	-	19.60	5.00	~>ナナデ	鉛筆H40 ナナデ(12N)	褐色	白鈣化	10%	白鈣 NO227
第75號 A區 2.3.3.1/16分卡子#	221	上部 漂	無	-	16.70	7.00	~>ナナデ	鉛筆H40 ナナデ(12N)	褐色	白鈣化	5.6~7	白鈣 NO231
第75號 A區 2.3.3.1/16分卡子#	222	上部 漂	無	-	21.00	4.20	~>ナナデ	鉛筆H40 ナナデ(12N)	褐色	白鈣化	5.6~7	白鈣 NO232
第75號 A區 2.3.3.1/16分卡子#	223	上部 漂	無	-	16.00	0.00	~>ナナデ	鉛筆H40 ナナデ(12N)	褐色	白鈣化	5.6~7	白鈣 NO230
第75號 A區 2.3.3.1/16分卡子#	224	上部 漂	無	-	16.40	8.50	~>ナナデ	鉛筆H40 ナナデ(12N)	褐色	白鈣化	5.6~7	白鈣 NO228
第75號 A區 2.3.3.1/16分卡子#	225	上部 漂	無	-	15.50	7.40	~>ナナデ	鉛筆H40 ナナデ(12N)	褐色	白鈣化	5.6~7	白鈣 NO229
第75號 A區 2.3.3.1/16分卡子#	226	上部 漂	無	-	6.20	0.00	~>ナナデ	鉛筆H40 ナナデ(12N)	褐色	白鈣化	5.6~7	白鈣 NO235
第75號 A區 2.3.3.1/16分卡子#	227	上部 漂	無	-	10.20	6.60	~>ナナデ	鉛筆H40 ナナデ(12N)	褐色	白鈣化	5.6~7	白鈣 NO233
第75號 A區 2.3.3.1/16分卡子#	228	上部 漂	無	-	6.8	~>ナナデ	鉛筆H40 ナナデ(12N)	褐色	白鈣化	5.6~7	白鈣 NO234	
第75號 A區 2.3.3.1/16分卡子#	229	上部 漂	無	-	2.10	5.80	~>ナナデ	鉛筆H40 ナナデ(12N)	褐色	白鈣化	5.6~7	白鈣 NO237
第76號 A區 2.3.3.1/16分卡子#	230	上部 漂	漂	-	-	-	木質化	木質化	木質化	木質化	10%	木質化 NO35
第76號 A區 2.3.3.1/16分卡子#	231	上部 漂	漂	-	-	-	木質化	木質化	木質化	木質化	10%	木質化 NO35
第76號 A區 2.3.3.1/16分卡子#	232	上部 漂	漂	-	-	-	木質化	木質化	木質化	木質化	10%	木質化 NO36
第76號 A區 2.3.3.1/16分卡子#	233	上部 漂	漂	-	-	-	木質化	木質化	木質化	木質化	10%	木質化 NO38
第76號 A區 2.3.3.1/16分卡子#	234	上部 漂	漂	-	-	-	木質化	木質化	木質化	木質化	10%	木質化 NO39
第76號 A區 2.3.3.1/16分卡子#	235	上部 漂	漂	-	-	-	木質化	木質化	木質化	木質化	10%	木質化 NO37
第77號 C區 4.1/16	266	上部 漂	平安木	-	-	-	子子	子子	子子	子子	10%	子子 NO144
第77號 C區 3.7~3.9上土	268	上部 漂	深鈣土石層 地下40cm	-	(3)80	14.60	~>ナナデ	鉛筆H40 ナナデ(12N)	褐色	白鈣化	45%	白鈣 NO345
第77號 C區 6.5.9上土	269	鷹嘴 小塊	山壁	1.90	3.60	2.50	~>ナナデ	鉛筆H40 ナナデ(12N)	褐色	白鈣化	2.3~4.5	6 8 9 10
第77號 C區 12.5上土	270	鷹嘴 小塊	山壁	0.30	7.20	0.70	~>ナナデ	鉛筆H40 ナナデ(12N)	褐色	白鈣化	50%	白鈣 NO346 鹽水地帶
第78號 C區 通稱9%	281	上部 測量點	無	-	(19)00	7.10	~>ナナデ	鉛筆H40 ナナデ(12N)	褐色	白鈣化	50%	白鈣 NO311
第78號 C區 通稱9%	282	上部 測量點	無	-	(18)207	6.40	~>ナナデ	鉛筆H40 ナナデ(12N)	褐色	白鈣化	50%	白鈣 NO325
第78號 C區 通稱9%	283	上部 測量點	無	-	-	-	無	無	無	無	50%	白鈣 NO320
第78號 C區 通稱9%	284	上部 測量點	無	-	-	-	無	無	無	無	50%	白鈣 NO325
第78號 C區 通稱9%	285	上部 測量點	無	-	-	-	無	無	無	無	50%	白鈣 NO324
第78號 C區 通稱9%	286	上部 測量點	無	-	-	-	無	無	無	無	50%	白鈣 NO321
第78號 C區 通稱9%	287	上部 測量點	無	-	-	-	無	無	無	無	50%	白鈣 NO322
第78號 C區 通稱9%	288	上部 測量點	無	-	-	-	無	無	無	無	50%	白鈣 NO323
第78號 C區 通稱9%	289	上部 測量點	無	-	-	-	無	無	無	無	50%	白鈣 NO322
第78號 C區 通稱9%	290	上部 測量點	無	-	-	-	無	無	無	無	50%	白鈣 NO322

页码	属科	通称	%	种名	别名	树种	叶型	叶缘	叶脉	花期	果期	色调	特征	学名	原产地	注记
第 81 页 C 区	通称	通称	363	土豆	俗	余生	-	-	-	白·深褐色	褐色	白·深褐色	金黄色	白·深褐色	白·深褐色	米南 NO246
第 81 页 C 区	通称外	通称外	364	土豆	俗	余生	-	-	-	白·深褐色	褐色	白·深褐色	金黄色	白·深褐色	白·深褐色	米南 NO249
第 81 页 C 区	通称	通称	365	土豆	俗	余生	-	-	-	白·深褐色	褐色	白·深褐色	金黄色	白·深褐色	白·深褐色	米南 NO253
第 81 页 C 区	1 号土豆	1号土豆	366	土豆	俗	余生	-	-	-	白·深褐色	褐色	白·深褐色	金黄色	白·深褐色	白·深褐色	米南 NO254
第 81 页 C 区	通称 3	通称 3	367	土豆	熟	余生	-	-	-	白·深褐色	褐色	白·深褐色	金黄色	白·深褐色	白·深褐色	米南 NO259
第 81 页 C 区	山薯 3 小	山薯 3 小	368	土豆	熟	余生	-	-	-	白·深褐色	褐色	白·深褐色	金黄色	白·深褐色	白·深褐色	米南 NO258
第 81 页 C 区	通称 3	通称 3	369	土豆	熟	余生	-	-	-	白·深褐色	褐色	白·深褐色	金黄色	白·深褐色	白·深褐色	米南 NO241
第 81 页 C 区	通称 3	通称 3	370	土豆	熟	余生	-	-	-	白·深褐色	褐色	白·深褐色	金黄色	白·深褐色	白·深褐色	米南 NO256
第 81 页 C 区	通称 3	通称 3	371	土豆	熟	余生	-	-	-	白·深褐色	褐色	白·深褐色	金黄色	白·深褐色	白·深褐色	米南 NO257
第 81 页 C 区	通称 3	通称 3	372	土豆	熟	余生	-	-	-	白·深褐色	褐色	白·深褐色	金黄色	白·深褐色	白·深褐色	米南 NO258
第 81 页 C 区	通称 3	通称 3	373	土豆	熟	余生	-	-	-	白·深褐色	褐色	白·深褐色	金黄色	白·深褐色	白·深褐色	米南 NO259
第 81 页 C 区	通称 3	通称 3	374	土豆	熟	余生	-	-	-	白·深褐色	褐色	白·深褐色	金黄色	白·深褐色	白·深褐色	米南 NO259
第 81 页 C 区	12 号土豆	12 号土豆	375	土豆	熟	余生	-	-	-	白·深褐色	褐色	白·深褐色	金黄色	白·深褐色	白·深褐色	米南 NO221
第 81 页 C 区	8 号土豆	8号土豆	376	土豆	熟	余生	-	-	-	白·深褐色	褐色	白·深褐色	金黄色	白·深褐色	白·深褐色	米南 NO240
第 81 页 C 区	通称 6	通称 6	377	土豆	熟	余生	-	-	-	白·深褐色	褐色	白·深褐色	金黄色	白·深褐色	白·深褐色	米南 NO259 内云(佳县)
第 81 页 C 区	通称 6	通称 6	378	土豆	熟	余生	-	-	-	白·深褐色	褐色	白·深褐色	金黄色	白·深褐色	白·深褐色	米南 NO228
第 81 页 C 区	通称 6	通称 6	379	土豆	熟	余生	-	-	-	白·深褐色	褐色	白·深褐色	金黄色	白·深褐色	白·深褐色	米南 NO222
第 81 页 C 区	通称 6	通称 6	380	土豆	俗	余生	-	-	-	白·深褐色	褐色	白·深褐色	金黄色	白·深褐色	白·深褐色	米南 NO229
第 81 页 C 区	山薯 3 小	山薯 3 小	381	土豆	俗	余生	-	-	-	白·深褐色	褐色	白·深褐色	金黄色	白·深褐色	白·深褐色	米南 NO243
第 81 页 C 区	6 号土豆	6号土豆	382	土豆	俗	余生	-	-	-	白·深褐色	褐色	白·深褐色	金黄色	白·深褐色	白·深褐色	米南 NO229
第 81 页 C 区	2.5 号	2.5 号	383	土豆	俗	余生	-	-	-	白·深褐色	褐色	白·深褐色	金黄色	白·深褐色	白·深褐色	米南 NO226
第 81 页 C 区	通称 6	通称 6	384	土豆	俗	余生	-	-	-	白·深褐色	褐色	白·深褐色	金黄色	白·深褐色	白·深褐色	米南 NO227
第 81 页 C 区	通称 6	通称 6	385	土豆	俗	余生	-	-	-	白·深褐色	褐色	白·深褐色	金黄色	白·深褐色	白·深褐色	米南 NO235
第 81 页 C 区	通称 6	通称 6	386	土豆	熟	余生	-	-	-	白·深褐色	褐色	白·深褐色	金黄色	白·深褐色	白·深褐色	米南 NO222
第 81 页 C 区	通称 6	通称 6	387	土豆	熟	余生	-	-	-	白·深褐色	褐色	白·深褐色	金黄色	白·深褐色	白·深褐色	米南 NO223
第 81 页 C 区	2.5 号	2.5 号	388	土豆	熟	余生	-	-	-	白·深褐色	褐色	白·深褐色	金黄色	白·深褐色	白·深褐色	米南 NO244
第 81 页 C 区	通称 6	通称 6	389	土豆	熟	余生	-	-	-	白·深褐色	褐色	白·深褐色	金黄色	白·深褐色	白·深褐色	米南 NO225 1 部(晋北山地)
第 81 页 C 区	通称 6	通称 6	390	土豆	熟	余生	-	-	-	白·深褐色	褐色	白·深褐色	金黄色	白·深褐色	白·深褐色	米南 NO226
第 81 页 C 区	通称 6	通称 6	391	土豆	熟	余生	-	-	-	白·深褐色	褐色	白·深褐色	金黄色	白·深褐色	白·深褐色	米南 NO224
第 81 页 C 区	4.5 号	4.5 号	392	土豆	熟	余生	-	-	-	白·深褐色	褐色	白·深褐色	金黄色	白·深褐色	白·深褐色	米南 NO258
第 81 页 C 区	2 号	2 号	393	土豆	熟	余生	-	-	-	白·深褐色	褐色	白·深褐色	金黄色	白·深褐色	白·深褐色	米南 NO260
第 81 页 C 区	2.5 号	2.5 号	394	土豆	熟	余生	-	-	-	白·深褐色	褐色	白·深褐色	金黄色	白·深褐色	白·深褐色	米南 NO266
第 81 页 C 区	通称 6	通称 6	395	土豆	熟	余生	-	-	-	白·深褐色	褐色	白·深褐色	金黄色	白·深褐色	白·深褐色	米南 NO265
第 81 页 C 区	4.5 号	4.5 号	396	土豆	熟	余生	-	-	-	白·深褐色	褐色	白·深褐色	金黄色	白·深褐色	白·深褐色	米南 NO262
第 81 页 C 区	4.5 号	4.5 号	397	土豆	熟	余生	-	-	-	白·深褐色	褐色	白·深褐色	金黄色	白·深褐色	白·深褐色	米南 NO257
第 81 页 C 区	通称 6	通称 6	398	土豆	熟	余生	-	-	-	白·深褐色	褐色	白·深褐色	金黄色	白·深褐色	白·深褐色	米南 NO248

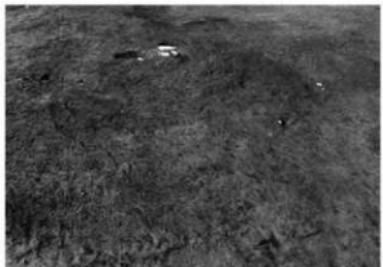
第4表 美通道路A·C区 金属埋設物表

地番	測量区	面積	No.	種別	直径	長さcm	幅cm	厚さcm	目次
366.04	A区1	面積	49	鉄	7.00	6.00	1.18	0.13	407
366.04	A区1	2.51/16	50	ガラス	3.15	0.45	2.6	0.13	423
366.04	A区1	2.51/16	51	ガラス	3.80	1.00	0.45	0.13	423
366.04	A区1	2.51/16	62	鉄	4.60	1.20	0.60	0.13	424
367.04	A区1	4.31/16	63	鉄	1.70	0.70	1.22	0.13	425
367.04	A区1	3.21/16	67	鉄	4.85	1.80	1.45	1.20	425
368.04	A区1	3.21/16	71	鉄	3.60	3.00	1.10	1.56	425
368.04	A区1	3.21/16	72	鉄	15.40	5.20	0.60	0.13	425
368.04	A区1	5.19/16	90	鉄	10.50	2.70	1.10	2.45	426
368.04	A区1	5.19/16	91	ガラス	2.85	0.25	0.40	0.13	426
369.04	A区1	1.65/16	124	ガラス	27.80	3.70	1.25	1.84	426
370.04	A区1	1.65/16	125	ガラス	27.00	3.15	1.50	1.31	426
370.04	A区1	1.65/16	126	ガラス	3.85	0.70	0.40	0.13	426
370.04	A区1	1.65/16	127	ガラス	9.60	0.80	0.70	8.7	411
370.04	A区1	1.65/16	128	ガラス	5.70	2.60	1.00	0.13	410
370.04	A区1	1.65/16	129	ガラス	2.90	1.95	0.70	7.6	421
370.04	A区1	1.65/16	236	ガラス	5.50	1.60	0.50	9.0	421
370.04	A区1	1.65/16	237	ガラス	3.30	1.20	0.50	5.0	421
370.04	A区1	1.65/16	238	ガラス	4.30	1.20	0.40	5.0	421
370.04	A区1	1.65/16	239	ガラス	8.60	0.95	0.40	6.0	421
370.04	A区1	1.65/16	240	ガラス	4.10	1.80	0.40	4.0	431
370.04	A区1	1.65/16	241	ガラス	4.10	0.75	0.30	2.0	431
370.04	A区1	1.65/16	242	ガラス	4.10	1.10	0.90	6.2	427
370.04	A区1	1.65/16	243	ガラス	7.45	1.15	0.30	3.0	429
370.04	A区1	1.65/16	244	ガラス	1.30	1.55	0.40	4.0	429
370.04	A区1	1.65/16	245	ガラス	1.40	1.50	0.40	4.0	429
370.04	A区1	1.65/16	246	ガラス	18.10	0.60	0.70	1.27	432
370.04	A区1	1.65/16	247	ガラス	4.40	1.65	0.70	6.0	444
370.04	A区1	1.65/16	248	ガラス	3.80	1.10	0.70	18.0	446
370.04	A区1	1.65/16	249	ガラス	4.70	3.80	1.10	3.20	437
370.04	A区1	1.65/16	250	ガラス	1.30	4.15	0.70	0.13	438
370.04	A区1	1.65/16	251	ガラス	3.20	3.10	1.00	8.0	439
370.04	A区1	1.65/16	252	セメント	4.80	4.30	1.00	2.0	440
370.04	A区1	1.65/16	253	セメント	5.80	1.40	0.60	4.2	443
370.04	A区1	1.65/16	254	セメント	4.80	1.40	-	7.0	442
370.04	A区1	1.65/16	255	セメント	2.50	0.30	3.0	4.2	442
370.04	A区1	3.21/16	256	ガラス	1.27	1.60	0.60	10.0	448
370.04	A区1	3.21/16	257	ガラス	0.10	1.70	0.50	13.0	449
370.04	A区1	3.21/16	258	ガラス	5.25	0.70	0.80	3.0	449
370.04	A区1	3.21/16	259	ガラス	2.5	2.5	1.0	0.13	447
370.04	A区1	3.21/16	260	ガラス	2.1	2.1	1.0	0.13	447
370.04	A区1	3.21/16	261	ガラス	2.4	2.4	0.1	2.0	442
370.04	A区1	3.21/16	262	ガラス	2.4	2.4	0.1	3.0	442
370.04	A区1	3.21/16	263	ガラス	2.4	2.4	0.1	3.0	442
370.04	A区1	3.21/16	264	ガラス	2.3	2.3	0.1	2.0	442
370.04	A区1	3.21/16	265	ガラス	2.2	2.2	0.1	2.0	442
370.04	A区1	3.21/16	266	ガラス	2.80	2.80	1.20	8.8	402
370.04	A区1	3.21/16	267	ガラス	10.35	1.60	0.90	3.2	404
370.04	A区1	3.21/16	271	ガラス	5.05	1.20	0.70	6.2	413
370.04	A区1	3.21/16	272	ガラス	5.85	1.10	0.95	8.4	415
370.04	A区1	3.21/16	273	ガラス	5.60	1.90	1.25	3.0	418
370.04	A区1	3.21/16	274	ガラス	3.80	0.90	0.65	1.8	403
370.04	A区1	3.21/16	275	ガラス	4.30	1.30	3.37	0.13	462
370.04	A区1	3.21/16	276	ガラス	3.70	5.60	1.00	6.00	417
370.04	A区1	3.21/16	277	ガラス	2.25	3.55	0.60	8.40	414
370.04	A区1	3.21/16	278	ガラス	3.80	4.30	0.70	17.70	404
370.04	A区1	3.21/16	279	ガラス	3.80	-	-	1.0	404
370.04	A区1	3.21/16	280	ガラス	-	-	-	1.0	404

採集番号	採取場所	採取標本	特徴	時代	縦幅(cm)	横幅(cm)	厚さ(mm)	備考、測定番号
400	A2 区	031	打築石斧	近石小ヒゲツル久	縦文	17	8.9	4.75
401	A1 区	513	打築石斧	縫目片岩	縦文	(1.345)	5.1	1.75
402	C 区	581	打築石斧	瓦形小ヒゲツル久	縦文	(8.95)	5.05	6.6
403	C 区	580.1	打築石斧	瓦形小ヒゲツル久	縦文	(6.9)	(6.4)	1.15
404	C 区	539	打築石斧	縫目片岩	縦文	(5.2)	(5.6)	4.3
405	C 区	502.±	打築石斧	縫目片岩	縦文	14	5.5	1.15
406	C 区	514	打築石斧	縫目片岩	縦文	(1.35)	(1)	6.13
407	C 区	526.±	打築石斧	縫目片岩	縦文	15.1	4.9	1.49
408	C 区	593	打築石斧	縫目片岩	縦文	9.8	5.6	3.5
409	C 区	59	打築石斧	縫目片岩	縦文	7.8	5	2.2
410	C 区	584.5193	打築石斧	縫目片岩	縦文	9.9	7.7	3.3
411	A2 区	12.2 区	打築石斧	縫目片岩	縦文	15.55	5.55	5.2
412	C 区	512	打築石斧	縫目片岩	縦文	17.9	3.8	3.5
413	C 区	513	打築石斧	瓦形石	縦文	(17.5)	(8.2)	1.04
414	C 区	5376	磨石?	細孔角質質	縦文	8.55	10.2	7.4
415	C 区	NO.01	磨石?	瓦形石	縦文	(3.05)	(6.35)	1.16
416	C 区	5.792	石器	瓦形石	縦文	(8.65)	(6.8)	3.65
417	C 区	5.792	石器	瓦形石	縦文	2.55	1.5	2.6
418	C 区 1 重	5.712	石器	瓦形石	縦文	2.1	1.7	0.4
419	C 区	5.63	石器	瓦形石	縦文	1.9	1.7	0.3
420	C 区	5.63	石器	瓦形石	縦文	1.7	1.6	0.3
421	C 区	5.63	石器	瓦形石	縦文	1.1	1.4	0.4
422	C 区	5.63	石器	瓦形石	縦文	0.9	0.9	0.4
423	C 区	5.643	石器	瓦形石	縦文	2	1.6	1.30
424	C 区	5.65	石器	瓦形石	縦文	2.2	1.5	0.7
425	C 区	5.581	石器	瓦形石	縦文	1	0.3	0.3
426	C 区	5.63	石器	瓦形石	縦文	2.2	0.6	1
427	A1 区	5.63	石器	瓦形石	縦文	2.3	4.65	5.6
428	C 区	5.10	石器	瓦形石	縦文	3.05	2.5	0.3
429	C 区	5.5	石器	瓦形石	縦文	(15.45)	(6.65)	6.60
430	C 区	5.5	石器	瓦形石	縦文	6.5	8.55	6.50
431	A2 区 3 重	160	石器	瓦形石	縦文	6.6	(4.2)	4.8
432	C 区	5711	石器	瓦形石	縦文	(3.5)	(2.9)	1.3
433	A1 区	D6.0	石器	瓦形石	縦文	(9.1)	4.2	2.45
434	A2 区	5.63	石器	瓦形石	縦文	2.3	2.2	0.5
435	A2 区	5.63	石器	瓦形石	縦文	1.8	1.4	0.5
436	A2 区	5.63	石器	瓦形石	縦文	(22.3)	(9.65)	2
437	A2 区	5.63	石器	瓦形石	縦文	(14.7)	(14.7)	1.52
438	C 区	5.11	石器	瓦形石	縦文	(2.5)	(2.5)	1.56
439	C 区	5.194	石器	瓦形石	縦文	36.5	24	11.9
440	C 区	5.239	石器	瓦形石	縦文	9.6	9.9	1.70
441	C 区	5.590	石器	瓦形石	縦文	11.2	7.6	6.4
442	C 区	6.1	石器	瓦形石	縦文	9.9	10.9	1.36
443	C 区	1554.7771	石器	瓦形石	縦文	9.8	12	4.5
444	C 区	5.287	石器	瓦形石	縦文	9.2	9.8	5.2
445	C 区	5.334	石器	瓦形石	縦文	4.9	9.6	3.46
446	C 区	5.311	石器	瓦形石	縦文	11.4	10.9	3.21
447	C 区	5.700	石器	瓦形石	縦文	8.5	6.6	4.23
448	C 区	5.741	石器	瓦形石	縦文	5.6	6.1	4.36
449	C 区	1501.5~365	石器	瓦形石	縦文	7.1	6.9	4.0
450	C 区	5.70	石器	瓦形石	縦文	4.6	6.9	5.23
451	C 区	5.594	石器	瓦形石	縦文	5.7	2.6	1.9
452	C 区	5.743	石器	瓦形石	縦文	8.1	4.8	1.6
453	C 区	5.726	石器	瓦形石	縦文	2.8	2.8	1.1
454	C 区	5.206	石器	瓦形石	縦文	2.9	1.5	1.2

第 5 表 石器觀察表

写 真 図 版



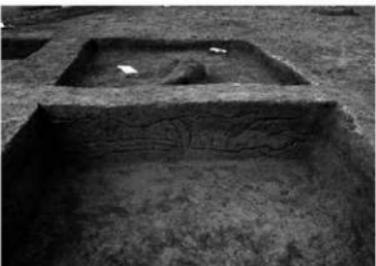
A区1 1号住居跡検出状況



A区1 1号住居跡断面検出状況



A区1 1号住居跡土層断面 1



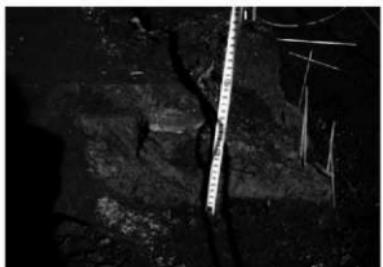
A区1 1号住居跡土層断面 2



A区1 1号住居カマド周辺遺物検出状況



A区1 1号住居カマド第2面



A区1 1号住居カマド調査状況



A区1 1号住居カマド調査状況

写真図版 2



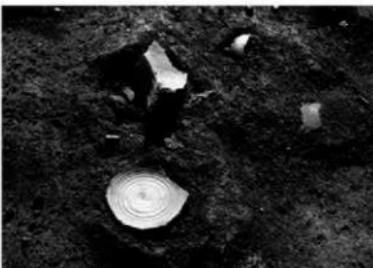
A区1 2号住居跡検出状況



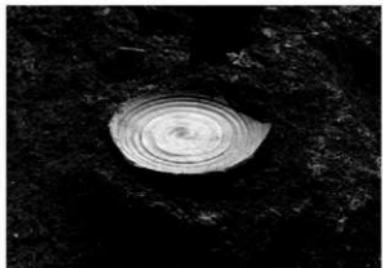
A区1 2号住居跡調査風景



A区1 2号住居跡遺物検出状況



A区1 2号住居跡遺物検出状況



A区1 2号住居跡須恵器検出状況



A区1 2号住居跡土師器検出状況



A区1 2号住カマド周辺遺物検出状況



A区1 2号住カマド周辺遺物検出状況



A区1 2号住カマド周辺遺物検出状況



A区1 2号住カマド検出状況



A区1 2号住断面検出状況



A区1 2号住南北断面検出状況



A区1 2号住カマド東西断面検出状況



A区1 2号住カマド南北断面検出状況

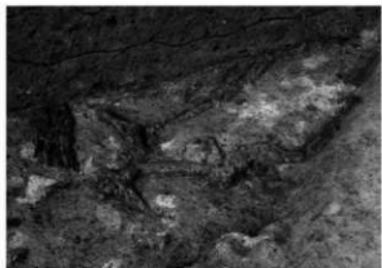


A区1 2号住完掘状況

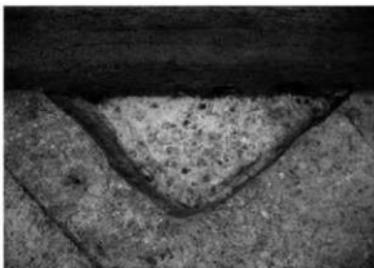


A区1 3号住検出状況

写真図版 4



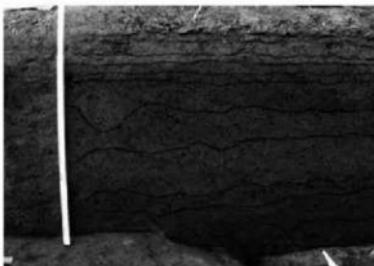
A区1 3号住炭化材検出状況



A区1 3号住完掘状況



A区1 3号住土層断面



A区1 3号住土層断面



A区1 4号住検出状況



A区1 4号住南北断面検出状況



A区1 4号住完掘状況



A区1 4号住土層断面



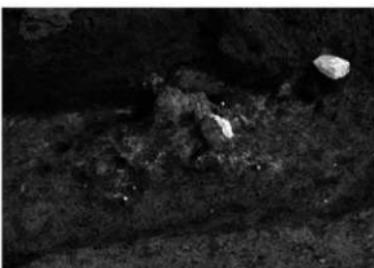
A区1 5号住土器1検出状況



A区1 5号住土器1拡大



A区1 5号住土器2検出状況



A区1 5号住カマド検出状況



A区1 5号住カマド調査状況



A区1 5号住カマド調査状況

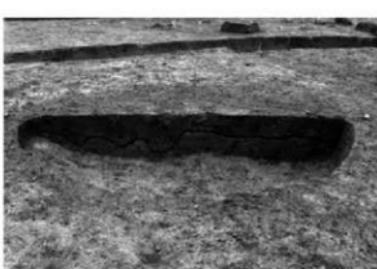
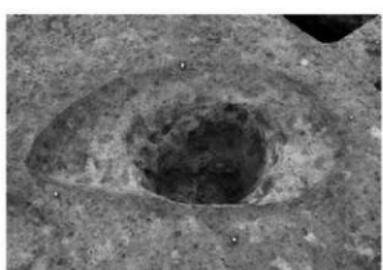
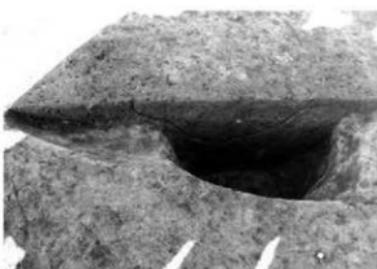
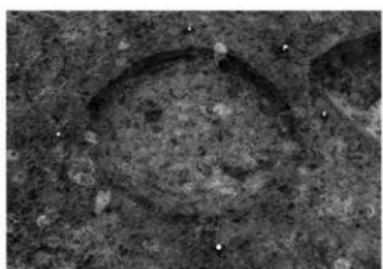
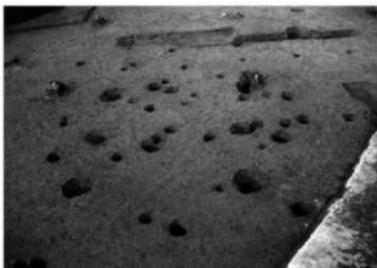
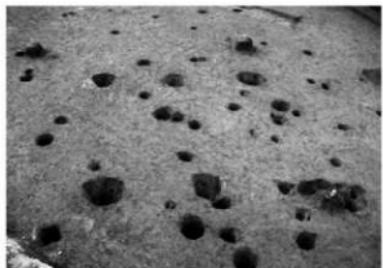


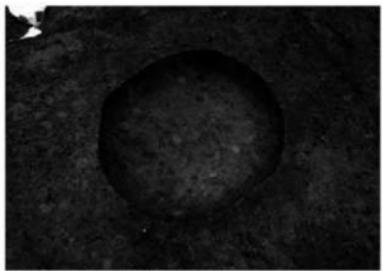
A区1 5号住検出状況



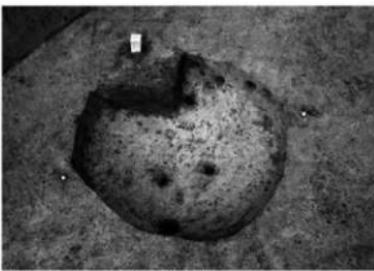
A区1 1号掘立柱建物跡検出状況

写真図版 6





A区1 3号土坑完掘状況



A区1 4号土坑完掘状況



A区1 5号土坑検出状況



A区1 6~9土・8溝完掘状況



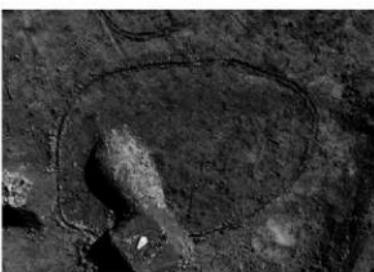
A区1 8号土坑検出状況



A区1 9号土坑完掘状況



A区1 10号土坑完掘状況



A区1 11号土坑検出状況

写真図版 8



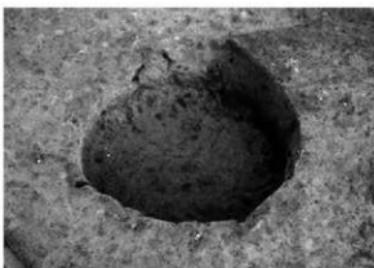
A区1 11号土坑断面検出状況



A区1 11号土坑砾検出状況



A区1 11号土坑遺物検出状況



A区1 11号土坑完掘状況



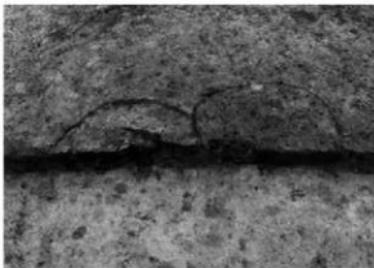
A区1 12号土坑土層断面



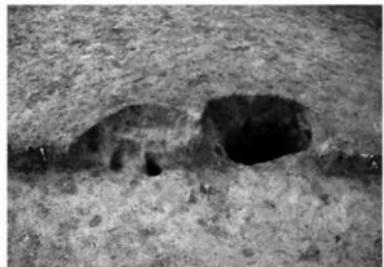
A区1 13号土坑土層断面



A区1 14号土坑骨片検出状況



A区1 14・16号土坑土層断面



A区1 14・16号土坑完掘状況



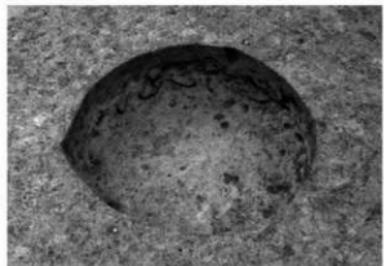
A区1 15号土坑完掘状況



A区1 17号土坑完掘状況



A区1 18号土坑土層断面



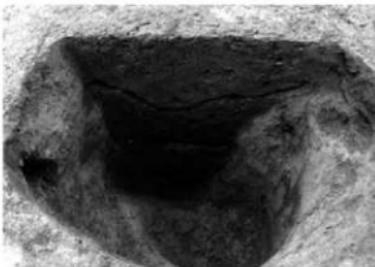
A区1 18号土坑完掘状況



A区1 19号土坑土層断面



A区1 19号土坑完掘状況

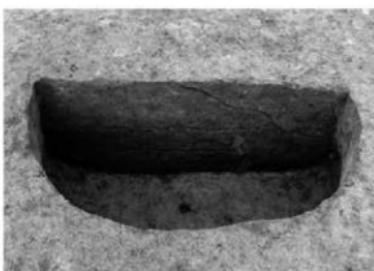


A区1 20号土坑土層断面

写真図版 10



A区1 21号土坑土層断面



A区1 22号土坑土層断面



A区1 22号土坑完掘状況



A区1 23号土坑完掘状況



A区1 24号土坑完掘状況



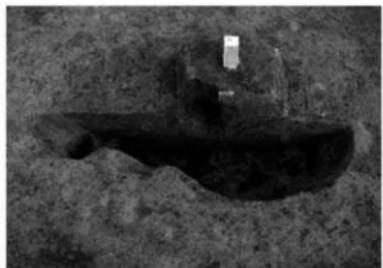
A区1 26号土坑土層断面



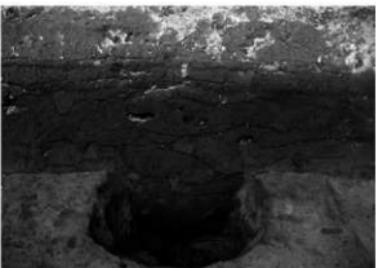
A区1 27号土坑土層断面



A区1 28号土坑土層断面



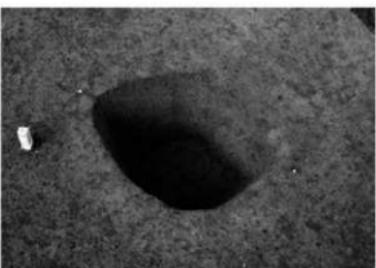
A区1 30号土坑土層断面



A区1 31号土坑完掘状況



A区1 33号土坑完掘状況



A区1 34号土坑完掘状況



A区1 35号土坑断面検出状況



A区1 35号土坑完掘状況



A区1 36号土坑完掘状況



A区1 37号土坑完掘状況

写真図版 12



A区1 1号溝土層断面



A区1 1号溝完掘状況



A区1 2号溝完掘状況



A区1 3号溝完掘状況



A区1 4号溝土層断面



A区1 4・9号溝、19号土坑完掘状況



A区1 6号溝、25号土坑土層断面



A区1 5・6号溝土層断面



A区1 5・6号溝調査風景



A区1 5・6号溝完掘状況



A区1 7号溝土層断面



A区1 7号溝礫検出状況



A区1 7号溝完掘状況



A区1 8号溝断面検出状況



A区1 8号溝完掘状況



A区1 9号溝土層断面

写真図版 14



A区 1 10号土層断面



A区 1 10号溝完掘状況



A区 1 11号土層断面



A区 1 11号溝完掘状況



A区 12号溝検出状況



A区 1 13号土層断面



A区 1 14号溝完掘状況



A区 1 16号土層断面



A区1 17号溝完掘状況



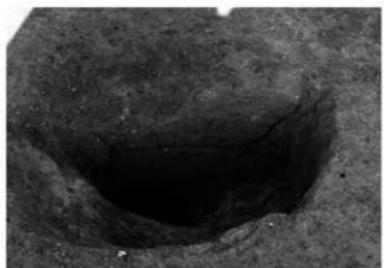
A区1 1号配石検出状況



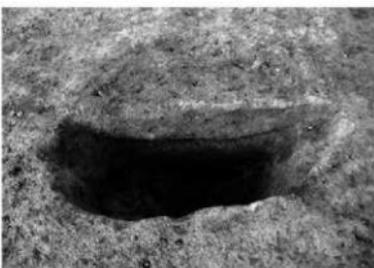
A区1 1号配石2面検出状況



A区1 2号配石検出状況



A区1 21号ピット土層断面



A区1 27号ピット土層断面

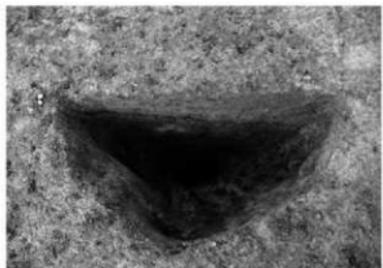


A区1 28号ピット土層断面

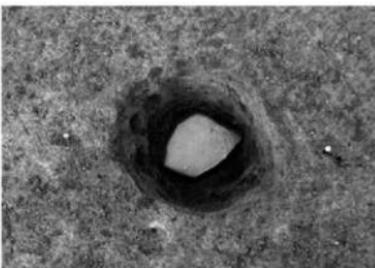


A区1 30号ピット土層断面

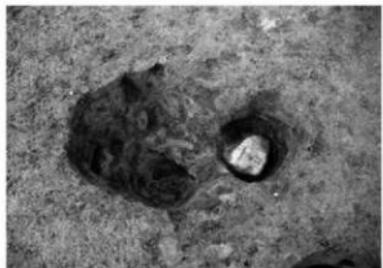
写真図版 16



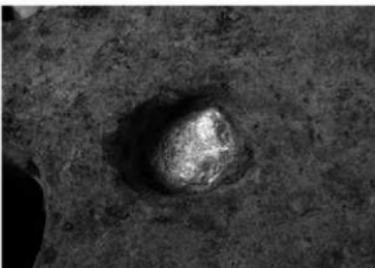
A区1 31号ピット土層断面



A区1 32号ピット基礎石検出状況



A区1 34号ピット基礎石検出状況



A区1 35号ピット基礎石検出状況



A区1 調査風景



A区1 調査風景



A区1 調査風景



A区1 調査風景



A区2-1 1号トレンチ全景



A区2-1 1号トレンチ土層断面



A区2-1 2号トレンチ全景



A区2-1 2号トレンチ土層断面



A区2-1 3号トレンチ全景



A区2-1 3号トレンチ土層断面



A区2-1 4号トレンチ全景



A区2-1 4号トレンチ土層断面

写真図版 18



A区 2-1 表土剥ぎ風景



A区 2-1 表土剥ぎ風景



A区 2-1 遺構確認状況



A区 2-1 猿形土製品出土状況



A区 2-1 猿形土製品出土状況



A区 2-1 猿形土製品出土状況



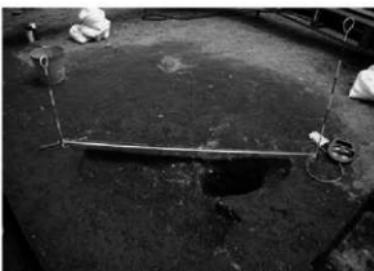
A区 2-1 砂層サブトレーナ



A区 2-1 1号土坑土層断面



A区2-1 2号土坑完掘状況



A区2-1 B面中央くぼみ検出状況



A区2-1 A面北壁部溝状遺構検出状況



A区2-1 1号溝検出状況



A区2-1 2号溝検出状況



A区2-1 人骨出土状況その1



A区2-1 人骨出土状況その2



A区2-1 人骨・短刀出土状況

写真図版 20



A区 2-1 A面北壁部溝状遺構調査風景



A区 2-1 A面北壁部溝状遺構調査風景



A区 2-1 砂礫南側調査区西壁断面



A区 2-1 砂礫北側調査区西壁断面



A区 2-1 砂利除去作業風景



A区 2-1 調査区北から



A区 2-1 中央部黒褐色土北側土層断面



A区 2-1 中央部黒褐色土南側土層断面



A区2-2 表土剥ぎ



A区2-2 1号土坑検出状況



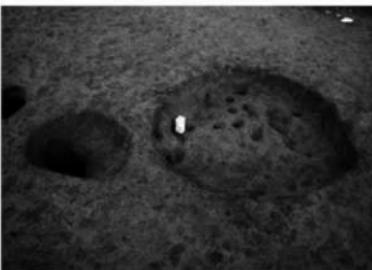
A区2-2 1号土坑検出状況



A区2-2 1号土坑検出状況



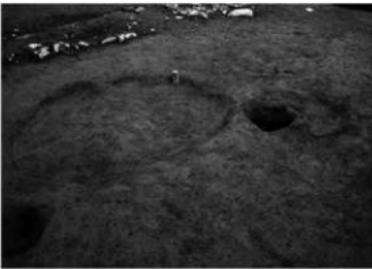
A区2-2 2号土坑土層断面



A区2-2 2・21号土坑完掘状況



A区2-2 3号土坑検出状況



A区2-2 3・4号土坑完掘状況

写真図版 22



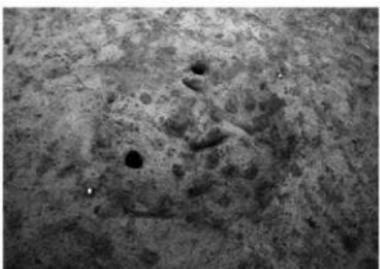
A区 2-2 5号土坑礫検出状況



A区 2-2 5・6号土坑・1溝完掘状況



A区 2-2 7号土坑土層断面



A区 2-2 8号土坑完掘状況



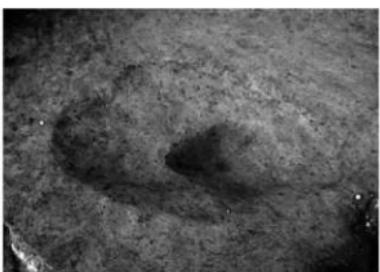
A区 2-2 7号土坑・3溝完掘状況



A区 2-2 9号土坑土層断面



A区 2-2 10号土坑・4号溝礫検出状況



A区 2-2 11号土坑完掘状況



A区2-2 10号土坑・4号溝完掘状況



A区2-2 12号土坑古錢検出状況



A区2-2 12号土坑完掘状況



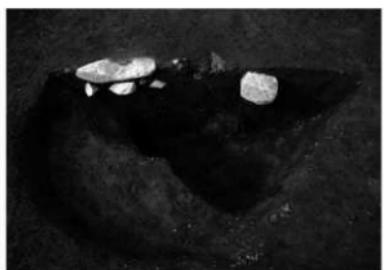
A区2-2 13号土坑土層断面



A区2-2 14号土坑完掘状況



A区2-2 15号土坑完掘状況



A区2-2 16号土坑土層断面



A区2-2 17号土坑土層断面

写真図版 24



A区2-2 18号土坑土層断面



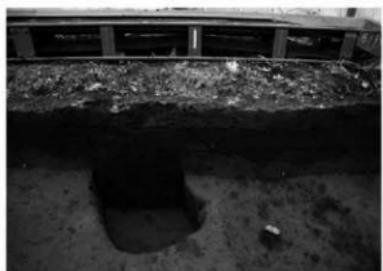
A区2-2 18号土坑完掘状況



A区2-2 19号土坑完掘状況



A区2-2 20号土坑完掘状況



A区2-2 2号溝・6号土坑土層断面



A区2-2 5号溝完掘状況



A区2-2 8号溝土層断面



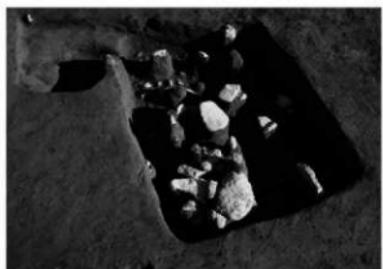
A区2-2 6～9号溝完掘状況



A区2-2 10号溝完掘状況



A区2-2 11号溝・2号竪穴土層断面



A区2-2 2号竪穴遺構完掘状況



A区2-2 1号竪穴遺構完掘状況



A区2-2 3号竪穴遺構完掘状況



A区2-2 4号竪穴遺構完掘状況



A区2-2 10号坑土層断面



A区2-2 磯石ピット完掘状況

写真図版 26



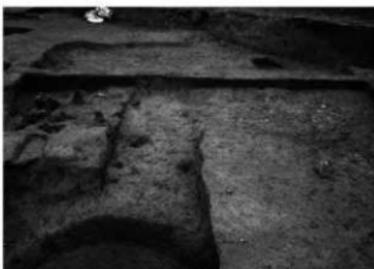
A区2-2 ため池状遺構土層断面



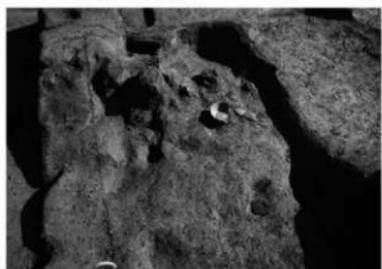
A区2-2 ため池状遺構土層断面



A区2-3 1号住居東西土層断面



A区2-3 1号住居南北土層断面



A区2-3 1号住居カマド遺物検出状況



A区2-3 1号住居カマド完掘状況



A区2-3 2号住居東西土層断面



A区2-3 2号住居南北土層断面



A区2-3 2号住居カマド検出状況



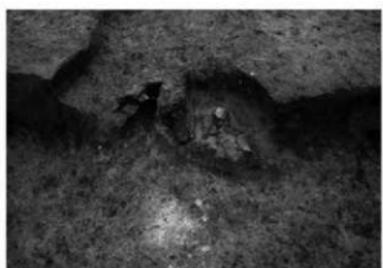
A区2-3 2号住居カマド礫検出状況



A区2-3 2号住居遺物検出状況



A区2-3 2号住居カマド土層断面



A区2-3 2号住居カマド遺物検出状況



A区2-3 2号住居完掘状況



A区2-3 3号住居東西土層断面



A区2-3 3号住居南北土層断面

写真図版 28



A区 2-3 3号住居カマド検出状況



A区 2-3 3号住居遺物検出状況



A区 2-3 3号住居内土坑1土層断面



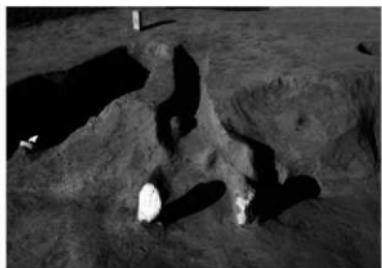
A区 2-3 3号住居内土坑2土層断面



A区 2-3 3号住居内窯盤検出



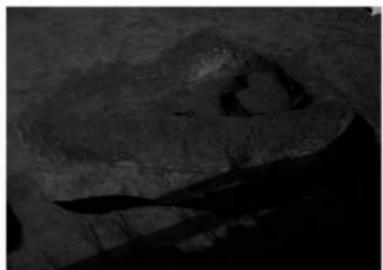
A区 2-3 3号住居カマド前窯盤検出状況



A区 2-3 3号住居カマド完掘状況



A区 2-3 3号住居完掘状況



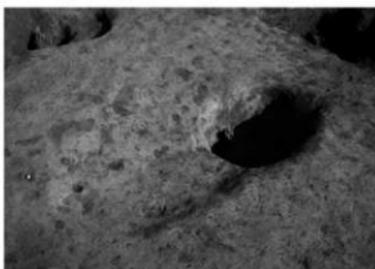
A区2-3 1号土坑土層断面



A区2-3 1号土坑完掘状況



A区2-3 2・3号土坑土層断面



A区2-3 3号土坑完掘状況



A区2-3 4号土坑完掘状況



A区2-3 5号土坑完掘状況



A区2-3 6・7号土坑完掘状況



A区2-3 8号土坑完掘状況

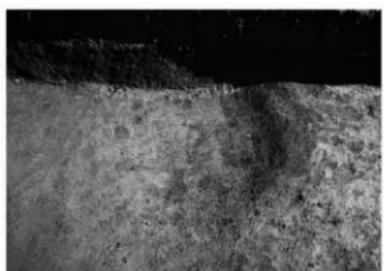
写真図版 30



A区2-3 9号土坑完掘状况



A区2-3 10号土坑完掘状况



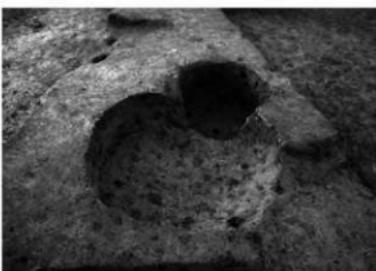
A区2-3 11号土坑完掘状况



A区2-3 12号土坑完掘状况



A区2-3 13号土坑完掘状况



A区2-3 14・15号土坑完掘状况



A区2-3 16号土坑完掘状况



A区2-3 15・25号土坑土層断面



A区2-3 17号土坑・4号溝土層断面



A区2-3 18号土坑・4号溝土層断面



A区2-3 20号土坑土層断面



A区2-3 21号土坑土層断面



A区2-3 22号土坑土層断面



A区2-3 23号土坑完掘状況



A区2-3 24号土坑土層断面



A区2-3 24号土坑完掘状況

写真図版 32



A区2-3 25号土坑土層断面



A区2-3 26号土坑完掘状況



A区2-3 27号土坑完掘状況



A区2-3 28号土坑完掘状況



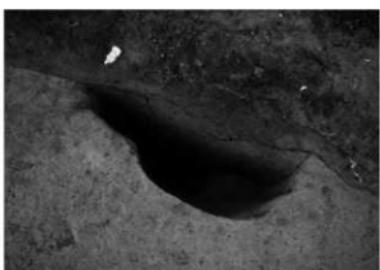
A区2-3 29号土坑土層断面



A区2-3 29・31号土坑、5号溝完掘状況



A区2-3 30号土坑完掘状況



A区2-3 32号土坑完掘状況



A区2-3 33号土坑土層断面



A区2-3 1号溝検出状況



A区2-3 2号溝土層断面



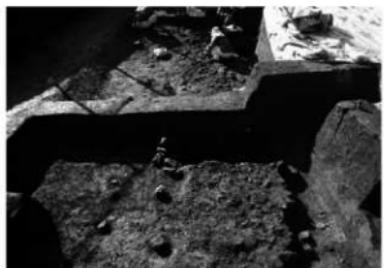
A区2-3 3・4号溝検出状況



A区2-3 5号溝土層断面



A区2-3 作業風景



A区2-1 調査区東西土層断面



A区2-1 遺物出土状況

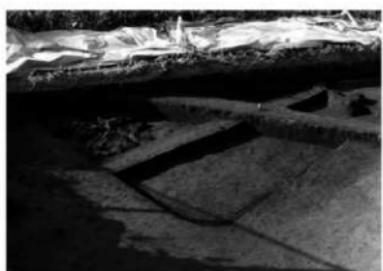
写真図版 34



C 区 1号住居跡検出状況



C 区 1号住居跡調査風景



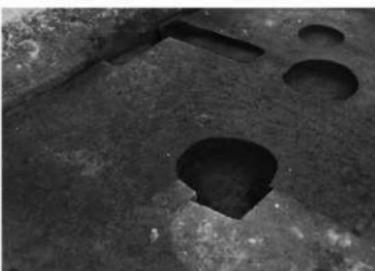
C 区 1号住居跡セクション



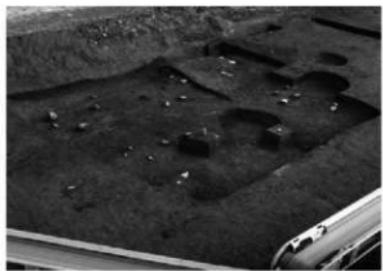
C 区 1号住居跡完掘状況



C 区 2号住居跡検出状況



C 区 2号住居跡検出状況



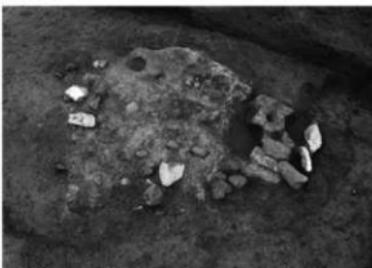
C 区 2号住居跡カマド検出状況



C 区 2号住居跡セクション



C 区 2号住居跡セクション



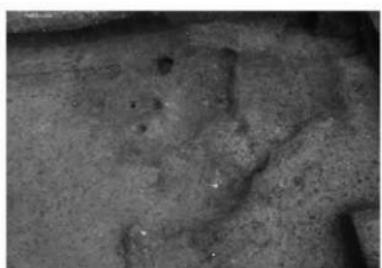
C 区 2号住居跡カマド 2面検出状況



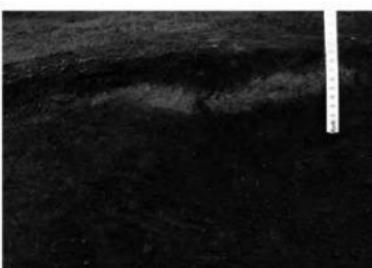
C 区 2号住居跡カマドセクション



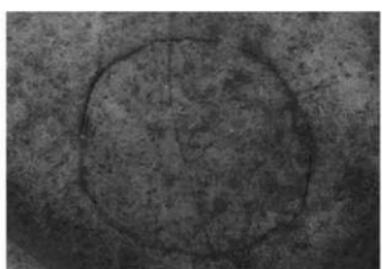
C 区 2号住居跡カマドセクション



C 区 2号住居跡カマド完掘状況



C 区 2号住居跡内焼土検出状況

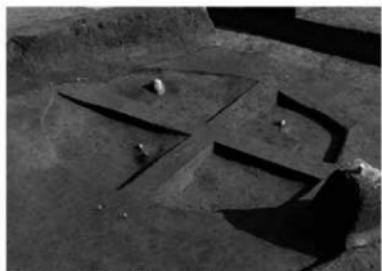


C 区 2号住居跡内土坑検出状況



C 区 2号住居跡完掘状況

写真図版 36



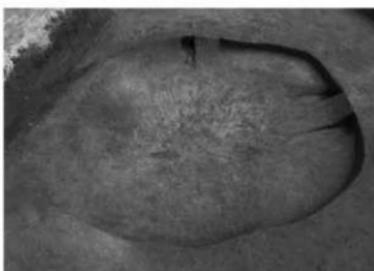
C 区 3号住居跡検出状況



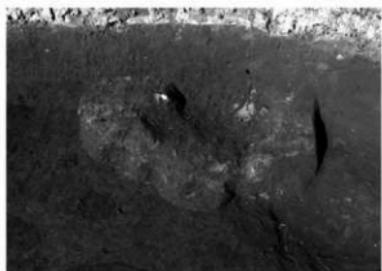
C 区 3号住居跡セクション



C 区 3号住居跡セクション



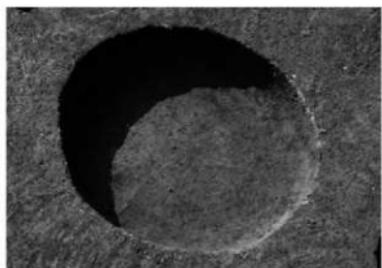
C 区 3号住居跡完掘状況



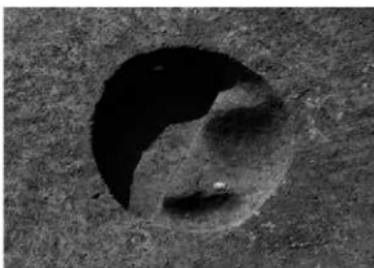
C 区 4号住居跡カマド検出状況



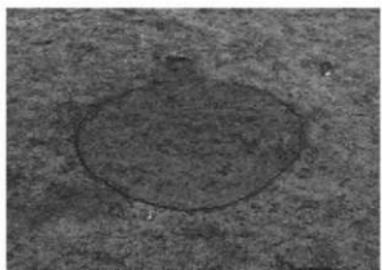
C 区 4号住居跡カマド検出状況



C 区 1号土坑完掘状況



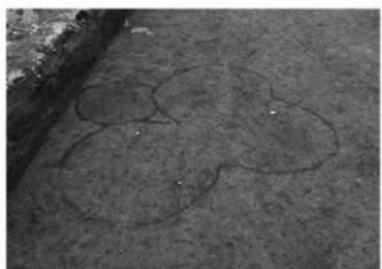
C 区 2号土坑完掘状況



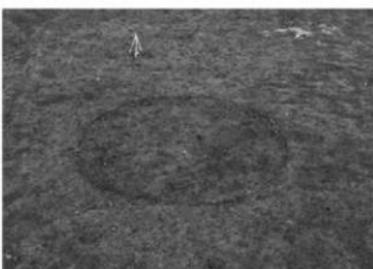
C 区 3号土坑検出状況



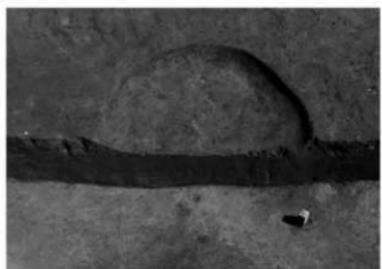
C 区 4・5号土坑完掘状況



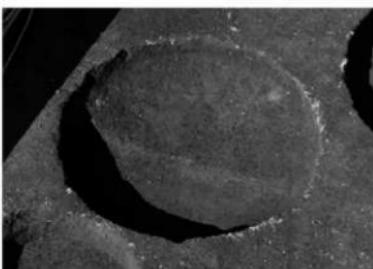
C 区 6・7・8・9号土坑検出状況



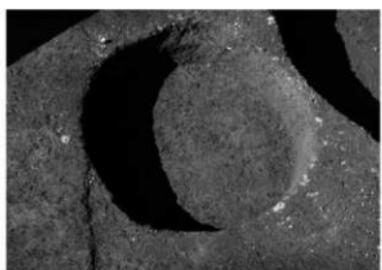
C 区 10号土坑検出状況



C 区 11号土坑完掘状況



C 区 12号土坑完掘状況

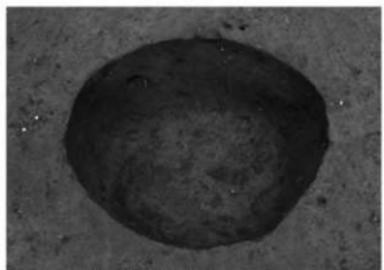


C 区 13号土坑完掘状況

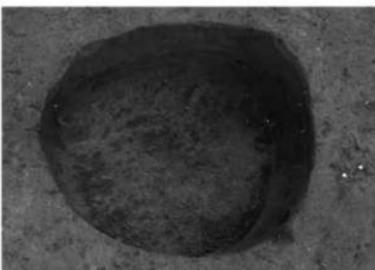


C 区 14号土坑検出状況

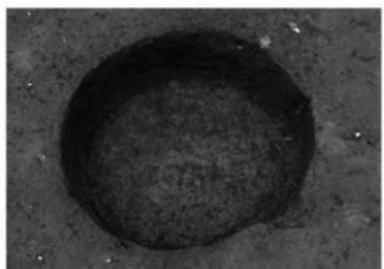
写真図版 38



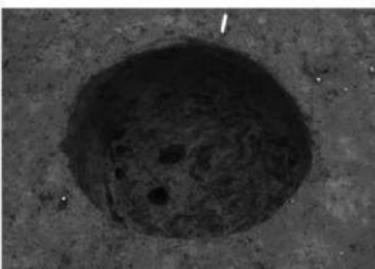
C 区 15 号土坑完掘状況



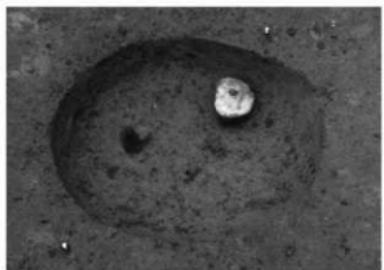
C 区 16 号土坑完掘状況



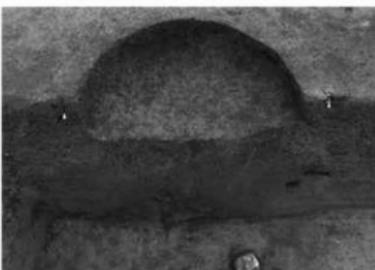
C 区 17 号土坑完掘状況



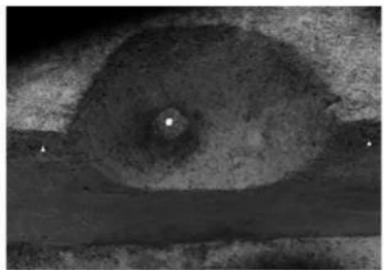
C 区 18 号土坑完掘状況



C 区 19 号土坑完掘状況



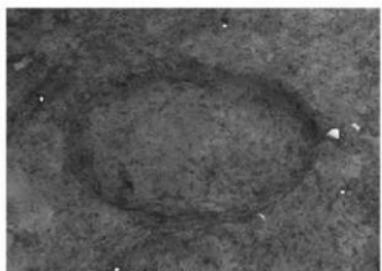
C 区 20 号土坑完掘状況



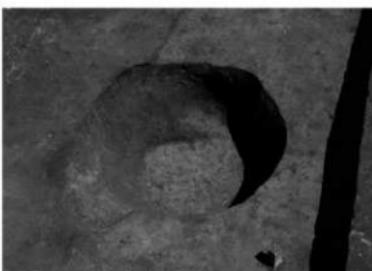
C 区 21 号土坑完掘状況



C 区 22 号土坑完掘状況



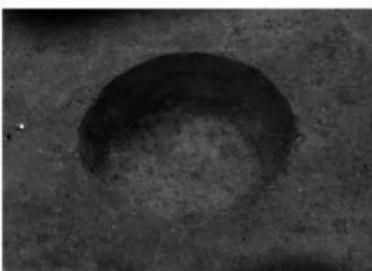
C区 23号土坑完掘状況



C区 24号土坑完掘状況



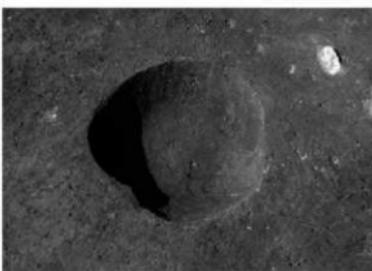
C区 25号土坑断面検出状況



C区 26号土坑完掘状況



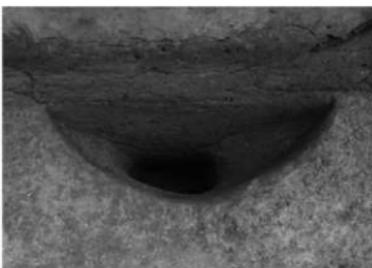
C区 27号土坑完掘状況



C区 28号土坑完掘状況



C区 29号土坑完掘状況



C区 30号土坑完掘状況

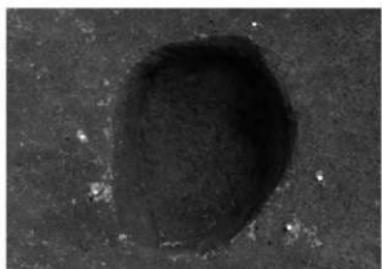
写真図版 40



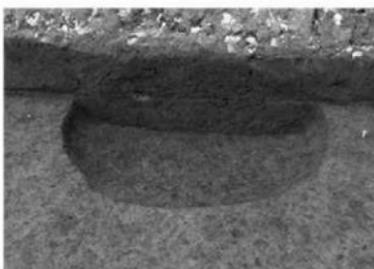
C 区 31 号土坑遺物検出状況



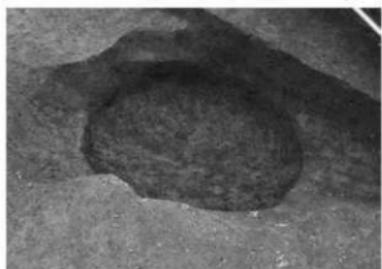
C 区 31 号土坑小刀と人骨出土状況



C 区 31 号土坑完掘状況



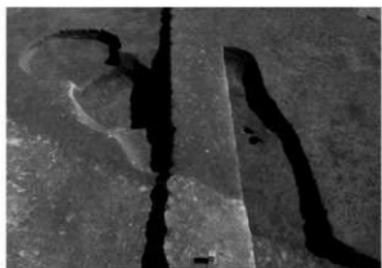
C 区 33 号土坑完掘状況



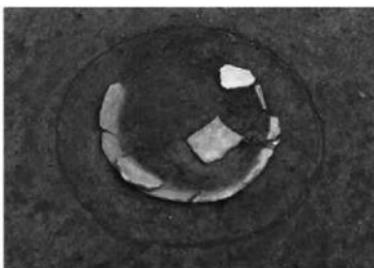
C 区 35 号土坑完掘状況



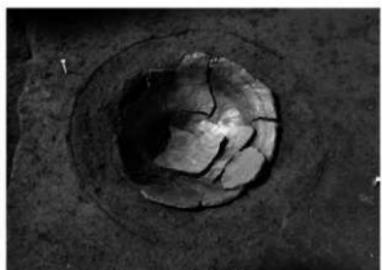
C 区 35・36 号土坑完掘状況



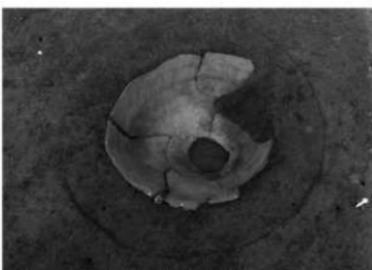
C 区 35・36・80 号土坑完掘状況



C 区 37 号土坑遺物検出状況



C 区 37 号土坑遺物出土状況



C 区 37 号土坑遺物出土状況



C 区 37～40 号土坑完掘状況



C 区 38 号土坑 sondage status



C 区 38 号土坑完掘状況



C 区 39 号土坑完掘状況

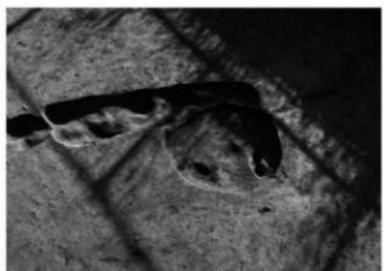


C 区 40 号土坑完掘状況



C 区 41 号土坑完掘状況

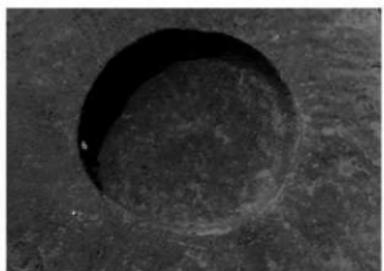
写真図版 42



C 区 43 号土坑・10 号溝完掘状況



C 区 44 号土坑・11 号溝完掘状況



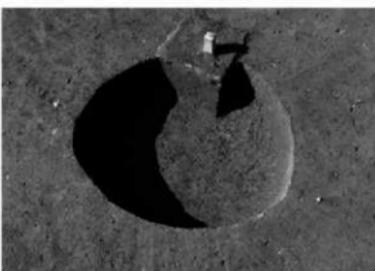
C 区 45 号土坑完掘状況



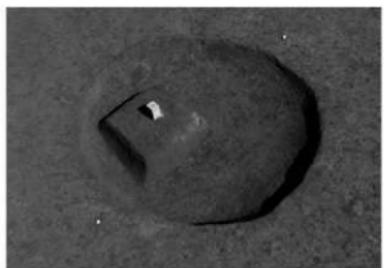
C 区 46 号土坑・17 号溝完掘状況



C 区 47 号土坑完掘状況



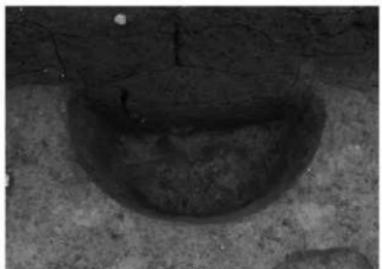
C 区 49 号土坑完掘状況



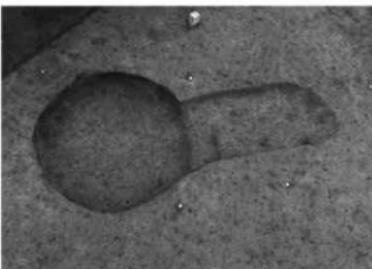
C 区 50 号土坑完掘状況



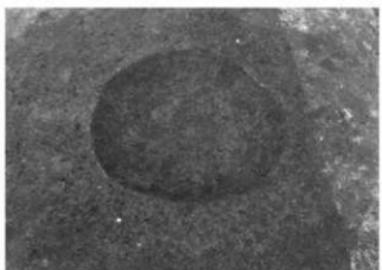
C 区 54 号土坑完掘状況



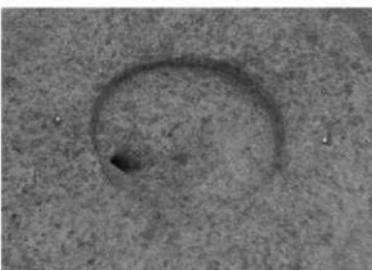
C 区 55 号土坑完掘状況



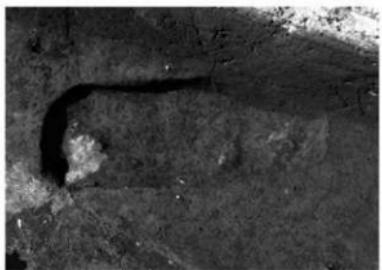
C 区 56 号土坑・25 号溝完掘状況



C 区 57 号土坑完掘状況



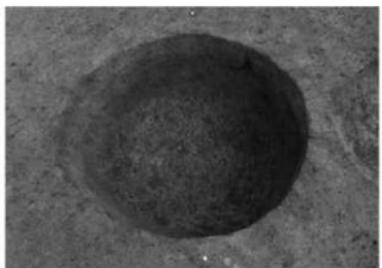
C 区 58 号土坑完掘状況



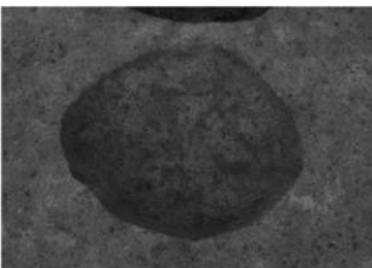
C 区 60 号土坑完掘状況



C 区 62 号土坑完掘状況

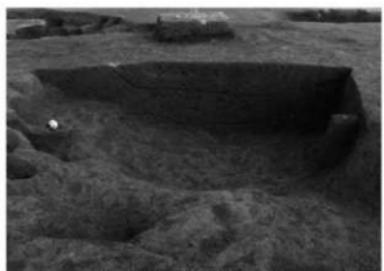


C 区 63 号土坑完掘状況



C 区 64 号土坑完掘状況

写真図版 44



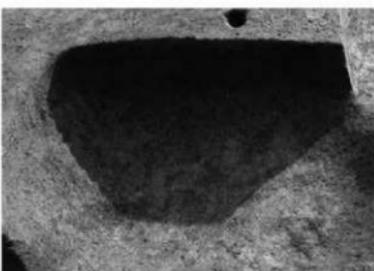
C 区 65 号土坑断面検出状況



C 区 65 号土坑遺物検出状況



C 区 65 号土坑遺物検出状況



C 区 65 号土坑完掘状況



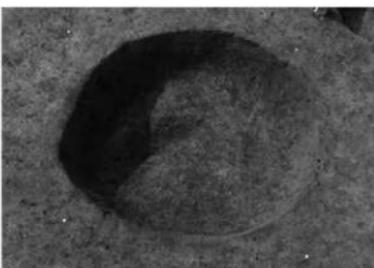
C 区 66・67 号土坑完掘状況



C 区 69 号土坑断面検出状況



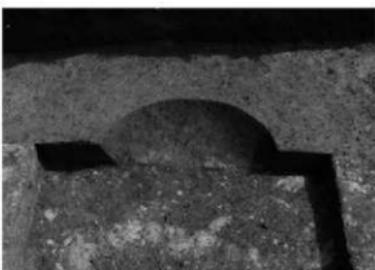
C 区 69 号土坑砾検出状況



C 区 69 号土坑完掘状況



C 区 71 号土坑完掘状況



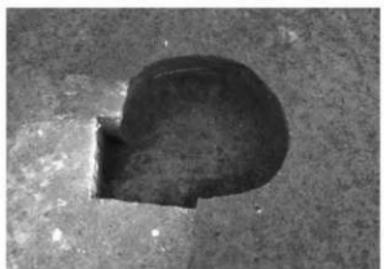
C 区 72 号土坑完掘状況



C 区 73 号土坑・30 溝完掘状況



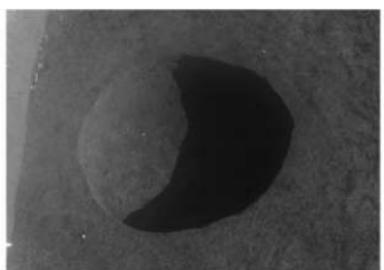
C 区 74 号土坑完掘状況



C 区 75 号土坑完掘状況



C 区 76 号土坑完掘状況

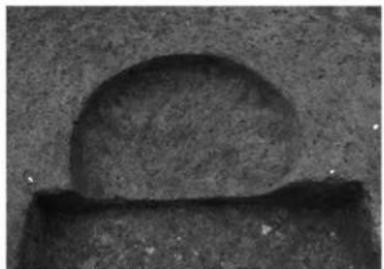


C 区 77 号土坑完掘状況

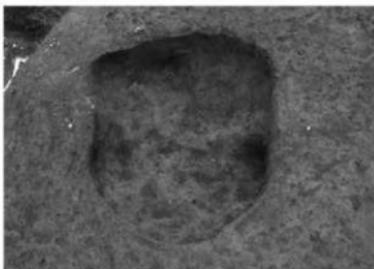


C 区 78 号土坑完掘状況

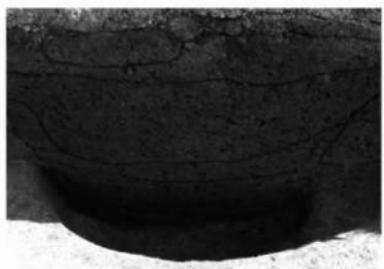
写真図版 46



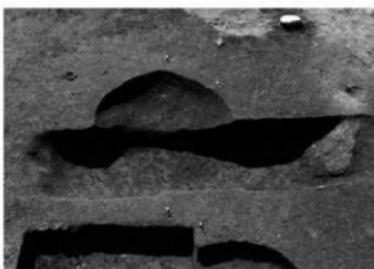
C 区 79 号土坑完掘状況



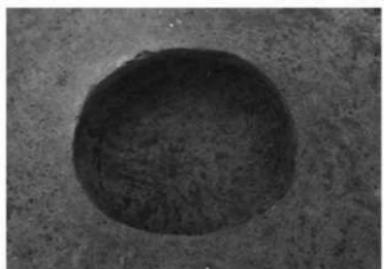
C 区 81 号土坑完掘状況



C 区 82 号土坑土層断面



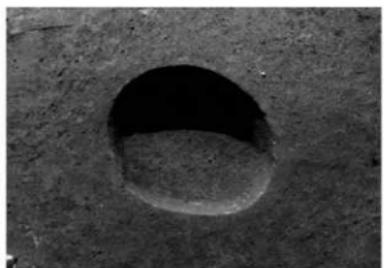
C 区 83 号土坑・42号溝完掘状況



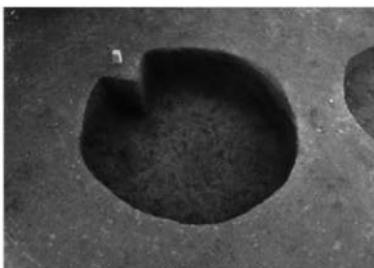
C 区 84 号土坑完掘状況



C 区 85 号土坑完掘状況



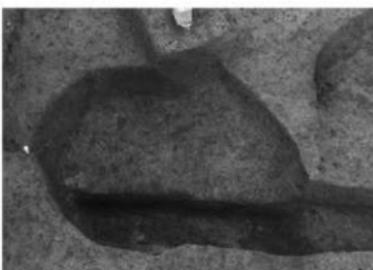
C 区 86 号土坑完掘状況



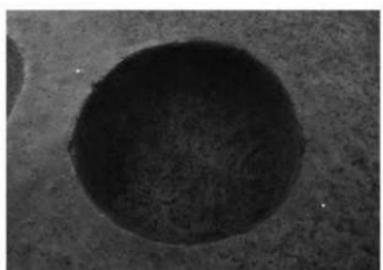
C 区 87 号土坑完掘状況



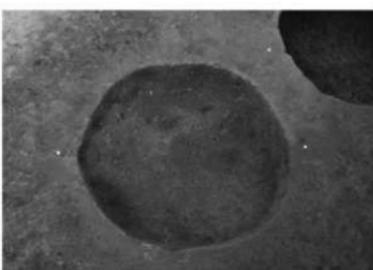
C 区 88 号土坑完掘状況



C 区 91 号土坑完掘状況



C 区 92 号土坑完掘状況



C 区 93 号土坑完掘状況



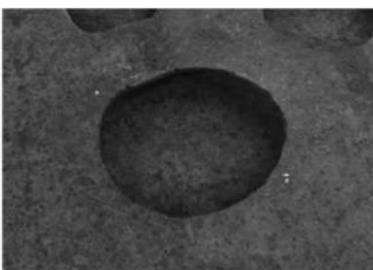
C 区 94 号土坑横出状況



C 区 94 号土坑土層断面

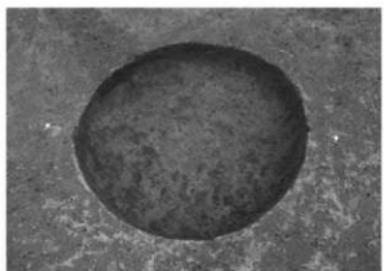


C 区 94 号土坑完掘状況

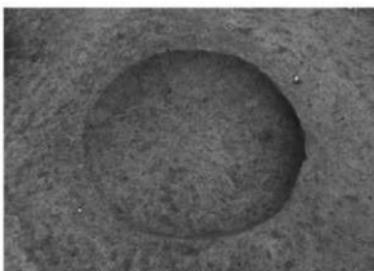


C 区 96 号土坑完掘状況

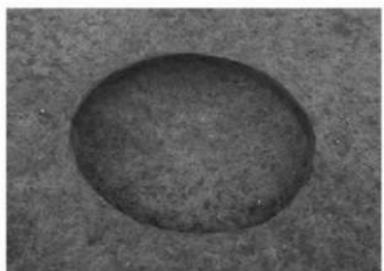
写真図版 48



C 区 98 号土坑完掘状況



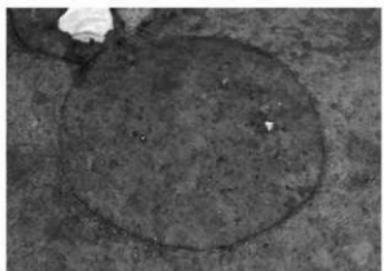
C 区 99 号土坑完掘状況



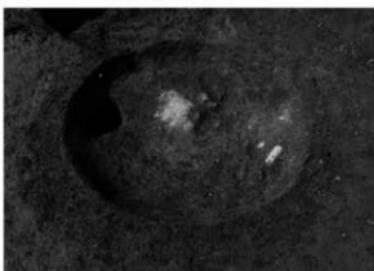
C 区 100 号土坑完掘状況



C 区 101 号土坑完掘状況



C 区 102 号土坑検出状況



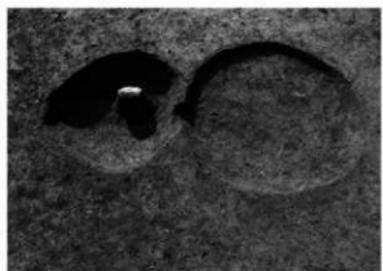
C 区 102 号土坑完掘状況



C 区 102・103 号土坑検出状況



C 区 103 号土坑検出状況



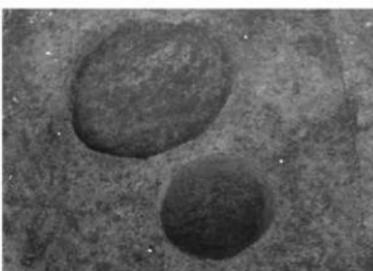
C 区 105・106 号土坑完掘状況



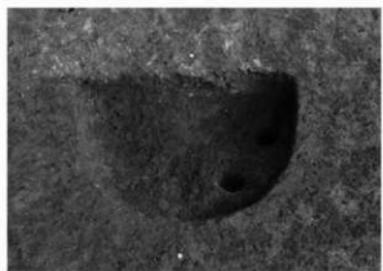
C 区 107 号土坑完掘状況



C 区 108 号土坑・51 号溝完掘状況



C 区 109 号土坑・21 号焼土完掘状況



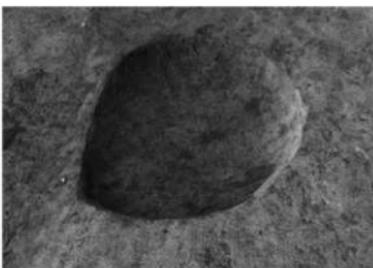
C 区 110 号土坑完掘状況



C 区 112 号土坑完掘状況

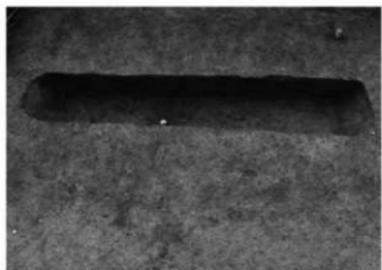


C 区 114 号土坑検出状況



C 区 114 号土坑完掘状況

写真図版 50



C 区 1号溝完掘状況



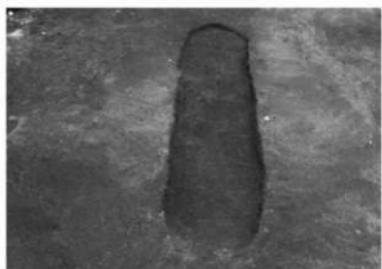
C 区 2号溝完掘状況



C 区 3号溝完掘状況



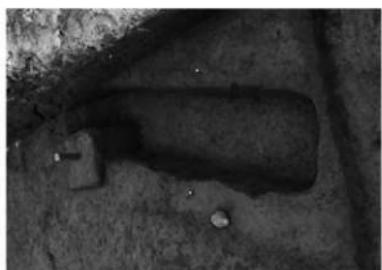
C 区 4号溝完掘状況



C 区 5号溝完掘状況



C 区 6号溝完掘状況



C 区 9号溝完掘状況



C 区 12号溝完掘状況



C 区 42 号土坑完掘状況



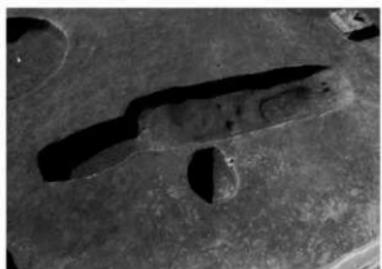
C 区 14 号溝完掘状況



C 区 15 号溝完掘状況



C 区 16 号溝完掘状況



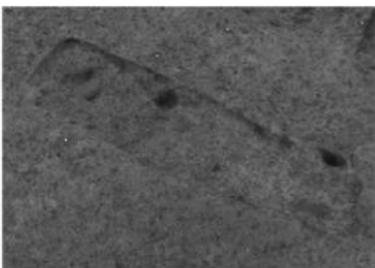
C 区 18 号溝完掘状況



C 区 20 号溝・48 号土坑完掘状況



C 区 21 号溝完掘状況



C 区 26 号溝完掘状況

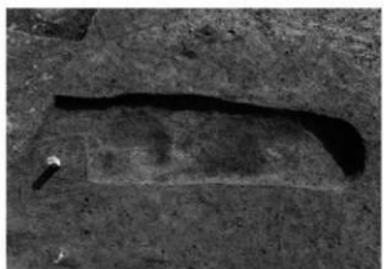
写真図版 52



C 区 27・28号溝完掘状況



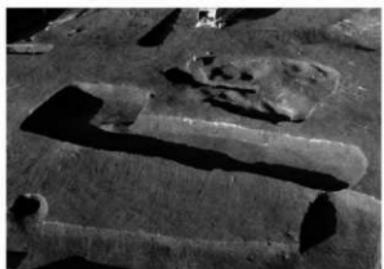
C 区 29号溝完掘状況



C 区 31号溝完掘状況



C 区 32号溝完掘状況



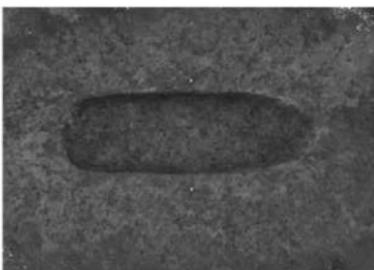
C 区 34号溝完掘状況



C 区 35号溝完掘状況



C 区 36号溝完掘状況



C 区 37号溝完掘状況



C 区 38 号溝・16 烧土土層断面



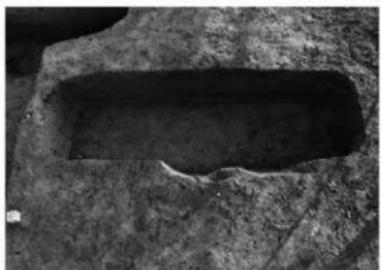
C 区 38 号溝完掘状況



C 区 39 号溝完掘状況



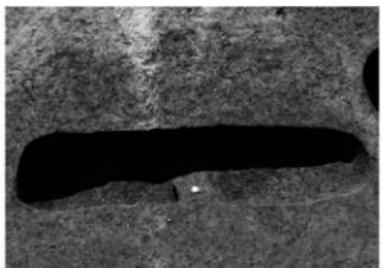
C 区 41 号溝完掘状況



C 区 43 号溝完掘状況



C 区 46・47 号溝完掘状況

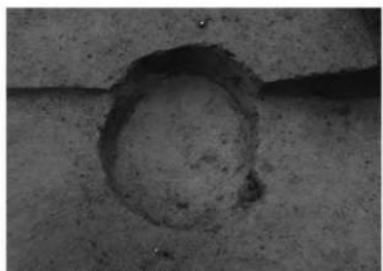


C 区 50 号溝完掘状況

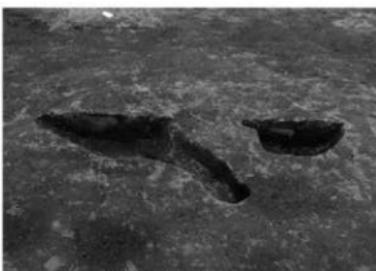


C 区 1 号焼土土層断面

写真図版 54



C 区 1号焼土完掘状況



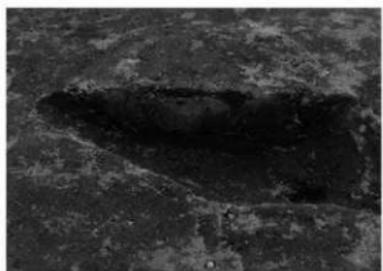
C 区 3・4号焼土土層断面



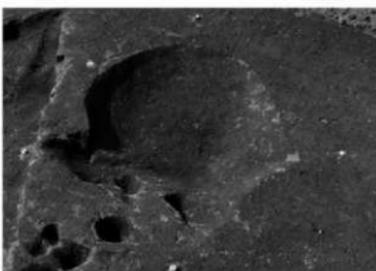
C 区 3・4号焼土完掘状況



C 区 5号焼土土層断面



C 区 6号焼土土層断面



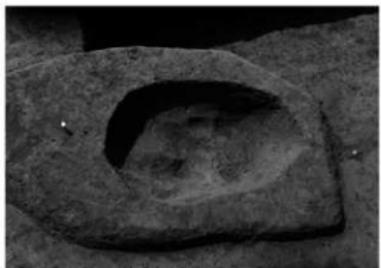
C 区 7号焼土完掘状況



C 区 10号焼土土層断面



C 区 10号焼土完掘状況



C 区 15号焼土完掘状況



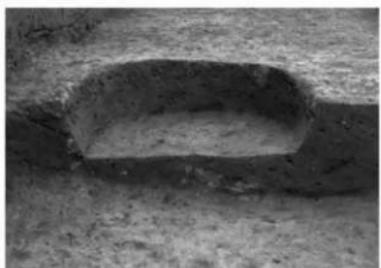
C 区 16号焼土土層断面



C 区 18号焼土検出状況



C 区 19号焼土土層断面



C 区 19号焼土完掘状況



C 区 1号集石検出状況

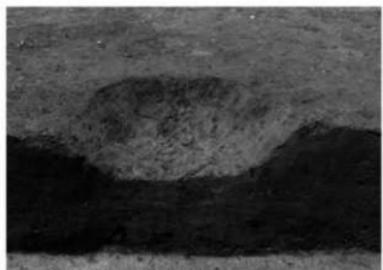


C 区 1号集石2面検出状況



C 区 1号集石3面検出状況

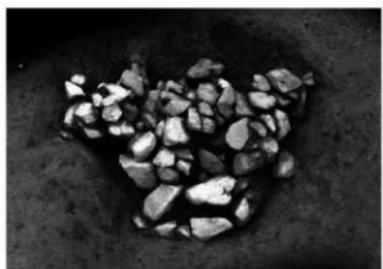
写真図版 56



C 区 1号集石完掘状況



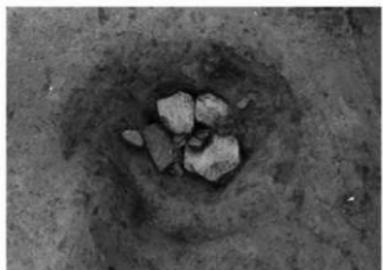
C 区 2号集石検出状況



C 区 2号集石 2面検出状況



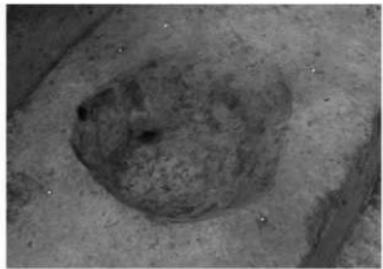
C 区 2号集石 3面検出状況



C 区 2号集石 4面検出状況



C 区 2号集石 5面検出状況



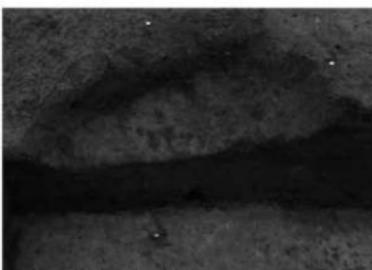
C 区 2号集石完掘状況



C 区 3号集石検出状況



C 区 3号集石 2面検出状況



C 区 3号集石 完掘状況



C 区 4号集石 検出状況



C 区 4号集石 2面検出状況



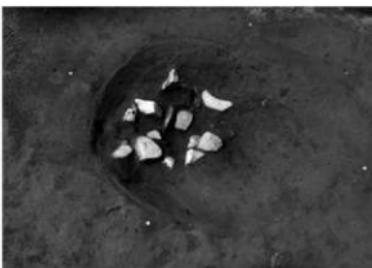
C 区 5号集石 検出状況



C 区 5号集石 2面検出状況

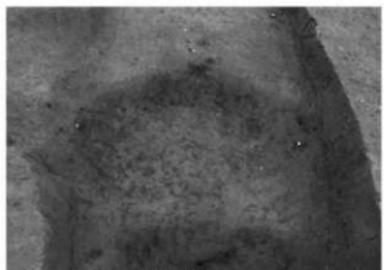


C 区 5号集石 3面検出状況

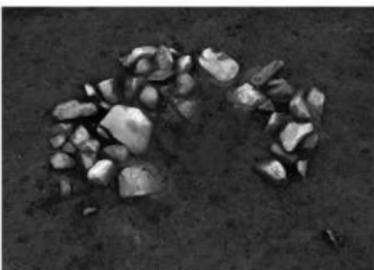


C 区 5号集石 4面検出状況

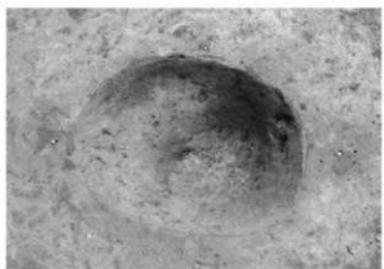
写真図版 58



C区 5号集石完掘状況



C区 6号集石検出状況



C区 6号集石完掘状況



C区 1号配石検出状況



C区 1号配石2面検出状況



C区 1号配石3面検出状況



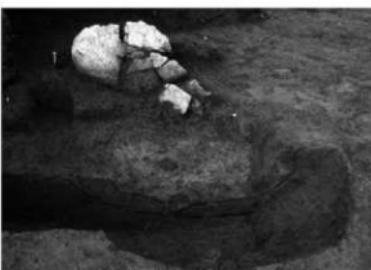
C区 1号配石4面検出状況



C区 1号配石内焼土検出状況



C 区 1号配石焼土検出状況



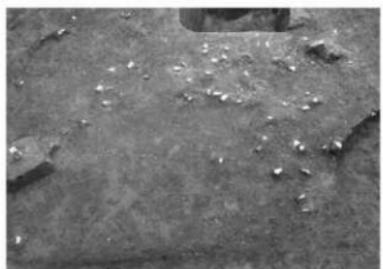
C 区 1号配石焼土土層断面



C 区 1号配石完掘状況



C 区 2号配石検出状況



C 区 2号配石2面検出状況



C 区 3号配石検出状況

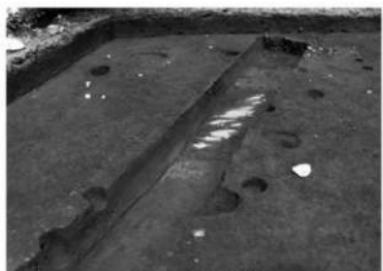


C 区 3号配石断面検出状況



C 区 4号配石検出状況

写真図版 60



C 区 1～10号ピット検出状況



C 区 11号ピット検出状況



C 区 11号ピット完掘状況



C 区 12号ピット検出状況



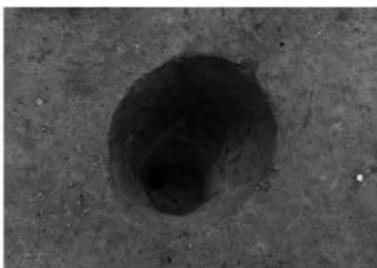
C 区 12号ピット遺物検出状況



C 区 22号ピット炭化物検出状況



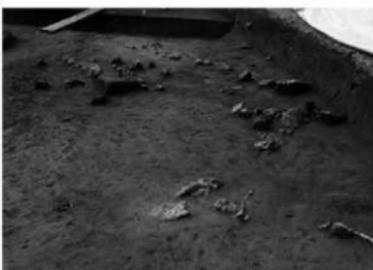
C 区 22号ピット完掘状況



C 区 23号ピット検出状況



C 区 物集中区検出状況



K16・K17 グリッド溶岩検出状況



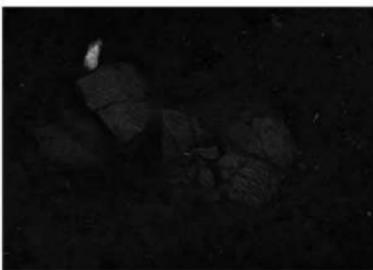
K16・K17 グリッド溶岩付近遺物検出状況



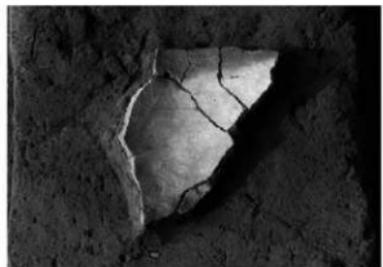
K16・K17 グリッド溶岩検出状況 2



M20 グリッド遺物検出状況



M20 グリッド遺物検出状況 2



M20 グリッド遺物検出状況 3



グリッド出土遺物（磨製石斧）

写真図版 62



C 区 立石検出状況



C 区 立石検出状況 2



C 区 調査前南から



C 区調査前北から



C 区 水路付設還管



C 区 水路付設管（接続状況）



C 区 水路付設管（設置状況）



C 区 水路付設管養生



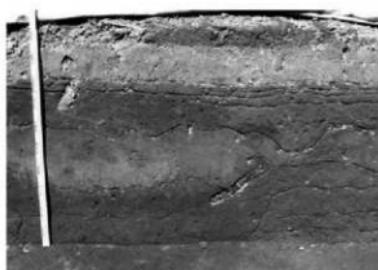
C区 水路付設管養生完成



C区 表土剥ぎ開始



C区 表土剥ぎ風景



C区 弥生時代遺物包含層確認状況



C区 縄文時代の火山灰検出状況



C区 遺構確認状況



C区 調査風景北東から

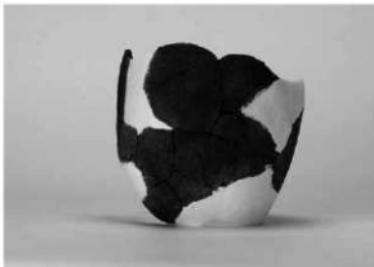


C区調査風景

写真図版 64



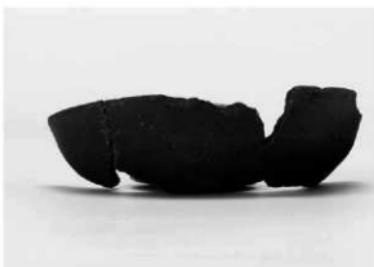
第63図-4 (A区1 1住)



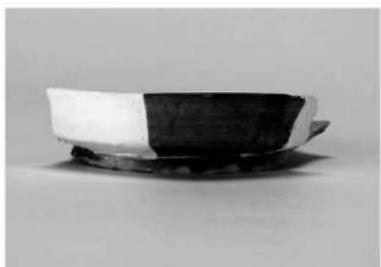
第63図-5 (A区1 1住)



第63図-6 (A区1 2住)



第63図-9 (A区1 2住)



第64図-14 (A区1 2住)



第63図-10 (A区1 2住)



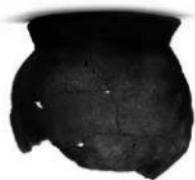
第64図-16 (A区1 2住)



第64図-22 (A区1 2住)



第64図-23 (A区1 2住)



第64図-30 (A区1 2住)



第65図-31 (A区1 2住)



第65図-32 (A区1 2住)



第66図-46 (A区1 2住)



第66図-48 (A区1 2住)



第67図-55 (A区1 3住)



第67図-63 (A区1 5住)

写真図版 66



第 67 図- 65 (A 区 1 5 住)



第 73 図- 198 (A 区 2-3 1 住)



第 73 図- 199 (A 区 2-3 1 住)



第 74 図- 202 (A 区 2-3 2 住)



第 74 図- 203 (A 区 2-3 2 住)



第 74 図- 204 (A 区 2-3 2 住)



第 74 図- 205 (A 区 2-3 2 住)



第 74 図- 210 (A 区 2-3 2 住)



第74図-211 (A区2-3 2住)



第75図-215 (A区2-3 3住)



第75図-216 (A区2-3 3住)



第75図-217 (A区2-3 3住)



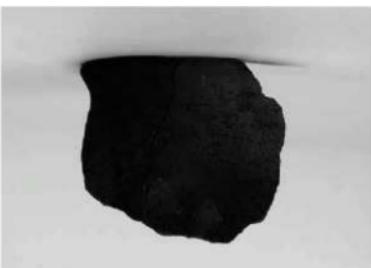
第75図-218 (A区2-3 3住)



第75図-219 (A区2-3 3住)

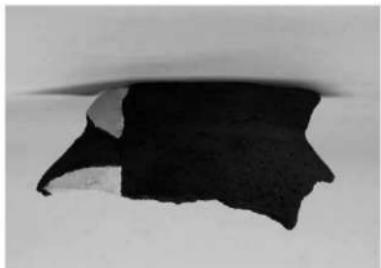


第75図-222 (A区2-3 3住)



第75図-223 (A区2-3 3住)

写真図版 68



第75図-224 (A区 2-3 3住)



第75図-227 (A区 2-3 3住)



第75図-229 (A区 2-3 3住)



第77図-268 (C区 37土)



第77図-270 (C区 12ピット)



第77図-270 (C区 12ピット)



第77図-269 (C区 65土)



第71図-165 (A区 2-2 4竪)



第72図-172 (A区2-2 4竪)



第72図-173 (A区2-2 4竪)



第72図-174 (A区2-2 4竪)



第72図-180 (A区2-2 石垣)



第72図-181 (A区2-2 石垣) 状況



第73図-196 (A区2-2)



第73図-197 (A区2-2)



第67図-62 (A区1) 4住

写真図版 70



第68図-71 (A区1 3土)



第68図-71 (A区1 3土)



第68図-72 (A区1 3土)



第68図-90 (A区1 5溝)



第70図-124 (A区1)



第70図-124 (A区1)



第70図-124 (A区2-1)



第70図-124 (A区2-1)



第 70 図- 126 (A 区 1)



第 70 図- 128 (A 区 1)



第 76 図- 239 (A 区 2-1)



第 76 図- 241 (A 区 2-1)



第 76 図- 246 (A 区 2-2 石垣)



第 76 図- 256 (A 区 2-3 3 住)



第 76 図- 257 (A 区 2-3 3 住)



第 76 図- 258 (A 区 2-3 3 住)

写真図版 72



第 77 図- 267 (C 区 31 土)



第 77 図- 267 (C 区 31 土)



第 78 図- 300 (C 区)



第 78 図- 301 (C 区)



第 79 図- 305 (C 区)



第 79 図- 306 (C 区)



第 82 図- 400 (C 区)



第 82 図- 406 (A 区 1)



第 82 図- 408 (C 区)



第 83 図- 416 (C 区)



第 85 図- 440 (C 区)



第 86 図- 444 (C 区)



第 85 図- 442 (C 区)



第 87 図- 450 (C 区)



第 87 図- 451 (C 区)



第 87 図- 453 (C 区)

写真図版 74



第 82 図- 407・401～405



第 82 図- 409、第 83 図- 410～414



第 84 図- 429～433



第 83 図- 417 ~ 428



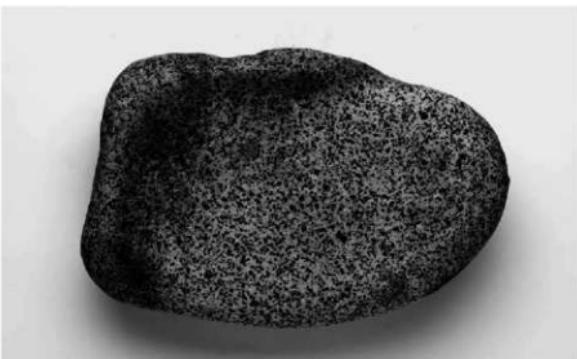
写真図版 76



第 84 図- 436 (A 区 2-3)



第 84 図- 437 (A 区 2-3)



第 84 図- 438 (C 区)



A2 区 出土鉄製品



A2 区 出土鉄製品



A2 区 出土銭・キセル

写真図版 78



第 78 図- 281 ~ 302 (C 区縄文土器 1)



第 79 図- 307 ~ 326 ~ 302 (C 区縄文土器 2)



第 80 図- 327 ~ 355 (C 区縄文土器 3)



第 81 図- 356 ~ 399 (C 区弥生土器)

報 告 書 抄 錄

ふりがな	みとおしいせきえー・しーく				
書名	美通遺跡 A・C 区				
調書名	国道 139 号（都留バイパス）建設に伴う発掘調査報告書				
シリーズ名	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書				
シリーズ番号	第 274 集				
編著者名	笠原みゆき、依田幸浩、塩谷風季、パリノ・サーヴェイ株式会社				
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター				
所在地	〒 400-1508 山梨県甲府市下曾根町 923 TEL055-266-3016				
発行者	山梨県教育委員会、国土交通省関東地方整備局				
発行年月日	2011 年 3 月 25 日				
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 北緯（新） 東経（新） 調査期間 m ² 調査面積 調査原因			
みとおしいせきえー・しーく 美通遺跡 A・C 区	やまなししきえんつるしいぐら 山梨県都留市井倉地内	19204 都留 31 35° 34° 22° 138° 55° 59° 20090629 ~ 20091225 6,180 国道 139 号 (都留バイパス) 建設工事			
	種別	主な時代	主な遺跡	主な遺物	特記事項
集落跡	縄文時代早期～前期	竪穴住居跡 1 軒 集石土坑 6 基 焼土遺構 1 基 上坑 1 基 遺物集中区 2	縄文土器、石器	遺物集中区から、早い段階で土器と石器が出土。 住居の床底から台石が出土した。	
集落跡	縄文時代後期	配石遺構 4 基	縄文土器、石器	1 号配石からは、縄文時代後期の遺物片が出土。	
散布	弥生時代前期から中期		弥生土器、石器	A 区 1 では、磨製石器が出土。	
集落跡	奈良時代～平安時代	竪穴住居跡 11 軒 孤立柱建物跡 3 軒 柱穴列 1 列	土師器・須恵器・石器 鐵製品など	竪穴住居跡から土師器・須恵器が多く出土するが、 鏡東型の甕の破片が目立つ。A 区 2～3 住ではカマド廐窓に囲まれたマツリの様子が うかがえる。	
集落跡・13世紀から14世紀 墓域	13 世紀から 14 世紀	上坑 3 基	陶器・鐵製品・人骨	瀬戸産鉄釉葉小壺や在地産の甕が出土。	
	時期不明	上坑 約 200 期 溝状遺構 約 80 条 焼土遺構 23 基 ピット 約 190 基		人頭大の甕が入るものが、時々みられる。	
要約	美通遺跡は山梨県都留市井倉地内に位置する遺跡で、本書はその A・C 区の調査報告書である。調査の結果、A 区 1・A 区 2-3 からは、奈良時代～平安時代の住居跡と掘立柱建物跡、平安時代以降の土坑・溝状遺構多数が発見された。遺物は土師器・須恵器が大半で、特に鏡東型の甕の破片が多い。また、弥生時代の磨製石器などの石器・短刀などの金属製品も出土している。A 区 2-1・2 からは、土坑・溝状遺構が発見された。遺物は、遺構外ではあるが、猿形土器製品や金属製品、陶器類多く出土している。C 区からは、縄文時代早期後半～前期にかけての住居跡・集石土坑、平安時代末頃の住居跡、13 世紀から 14 世紀頃の土坑、平安時代以降の土坑・溝状遺構多数・焼土遺構などが発見された。				

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第 274 集

美通遺跡 A・C 区

国道 139 号（都留バイパス）建設工事に伴う発掘調査報告書

印刷日 2011 年（平成 23 年 3 月 22 日）

発行日 2011 年（平成 23 年 3 月 25 日）

編集 山梨県埋蔵文化財センター

山梨県甲府市下曾根町 923

TEL 055-266-3016

発行 山梨県教育委員会

国土交通省関東地方整備局

印刷 株式会社嶮南堂印刷所